

---

# 遊戯王 割と平凡な男の非凡な学園生活

御龍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王 割と平凡な男の非凡な学園生活

### 【Nコード】

N8968S

### 【作者名】

御龍

### 【あらすじ】

遊戯王GXのオリ主小説です。

### 注意事項。

シンクロやエクシーズは2年目からです。

ぼくのかんがえたさいきょうのおりじなるカードはでません。

TUTAYAでDVDを借りながら執筆しているため、更新はそれに左右されます。

## 入学試験

突然だが、俺は今デュエルアカデミアの試験会場で試験の様子を眺めている。

さらに他人に話しても信じられないような出来事だが、俺はこの世界の人間ではない。

私自身も半信半疑なのだ。自分がフィクションの世界に入り込んだというって信じられるわけがない。

そう、俺はなぜか2次創作で見かける『転生』というやつを体験しているらしい。

……………どうしてこうなった。

「受験番号8番鈴本 厚志君。3番のデュエルフィールドまでお越しください。これより試験を開始いたします」

おっと、思考にふけっているうちに俺の出番が来てしまったようだ。ここで負けてしまえば浪人になってしまう。さすがにそれはこちらの両親にも申し訳が立たない。万が一にも負けることはできないな。

指定されたデュエルフィールドにはサングラスと無精ひげを生やした試験管が待機していた。

「よく来たね。これはあくまでも試験だ。こちらも試験用のデッキを使うが、敗北が即失格になるわけではない。構築やプレイングと

いったものも試される。だから勝敗にこだわらず君ができる最高の決闘を見せるんだ」

「はい、わかりました」

負けても即不合格といったことはないのが少し意外だった。なんとなく結果重視なイメージがあったから……。しかし勝利することにこしたことはないはずだ。

俺は複数のデッキを持っている。その中でも割と勝率のいいあのデッキを使おう。決闘が単調になるのであまり面白みがなくなるのは欠点だが試験用のデッキにこのデッキのメタカードは入っていないだろう。

「準備は終わったかね？ 終わったのなら配置に着きたまえ」

「これより受験番号8番鈴本 厚志の試験を開始する」

「「決闘!!」」

「俺のターン！ ドロー！」

先攻後攻は早い者勝ちだから先攻をとりたい場合はすばやく宣言しなければならぬ。

むう……。キーカードがない。しかしサーチカードはきているし凌げそうな手札だ。

「そうだな、まずは魔法カードタイムカプセル発動。自分のデッキからカードを1枚選択し、裏側表示でゲームから除外する。発動後2回目の自分のスタンバイフェイズ時にこのカードを破壊し、そのカードを手札に加える。」

タイムカプセル

通常魔法

自分のデッキからカードを1枚選択し、裏側表示でゲームから除外する。

発動後2回目の自分のスタンバイフェイズ時にこのカードを破壊し、そのカードを手札に加える。

「デッキから1枚選んで裏向きに除外します。そしてカードを一枚セツトしてターンエンド」

本当は封印の黄金櫃の方がよかつたんだけど。別のデッキに入っているから代用として入れてるんだよね。

「……………は？」

あ、試験管があっけに取られている、そりゃそうだよな。どう考えてもやる気のあるプレイには見えないもんな。

「手札事故かそれとも試験を舐めているのかは知らないが手加減はしない！！わたしのターン、ドロ―！」

「スタンバイ、そしてメインに移る。手札からデエミナイ・エルフを召喚！さらに装備魔法デーモンの斧を装備させる！！」

デエミナイ・エルフ

通常モンスター

星4 / 地属性 / 魔法使い族 / 攻1900 / 守 900

デーモンの斧

## 装備魔法

装備モンスターの攻撃力は1000ポイントアップする。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、

自分フィールド上に存在するモンスター1体を

リリースする事でデッキの一番上に戻す。

チェミナイ・エルフ

攻1900 2900

「バトルフェイズに移行する。チェミナイ・エルフで直接攻撃（ダイレクトアタック）だー!!」

「リバースカードオープン和睦の使者発動。このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける

全ての戦闘ダメージは0になる」

和睦の使者

通常罠

このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージは0になる。

このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されない。

「む、ならば仕方ない。ターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー」

あ、キーカード引いちゃったタイムカプセル意味ないじゃん。まあ仕方ないか。

「スタンバイ、タイムカプセルの時がひとつ進みます。そしてメイン。魔法カード終焉のカウントダウンを発動します。ライフを20

00払い20ターン後に勝利します」

終焉のカウントダウン

通常魔法

2000ライフポイント払う。

発動ターンより20ターン後、自分はデュエルに勝利する。

「なっ、終焉のカウントダウンだと！まさかそんなカードを使うとは……」

「カードを一枚セットしてターンエンド。エンド時にカウントがひとつ進みます」

「くっ私のターン、ドロー！（まずい、おそらくあのデッキの中身は徹底的に自分のライフを守るためのカードばかりのはず）」

「スタンバイ、そしてメ「リバーズカードオープン覇者の一括。このターンバトルフェイズを行うことができません」くっやはりか！」

覇者の一括

通常罫

相手スタンバイフェイズで発動する事ができる。

発動ターン相手はバトルフェイズを行う事ができない。

どうでもいい余談だが一括じゃなくて一喝がただしい漢字表記だよなあ。

「私のメインフェイズ。ジェネティック・ワーウルフを攻撃表示で召喚、ターンエンドだ」

ジエネティク・ワーウルフ

通常モンスター

星4 / 地属性 / 獣戦士族 / 攻2000 / 守100

相手のデッキは凡骨ビートかな？お触れとかシヨッカーとか出されたら耐え切れるか怪しいから。相性的にはいいほうだ。

「エンド時に時にカウントがひとつ進みます」

「そして俺のターン、ドロー、スタンバイフェイズにタイムカプセルを破壊して除外したカードを手札に加えます」

まあ2枚目の終焉のカウントダウンなんだけどさ、伏せとけばブラフくらいにはなるかな。

.....中略.....

「カードを一枚セットしてターンエンド。エンド時にカウントがひとつ進みますこれでカウントは19になりました」

まわりのデュエルはほとんど終わってこっちに流れてくるギャラリィも増えてきた。

試験管が必死に突破しようとしているけど、いまだにダメージ0。ゼロガードナーを5回くらい使いまわしたらだんだん目が虚ろになっ

ていった。  
サイクロンでリバーを破壊しようとしたこともあるけどほとんどフリーチェインだからあまり関係がない。罨自体の発動を妨害するかバーンダメージが終焉のカウントダウンを先打ちするなどの方法であっさり負けたりするんだけど、どれも入っていないデッキには悪夢だよなあ。



「ぐつ最後のターンというわけか、ドロー！！スタンバイ、メインに移る。そして魔法カード大寒波を発動する！！」

大寒波

通常魔法

メインフェイズ1の開始時に発動する事ができる。

次の自分のドローフェイズ時まで、お互いに魔法・罠カードの効果の使用及び発動・セットはできない。

おおーここで持ってきたか。伏せカードは攻撃の無力化だから確かに発動できない。ゼロガードナーの使いまわしのためのリミットリバーを残した方がよかったかな？

「バトルフェイズに入る！！すべてのモンスターで直接攻撃《ダイレクトアタック》だ！！」

「手札から速攻のかかしを捨てますね。攻撃宣言は無効となりバトルフェイズは終了となります」

速攻のかかし

効果モンスター

星1/地属性/機械族/攻 0/守 0

相手モンスターの直接攻撃宣言時、このカードを手札から捨てて発動する。

その攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

「なん……だと……タ、ターンエンドだ」

「エンド時に最後のカウントが進みます。このデュエル俺の勝ちです」

いやー終わった終わった。さすがに終焉は長丁場になるなあ。

なんだか周りがざわざわ言っているが気にしない気にしない。

試験管がまだ呆然としているが気にしない気にしない。

どこかで「マンマミーヤ」とか言ってるけど気にしない気に……  
しない方向でいこう、うん。

## 十代VS万丈目

校長先生の話が長いのは全国共通らしい。

入学式を終えた俺は、簡単なマップを見て自分の入る”レッド寮”までの道を歩いていた。

どうやら、終焉のカウントダウンやバーンなどのデッキは客受けが悪いため、プロデュエリストを養成するデュエルアカデミアでは、マイナス対象らしい。

1月以内にあのデッキを封印し新しいデッキを作成せよとお達しが出てしまった。

使ってもワンパターンになりやすく楽しくないため、あまり使わないデッキではあるが、完全封印となると少しさびしいきもする。

新しいデッキ作成に関しては、もともと10以上のデッキを持っているため問題はない。

しかし、まさか自分がデュエルアカデミアに入るとは前世の俺なら「頭沸いてんの？」って切り捨てて終わりだろうに。

人生何が起こるかわからんもんだなあ。

荷物はすでに送って部屋の中に運んでもらってるはず。荷物といっても着替えなどの日用品とカードだけだが。

両親にあまり負担をかけたくないため自分の私物はそこまで多くはない、捨て子だった自分をここまで育ててくれた「この世界」の両親。プロデュエリストは安定した職業とはいいがたいが、デュエル評論家やI2社でカードデザイナーなどの道もある。

そしてカードに関わる職業は基本的に高給取りだ。早く両親に親孝行したいため無理を言って入れてもらったのだけど……。

いきなり躓いてしまうとは思わなかったなあ。

過ぎたことを悔やんでも仕方がない。一番下ならこれ以上落ちる事はないだろう！後は這い上がるだけだ！

ポジティブにいこう！！

と言う俺の決意は5分後には早くもくじけそうになった。

「遠い、ぼろい、狭いの三重苦だなこりや……………」

ぼろいのはまあいいだろう、住めば都という言葉もあるし最低限の機能はそろってるようだ。

狭いのも問題ない、自分は広いと落ち着かない貧乏性？なためこれくらいの狭さでちょうどいいくらいだ。

ただ遠いのはいただけない。自分は朝に弱い性質なので生半可な目覚ましじゃ起きれない。願わくばルームメイトが朝に強くて俺を起こしてくれるやさしい人でありますように……。

結論から言うとルームメイトはいなかった。どうやら自分はあの部屋を一人で使うことになったらしい。来年に期待……。

しかしどうでもいいが大徳寺先生のにゃーにゃー言うのはどうにかならんものか。

女の子ならともかく、いい年した大人がにゃーにゃー言うのは正直きしよい……………。

歓迎会という名のささやかな晚餐が終了したあと、部屋でごろごろしようと思っていた俺を呼び止めたのはくらげのような髪型の男だ

った。

「あー！おまえ終焉のカウントダウン使ってたやつだろ？俺は遊城十代って言うんだよろしくな」

あー確かGXの主人公だっけかな、タッグフォース3でしか知らないけど性格や顔つきが全然違う気がするのはいけのせいかな？

「俺は鈴木 厚志だ。よろしくな遊城」

「遊城なんて水臭いぜ。同じレッド寮の仲間なんだ十代でいいぜ。かわりにおれも厚志って呼ばせてもらうからよ」

「わかったよ十代」

えらい馴れ馴れしい上に明るいやつだな、レッド寮に入ったやつのおお半がうなだれていたり落ち込んでいたりしてるのに。

「なあなあ、デュエルしようぜ！！終焉のカウントダウンなんて珍しいデッキ。いっぺんやってみたかったんだ」

「あゝ、期待してるところに水を差すようで悪いがな、あのデッキは封印指定くらっちゃってな、別のデッキを急遽組まなくちゃならなくなっただんだ」

「ええゝ！！何でだよゝ、ルール違反でもないのに封印っておかしくないか？」

「なんでもデュエルアカデミアの方針に合わないらしいな。客を喜ばせるための要素も盛り込まなくちゃいけないらしい」

「そつかゝ、ならしょーがねえか。その代わり、新しいデッキを作ったら真っ先に俺とデュエルしてくれよな」

「わかった、そのときを楽しみにしている」

「アニキゝ、どこにいるんすかゝ？」

「お、翔のやつに呼ばれてるからまた今度な」

「あいよゝ」

去っていく十代の後姿を眺めながら、さすが主人公好感の持てる人柄だなと一人うなずいていた。

その日の夜突然、夜の海が見たくなって部屋を出て散歩をしていると意外な人物に出会った。

「お、厚志じゃないか。お前も万丈目に呼び出されたのか？」

「む、十代か。俺はただの散歩だよ、そもそも万丈目って誰さ？」

「アニキゝこの人って誰っすか？」

「実は、かくかくしかじかというわけなんだ」

「へゝこの人があの終焉のカウントダウンを使ってた人ッスか」

「ブルー生徒に絡まれるとは災難だったな」

そういえばいたなあ万丈目って。ツンツン頭のオジヤマデッキ使ってたやつ。プラウドシャウトが勝ち筋のどう考えても勝ち目がないパートナーデッキだったはず。

「よくきたな、ドロップアウトボーイ。逃げずに来たことは褒めてやる。余計なおまけもいるようだが関係ない。さっさとフィールドにのぼれ」

「万丈目さんあの終焉の奴とやらせてもらってもいいですか？」

「フン、好きにしろ」

「というわけだ、お前もさっさとフィールドに上がれ！」

「勝手に決められても困るんだが……。そもそも自分でデュエルする気はなかったから、デッキ持ってきてないし」

「ハッ腰抜けが。どうせ負けるのが怖くて嘘を並べ立ててるんだろう」

「はいはい怖いですよ〜だからお「何やってるの！あなたたち！」「っ」と」

誰か乱入してきたようだ。あれは確か……。そうだ明日香だ！！サイバーエンジェルとサイバーブレイダーという儀式＋融合というどう考えてもきつい構築をしていた女だ！！

「やあ天上院くん。これからドロップアウトボーイにお仕置きをす

るのさ」

「貴方達もこんな茶番につき合っでないで帰った方がいいわよ」

「デュエルに誘われて逃げる真似はしないぜ」

さすが十代、うすうす思っていたが生粋のデュエル馬鹿だな。

「あなたは確か、終焉のカウントダウンを使っていた鈴本君よね」

「みんなに言われるなあ……終焉は封印指定されたから、アカデミアで見ることはないと思うぞ。今は別のデッキを鋭意作成中だ」

「そうだったの。そういえば自己紹介がまだだったわね。私は天上院 明日香。名字は呼びにくいだろうから明日香でいいわ」

「お言葉に甘えて明日香と呼ばせてもらっよ。俺も厚志の方でいい」

「ええ、そうさせてもらっわ」

「貴様！天上院君に馴れ馴れしいぞー！」

んなこといわれたってなあ……。本人から許可も出てるし、そもそも自己紹介しただけなんだが……。

「おーい、そんなのどうでもいいからさっさとデュエルしようぜ！」

「くっ、あとで覚えてるよ」

「「決闘」」



うーん、フレイムウィングマンが取られたか……。十代が不利だな。不利ではあっても負けではないし何とかするんだろうけど……。

どうでもいいが万丈目のデッキはオジャマじゃなく、”ヘル”とか”地獄”とかの名前がついた、あえて言うなら地獄ファンデッキだった。ファンデッキで戦える万丈目がすごいのか、それともそんなデッキしか組めない構築力が弱いのか……。

おっ異次元トンネルミラーゲートとはマニアックなカードを使うな。普通に魔法の筒の方がいいんだが、神秘の中華なべとのコンボでも考えているのかな？

「まずいわ！ガードマンが来るわ！」

おっと、残念だがデュエルは中断だな。

「十代！ずらかるぞー!!」

「いやだ！決着をつけるんだ！!!」

こねる十代を引き摺り下ろして、何とかガードマンから逃げる。

「ここまでくれば大丈夫かな」

「どう？ブルーの洗礼を受けた感想は？」

「思ってたよりもたいしたことなかったな」

「でも大事なカードを失うところじゃなかったの？」

「いや、今のデュエル。俺が勝ってたぜ」

「そついえば最後のドロ―はなんだったんだ？」

十代の場も手札もすっからかんで相手には地獄將軍が残っていたかな。1枚でどうにかするのなら、ミラクルフュージョンしかないはず。あとはバブルマンや壺で手札増やすしかないかな。

「この死者蘇生でフレイムウィングマンを蘇生させればおれの勝ちだ」

なぬ！

「十代、融合HEROは融合召喚以外の特殊召喚はできないと思ったが……」

「え！……ほんとだ、じゃあさっきのデュエルはおれの負け？」

「クレイマンが墓地にいたからまだ見込みはあるんじゃないか？それより自分のカードのテキストくらい熟読しておいたほうがいいぞ……」

あ、明日香もちょっと冷めた目で見ている。まあ自分のカードの効果の勘違いなんてやっちゃいけないことだしな。

自分も昔はけっこうやったもんだ。リクルーターをスキルドレインで阻止と勘違いしたこともあったな……。

スキルドレインは場のカードの効果しか無効にできない。リクルーターは墓地で発生する効果だからスキルドレインはすり抜けるから、

墓地の効果を無効にしないとだめなんだよな。  
今思い出すと恥ずかしい、もはや黒歴史だな…。

「明日から授業が始まるしさっさと帰って寝ようぜ。今日は引き分けだったんだからそれで良しとしておけばいいんじゃない？」

「やっぱりデュエルアカデミアは強い奴がごろごろしてるぜ。へへっ明日からが楽しみだなあ」

全然聞いちゃいねえ。

「私も寮に戻るわね。おやすみなさい」

「ああ、お休み」

「お休みなさいっす。明日香さん」

「ところで、お前誰？」

「ひどいっす！！最初からいたのに！！」

「自己紹介してないからだろ」

「うっ、そういえば」

「そんなどうでもいいことはおいといて、十代つれてさっさと帰ろうぜ」

「どうでもいいって、ひどいっす〜」

## VS 明日香（前書き）

真つ当なデュエルシーンは難しいです。

手札計算にLP計算にドラマチックな演出をすべて満たすのって大変ですね。

遊戯王SS作家の人たちを改めて尊敬します。

## VS 明日香

今、俺は湖の上でデュエルしている2人を見ている。  
あえて言わせてもらおう。どうしてこうなった…………。

ことの始まりは今日の授業の体育の時間だった。

翔が不気味で怪しい笑いをしていた。はつきり言おう。超怖い！！

まるでマジックマツシユルムを食べてハイになっているような感じだ。昼はドローパンだったからワライダケパンとかにあたったんじゃないかと思うくらい怪しい笑いだった。

どんな感じかというと。

「えへ、えへへへへ。わるいつすね。今日ぼくは大人の階段にのぼるんスよ」

こんな感じだ……。

言ってる言葉も支離滅裂だし、足取りもおぼつかないし、笑い方も不気味だった。

思わず保険医の鮎川先生のところ連れて行っただが。

「しばらく様子を見ましよう」

と言っていたし、毒キノコのドローパンはさすがに存在しないとい

うこと。

明日になっても様子がおかしかったらもう一度鮎川先生のところに連れて行こうと思ひ布団に入ると、力強く扉が開かれ。

「厚志！大変だ！！翔が誘拐された！！！」

十代が飛び込んできた。

ぶっちゃけ自分の睡眠欲の方を優先したかったが、見捨てるのも目覚めが悪かったので詳しく話を聞くことにした。

あとで思えば、このまま寝た方が厄介ごとが少なくて済んだんじゃないね。と思わなくもなかった。

十代の話を整理すると

夜に不気味な笑いを浮かべながら出掛けていく翔。

なかなか帰ってこない翔。

「丸藤翔は預かった。返してほしければ女子寮近くの湖までこられまし」

というメッセージが来た。

場所わからないから、よく散歩しているやつに聞いてみよう。  
いまここ。

らしい。

あの湖なら夕日が綺麗にうつるから何度かいったことあるなあ。  
さすがに夜は不審者扱いされそうだから行っていないが……。

「まあ、話はわかったよ。そのメッセージも一人で来いとはいってないし、道案内が一人つくくらいなら問題ないだろう」

「ほんとか！ いやぁ助かるぜ。おれレッド寮と学園の行き方しか知らないからさあ」

「せっかく南の方にある島なんだから色々周ればいいのに、自然がいっぱいあって楽しいぞ」

「おう！ 今度案内してくれよ」

「ま、そのうちな」

しかし翔の誘拐とは……これは『原作』でもあったことなんだろうか？

俺は多少十代と仲がいい程度だから原作を大幅に改編していないと思っていたが、勘違いだったのか？

『丸藤 翔』はメインキャラクターのはず、TF3で3色の服を着て登場していたから、こんな序盤で退場するはずはないと思うのだけど……。

無印と違ってGXはTFシリーズしか知らないから原作イベントかどうかがさっぱりわからん。

役に立たない原作知識などなくなればいいと思う……………。

いつそ、開き直って出たとこ勝負するしかないか…………。

そういえばなんで女子寮なんだ？

呼び出された先にいたのは、縛られている翔。そしてなぜかいる明日香と、初対面の女性と2名。

彼女たちが誘拐犯なのか？翔を誘拐してもメリットがない気がするんだが……。

「来たわね遊城 十代。それに鈴本 厚志だったわね」

「呼び出したのは明日香で間違いないのか？」

「ええ、私で間違いないわよ」

明日香から事情を確認すると、翔は女子寮の裏でうろついていたから、覗きの容疑で捕らえたいらしい。

捕まえたときにいたのはここにいる3名だけで、どうやら明日香と十代がデュエルをして勝てば学校側には話さないでおいておくと言うもの。

「さ、帰るか十代」

「……ええー……！」

周りにいた連中がいつせいに声を上げる。声が大きいつての。

「だってどう考えても自業自得だぜ？これ」

「ひどいっスよ。ぼくはただ呼び出されただけなんスよ」

「阿呆、そもそも夜の女子寮の近くにいれば不審者扱いされても文句はいえんだろ。世の中に何件痴漢とセクハラで訴えられた社会人がいると思ってるんだ」

「だけど、見捨てるっていうのはひどくねえか？それにおれも明日香とデュエルしてみたかったしな！」

「十代がやる気ならしょうがないな」

だんだんこの事件の裏が読めてきた。明日香は翔を呼び出したという手紙に心当たりはないのだろう。しかし十代のデュエルの腕を見



るチャンスだと思って利用したんだと思う。

翔が覗きをしていないというのも明日香にはわかってはいるはずだ。実際手紙もあるし、さすがにわざわざあんな小道具を用意してまで覗きに来る馬鹿はいるはずないだろうし。

しかし、覗きに取られてもおかしくないその迂闊な行為を戒めるために、お灸を据える感覚でこんなことになったのだろう。

おそらく十代が勝っても負けても翔は解放されるはずだ。明日香と知り合って日は浅いが無実の人間を退学に持ち込むことができるほど、非情な人間ではないはずだしな。

あゝ馬鹿馬鹿しい、これって俺いる必要あるのかな？

ここまで馬鹿馬鹿しい落ちなら、おそらく原作イベントだろう。俺は基本的に原作イベントには介入するつもりはない。降りかかる火の粉は払う主義だけど積極的に関わろうという意味はない。

そもそも2度目の人生と言うだけで幸運なのだ。ハーレムとか原作ブレイクとかやってるオリ主（笑）の気持ちがまったくわからん。俺は普通に天寿を全うできれば満足なんだけだなあ。

そして冒頭に戻るわけだが……。

「リバースカードオープン！『ドゥーブルパッセ』を発動！！相手モンスターが自分フィールド上モンスターを攻撃する場合、その攻撃を自分ライフへの直接攻撃にする事ができるわ。」

「なに！ダメージを受けてまでモンスターを守ったのか！！」

「それだけじゃないわ、さらに攻撃対象となったモンスターは相手プレイヤーに直接攻撃（ダイレクトアタック）できるわ！」

へえー。あんなカードあったんだ。TFシリーズになかった気がするなあ。ライフ4000だと相打ちで引き分けが多くなりそうだなあ。それとも先に自分が食らうから自分の負けになるのだろうか？

む、明日香の反撃が始まりそうだ。

「ブレードスケーターを通常召喚。さらに魔法カード『融合』を發動！場のエトワールサイバーとブレードスケーターを融合！現れなさい、サイバーブレイダー……！」

なんでブレードスケーターを召喚した！手札融合でいいじゃないか！他に召喚できるモンスターがいないとしても『落とし穴』とかされたら目も当てられないぞ。

やはりサイバーブレイダーをメインで使うのか……。効果は強力だが、相手のモンスター数を制限できないときついな。『地盤沈下』があればいいんだろうが。

サイバー・ブレイダー

融合・効果モンスター

星7/地属性/戦士族/攻2100/守 800

「エトワール・サイバー」+「ブレード・スケーター」

このモンスターの融合召喚は上記のカードでしか行えない。

相手のコントロールするモンスターが1体の場合、

このカードは戦闘によっては破壊されない。

相手のコントロールするモンスターが2体のみの場合、

このカードの攻撃力は倍になる。

相手のコントロールするモンスターが3体のみの場合、このカードは相手の魔法・罠・効果モンスターの効果を無効にする。

地盤沈下

永続魔法

全てのモンスターカードゾーンから2カ所を指定する。

指定したモンスターカードゾーンは使用できない。

この時モンスターカードが存在している場所は選択することはできない。

「サンダー・ジャイアントで直接攻撃！ダイレクトアタックボルティック・サンダー！  
！」

む、終わったようだ。しかし微妙にサンダージャイアントの効果が違った気がする。手札コスト必要だったような……。

「約束だからしかたないわね。翔君は解放するわ」

「さーて。帰るか」

「まって！せっかくだから厚志も私とやっていかない？」

むう、俺まで巻き込むか。まあここまで来て十代のデュエルを見ただけというのも空しいものはあったが。

「……そうだな。じゃあ1戦だけ」

「楽しみね。それじゃあ！」

「デュエル  
決闘」

「俺が先攻で行く。ドロー、モンスターをセット。リバーiscardを2枚セット。ターンエンドだ」

「私のターン。ドロー、手札から融合を発動。手札のエトワールサイバーとブレードスケーターを融合!!」  
来なさい、サイバーブレイダー!!」

むう、いきなりエースモンスターか。明日香も結構チートドロだなあ。

「さらに!魔法カード『シールドクラッシュ』を発動!!セットモンスターを破壊するわ!」

シールドクラッシュ

通常魔法

フィールド上に守備表示で存在するモンスター1体を選択して破壊する。

ちょ!!

ボマードラゴンが役目も果たさず消えるとはおもわなんだ。

ボマー・ドラゴン

効果モンスター

星3/地属性/ドラゴン族/攻1000/守 0

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、このカードを破壊したモンスターを破壊する。

このカードの攻撃によって発生するお互いの戦闘ダメージは0にな

る。

「……了解した」

「ふふ、その顔を見るに結構いいカードを破壊したみたいね」

ああ……その通りだよどちくしょうめ！

「そして2枚目のブレードスケーターを攻撃表示で召喚！」

「2体のモンスターで直接攻撃ダイレクトアタック！！」

2体のモンスターが蹴ってきた。サイバークールって何で蹴りが多いのだろう。2体同時に息を合わせて蹴ってくる！！うおっ怖ええー！！

「ぐう……」

厚志

LP4000 500

一気に減らされた。ライフ4000だときついな。

最初は様子見のつもりでボマードラゴンだったんだが、そんなことしている暇なかったな。

「この程度ならとんだ期待はずれね。カードを1枚伏せてターンエンドよ」

「まだまだこれからさ」

「俺のターンドロー。ホルスの黒炎竜LV4を攻撃表示で召喚。さらに魔法カード『レベルアップ！』を発動してデッキからホルスの黒炎竜LV6を特殊召喚！」

ホルスの黒炎竜 L V 4

効果モンスター

星4 / 炎属性 / ドラゴン族 / 攻1600 / 守1000

このカードは自分フィールド上に表側表示で存在する限り、コントロールを変更する事はできない。

このカードがモンスターを戦闘によって破壊したターンのエンドフェイズ時、

このカードを墓地に送る事で「ホルスの黒炎竜 L V 6」1体を手札またはデッキから特殊召喚する。

レベルアップ！

通常魔法

フィールド上に表側表示で存在する「L V」を持つモンスター1体を墓地へ送り発動する。

そのカードに記されているモンスターを、

召喚条件を無視して手札またはデッキから特殊召喚する。

ホルスの黒炎竜 L V 6

効果モンスター

星6 / 炎属性 / ドラゴン族 / 攻2300 / 守1600

このカードは自分フィールド上に表側表示で存在する限り、魔法の効果を受けない。

このカードがモンスターを戦闘によって破壊したターンのエンドフェイズ時、

このカードを墓地に送る事で「ホルスの黒炎竜 L V 8」1体を手札またはデッキから特殊召喚する。

「なっ！伝説のレベルモンスターですって！？」

え？伝説なの？使っちゃまずい系？

…………… 知らん顔してればいいや。

「バトルフェイズに入るホルスの黒炎竜LV6でブレードスケーターを攻撃！」

ソリッドビジョンに表示された銀色のドラゴンがブレードスケーターに向けて名前の通りの黒い炎を吐き出す。

「やらせない！リバーズカードオープン！『ドゥーブルパッセ』！  
！説明は不要よね。これで終わりよ！」

ぬお！あぶねえもん伏せてやがる！！だが甘い！

「甘い！永続トラップ発動！『王宮のお触れ』！！このカード以外のトラップの発動は封じさせてもらう」

「そんな、きやああー！」

よし、これでレベルアップの条件を満たした。

王宮のお触れ

永続罠

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカード以外のフィールド上の罠カードの効果は無効にする。

危ない危ない、初手で引いていなかったら危なかったな。

「これでターンエンドだ。エンドフェイズ時にホルスの黒炎竜はLV8に進化する」

「ホルスの黒炎竜LV8がいる限り、お前の魔法は封じさせてもら

う！」

ホルスの黒炎竜   LV 8

効果モンスター

星8 / 炎属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守1800

このカードは通常召喚できない。

「ホルスの黒炎竜   LV 6」の効果でのみ特殊召喚できる。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、魔法の発動と効果を無効にし破壊することができる。

「ま、魔法も使えなくなったの！」

「す、スゲーコンボだぜ！！くうー俺もやってみたかったなあ」

ぶっちゃけ、すでに発動している永続魔法とかは受けるから平和の使者が越えられなかったりして、LV 6の方が強いとかいわれることもあるんだけどな。

ロックは決まった。あとは効果モンスターで対処するしかないはず。

「くっ、私のターンドロ……サイバーブレイダーを守備表示にしてターンエンドよ」

あら、守備表示にするんだ。ダメージをケチったな。

「なら、俺のターンドロ2枚目の仮面竜を攻撃表示で召喚する。これで戦闘破壊ができるようになったな」

「あ！」

仮面をかぶった竜が俺のフィールドに現れる。ソリッドビジョンでみると胡散臭さが際立つな。



「バトルフェイズに入る。仮面竜でサイバーブレイダーを攻撃！」

ガードを固めているサイバーブレイダーにむかって、仮面竜が炎を打ち出した。サイバーブレイダーはなすすべもなく焼き尽くされた。攻撃表示ならやられることもなかったかもしれないのに。いや、俺の手札だと関係ないか。

「そして、本命だ。ホルスの黒炎竜LV8で直接攻撃！ダイレクトアタックダークネスメガフレ임！！」

「きゃあああーーーーー」

明日香LP

4000 1000

あと一撃で片がなくな。しかしチートドロがデフォの原作キャラクターだ。最後まで油断はできない…。

「カードを1枚伏せてエンド。」

「私のターンドロ、モンスターをセットしてターンエンド」

ふむ、あのセットモンスターの中身が気になるが下手に仮面竜で攻撃して反射ダメージを食らうのは得策ではないな。  
ならば……。

「俺のターンドロ、バトルフェイズに入る。ホルスの黒炎竜LV8でセットモンスターに攻撃」

「セットモンスターは荒野の女戦士よ。墓地に送られたときに効果発動！2枚目の荒野の女戦士を特殊召喚するわ」

荒野の女戦士

効果モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族 / 攻1100 / 守1200

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

自分のデッキから攻撃力1500以下の戦士族・地属性モンスター

自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

「しづとい、仮面竜で荒野の女戦士を攻撃」

「くう、3枚目の荒野の女戦士を召喚するわ」

明日香LP

1000 700

地属性戦士族専用のリクルーターか……。なかなかしづといな。

「ならばターンエンドだ」

「私のターンドロー!!」

明日香が笑った？何か逆転のカードを引いたのか？

「荒野の女戦士を生贄にして、雷帝ザボルグを召喚よ!!」

ぶほっ!!何でそんなもんはいつてんだよ!!サイバーも戦士族も関係ないじゃねーか!!

雷帝ザボルグ

効果モンスター

星5 / 光属性 / 雷族 / 攻2400 / 守1000

このカードの生け贄召喚に成功した時、  
フィールド上のモンスター1体を破壊する。

「その様子ならこのカードの効果は知ってるようね。ホルスの黒炎  
竜LV8を破壊するわー!」

「……さすがに防げん。了解した」

ザボルグから放たれた雷がホルスの黒炎竜を打ち据えた。

「バトルフェイズに入るわ。ザボルグで仮面竜に攻撃!」

「くつ、速攻魔法月の書を発動!ザボルグを裏側守備表示に変更す  
る」

「すごいツス……一進一退の攻防ツス」

月の書

速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択し、裏側  
守備表示にする。

「くつ、私はこれでターンエンドよ」

「俺のターン。ドロー」

手札にモンスターカードは無し……か。

ん? …… あ、ずっと貪欲な壺伏せてたの忘れてた。えっと今墓  
地には……一枚足りないとか。orz

月の書で仮面竜を裏にしておけば貪欲で2枚引けたのに。  
初手に来たからブラフで伏せていたんだっけ……。

「あー、バトルフェイズ。仮面竜でセットモンスターを攻撃でいいや」

「…なんか一気に投げやりになったわね」

「自己嫌悪だから気にしないでくれ」

「……そう？セットモンスターのザボルグは破壊されるわ」

「カードを一枚伏せてターンエンド」

明日香の表情が少しほつとしたように見える。あそこでモンスター引いていたら俺の勝ちだったしな。

「私のターン。ドロ……来た！魔法カード死者蘇生を発動！墓地からサイバーブレイダーを蘇生させるわ！」

おいおい、いくらなんでもチートドロすぎねえか……。俺にはそんなもん無いってのに。

「サイバーブレイダーで仮面竜を攻撃！！」

「速攻魔法突進発動！仮面竜の攻撃力を700上昇させる！」

「まだ、耐えるのいの！？」

サイバーブレイダーの放った蹴りが仮面竜を吹き飛ばす。しかし突進の効果で700上昇した攻撃力で首の皮一枚つながったといったところだ。

厚志LP

500 500

「墓地の仮面竜の効果発動！この効果でボマードラゴンを召喚する」  
「私はこれでターンエンドよ」

これでサイバーブレイダーを倒す目途はついた。あとはLPにダメージを与えるための下級モンスターがいれば…。

「俺のターン。ドロー！！げ！」

ホルスのレベル8かよ、手札にくるカードじゃねえだろ！  
だがしかし！

「伏せていた魔法カード貪欲な壺を発動する！」

「ここで、手札補充ですって！」

ここでっていうか。今さっき使えるようになったというか。十代とかならこのタイミングで強欲な壺とか天使の施しとか引いてきそうだな……。

「墓地にあるモンスターはちょうど5枚。この5枚をデッキに戻し2ドロー！！」

貪欲な壺

通常魔法

自分の墓地に存在するモンスター5体を選択し、  
デッキに加えてシャッフルする。

その後、自分のデッキからカードを2枚ドローする。

よし！勝った！

「ホルスの黒炎竜LV4を攻撃表示で召喚！」

「バトルフェイズに入る！ボマードラゴンでサイバーブレイダーに攻撃！」

「自殺する気！？」

「ボマードラゴンの効果で、このカードの戦闘によるダメージは発生しない。そしてこのカードと戦闘で破壊したモンスターを破壊する！！」

ボマー・ドラゴン

効果モンスター

星3/地属性/ドラゴン族/攻1000/守 0

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、このカードを破壊したモンスターを破壊する。

このカードの攻撃によって発生するお互いの戦闘ダメージは0になる。

「そ、そんな。サイバーブレイダーが……」

サイバーブレイダーに蹴り倒されたボマードラゴンが最後の力を振り絞って自爆する。煙が晴れたところには2体のモンスターは姿を消していた……。

「これでラストだ。ホルスの黒炎竜LV4で直接攻撃！！」  
ダイレクトアタック

「きゃあああー！！！」

明日香LP

700 - 900

「つ、疲れた」

「そ、そんな。明日香様が」

「2度も負けるなんて」

楽しかったが疲労も大きい。もう勝てないかもしれないな。

「楽しかったわ。完敗ね」

「何が完敗だよ、こっちはギリギリだったんだぜ」

「二人ともスゲーデュエルだったぜ！！なあ次おれとやろうぜ！！」

「さすがに疲れた、明日にしてくれ」

「それじゃあ、帰りましょう。お休みなさいね」

「ああ……お休み」

こうして俺は明日香とのデュエルに勝利した。

しかし明日香であの引きなら十代はどんだけだよ……。

まさか積み込みしてるんじゃないだろうな……。

落ちとして次の日は思いっきり遅刻したことを追記しておく。

## V S 明日香（後書き）

というわけで、今回のデッキはお触れホルスでした。

誤字脱字にデュエルミスや誰かに使ってほしいデッキなどありましたら。感想版までお願いします



月一試験 VS 翔 十代VS万丈目（前書き）

忘れていた月一試験を割り込み投稿しました。

今回も突っ込みが冴え渡ります。

正直突っ込みすぎな気がしないでもありません。

もうちょっと突っ込みを減らすべきなのでしょうか？

## 月一試験 VS 翔 十代 VS 万丈目

今日は学校に付き物の試験の日だ。

今日は珍しく早起きしたので十代に頼らずにすんだ。普段起こしてもらってばかりだからなあ。今度お礼にカードでもあげようかな。

しかし寮の入れ替え戦も兼ねているとはいえ、月一で試験があるというのは多い気もする。

ちなみに俺は試験の日はまったく勉強しない派だ。勉強などなくてもそこその点数は取れるし、受験のような後がない状況の時だけ勉強すればいいと思っている。

そのかわり普段はしっかり授業に集中すればいい。試験なんてものは授業で習ったこと以外は原則でてこない様にできているからな。

レッド寮の壁が薄いせいか隣の部屋からオシリスの天空竜に祈っている声が丸聞こえだ……。

たかが試験で神頼みなのか……。そもそもライエローへの昇格を祈るならオシリスじゃなくてラーに祈らないとだめじゃないのか？ オシリスから罰が当たっても知らんぞ。

筆記はそれでいいとしても問題は実技だ。終焉のカウントダウンも封印されたし今日は別のデッキを使わなければならない。どの程度通用するかわからないが、別のデッキもあることにはある。まあ負けてもともとでいいや。このデッキを使おう。

そして教室で筆記試験を受けているのだが。なぜ残り時間がわずかになってから十代が現れる……。

寝坊か？ 寝坊なのか？ いつもと立場が逆になったなあ。

それはいいとしても。残り少ない試験時間で寝るし！ 横の丸めがねもぐっすり寝ている。ずいぶん開き直ってるなあ。

試験が終了しても気持ちよさそうに寝ている、まあ実技は午後2時からって言うていたしそれまでには起きるだろう。寮にいったん帰ってデッキの調整でもしてくるかな。

「で、俺の相手は十代にくっついてる丸めがね君か」

「ま、また僕の名前を覚えていないんスカー!!」

「いやだって、自己紹介されていないし……」

「いいッス。僕は君を倒して名前を覚えてもらっスー!!」

まあいいか

「「決闘!!」」

「俺のターン、ドロー。モンスターをセットカードを2枚伏せてターンエンドだ」

「僕のターンッス、ドロー。手札から融合を発動。手札のジャイロイドとスチームロイドを融合して、スチームジャイロイドを特殊召喚するッス」

「そしてバトルッス」

さて！ とりあえずスチームロイドで殴っておけよ。対モンスターならスチームロイドで殴ったほうがお得な場合が多いんだぞ。

《スチームロイド / Steamroid》 十

効果モンスター

星4 / 地属性 / 機械族 / 攻1800 / 守1800

このカードは相手モンスターに攻撃する場合、

ダメージステップの間攻撃力が500ポイントアップする。

このカードは相手モンスターに攻撃された場合、

ダメージステップの間攻撃力が500ポイントダウンする。

《スチームジャイロイド / Steam Gyroid》 +

融合モンスター

星6 / 地属性 / 機械族 / 攻2200 / 守1600

「ジャイロイド」 + 「スチームロイド」

「スチームジャイロイドでセットモンスターに攻撃するツス。ハリケーン・スモーク！」

「とりあえず永続罨発動光の護封壁を発動。ライフコスト3000を支払うことによりお前の攻撃力3000以下のモンスターは攻撃できなくなる」

《<sup>ひかり</sup>光の護封壁<sup>しゅほうへき</sup> / Wall of Revealing Light

》 +

永続罨（制限カード）

1000の倍数のライフポイントを払って発動する。

このカードがフィールド上に存在する限り、

払った数値以下の攻撃力を持つ相手モンスターは攻撃をする事ができない。

「そ、そんな3000だなんて……」

いや、とりあえず割ること考えようぜ。まあ割ってももう一枚の伏せがグラヴィティ・バインドだったりするんだが

「ぼ、僕はこれでターンエンドッス」

カード伏せないのか。手札も結構消費したからな。ブラフでも伏せとくことに意味があると思うんだけどな。

「俺のターン、ドロー」

む、ここでトライスを引いたか。勝ったな。  
今日の俺は実に運がいい。こんなにあつさり勝てるとは思わなかった。

「とりあえず逆巻く炎の精霊を反転召喚。そして装備魔法の進化する人類と、コストとして手札一枚を墓地に送り閃光の双剣トリスを逆巻く炎の精霊に装備させる。進化する人類の効果で逆巻く炎の精霊の元々の攻撃力は2400になり閃光の双剣トリスを装備することによって500下がった1900になり2回攻撃が可能となる」

「1900じゃ僕のスチームジャロイドは倒せないよ！」

《進化する人類 / Unstable Evolution》 +

装備魔法

自分のライフポイントが相手より下の場合、

装備モンスターの元々の攻撃力は2400になる。

自分のライフポイントが相手より上の場合、

装備モンスターの元々の攻撃力は1000になる。

《閃光の双剣 - トリス / Twin Swords of Flashing Light - Tryce》 +

装備魔法

手札のカード1枚を墓地に送って装備する。

装備モンスターの攻撃力は500ポイントダウンする。

装備モンスターはバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。

「倒す気などはじめからないさ、逆巻く炎の精霊は直接攻撃できるんだからな」

「ええっ！」

「まず逆巻く炎の精霊で直接攻撃」

「うわああ」

翔

LP 4000      2100

「でも2回攻撃されても生き残る！ 次の僕のターンで仕留めるよ！！」

「逆巻く炎の精霊の効果発動。このカードが直接攻撃に成功した場合攻撃力を1000アップさせる」

逆巻く炎の精霊

1900      2900

「そ、そんなの卑怯だよお」

「言うだけならタダだから何とでも言え。もう一度直接攻撃だ」

《逆巻く炎の精霊 / Raging Flame Sprite》  
†

効果モンスター

星3 / 炎属性 / 炎族 / 攻 1000 / 守 2000

このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

直接攻撃に成功する度にこのカードの攻撃力は1000ポイントアップする

「う、うわああ」

翔

LP2100 - 800

これで俺の試験はすべて終了だな。次は十代のデュエルでも見物してみるかな。

そっぴやワンキルかましちやっとな。ライフ4000ならこんなものか。

おっとこれから始まるみたいだ。ちょうどいいタイミングみたいだ。それにしても……なんで十代の相手が万丈目なんだ？ 明日香にでも聞いてみるか。

「やあ明日香お前さんも十代の見物かい？」

「あら厚志？ お前もということはあなたも？」

「そんなところだよ。そして十代の対戦相手は何でオベリススクブルーなんだ？ 試験であたるのは同じ寮の人間だと思ったんだが」

「なんでもクロノス先生の話によると、自分を倒したほどの腕ならオベリススクブルーでもないと言ひ合ひが取れないらしいって話だったわよ」

「ほほう、クロノス先生は十代のことを嫌っているように見えたが、その実力は認めていたのか」

「なんとなく、授業で赤っ恥かかされた嫌がらせって気もするけどね」

「まあどちらにせよこれで」

「ええ、あの夜の続きが見られそうね」

「「決闘」」

はじまつたか、先攻は十代。なんか万丈目が自分の名前に『さん』をつけるようにいつているが、同じ年で敬称を強要するやつははじめてみたな。

あ、十代のやつ自分のドローハネクリボーだつてつぶやいてたぞ……。あんなんで本当に大丈夫なのか？

「今十代自分のドロー、ハネクリボーだつてつぶやいていなかったか？」

「つぶやいていたわね」

「……」

まあそれは置いて十代はクレイマンを守備表示でターンエンドか。伏せ無しっていうのは危険じゃないのか？

なんか知らんがどういつもこいつも表側守備表示好きだよなあ。ハツタリかませれるセットのほうが個人的には好きなんだが。

万丈目はいきなり打ち出の小槌を2連発か。しかしあのカード、俺の記憶では打ち出の小槌自体はリサイクルできないはずなんだけども。ドロー補助としてあまりにも強すぎるだろう。アニメの効果だと強すぎるから、弱体化させたのかもしれないな。

《打ち出の小槌 / Magical Mallet》 † (アニメ)  
通常魔法

このカードと自分の手札を任意の枚数デッキに加えてシャッフルする。

その後、デッキに加えた枚数分のカードをドローする。

《打ち出の小槌 / Magical Mallet》 † (OCG)



## 通常魔法

自分の手札を任意の枚数デッキに加えてシャッフルする。  
その後、デッキに加えた枚数分のカードをドローする。

「V-タイガー・ジェットを攻撃表示で召喚！」

おお、Vがきたってことは、まさかVWXYZデッキか？ あの正規召喚がめちゃくちゃめんどくさいVWXYZがくるのか！？

「さらに手札から永続魔法前線基地を発動！」

ユニオンモンスターの召喚補助ってことは間違いないな。万丈目はVWXYZだ。しかしあの夜見た地獄縛りデッキはいつたいたいどこにいったんだ？ かけらもその要素が見当たらないわけなんだが……。

《前線基地 / Frontline Base》  
+

## 永続魔法

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に  
手札からレベル4以下のユニオンモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

む、Wも出てきて合体したか。弱いとはいわないがVWだけじゃ結構微妙だよな手札一枚捨てての表示変更だし。2枚のカードを使う割には攻撃力2000はちと頼りない。でもリバー効果を発動させないで表にできるのは便利といえば便利か？

《VW-タイガー・カタパルト / VW-Tiger Catapult》  
+

## 融合・効果モンスター

星6 / 光属性 / 機械族 / 攻2000 / 守2100

「V・タイガー・ジェット」+「W・ウイング・カタパルト」  
自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ、

融合デッキから特殊召喚が可能（「融合」魔法カードを必要としない）。

手札を1枚捨てることで、相手フィールド上モンスター1体の表示形式を変更する。

（この時、リバー効果モンスターの効果は発動しない。）

万丈目はVWの効果を使用して攻撃表示になったクレイマンを撃破した。逆に言うと効果を使用しなければクレイマンを倒せなかったともいえる。

どこかで丸めがねがずるいとわめいているが、この程度でずるいのならゴヨウとか氷結界の龍シリーズはどうなるんだろう？

「十代が不利ね」

「ライフはな。逆に万丈目は手札を大幅に使用した。ここから先はどうなるかわからない」

「そういう見方もあるわね」

というか、全体的に墓地や手札のアドの評価がかなり低い気もする。ライフ4000なら短期決戦が多いだろうから。気持ちはわからないが……。

つと十代はスパークマンを守備表示か。まあ裏にしてもVWで攻撃表示にされるなら一緒か。

十代のターンはあんまり動きがなかったな融合を引いていないからか。

次は万丈目のターンか。Xを通常召喚。Zを前線基地で特殊召喚。

Yはリビングデットの呼び声でそろえた！

そして即座に合体か。よくまあきれいに手札を使いきってそろえたものだ。手札がないから効果は使用できないがああ伏せカードしだいでは十代の負けだな。

エックスワイゼット

《XYZ・ドラゴン・キャノン/XYZ・Dragon Cannon》  
+

融合・効果モンスター

星8/光属性/機械族/攻2800/守2600

「X・ヘッド・キャノン」+「Y・ドラゴン・ヘッド」+「Z・メタル・キャタピラー」

自分フィールド上に存在する上記のカードを

ゲームから除外した場合のみ、エクストラデッキから

特殊召喚する事ができる（「融合」魔法カードは必要としない）。

このカードは墓地からの特殊召喚はできない。

自分のメインフェイズ時に手札を1枚捨てる事で、

相手フィールド上に存在するカード1枚を破壊する。

「まだ終わっちゃいない！俺はVWタイガーカタパルトとXYZドラゴンキャノンをさらに合体し、VWXYZ・ドラゴン・カタパルトキャノンを合体召喚する！！」

グイトウズイ

《VWXYZ・ドラゴン・カタパルトキャノン/VWXYZ・Dragon Catapult Cannon》  
+

融合・効果モンスター

星8/光属性/機械族/攻3000/守2800

「VW・タイガー・カタパルト」+「XYZ・ドラゴン・キャノン」  
自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ、

融合デッキから特殊召喚が可能（「融合」魔法カードを必要としな

い)。

1ターンに1度、相手フィールド上のカード1枚をゲームから除外する。

このカードが攻撃する時、攻撃対象となるモンスターの表示形式を変更する事ができる。(この時、リバー効果モンスターの効果は発動しない。)

え？ 合体すんの？ バラで殴ってもいいんじゃない？ まあ手札がないからそれもありか。

VWXYZの正規召喚なんて実戦ではじめて見たな、ロマンあふれるカードではあるが…。

これがオベリスクブルーの実力というやつなのか……。

伏せはVWXYZで除去してスパークマンを攻撃表示にして殴れば安全といえば安全だしな。

と思つたら、実際には除去したのはスパークマンだった……。ミラフォだったらどうするつもりだったんだろう……。

「リバーズ罠オープン！ ヒーロー見参！」

「何？ ヒーロー見参!？」

ずいぶんマニアックなカードを使うなあ。ヒーローと名前はあるものの効果としてはヒーローとは何の関係もないカードなんだけどな。

《ヒーロー見参<sup>けんざん</sup>/A Hero Emerges》  
†

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

自分の手札から相手はカードをランダムに1枚選択する。

選択したカードがモンスターカードだった場合、自分フィールド上

に特殊召喚する。

違う場合は墓地へ送る。

ヒーロー見参で選ばれたのはバーストレディ。VWXYZで攻撃表示にさせられて焼き尽くされる。

これで十代もだいぶ追い詰められたな。というかよくしのいでいる。自分だったら負けているかもしれない。

十代のターンになりハネクリボーと伏せ1枚でターンエンド。

あれ？ これ十代の負けじゃね？ 伏せ除去してハネクリボー戦闘破壊して。さらに万丈目がモンスター引いていれば終わりじゃん。うーむまさかここで十代が負けるとは思わなかったなあ。融合引いていなかったみたいだし事故でも起こしていたのかな？

「その目障りな毛玉を除外して十代へ直接攻撃だ、ダイレクトアタックVWXYZ・アルティメット・デストラクション！！」

「来たぜ相棒！ オレは手札2枚をコストに進化する翼を始動！！」

《進化しんかする翼うば/Transcendent Wings》†

速攻魔法

自分フィールド上に存在する「ハネクリボー」1体と手札2枚を墓地に送る。

「ハネクリボー LV10」1体を手札またはデッキから特殊召喚する。

十代のハネクリボーの翼が自フィールドの端から端まで届くほどに巨大化した。

たしかあれは……。

「ハネクリボーLV10だな」

「知ってるの？」

「うる覚えだがな。たしか超強いミラーフォースみたいな効果だったと思ったが」

《ハネクリボー <sup>レベル</sup> LV10 / Winged Kuriboh LV10》  
+

効果モンスター

星10 / 光属性 / 天使族 / 攻 300 / 守 200

このカードは通常召喚できない。

このカードは「進化する翼」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを生け贄に捧げる事で、

相手フィールド上の攻撃表示モンスターを全て破壊し、

破壊したモンスターの元々の攻撃力の合計分のダメージを相手ライフに与える。

この効果は相手バトルフェイズ中のみ発動する事ができる。

除外効果にチェインしてうまく相手の効果を捌いたな。確か守備表示だと問題なかったはずだから、これでまた一ターン凌いだと思ったら万丈目がハネクリボーLV10に攻撃を続行している姿が見える。

あいつは、正体もわからないモンスターに突撃していくのが好きなのか？ とりあえず知らないモンスターが出たら警戒しないか？

俺が異端なのか？ これが常識なのか？

そしてハネクリボーLV10の効果でVWXYZが破壊されさらに3000のライフダメージを受けた万丈目。まさに踏んだり蹴ったりである。

一方十台のほうはと…。

「これで攻撃力1000のモンスターを引いたら面白いよなあ!？」

「馬鹿め、そう都合よく」

「でも、面白いよなあ!」

十代よ面白いのはおまいだけだ。万丈目は面白くないだろ。てか、十代相手に引き勝負なんて勝てる気がしない。

あ、フェザーマンでた。ここでぴったりのモンスターを引くとかどうだけ。

「十代の勝利ね」

「どっちかというなら万丈目のミスが目立ったな。VWXYZを無理に出す必要もなかったし、ハネクリボーLV10に対して無警戒に突っ込みすぎた。あの少ないターンでVWXYZを出した手腕はたいしたものだがそれ以降もプレイングがお粗末になってしまった感も否めない。もちろん小さいチャンス物をにした十代もたいしたものだけだな」

「よくそんな細かいところまで分析できるわね」

「これしかとりえがないもんでな」

「見せてもらいましたよ遊城十代君。君のデッキへの信頼感、モンスターとの厚い友情、そして何よりも勝負を捨てないデュエル魂を。それはここに在るすべての者が認めるでしょう。よって遊城君はラ・イエローへ昇格です」

十代が昇格か。昇格祝いになんか奢ってやるかな。それにしても明日から誰に起こしてもらおうか？

部屋に戻ってみるとなぜか十代がいた。どうやら十代は昇格の話を蹴ったらしい。それでもいいのかデュエルアカデミア……。

ちなみに、俺のデッキは使用禁止とまでは行かなくてもロックはほどほどにと指摘されてしまった。また新しいデッキを構築しなければいけないらしい。



## 月一試験 VS 翔 十代VS万丈目（後書き）

厚志の今回のデッキはロック&ダイレクトアタックです。

場をロックしつつダイレクトアタック+追いはぎゴブリンで手札破壊もついでにかねています。

TFで作ってみました、勝率はそこそこです。

## 夜のOHANASHI（デュエル無し）

明日香とデュエルしてから、数日が経過した。あれからは大してトランプもなくすごしている。

せいぜい、十代と何度かデュエルしているくらいだ。

いや、十代の引きは反則でしょ……。手札0から気がつけば5枚に増えてたりするし。なぜか異様に条件がゆるいバブルマンや強欲な壺が普通に使えることもあって、デッキの回転が早い早い。いろんなデッキで挑戦しているが勝率は3割ほどだ。

ちなみに『お触れホルス』の使用は暫定的に認められた。ビートもできるけどロックの性質も持つので先生方の評価はあんまり高くなかった。

特殊勝利だけじゃなくて魔法、罠ロックもだめなのか……。

結構要求が厳しいな、この分だとパーミッションやバーンデッキも無理っぽい。やっぱりソリッドビジョンだから、どうしても見栄えのいいモンスター同士のガチンコが評価されるんだろうか？

純粋なビート系デッキのレパートリーって少ないんだけどなあ。

しかし他の連中はよくもまあ同じデッキばかりで飽きないよなあ

……。

俺なんて3回くらい使ったら調整で手を入れるか、飽きて他のデッキを作るからな。

「おい、厚志いるか？」

ん？十代か、今日はデュエルはしないっていつてあるし何の用件な

んだろ。

「どした？」

「最近暑いからさゝ怪談話でもしようと思ってさ。一緒にどうだ？」

「ん、別にかまわんよ。どこでやるんだい？」

「俺たちの部屋でやろうぜ」

十代に案内されて入った部屋には、すでに2人の人物がいた。

翔と……誰だっけ？

あのコアラ顔タッグフォースでいたような気がするんだけどな。

まあいいや。

とりあえずそれを頭の隅に押しやると、ちょうど十代が話をするときのルールを説明しはじめた。

ルールといってもそこまで大層なものではないが。

1 順番は俺 翔 コアラ 十代の順番らしい。

2 カードを引いてそのレベルにみあった話をするらしい。

3 証明は雰囲気重視してろうそくのみ。

「というわけで俺がトップバッターだ」

とりあえずカードをひいてつと、なにが出るかな？

「こ、これは……」

「な、何のカードを引いたんだな？」

「絶対服従魔人だ。レベル10だな。悪いがいきなりクライマックスで行かせてもらう」

「い、いきなりレベル10ッスか！」

ゴクリ

だれかが息を飲む音がやたらと大きく聞こえる。

「いくぞ、女性の　　は××××で　　すると××××××にな  
つてだな」

「「ぶふっ！！」「」

「なんだいきなり。リアクションを取るのはもつと後だぞ、ここからがすごいんだからな」

「ちょ、ちよつと待て！」

「何でいきなりエッチな話になってるんすか！」

「そ、それは怪談じゃなくて、きつと猥談なんだな」

「あれ？猥談っていつてなかったけ？」

「ちげーよ！か・い・だ・ん！！エッチな話じゃなくて怖い話のほうだ！」

あゝそういうことだったのか。

「そうだよな、猥談なら女子つれてくるもんな」

「それ完璧にセクハラッスよ！」

「厚志が天然ボケだったとは気づかなかったぜ」

「せっかくの雰囲気完全に台無しなんだな」

むう、紛らわしい言い方しゃがって。  
それに

「翔。鼻血でてるぞ」

「えっ！マジッスか！」

やっぱり翔はスケベだなあ。女子寮の覗き騒ぎもこいつならやってもおかしくない気がしてきた。

「気を取り直して、とりあえず幽霊が出てくる話をすればいいんだな？」

「そうなんだな」

「うむ。任せろそっちの話にもとっておきのヤツがある」

「楽しみだぜ」

「よし、じゃあいくぞ」

ゴクリ

みんなの表情が真剣なものに変わっていき、本日2度目の息を呑む音が聞こえる。

「これは、近所の神社に住んでる高校教師が体験した話なんだが」

「微妙に具体的ツスね」

「実話だからな。それでその先生は格闘家でな、若いころ世界を飛び回っていたんだ」

「へえー、そんな人もいるんだなあ」

「その人はちよつと特殊だからな。続けるぞ、とある国で安いオンボロホテルに泊まった時のことだった。なんとなく怪しい雰囲気はしてたそうなんだが、夜になるとそれはいつそう深まった。」

「ふ、雰囲気出てきたんだな」

「一度寝ついてから、寝苦しくなつて目を開けてみると足元から半透明の男がスゥーと出てきたんだ」

「ひいい、こ、怖いッス」

「後から話を聞いてみたら、プロレスラーの幽霊が出没することで

その筋では有名な話だったらしい」

「そ、それでその先生はどうなったんだな」

「ん？何とか勝てたらしい、何しろ幽霊だから関節技が効かなくて大変だったらしいぞ」

「「「ぶほっ！！」」」

「また噴出したのかよ、きたねえなあ」

「何か色々と間違ってるッス！」

「でも関節技が効かないとかリアルだよな……」

「俺の話はこれで終わりだ。次は翔だったな」

「なんか色々台無しッス」

「む、それは心外だな。ほかには増殖する恐怖のいきなり団子とかあるぞ」

「題名からしてすでに微妙ッス」

そんなこんなで怪談話は続いていく。

十代の話が終わった後に、寮長のにやーじゃなかった大徳寺先生が見回りに来て、アカデミアの廃寮にまつわる怪談話を披露した。

なんでも廃寮で闇のゲームを研究していたとかいないとか。

闇のゲームなんか研究してどうするつもりだったんだろう？とか何故に寮で研究してるんだ？学園内で普通に研究すればいいだけの話だろうが。

「いつてみようぜ！」

「何故に？」

「面白そうじゃん！」

十代の悪癖が始まったな。一度興味を持ったら止まらないからな。翔やコアラは消極的賛成らしい。

俺は眠いから正直断りたいんだが、原作主人公の十代のことだから

どこに行ってもトラブルを巻き起こすに決まってる。

……見物くらいなら問題ないかな？

結局俺も付き合うことにした。というか俺がいないと廃寮までの道がわからなかったらしい。こいつらこんなに道に疎くて大丈夫なのか？まだ入学したばかりだから仕方がないのかもしれないけどな。

この時はまだ気づかなかった。本格的に巻き込まれたのはここからだっただけ……。

## 夜のOHANASHI（デュエル無し）（後書き）

今回はつなぎな話、タイタンが出てくるのは次回に持ち越し。  
厚志の猥談ネタ&格闘家ネタは　口口と召喚　師に同じ話がありました。  
す。というかこのネタがやりたかったためにGX小説に手を出した  
といっても過言ではありません。



## 廃寮探険（前書き）

連日投稿実現できました。

仕事をさぼっ（ゲフンゲフン

時間が余ったので何とか作成できました。

## 廃寮探険

俺の案内で廃寮にたどり着いた。

「ここが大徳寺先生の話に出てきた廃寮だと思う。この島の中でレツド寮以上におんぼろなのはここしかないからな」

「ひえ、怖そ〜。アニキやっぱりやめましようよ」

「何言ってるんだ。ここまで来てやめられるわけないだろ」

まあ十代ならそういうよな。好奇心の塊というか、なんにでも首突っ込むというか。

「あなたたち、こんなところで何やってるの」

「で、でた〜〜〜〜!!」

つと明日香かちよつとびつくりしたな。そして翔にコアラ十代にかまるのはかまわないけどちよつと苦しそうだぞ。

それにそのリアクションはかなり失礼だと思うのだが。

明日香と十代が「帰れ」「帰れるか」といった感じでもめている。

それにしても今日の明日香はやけに絡んでくるなあ。

あ、立ち去っていった。そういえば明日香が何しに来たのか結局わからないままだったな。

十代はやっぱり探検する気満々なんだな。

中に入ってみると造り自体はしっかりしているが、荒らされた形跡がある。放置しているだけで扉が壊れて外れるとか常識的に考えて

ありえん。中に入って荒らす生徒が出てきたから立ち入り禁止になつたんだろうな。

「けっこつ、いいところじゃないか。掃除してこっちにすんでみようぜ」

「やめましようよアニキ」

「掃除云々の前に改装工事が必要だな。そんな金持ってねえぞ」

「なんか論点がずれてる気がするんだな」

「それにしても、ここで闇のゲームを研究していたって話は本当なのかな？」

壁には前世で見たことがある千年アイテムの絵が描かれていた。この絵を見るかぎり闇のゲームに関わる何かは研究していたんだろうが……。

「そもそもそんなもん研究して何する気なんだろうな？」

「そ、そんなの迷信だってば!!」

翔が必死に否定するが、おそらく実在はしているだろう。転生なんてわけわかんないものを体験した身としては何があっても不思議じゃないというのが持論だ。

ん？この写真の人物どこかでみたような……。

えつとFUBUKI 10JOIN？

あ！天上院 吹雪だ!!

明日香の兄でバルバロスとか獣戦士族デッキを使っていた覚えがある！

とりあえずこの写真を持っていつて、後で明日香に聞いてみよう。

「きやーーー」

！

今の悲鳴は明日香か！噂をすれば影って言うけれどこんな形で発揮されなくてもいいだろうがよ。

「アニキ今の声って」

「行こう！」

声がしたのは入り口のホールの方だった。全速力で走っていったが人影らしきものは見えなかった。

「これは……明日香のエトワールサイバーだ」

「こつちには何かを引きずっていった跡があるんだな」

やはりさっきの悲鳴は明日香か。それにわざわざ引きずって連れて行ったということは、明日香にはまだ利用価値があるってことか。

コアラの示した方向に向かっていくと少し広くなっているホールに出た。

そこには明日香が悪趣味な棺桶に横たわっていた。

しかしここの造り、まるで何かの遺跡のようだ。遺跡の上に寮を立てたのか？それともただの偶然か？

「明日香！」

「明日香さん！」

十代や翔が呼びかけるが反応がない。

「フフフ、この者の魂は深き闇に沈んでいる」

「だれだ！」

「ようこそ遊城十代。私は闇のデュエリストタイタン」

その台詞とともに現れたのは黒いコートをした仮面をつけた男だった。

しかしこの声……。

「若本か！……！」

「何の話だ？」

「どう聞いてもその声は若本だろう……！」

「私の名前はタイタンだといっているだろう」

「知っているのか」

「声だけな」

「さっぱり話が見えない上に緊張感がなくなっただんな」

紆余曲折あつて十代がタイタンと闇のゲームをすることになったらしい。

しかしコアラ何故デュエルディスクを持ち歩いているんだ？もしかして四六時中持ち歩かないとだめなのか？

しかしこいつらのデュエル脳どうにかならないのか？

どう見ても不審者なんだからまずは警察……は孤島だから無理だとしても、警備員とか先生とか呼ばないか？

「「<sup>デュエル</sup>決闘……！」」

「先手を取らせてもらう。ドロー、私はインフェルノクインデモンを攻撃表示で召喚。このカードはフィールド上に存在するデーモンと書かれたカードの攻撃力を1000ポイントアップさせることができる」

「てことは……」

「攻撃力1900……」

## インフェルノクインデーモン

### 効果モンスター

星4 / 炎属性 / 悪魔族 / 攻 900 / 守 1500

このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に500ライフポイントを払う。

このカードが相手のコントロールするカードの効果の対象になり、その処理を行う時にサイコロを1回振る。

2・5が出た場合、その効果を無効にし破壊する。

このカードがフィールド上に存在する限り、スタンバイフェイズ毎に「デーモン」という名のついたモンスターカード1体の攻撃力をエンドフェイズまで1000ポイントアップする。

デーモンデッキが維持ライフがあるかわりに確立で効果無効とかできるシリーズだったかな。墮落とキングとルークはそれなりに優秀だけどライフコストのリスクを払ってまで使いたいカード群じゃねえな。それにインフェルノクインデーモンの効果はスタンバイフェイズじゃなかったか？

気づかないうちにフィールド魔法が展開されていた。デーモンデッキのフィールド魔法だから万魔殿かな？

## 万魔殿 - 悪魔の巣窟

### フィールド魔法

「デーモン」という名のついたモンスターはスタンバイフェイズにライフを払わなくてよい。

戦闘以外で「デーモン」という名のついたモンスターカードが破壊されて墓地へ送られた時、

そのカードのレベル未満の「デーモン」という名のついたモンスターカードを

デッキから1枚選択して手札に加える事ができる。

十代のターンのようだ。どれどれ手札は……ってほとんど事故つてねえかこれ？

モンスター一枚で残りがほとんど罠とか。

「フェザーマンを攻撃表示！カードを2枚伏せてターンエンドだ！」

あれ？さっきタイタンインフェルノクインデーモンの宣言してないよな……。あれ毎ターン宣言必要だから、今は900のはずなんだけどな。

「私はジェノサイドキングデーモンを召喚する。インフェルノクインデーモンの効果で1000アップだあ」

突っ込みてえ……超突っ込みてえ。

「ジェノサイドキングデーモンの攻撃。炸裂う五臓六腑う」

「トラップカード発動！異次元トンネルミラーゲート！！」

「甘いわぁ！異次元トンネルミラーゲートの効果にチェーンし、ジェノサイドキングデーモンの効果を発動する」

ゲートボールの玉みたいのが6つ出てきてタイタンの横に浮かんだ。もしかしてあれがサイコロのかわりなのか。

「ジェノサイドキングデーモンの効果。それは相手の効果の対象になった時サイコロひとつを振り2か5が出た場合その効果を無効にして破壊する」

「さあ地獄のルーレットよ、やつの運命を乗せ廻りはじめよ」

ジェノサイドキングデーモン

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2000 / 守1500

自分フィールド上に「デーモン」という名のついた

モンスターカードが存在しなければこのカードは召喚・反転召喚できない。

このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に800ライフポイントを払う。

このカードが相手のコントロールするカードの効果の対象になり、その処理を行う時にサイコロを1回振る。

2・5が出た場合、その効果を無効にし破壊する。

このカードが戦闘で破壊した効果モンスターの効果は無効化される。

ルーレットが2のところでは停止した。異次元トンネルミラーゲートは不発だな。

ミラーゲートが消えて、ジェノサイドキングデーモンの攻撃が再開される。それにフェザーマンがなすすべもなくやられていった。

「くっならもう一枚のトラップだ。ヒーローシグナル！この効果で俺はクレイマンを守備表示で特殊召喚する」

あれ？さっき十代の手札にミラーフォースあったよな？

対象を取らないミラーフォースなら関係なく除去できるはずなんだが…。

「ライフポイントが減ったな？消えて行くがいいお前のライフポイントにしたがいお前の体が消えていくがいい」



タイタンは台詞とともに千年パズルを掲げるとパズルが光を放ち始めた。そして光が収まった後には十代の体の一部が消えていた。何であいつがパズルを持っているんだ？あれは王様と一緒に埋葬されたはずなんだが。

盗掘？にしては墓守の一族の目をかいくぐって盗掘ができるとは思えない。

そして闇のゲームと言ってはいるが闇のゲームにしてはそれ特有のプレッシャーを感じない。

そして十代は強欲なつぼを引きサンダージャイアントを呼び出した。効果でジェノサイドキングデーモンを狙うが。またもや不発破壊されてしまう。

とりあえずインフェルノクインデーモン倒せばいいんじゃない？そうすれば殴り合いだけで勝てるし。

悪夢の蜃気楼を使い手札補充のめどを立て伏せカードをはってターンエンド。タイタンの攻撃は対象を選ばない罨カード聖なるバリア・ミラーフォースにより、タイタンのモンスターを全滅させるが、タイタンはすかさず手札のデスルークデーモンを捨てることによりジェノサイドキングデーモンを復活、再び攻撃、かろうじて速攻魔法非常食により、手札補給が済んで用済みとなった永続魔法悪夢の蜃気楼を破壊してライフを1000回復、何とかこれを凌いだ。

何故最初にミラフォを使わなかったんだろう……。しかしこれで十代のライフは残り1000だしぶ消えてきたな。

「ああ、アニキの右腕が」

「……え？右脚……だろ？」

ふむ人によつて消えて見える部位が違うのか。ということはあのパズルもだんだん胡散臭くなってきたな。

「いつけえフレイムウィングマン!!」

返しのターンで融合できるなんてどんな引きしてるんだよ……。

ついでにダークカタパルターもでている。いつの間に出したんだ？  
フレイムウィングマンの攻撃+効果でタイタンのライフを1900  
まで削ることができた。ライフ4000だとあの効果って結構極悪  
だよな。

そしてタイタンの体も消えていく。翔とコアラの話を聞くとやはり  
消えて見える部位が違うらしい。

「わたしはデスルークデーモンを捨て、ジェノサイドキングデーモ  
ンを再び復活だあ。そしていでよ迅雷の魔王スカルデーモンを召喚  
だあ!!」

迅雷の魔王 スカル・デーモン

効果モンスター

星6 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2500 / 守1200

このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に  
500ライフポイントを払う。

このカードが相手のコントロールするカードの効果の対象になり、  
その処理を行う時にサイコロを1回振る。

1・3・6が出た場合、その効果が無効にし破壊する。

あれは確か、デーモンの召喚のリメイクカードだったような気がするな。一体の生贄で多少なりとも耐性があって2500の攻撃力は中々だな、帝系はつらいものがあるな。

あ、フレイムウィングマンがやられた。これで十代のライフは残り600か。さすがにきついのかうずくまっている。

次のターンに万魔殿は壊せるからスカルデーモンをどう処理するかが鍵だな。

「フッフ、間もなく遊城十代は闇に堕ちる」

なんか言ってるけど。あの頭のねじがぶっ飛んでる十代がこの程度でへこたれるわけがない。

案の定、十代はふらつきながらも立ち上がってきた。

「へへ、まだ終わっちゃいないぜ……隼人、奴の左手は消えてるよな？」

「み、右手が消えて見えるんだな」

「ええ！？」

「……成程、そういうことか。」

十代が気づいたみたいだな。なかなかどうしてデュエル馬鹿だと思っただけ他のことにもちゃんと頭も回るんだな。

それともデュエル中だから頭が回るのか？

「ダーク・カタパルターの特殊能力を発動する！このカードが守備表示でいたターンの数だけ、墓地からカードを除外することで同じ数のフィールドの魔法、罫を破壊することができる。おれはフェザーマンを墓地から除外し、フィールド魔法万魔殿を破壊！フォーリ

ンシュート！」

ダーク・カタパルターから発射された光弾が万魔殿を破壊し、周りが元の廃寮に戻る。

ダーク・カタパルター

効果モンスター

星4 / 地属性 / 機械族 / 攻1000 / 守1500

自分のスタンバイフェイズ時にこのカードが守備表示だった場合、このカードにカウンターを1つ置く。

カウンターと同じ数のカードを自分の墓地から除外する事で、その枚数と同じ枚数のフィールド上の魔法・罫カードを破壊する。その後このカードのカウンターを全て取り除く。

「クソ！これを見る！」

「オマエには除外したカードを確かめて貰うぜ！」

そう言つて十代が投げたフェザーマンのカードは見事千年パズルの目の部分に突き刺さつた。……ってあれ？この世界でもカードって紙製なんだけど？

そういえば社長もカードを投げて手の甲とかに刺していたよな…。

H× のヒソカみたいに周でも使つてるのか！？

「しまった！」

「思った通りだ！コイツの闇のゲームはインチキだ！多分コイツはマジシャンかなにかでオレ達はコイツの催眠術に引っ掛かっていたのさ。」

「あのパズルから出た光が僕たちの目から脳を刺激して幻覚を見せていた」

「ああ、だから身体が消えたのは本当じゃない。」

「おまけにその腕は三流、消えて見えるのが1人1人バラバラだったってわけね。」

消えて見えるだけで一流だと思うのは俺だけか？

「何をほざく、私は本当に闇のゲームを……」

そんなことどうでもよくないか？ 闇のゲームだろうがなんだろうが、十代が勝てば同じことだしな。

「じゃあ答えてみるよ、千年アイテムが全部でいくつあるかをよ！」

「そ、それは……な、七つ」

「当たり前だ……」

いま、ちよつと自信なさそうだったよな……。突っ込まないのがやさしさなのかな。

「このわたしこそ7つある千年パズルの所有者だあ」

「へ、化けの皮がはがれたなタイタン。千年アイテムは確かに7つ」

「そうか千年パズルが7つあるわけじゃない！」

あゝあせっかく突っ込まなかったのに墓穴を掘るとは…。

「ぬぬう、私の催眠術が効かない以上長居は無用！」

タイタンが掲げた千年パズル？から煙幕が吹き出る。

「逃げるきか！ 待て」

「逃がしてやりやいいじゃないか。目的は明日香の救出だろう？」

……反応がない。もしかしてすでに追いかけていったのか？

「ええい、人の話を聞かんやつだな」

「行っちゃった……」

「仕方ない。廃寮の話もあるし放って置く訳にもいかないだろう。

俺が十代を追いかけるから2人は明日香を外まで運び出しておいでくれ」

「わかったんだな」

「じゃ、ちよつくらいってくる」

確かあつちの方にタイタンは逃げたはずだ。無事でいてくれればいいが……。

走っていると向こうのほうから十代が歩いてきた。

よかった無事のようにだ。

「無事だったか十代」

「心配して追いかけてくれたのか？ありがとな」

「タイタンはどうなった？」

「あゝ話すと長くなるんだが」

要点をまとめるとタイタンに追いついたとき、あいつの様子が変わリデュエルが続行された。そしてそのデュエルに何とか勝利したら、タイタンは闇に飲み込まれていったらしい。

十代はあまり気にしていないみたいだが千年アイテムもないのに闇のゲームらしきものが始まるとはな……。

廃寮の外に出ると。空がすでに明るくなっていた。明日香も目が覚めたように起き上がっている。

十代がエトワールサイバーを明日香に渡し一件落着。っと何か忘れ

ているような…。

「ああ、そうだ。この写真ってお前の兄さんだろ？」

「！これをどこで？」

「あの廃寮の中にあっただ」

「よくわかったスね！JOINなんて書き方してるのに」  
「とんちみたいなもんだっただしな」

「みんなが起き出す前に帰ろうぜ！」

「そうだな」

「それじゃ」

「フフ、お節介な人たちね」

こうして波乱の廃寮探険は幕を閉じた。  
あゝあ、結局貫徹になっちまったなあ。

## 廃寮探険（後書き）

今回もデュエルは無しです。

十代の見せ場をあんまり奪うわけにもいきませんので。

人のデュエルに突っ込みを入れているだけでこんなに濃くなるとは思いませんでした。

筆者がアニメをチェックできたのはここまでなので、以降のデュエルに細かい突っ込みは入れられないかもしれません。

誤字脱字、デュエルミスなどありましたらよろしくお願いいたします。



## タッグデュエル特訓前編（デュエル無し）（前書き）

すみません。

ぶっちゃけ月一試験完全に忘れてました。

そのうち割り込み投稿ではさめたいと思います。

そして今回もデュエルがありません。

## タッグデュエル特訓前編（デュエル無し）

朝のひととき、それは情眠をむさぼる人間にとっては何にも変えがたい至福の時間。

事件はそんなときに発生した。

「開ける、われわれは倫理委員会のものだ。即刻開けなければこの扉を爆破するぞ！」

「zzzz」

この時倫理委員会の人が扉を叩き、俺を起こそうとしていたらしいがほとんど覚えていない。

前にも言ったと思うが俺は非常に朝が弱い。この時も変わった目覚ましが隣で鳴っているとしたか考えていなかった。

「仕方がない。爆破しよう」

「本当にやるのですか？」

「これだけ叩いておきない奴が悪い。いいから爆薬をもってこい」

そして悲劇は起こった。

ボン！

という音とともに俺の部屋の扉の鍵の部分が爆破されたのだ。

しかしこの程度で起きるようなら、俺は十代たちに毎朝起こしてくれなど言っていない。俺は変わらず眠り続けていた。

「よし、扉は開いたな、容疑者を確保し校長室まで速やかに連行し

る」

「ハッ」

「それが俺が簀巻きになって校長室に来るまでの過程ですか」

「まあそういうことです」

「あれで起きないってある意味すげえよな」

「かなりうるさかったはずッス」

「では連れてこられた理由の方は？」

「お前達が立ち入り禁止の廃寮に立ち入ったからだ。タレコミの目撃証言から調査してみたところ確かに誰かが立ち入った形跡があった。さらに比較的はつきり残っている足紋からお前たち3人を容疑者として連れてきたというわけだ」

「一日でそこまで調べたのかよ。倫理委員会すげえな。てかそんなこと調査するくらいだったらタイタンみたいな不審人物がこの島に入ってこないようにするとかほかにやることあるだろうよ。」

「まあとぼけても無駄そうですからあらかた話しますよ。かくかくしかじかというわけで」

俺はこの説明の時、少々事実を捏造して話した。廃寮を外から見てもみるだけの肝試しが明日香の悲鳴が聞こえたから内部に入ったという感じだ。

明日香は口裏を合わせてくれるだろうし。翔と十代はあらかじめ送っておいいたアイコンタクトが功を奏し俺の話が終わるまで黙ってた。くれた。

「廃寮に不審人物ですか……」

「もしそれが本当ならわれわれ学園側の問題でもありますね」

「むむむ、そうですね。倫理委員会の方々はその不審人物の調査をお願いします」

「わかりました。いくぞ、ここ数日間の渡航記録を洗い出さず」

そういつて倫理委員会の人たちは出て行った。

まるで警察だな。とても学校組織の一部所だとは信じられん。

「そして、君達の処分についてですが……。君達の証言の裏が取れた場合制裁デュエルをおこなってもらいます」

「無罪放免じゃないんすかー!?」

「緊急性があつたとはいえ校則を破ったことには違いありませんからね。即座に学園側に連絡を入れていればまた違いましたがね。ともかくその制裁デュエルに勝利すれば間違いなく無罪放免ですよ」

「デュエルで勝てばいいんだな！よっしゃあ楽しみだぜ！」

「制裁デュエルの対戦相手は誰ですか？」

「それは……」

「校長先生！」

鮫島校長の話遮るように倫理委員会の人に戻ってきた。もう調査が終わったのか、何でもありだなここの倫理委員会。

それに制裁デュエルとはさすが遊戯王デュエル脳が半端じゃねえな。なんとなくタイタンからの一連のイベントっぽいから十代たちは退学にはならないだろう。原作云々考えるのもめんどくさいし成り行き任せでいいや、

「裏が取れました。確かに怪しい人物が一人この島に入ってきてるようです」

「なるほど……。確かに我々にも落ち度があるようですね。制裁デュ

エルの対戦相手はあとで連絡します。君達はとりあえず授業に戻るように」

こうして俺達は制裁デュエルを受けることになった。ちなみに明日香は不可抗力でお咎め無し。コアラはどうやら足紋が出なかったらしく、運よく倫理委員会の追跡から逃れることができた。しかし最大の不幸はこれからだった。

「ぎゃーす!!!」

自分の部屋に戻った俺を待っていたのは土足で踏みにじられたカード達だった。おそらく倫理委員会の人たちが踏んづけていったのだろう。足跡がくつきり残っているくらいはまだいいほうで、踏まれてよれよれになったカードも存在する。

こ、これは講義するしかあるまい！

「と、言うわけで校長先生。この落とし前はどうするんですか？」

「……確かに部屋の状態を確認せずにカードを台無しにしたのは倫理委員会のミスですね。仕方ありません、だめになったカードは新しい物と交換しましょう」

「これが一覧です。特に状態がひどいものが全部で38枚です」

「どれど……れ！？な、なんですかこれは、貴重なカードもかなり混じってるじゃないですか。世界に数えるしかないというホーリーナイトドラゴンとか、カオスソルジャーとか、ああぜラまである……」

ぶっちゃけほとんど使わないようなカードが多かったがそれでも踏

まれてだめになるというのは屈辱だ。そしてよりにもよってレアリティだけは異様に高いカードがことごとくだめになってた。

「現物もありますので確かめてください」

「まさかこんな形でレアカードを拝むことになるうとは……とほほ」

さすがの学園側もかわりのカードはそうそう用意できないらしく1ヶ月ほど時間がほしいといわれた。

使わないカードだからかまわないけどな。

そしてついでに制裁デュエルについてのルールも聞いてきた。

なんでも十代&翔がタッグデュエルで、俺はシングルでやるらしい。対戦相手は学園外の人間に依頼するそうだ。相手の名前はさすがに教えてくれなかった当日までのお楽しみらしい。

翔と十代でタッグなのか。翔は確かロイドデッキ、十代はE・HEROか共通点は両方とも融合モンスターが切り札ってことくらいか？プリズマーやフォレストマンなんかがあると便利そうだな。

それ以上に翔のあのプレイングはどうにかならないのか？一プレイごとに一喜一憂するし、自分のモンスターの効果忘れるし。殴りにいってトラップ使われて落ち込んだと思ったら、今度はトラップを警戒しすぎて大嵐かハリケーンで伏せを潰してからじゃないと攻撃しようとしなくなるし。

特訓つけないとだめかな？

なんか寮の方が騒がしいがまあ俺には関係ないだろう。

そして次の日…。  
なんか昨日翔が逃げ出したとか、カイザーとデュエルしたとか色々イベントがあつたみたいだが。  
華麗にスルー！。

タッグデュエルは細かいルールがシングルと違うため、何回か練習しておく必要があるだろう。

制裁デュエルのルールはタッグのスタンダードと呼ばれるもの。タッグデュエルというよりライフ共通のシングルが2組戦うといった方がしっくりくるかもしれない。

このルールはお互いのフオローも重要になってくるためすばやい状況判断が必要になってくる。

今回は明日香に協力を頼んで俺&明日香VS十代&翔で練習してみることにした。

そしてギャラリーはコアラとライエローの生徒が一人。

レッドとほとんど接点ないはずなんだけどいつの間に仲良くなったのだろう？

「厚志も明日香も練習に付き合ってくれてありがとうな」

「かまわないわ。兄の手がかりも見つけてもらったことだしね」

「タッグデュエルもいい経験になるだろうし気にするなよ」

「やるッスよ」

なんか知らないが翔がやたらとやる気を出している気がする。まあいい傾向だしいいか。

それじゃあそろそろ始めるぞ

「『『『決闘』』』」

## タッグデュエル特訓後編！！ 厚志&明日香VS十代&翔（前書き）

遅れて申し訳ないです。

自宅PCがクラッシュしてネカフエで執筆しています。

しばらく直りそうにないので更新速度はかなり落ち込むと思われるます。

そしてもうひとつ謝罪しなければなりません。

2〜3話後の厚志の制裁デュエルの対戦相手なのですがどうしてもオリキャラをだしたいです。

1回こっきりの一発キャラですが。思いついたデッキを使わせるのにちょうどいいキャラがいませんでした。

それに伴いあらすじを一部変更させていただきます。

オリキャラなしという記述を見て見に来てくださっている方々には申し訳ありません。



## タッグデュエル特訓後編！！ 厚志&明日香VS十代&翔

「……決闘！！」

ターンの流れは翔 明日香 十代 俺だ。

十代たちの相手は間違いなくタッグデュエルに特化したデッキを作ってくるだろう。だから俺もある程度まで明日香のデッキとシナジーをあわせるように作っている。明日香のデッキはサイバーブレイダーの多彩な効果を生かしたデッキ。扱うのは難しいがうまくはまれば非常に強力だ。

「僕のターンだ。ドロー、ジャイロイドを守備表示でセット。カードを一枚伏せてターン終了だ」

翔はジャイロイドか……。1ターン一度の戦闘破壊を防ぐことができる防御的なカードだ。堅実な手を打ってきたな。

「私のターンね。ドロー、ブレードスケーターを攻撃表示で召喚！カードを1枚伏せてターン終了よ」

「次は俺のターンだな。ドロー、E・HEROクレイマンを守備表示で召喚。カードを2枚伏せてターンエンドだ」

今回のタッグデュエルでは1ターン目は誰も攻撃できない。みんな堅実にモンスターをそろえていってるな。

「俺のターン。ドロー……」

「どうしたの？ 固まっちゃって……」

いかん、盛大に事故ってる。まさか手札に出せるモンスターがいな

いとは……。これは明日香に迷惑をかけるかもしれないな。

「すまん明日香……俺はカードを3枚伏せてターンエンドだ」

「まさか手札事故!?!」

「へへっそれなら遠慮なく攻めさせてもらっよ! 僕のターン、ドロ、スチームロイドを攻撃表示で召喚! まずは厚志君にスチームロイドで直接攻撃だ!」

「リバーズカードオープン。次元幽閉。スチームロイドを除外させてもらおう」

「ええっそんなあ……」

《次元幽閉 / Dimensional Prison》  
通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

その攻撃モンスター1体をゲームから除外する。

シンプルながらも強力な効果を持つカードだ。本当はもっとぎりぎりの戦いになったときに使いたかったが仕方がない。

「僕はこれでターンエンドだよ……」

少し翔が落ち込んでいるようにも見える。むしろスチームロイドに対して次元幽閉を使わされたこっちのほうがしんどいのだが。

「どうやらあまり心配は要らないようね。私のターンドロ、荒野の女戦士を攻撃表示で召喚。ブレードスケーターと荒野の女戦士で翔君のジャイロイドを攻撃!」

ブレードスケーターの攻撃に耐えたジャイロイドだが続く荒野の女戦士の攻撃であっさり破壊されてしまう。

事故っている自分が情けない。

「これで私はターンエンドよ」

「オレのターンエンドロー、手札から魔法カード融合を発動。手札のバーストレディと場のクレイマンを融合！来いE・HEROランパートガンナー攻撃表示で召喚！！厚志に直接攻撃だ。ランパートショット！！」

エレメンタルヒーロー

《E・HERO ランパートガンナー/Elemental Hero Rampart Blaster》†

融合・効果モンスター

星6/地属性/戦士族/攻2000/守2500

「E・HERO クレイマン」+「E・HERO バーストレディ」

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが表側守備表示の場合、

守備表示の状態で相手プレイヤーを直接攻撃する事ができる。

その場合、このカードの攻撃力はダメージ計算時のみ半分になる。

「チィ」

厚志&明日香

LP8000      LP6000

次元幽閉の使いどころを間違ったな。さすがに二人からの集中攻撃はつらい。

「さらにカードを一枚伏せてターンエンドだ」

十代の手札が切れたか。伏せ3枚はさすがに脅威だな。まずはそれを何とかさせてもらう。

「俺のターン、ドロー。伏せていた魔法カード大嵐を発動。とりあえず厄介そうな伏せカードをすべて壊させてもらう」  
「しまったっ！」

犠牲になるカードは明日香1枚、翔1枚、十代3枚、俺1枚だ。俺のは今は使えないサポートカードだから問題ない。

「くっ、トラップカード発動ワンダーガレージ！このカードが破壊されたときレベル4以下のロイドと名のつく機械族のモンスターを特殊召喚する！僕はこの効果でドリルロイドを攻撃表示で召喚」

ずいぶん限定的な効果のカードを使っているな。まさか破壊反応型のトラップとは思わなかった。

しかしドリルロイド程度ならどうにでもなる。

《ワンダーガレージ/Wonder Garage》  
†

通常罠

セットされたこのカードが破壊され墓地へ送られた時、手札からレベル4以下の「ロイド」と名のついた機械族モンスター1体を特殊召喚する事ができる。

「永続魔法六武の門と六武衆の結束を発動。そして六武衆・ヤイチを攻撃表示で召喚。門と結束にそれぞれ武士道カウンターが乗る。さらに六部衆の師範を特殊召喚するこのカードは自分の場に六部衆をかかれたモンスターがいる場合特殊召喚できる。これでもう一度門と結束に武士道カウンターが乗る」

《六武の門 / Gateway of the Six》  
†  
永続魔法（制限カード）

「六武衆」と名のついたモンスターが召喚・特殊召喚される度に、このカードに武士道力ウンターを2つ置く。

自分フィールド上の武士道力ウンターを任意の個数取り除く事で、以下の効果を適用する。

2つ：フィールド上に表側表示で存在する「六武衆」または「紫炎」と名のついた

効果モンスター1体の攻撃力は、このターンのエンドフェイズ時まで500ポイントアップする。

4つ：自分のデッキ・墓地から「六武衆」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

6つ：自分の墓地に存在する「紫炎」と名のついた効果モンスター1体を特殊召喚する。

《六武衆の結束／Six Samurai United》†

永続魔法

「六武衆」と名のついたモンスターが召喚・特殊召喚される度に、このカードに武士道力ウンターを1個乗せる（最大2個まで）。

このカードを墓地に送る事で、このカードに乗っている武士道力ウンターの数だけ

自分のデッキからカードをドローする。

《六武衆・ヤイチ／The Six Samurai - Yai  
chi》†

効果モンスター

星3 / 水属性 / 戦士族 / 攻1300 / 守 800

自分フィールド上に「六武衆・ヤイチ」以外の

「六武衆」と名のついたモンスターが存在する限り、

1ターンに1度だけセットされた魔法または罫カード1枚を破壊する事ができる。

この効果を使用したターンこのモンスターは攻撃宣言をする事がで

きない。

このカードが破壊される場合、代わりにこのカード以外の「六武衆」という名のついたモンスターを破壊する事ができる。

《六武衆の師範 / Grandmaster of the Six Samurai》  
†

効果モンスター

星5 / 地属性 / 戦士族 / 攻2100 / 守 800

自分フィールド上に「六武衆」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが相手のカードの効果によって破壊された時、自分の墓地に存在する「六武衆」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

「六武衆の師範」は自分フィールド上に1枚しか表側表示で存在できない。

「いきなり上級モンスターが出るなんて……」

「すげえ、一気に展開した」

「師範は初手にあっただが下級モンスターがいなくてね。これだよと俺も戦えそつだ。まだまだいくぞ、まずはカウンターが2つ乗った六武衆の結束を墓地に送って2枚ドロウする」

「よし、今引いた永続魔法連合軍を発動する。これでフィールドにいる戦士族、魔法使い族の数×200ポイント場の戦士族のモンスターの攻撃力をアップさせる」

《連合軍 / The A・Forces》  
†  
永続魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する戦士族・魔法使い族モンス

ター1体につき、  
自分フィールド上の全ての戦士族モンスターの攻撃力は200ポイントアップする。

ブレードスケーター

1500 2300

荒野の女戦士

1100 1900

六武衆・ヤイチ

1300 2100

六武衆の師範

2100 2900

「まずはそのランパートガンナーをつぶさせてもらおう。六武衆の師範で攻撃」

師範がランパートガンナーを一刀のもとに切り伏せる。さすが頼りになる六武衆の要になるカードだ。

「くっ、ランパートガンナーが」

十代&翔

LP8000 7100

「そしてドリルロイドも切り捨てる六武衆・ヤイチでドリルロイドを攻撃だ」

今度はヤイチがドリルロイドを一矢にしとめる。本来は伏せ除去として使われ、攻撃する機会の少ないヤイチだが今回は大嵐をすでに発動しているためヤイチも存分に戦える。

「ああ、僕のロイドが」

十代＆翔

LP7300 6800

これでもまだ1000しかライフが削れていない。やはりはじめに事故っていたのがつらかったな。

「これで俺はターンエンドだ」

「ぼ、僕のターン。ドロー、モンスターを一枚セット、カードを2枚伏せてターンエンドだ。これるもんなら来い！」

翔の目が生き返ったな。ミラフォでも引いたのかな？

「じゃあ、私のターンね。ドロー、厚志もなかなかやるじゃないの、あの状況からここまでひっくり返すなんて」

「下級モンスターがいなかっただけで、残りのキーカードはそろっていたからな。たまたまだよ」

「ふふ、そういうことにしておくわ。まずは魔法カードサイクロンを発動して翔君の伏せカードを破壊するわ」

「ああ！！僕のミラーフォースがあ」

ほんとにミラフォかい！！あんの丸めがねはもう少しポーカークフェイスを学んだほうがいいかもしれんな。

「これはラッキーだったわね。とりあえずライフを削るのを優先さ



せてもらっわ。エトワールサイバーを攻撃表示で召喚。連合軍の効果で攻撃力1000アップよ」

《エトワール・サイバー/Etoile Cyber》†

効果モンスター

星4/地属性/戦士族/攻1200/守1600

このカードは相手プレイヤーを直接攻撃する場合、

ダメージステップの間攻撃力が500ポイントアップする。

ブレードスケーター

1500 2500

荒野の女戦士

1100 2100

六武衆・ヤイチ

1300 2300

六武衆の師範

2100 3100

エトワール・サイバー

1200 2200

「三体のモンスターで十代に直接攻撃よ！」

えーと合計すると2500の2200の2100でエトワール・サイバーの効果で+500だから……あ、終わった。

「うわあああ!!」

十代&翔

LP6800 - 500

あまりにもあっさりしすぎて勝った感じがしないなあ。

さすがの十代のディスティニードローも自分のターンが回ってこないとうしようもないな。

六武の門の効果も結局使わなかったし。

「ま、負けちゃった……」

「いや、負けたけど楽しかったぜ！それにしても厚志のカードはすごかったなあ。ポンポン出てくるんだもんなあ」

「とりあえずそれはおいといて反省会をしよう。十代は伏せ3枚壊されたのが痛かったな。あれは何を伏せていたんだ？」

「あれか？ ヒーローシグナルと異次元トンネルミラーゲートとサイクロンだ」

「……攻撃反応と破壊反応と魔法破壊か、みごとにあのタイミングではどうしようもないな」

「さすがに私も厚志のターンだけで十代の場が空っぽになるとは思わなかったわね。おかげで私は楽だったけどね」

「翔の最後の伏せはなんだったんだ？」

「あれは砂塵の大竜巻ツス……」

「……へ？」「」

「な、何で使わなかったんだおまいは！」

「使ったどこにツスカ？」

あゝもももこいつはぜっんぜんわかってない！！どこから突っ込めばいいのかわからない！！

《砂塵の大竜巻／Dust Tornado》

十

通常罾

相手フィールド上に存在する魔法・罾カード1枚を選択して破壊する。

その後、自分の手札から魔法または罾カード1枚をセットすることができる。

「あのねえ翔君。厚志の連合軍を破壊すればこっちの攻撃力は大幅に下がってそっちのライフポイントはかなり残ったのよ」

「具体的には2500ほど残るな。勝敗は次の十代の引きにもよるけどな。ちなみになんだったんだ？」

「えーと、おっバブルマンだな。効果で2枚引いて融合回収と天使の施しだ。さらに3枚引いてつと、バブルシャッフルとエッジマンとネクロガードナーだな」

「……………やばかったな、明日香」

「……………ええ、悪夢のような引きね」

「とりあえずはだ。今回のデュエルでわかったことは自分の場だけそろえても相方がから空きじゃどうもならないってことだな」

「そうね、最初に厚志がモンスターを出さなかったときは目の前が真っ暗になったわよ」

「それに相手のターンまで確実につなげるような闘い方をすることもある。重要だな。実際翔はそれを怠って十代のターンまで回せなくて負けたからな」

「面目ないッス」

「それにどんな弱いモンスターでも残しておく危険だな。相手のモンスターでも生贄にすることができるから直接攻撃にこだわっていると横から上級や最上級が出てきてピンチって可能性もあるしな」

「そっか、そういうばさういうルールだったっけ？」

「それに！ その丸めがねはもう少しポーカフェイスを覚えろ！ ぶつちやけ攻撃反応のトラップしかけているのミエミエだったぞ！」

「ええっ！！ うまくカモフラージュしたと思っていたのに……」  
「あれでなの……」

呆れてモノもいえんな……。明日香がうまく壊してくれたからよかったものの下手したらこっちの場が壊滅していた可能性だってあるんだよな。最後のサイクロンだって確立50%だったわけだし。

今回は連合軍が大活躍だったけどここまでうまく行くことは正直稀なんだよな。明日香も連合軍を生かせるようにわざと融合を待っていていた節もあったし。

十代と翔のデッキの共通点がないからなあえて言えば融合程度か、ロイドはトリッキーな効果が多いからサポートに徹すれば結構いけると思うんだけどなあ。HEROは相手を破壊したり殴り倒す効果が多いしな。

こんな調子でタッグデュエルなんて大丈夫なのかな……。

## 制裁デュエル前編！ VS 迷宮兄弟（前書き）

お待たせしました。PCクラッシュにもめげずネットカフェで執筆しております。

さらにTUTAYAでDVD借りてきました。原作知らずにこれ以上細かい突込みができないと判断しました。

## 制裁デュエル前編！ VS 迷宮兄弟

制裁デュエルが言い渡されてから1週間が経過した。明日がとうとう本番になるわけだが、授業全部中断で生徒全員見に来るってどんな学園だよ……。

そんなんでいいのか日本の高等教育と疑問に思わなくもない。

とりあえず十台と翔のタッグは付け焼刃ながらもそこそこ見れるようにはなってきた。これ以上の仕上がりならデッキの根本からいじくる必要があるから仕方ないだろう。

どちらかというと俺のほうが問題だ。いくつかデッキの候補はあるものの、自分のデッキは偏っていたり穿っていたりする構成が多いからだ。

これは自分のデッキの作り方に問題がある。やりたいコンボ、やりたい勝ち筋などをとことん突き詰めてしまうから汎用性がどうしても薄くなってしまうのだ。だからハマれば爆発力は高いものの事故った時のリカバーや、想定していない事態にとことん弱い。加えてほぼメタ読みが効かないため、流行を探っても意味はない。

ある意味現実よりシビアかも知れんな。どんな地雷デッキがどこにあるかわかったもんじゃない……。

あまり考えすぎても仕方ないしこのデッキにしよう。

自分の持つデッキの中でも割と強いデッキだ。そして自分がタッグフォースをやってからのはじめてまともに組み上げたデッキでもある。ある意味原点だな。

「おい、そろそろ行こうぜー」

「わかった。今行く」

十代が呼びにきたようだ。もうそんな時間になるか。それにしても

「楽しそうだな十代」

「あつたりまえじゃんかよ。くうく、どんなやつが相手なのか楽しみだぜ」

やっぱりこいつのデュエル脳は半端じゃねえな…。

さて、最初は十代達のデュエルだから俺は観客席で待っていることになる。

一人だと寂しいからどこかに知り合いでもいればいいんだが……。

「お、明日香か。隣りあいてるかい？」

「厚志……。あなたももうすぐ出番なのにこんなにのんびりしてていいの？」

「デッキの調整は散々やったしな。あとはリラックスして本番に臨めばいいさ」

「あなたも結構マイペースなのね。まああなたがいると時々解説してくれるからありがたいんだけどね」

「本当は私がパートナーになるはずだった……」

「まだ気にしてたのか？ 倫理委員会の捜査を逃れられたんだから運がよかったで済ませればいいのに」

「さすがに責任は感じるわよ」

「十代が勝てば責任を感じることもないだろうさ」

明日香と話している間に時間が来たようだ。十代が会場に入ってきた。あ、手を振ってやがる。リラックスしてるな。

それで肝心の対戦相手だが……。ハゲが二人バク転しながら入ってきた。

あれは無印に出てきた迷宮兄弟か！！ ゲートガーディアンなんていう3体の最上級モンスターをそろえなければならぬデュエルモンスターズ史上トップクラスの召喚難易度と、それに見合わない攻撃力3750のバニラという微妙性能の微妙モンスターを主軸にする連中か！

「対戦相手は迷宮兄弟か……」

「聞いたことがあるわ。デュエルキングと対戦したという伝説のデュエリスト。そのコンビネーションであの武藤遊戯をくるしめたという」

「そんなやつが相手なんて、十代たちが勝てるはずはない……」

悲壮感漂う明日香とライイエローの生徒。そういえば誰こいつ？どこかで見た顔なんだが…。

「失礼だが、そのライイエロー君。君とはどこかであつた気がしたんだが」

「君は確か十代達の後にデュエルする鈴本厚志君だね。何度か顔をあわせているが名乗るのは初めてかもしれないな。僕はライイエローの三沢大地だ。よろしく」

「鈴本厚志だ。そうか、十代から名前だけは聞いたことがある。よろしく頼むよ」

そうか、どこかで見たと思ったら三沢<sup>エアマン</sup>大地か。TF3の三沢EDは結構好きだったなあ。顔忘れていたが。

「二人ともそう悲観することでもないさ。デュエルキングと対戦しただけで伝説なら近所の子供もみんな伝説になっちまうよ」



「だと、いいんだけど」

十代は嬉しそうにしているな。さすがデュエル馬鹿。

さて、デュエルが始まったようだ。全員初手は攻撃できないから、それほど動きはないはずと思っていたら迷宮兄弟の弟が生け贄人形を発動して風魔神ヒューガを呼び出した。なるほど生け贄人形の攻撃できないデメリットはタッグルールの初手なら関係ないからな。

《生け贄人形 / Tribute Doll》  
†

通常魔法

自分フィールド上モンスター1体を生け贄に捧げて発動する。  
手札から通常召喚可能なレベル7のモンスター1体を特殊召喚する。  
そのモンスターはこのターン攻撃できない。

しかし問題はその後だ。弟はさらに闇の指名者を兄に対して使用した。

え！ あれできんの？ 確かに相手とは書いてあったけどさあ。普通対戦相手だろ！ この場合は。

《闇の指名者 / Dark Designator》  
†  
通常魔法

モンスターカード名を1つ宣言する。

宣言したカードが相手のデッキにある場合、  
そのカード1枚を相手の手札に加える。

「1ターン目からこのコンビネーション。さすがね……」

明日香も特に疑問を感じていないらしい。バトルロイヤルの変形だからかまわないのか？

「なあ三沢、闇の指名者のあの使い方はありなのか？」  
「相手と書かれているからな。パートナー相手ということなのだろう」

そついうもんなのか……。頭堅いのかなあ。

現在の状況を整理すると、翔は攻撃表示のジャイロイドのみ。十代は守備表示のバーストレディのみ。兄の場は空っぽで手札にはサンガがある。弟は攻撃表示のヒューガとカイザーシーホースがいる。場の状況だと十代達の場合は少し寂しいな。次のターンの翔はどう展開するのかな？

「僕のターン、ドロー！僕はスチームロイドを攻撃表示で召喚。さらに魔法カード融合を発動。場のスチームロイドとジャイロイドを融合しスチームジャイロイドを召喚！」

「あの馬鹿……」

「どうしてだ？手札に通常召喚できるモンスターがいなければそれほど悪い手とも思えないが」

「三沢はロイド系の効果を把握しているか？」

「実をいうとそれほど知らないな」

「スチームロイドはモンスターに攻撃するとき攻撃力が500ポイントアップするんだ。そして兄狙いならバラバラで攻撃してメインフェイズ2で融合させたほうが合計ダメージが多い」

「なるほどな、デュエルでは些細なミスが敗北になることもあるかな後に影響しなければいいが……」

翔は兄狙いのようだ。自分だったらカイザーシーホースをつぶして

サンガの召喚を妨害したほうがいいと思うがよくよく考えればヒューガの効果もあるし、選択としては悪くない。

予想通りヒューガの効果でダメージを0にされた。

あれ？ 三魔神って攻撃力を0にする効果じゃなかったっけ？

なんか弱体化している気が……。

《風魔神・ヒューガ/Kazejin》 †(OCG)

効果モンスター

星7/風属性/魔法使い族/攻2400/守2200

このカードは相手のターンで攻撃された場合、

その戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。

その攻撃モンスター1体の攻撃力を0にする。

この効果はこのカードがフィールド上に表側表示で存在する限り1度しか使用できない。

《風魔神・ヒューガ/Kazejin》 †(アニメ)

効果モンスター

星7/風属性/魔法使い族/攻2400/守2200

相手モンスターが攻撃してきた場合、

その戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。

その攻撃モンスターからの戦闘ダメージを0にする。

この効果はこのカードがフィールド上に表側表示で存在する限り1度しか使用できない。

「あなたの言ったとおり2体で攻撃していれば10000ポイントはダメージが入ったわね」

「やっちまったもんは仕方ないな。挽回できればいいが」

翔はリバーカードを伏せてターンエンド。

次は兄のターンだがカイザーシーホースがいることからおそらく…

…。

「私は魔法カード死者蘇生を発動。地雷蜘蛛を復活させる。そしてさらに魔法カード生け贄人形を発動。地雷蜘蛛を生け贄に水魔神スーガを特殊召喚」

かわいそうな地雷蜘蛛……。復活即生け贄とはな、弱いカードではないんだが……。

「これで終わりではない。弟よお前の力借り受ける。カイザーシーホースを生け贄に雷魔神 サンガを召喚。カイザーシーホースは光属性の生け贄とするとき2体分の生け贄になる」

「サンガまでは読めたが、スーガまで出るのは予想外だな」

「なんてコンボだ……」

「いいえ、まだ終わりじゃない」

「雷魔神 サンガ、風魔神・ヒューガ、水魔神 スーガが揃ったとき三体を生け贄にゲート・ガーディアンを召喚する」

《ゲート・ガーディアン / Gate Guardian》 †

効果モンスター

星11 / 闇属性 / 戦士族 / 攻3750 / 守3400

このカードは通常召喚できない。

自分フィールド上に存在する「雷魔神・サンガ」「風魔神・ヒューガ」「水魔神・スーガ」

をそれぞれ1体ずつリリースした場合に特殊召喚する事ができる。

「ゲート・ガーディアンでスチームジャイロイドに攻撃い！ 魔神  
衝撃波！！」

ゲート・ガーディアンから放たれた雷風水が合わさったような衝撃  
波がスチームジャイロイドを破壊する。

まさか2ターン目でこれが出てくとは思わなかった。倒す方法は  
いくらでもあるが、2ターン目からこの攻撃力はちと辛いな。

「彼らのデッキはタッグデュエル用にくみ上げられたデッキ。さす  
がに隙がない」

「それに、さすが兄弟。息もぴったりだわ」

「それに運もある。あれを2ターンで召喚できる初手はかなり限ら  
れているからな」

そして兄はリバースカードを一枚セットしてターンエンドした。  
次は十代のターンだ。十代はクレイマンを攻撃表示で召喚し融合を  
発動。場のバーストレディとクレイマンを融合しランパートガンナ  
ーを召喚した。

…………… おまえらフィールド融合ほんとに好きだな。デュエルモン  
スターズには手札融合ってもんがあつてだな……………。  
そして効果を使いダイレクトアタックした。あれ？ ランパートガ  
ンナーって相手モンスターいるとだめだった気が……………。

エレメンタルヒーロー

《E・HERO ランパートガンナー／Elemental He  
ro Rampart Blaster》†(OCG)  
融合・効果モンスター

星6／地属性／戦士族／攻2000／守2500

「E・HERO クレイマン」+「E・HERO バーストレディ」

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが表側守備表示の場合、

守備表示の状態で相手プレイヤーを直接攻撃することができる。

その場合、このカードの攻撃力はダメージ計算時のみ半分になる。

エレメンタルヒーロー

《E・HERO ランパートガンナー/Elemental Hero Rampart Blaster》†(アニメ)

融合・効果モンスター

星6/地属性/戦士族/攻2000/守2500

「E・HERO クレイマン」+「E・HERO バーストレディ」

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが表側守備表示の場合、

守備表示の状態で相手プレイヤーを直接攻撃することができる。

その場合、このカードの攻撃力はダメージ計算時のみ半分になる。

この効果は相手モンスターがいても直接攻撃できる。

十代はこれでターンエンド。ターンは弟に移った。

弟はゲート・ガーディアンに装備魔法メテオ・ストライクを発動、

翔はサイクロンで阻止しようとするが、兄がアヌビスの裁きを使い逆にランパートガンナーを破壊し、さらにライフダメージまで与える。

あちやう、兄にエンドサイクしておけばアヌビスの裁きは効果を発動できなかったんだけどな。結果論にはなるがこれもプレイミスといえはプレイミスか。

《メテオ・ストライク/Fairy Meteor Crush》

†

装備魔法

装備モンスターが守備表示モンスターを攻撃した時、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える

《サイクロン／Mystical Space Typhoon》

十

速攻魔法（準制限カード）

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

《アヌビスの裁き／Judgement of Anubis》

十

カウンター罠

手札を1枚捨てる。

相手がコントロールする「フィールド上の魔法・罠カードを破壊する」効果を持つ

魔法カードの発動と効果を無効にし破壊する。

その後、相手フィールド上の表側表示モンスター1体を破壊し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える事ができる。

そしてディフェンスウォールなるモンスターを召喚し。守りを固めターンエンド。

自分は知らないがどうやらディフェンスウォールに攻撃しなければならぬ、種族無視の切り込み隊長みたいな効果らしい。

「攻撃はゲート・ガーディアン。守備はディフェンスウォール。まったく隙がない」

「彼らはタッグデュエルを知り尽くしている。それに比べて……」

まだ魔法カードで何とかなる段階だな。ただライフ差が激しいな。迷宮兄弟7000にくらべ、十代と翔は4450だ。まだ何とかなる段階だが、下手うつと次の兄のターンで負けちまうな。

翔はサイクロイドを守備表示でターンエンド。

翔のターンで何か手を打てなかったのはきついな。てか融合素材に

もならない通常モンスターのサイクロイドをなぜ入れてるんだ……。通常モンスターサポートがあるわけでもないし……。

そして兄のターンになった。兄はゲート・ガーディアンで翔のサイクロイドを破壊。メテオストライクの効果で貫通ダメージを与える。

十代&翔

LP 4450 1700

サイクロイドの破壊を優先したのか、十代を狙ってライフ削つてもいいと思うけどな。

そして十代のターンが回ってきた。

十代はスパークマンを召喚して専用の装備魔法スパークガンを装備。ゲート・ガーディアンを守備表示に変更する。

しかしよくそんな専用カード使いこなせるな。3回の表示形式変更は強力だが、専用つてことで敬遠されやすいカードだぞ。

わざわざゲート・ガーディアンの表示を変更したつてことは次のターン翔にあれを使えつてことか……。

手札に入るかどうかもわからないこのルールだと結構博打だぞ。

《スパークガン/Spark Blaster》 十

装備魔法

「E・HERO スパークマン」にのみ装備可能。

自分のターンのメインフェイズ時に表側表示モンスター1体の表示形式を変更する事ができる。

この効果を3回使用した後、このカードを破壊する。

「しかし、守備表示にしてどうするつもりなんだ？ 次のターンに攻撃表示に戻されるだけだ」



「そうか、三沢は翔の持つあのカードを知らないからな」

「あのカード？」

「翔の手札にあるかどうかはわからんが、翔の持つカードの中でもかなり使いやすい効果を持つカードだ。まあ見てればわかるだろう。ただ……」

「ただ……何なの？」

「それでも1手足りないはずなんだ。もう1手何かあれば……」

そして十代はリバーズカードを一枚セットしてターンエンド。弟もリバーズカードを一枚伏せてターンエンド。動きがなくなってきたな。やはり次の翔のターンが鬼門だな。

「僕はドリルロイドを攻撃表示で召喚！」

「持ってきたか……」

「あれが君の言うあのカードなのか？」

「そうだ。あれは守備表示モンスターを攻撃したとき問答無用で守備モンスターを破壊する効果を持つ。攻勢に出ているときや表示形式変更カードと組み合わせると無類の強さを発揮するカードだ。ロイド系の中ではスチームロイドと肩を並べる強力なアタッカーだ」

「しかしそれではディフェンスウォールに阻まれるだけだ」

「ああ、もう1手何か必要だな」

翔はドリルロイドでゲート・ガーディアンに攻撃するがそれをディフェンスウォールが阻む。そして十代達のライフが500ポイント低下する。

マテ、あれはダメージ計算を行わず破壊する効果じゃなかったか？何でライフにダメージを受けているんだよ！

《ドリルロイド / Drillroid》 † (OCG)

効果モンスター

星4 / 地属性 / 機械族 / 攻1600 / 守1600

このカードが守備表示モンスターを攻撃した場合、  
ダメージ計算前にそのモンスターを破壊する。

《ドリルロイド / Drillroid》 † (アニメ)

効果モンスター

星4 / 地属性 / 機械族 / 攻1600 / 守1600

このカードが守備表示モンスターを攻撃した場合、  
ダメージ計算後にそのモンスターを破壊する。

そして魔法カードシールドクラッシュでゲート・ガーディアンをも破壊した。

なるほど、確かにこれなら足りない1手を補える。

《シールドクラッシュ / Shield Crush》 †

通常魔法

フィールド上に守備表示で存在するモンスター1体を選択して破壊する。

そして翔はリバーズカードをセットしてターンエンド。

兄は魔法カードダークエレメントを発動させた。

なんじゃそら？ なんでも墓地にゲート・ガーディアンがあるとき  
ライフポイントを半分支払ってデッキから闇の守護神ダーク・ガー  
ディアンを召喚するカードらしい。

ダーク・ガーディアンって何ぞ！？

闇の渦から斧を持った半人半蜘蛛？ 見たいなモンスターが現れる。  
ゲート・ガーディアンをおろかな埋葬で墓地に落としてから使うと  
簡単に出せるな。その場合三魔神いらんけど…。

攻撃力3800で350ほどゲートガーディアンより高い。

そしてダーク・ガーディアンがドリルロイドに向けて衝撃波を放つ。

「だめだ！ この攻撃が通ったら負ける！」

「十代……」

危ないと思ったときに十代がヒーローバリアを発動させる。

間一髪だったな……。十代のデュエルは心臓に悪いものが多すぎる。そしてダーク・ガーディアンは戦闘では破壊されないらしい。

「強いといえば強い効果なのだろうが、攻撃力3800ならどちらかというと効果破壊に耐性がほしいわけであって……。オネストで振り返ちにならないのは便利といえば便利か」

「ずいぶん暢気だな。十代たちは絶対絶命なんだぞ！」

「効果破壊が通用するだけマシだろう……。トラップカードがまったく効かない三幻神を相手にするよりマシだ」

「いや、伝説の神のカードと比べても……」

「どちらにしろ俺達ができるのは、せいぜい十代達が効果破壊できるカードを引き当てるのを祈るくらいだ」

そして十代のターン。困ったときの強欲な壺を発動させ、さらにフィールド魔法フュージョンゲートを発動、手札のHEROとスパークマンを融合させテンペスターを召喚する。

しかしテンペスターでは摩天楼・スカイスクレイパーを使ってもダーク・ガーディアンと互角。ダメージは与えられない。どう繋げるつもりだ？

と思っていたら摩天楼・スカイスクレイパーを発動して、テンペスターでダークガーディアンを殴りに行った。そして翔のカードを使

いテンペスターは破壊されなくなる。

何考えてんだあいつは？ 同じ攻撃力ならダメージも入らんのだぞ、弟を攻撃してダメージ通せばいいだろうが！！

そもそもテンペスターってあんな効果だったか？ あんまり使わないカードはさすがに覚えてないぞ。

エレメンタルヒーロー

《E・HERO テンペスター/Elemental Hero  
Tempest》†(OCG)

融合・効果モンスター

星8/風属性/戦士族/攻2800/守2800

「E・HERO フェザーマン」+「E・HERO スパークマン」  
+「E・HERO バブルマン」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカード以外の自分フィールド上のカード1枚を墓地に送り、

自分フィールド上のモンスター1体を選択する。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

選択したモンスターは戦闘によっては破壊されない。(ダメージ計算は適用する)

エレメンタルヒーロー

《E・HERO テンペスター/Elemental Hero  
Tempest》†(アニメ)

融合・効果モンスター

星8/風属性/戦士族/攻2800/守2800

「E・HERO フェザーマン」+「E・HERO スパークマン」  
+「E・HERO バブルマン」

自分フィールド上のカード1枚を墓地に送る。

このカードは、このターン戦闘によっては破壊されない。(ダメージ計算は適用する)

この効果は相手ターンにも使用する事ができる。

そして十代はターンエンド。何のために攻撃したかさっぱりわからん。

弟は魔法カード一騎打ちを使い兄のダーク・ガーディアンとテンペスターを戦闘させる。十代は破壊を防ぐためスカイスクレイパーを墓地に送った。そして1000ダメージを受ける。

そして翔のターン。おそらくこれがラストターンだ。このターンでダーク・ガーディアンを何とかしない限り勝ち目はない。

翔はドリルロイドを生け贄にユーフォロイドを召喚する。

そしてパワーボンドを使いテンペスターと融合させてユーフォロイドファイターを召喚した。ってなんでだよ!!! 融合すんならドリルロイドを生け贄にする必要ねえじゃんかよ!!!

そんなにおまいらは場で融合するのが好きなのか? ああん?

そしてそのユーフォロイドファイターの姿は……。

《ユーフォロイド・ファイター / UFOroid Fighter

》  
+

融合・効果モンスター

星10 / 光属性 / 機械族 / 攻 ? / 守 ?

「ユーフォロイド」+戦士族モンスター

このモンスターの融合召喚は、上記のカードでしか行えない。

このカードの元々の攻撃力・守備力は、融合素材にした

モンスター2体の元々の攻撃力を合計した数値になる。

「乗っただけ…だよな」

「乗っただけだな…」

「乗っただけよね…」

そうユーフォロイドの上にテンペスターが乗っただけなのだ。

「あれがサイバーエンドドラゴンと同じ攻撃力とは思えないほど間抜けな姿だな」

「み、見た目じゃないのよ……きつと」

まあ実際そうなんだろうがすごい微妙な気分だ…。

そしてそのユーフォロイドファイターでダーク・ガーディアンに攻撃。迷宮兄弟はダークエレメントでライフポイントが大幅に減っているため耐え切れるはずもなく4000オーバーの超過ダメージを受け敗北した。

「よかった。これで彼らはこの学園に残れる」

「強力なライバルになるのに嬉しいの？」

「君こそどうなんだ？」

「私のせいで彼らが退学になったら寝覚めが悪いと思ったただけよ。でもよかった……」

「さてと、次は俺の番だな」

「出会ってその日のうちに退学というのも寂しいからな。引き続き応援させてもらうよ」

「タッグデュエルじゃないから十代たちほど心配はしていないけど頑張ってね」

「俺だって高卒の免許くらいはほしいさ、行ってくる」

俺と入れ替わりで十代たちがやってくる。しかも勝ったというのに頭を抱えて。

「何で十代は頭抱えてるんだ？」

「実は……宿題としてレポート30枚も書かなくちゃならないんですよ」

「それはまた、十代にとっては迷宮兄弟より強敵かも知れんな」

「徹夜で書かねえとおわんねえよ。厚志！ 今晚レポート書くの手伝ってくれよ！」

「どうせ俺も書くことになりそうだし手伝うのはかまわないが、このデュエルで勝たないとそれすらできんぞ」

「厚志君なら勝てるっスよ」

「まあ負けるつもりはないのは当然だけどな」

さて、さっさと片付けてレポート書くかあ。

## 制裁デュエル前編！ VS 迷宮兄弟（後書き）

なんだろう。気づけば突っ込みSSになってきている。  
アニメ見ていると突っ込みどころのデパートだったりするんですよ。  
ZEXALとか特にそうですね。突っ込みどころが多すぎてどこから突っ込めばいいのかわからないときってありますよね。

次回は単発オリキャラ出します。

厚志はガチデッキですが相手もガチデッキです。お楽しみに。



**制裁デュエル！！ 厚志編（前書き）**

2日連続投稿です。

DVDの返却予定もあるので借りている分のストーリーを書かなければなりません。

20が返却期限なので、20までに2〜3話ほど書き上げる予定です。

## 制裁デュエル！！ 厚志編

さてと、次は俺の番だな。

デッキをセットして中央のデュエルリングに立つ。

対戦相手は十代と同じように外から呼んだ人間が来るのかもしれない、気を引き締めんな。

「それデーワ、制裁デュエル第2戦をはじめまスーノネ」

クロノス教諭の言葉と同時にリングに煙幕が立ち込める。

……ケムイ。しかし大掛かりな仕掛けを使うもんだ。対戦相手はそれほどの大物なのか？

そしてどこからともなくBGMが流れ出す。

…この曲ずっと昔に聴いた覚えがある。転生してからじゃない。もつと前の記憶だ。

……らないか…… やらないか…… おも……いは……ただ一つ……

ぶはあああ！ なぜこの曲が聞こえてくる……！！ たま じゃねえか！

ま、まさか対戦相手っていうのは……。煙幕が晴れたときそこにいたのは……。

ウホッ！ いい男……！！

ちょっと待て……！！ 何でこんなところにいるんだよ……！！  
遊戯王関係ねえじゃね……かよ……！！

そうリングの上にはいつのまにか公園にあるようなベンチと、そこに座っているツナギを着たいい男がそこにいた。

「（決闘を）やらないか」

くぁwせdrftgyふじこlp;@:

マジか！！ マジなのか！！ほんとにこれが対戦相手なのかよ！どこから探してきたんだこんなやつ！！

「シニョール鈴本の対戦相手は、あの伝説のデュエルキングも対戦を嫌がったという人物なノーネ」

「マジかよ！ くうく、いいなぁ厚志のやつ。デュエルキングが対戦を避けるほどの相手とデュエルできるんだぜ！」

それきつとデュエルの腕前とは関係なく嫌がつてるから！！ちつくしよう。ここまできたら腹括るしかねえ。この人のオーラ的に負けたら絶対掘られる！ 後ろの貞操のために負けるわけにはいかねえ！！

「こうなりや、やってやる！！」

「いいのかい、ほいほいデュエルしちゃって。おれは負けた相手にはノンケだってかまわず食っちまう男なんだぜ」

「もう後には引けん。デュエルに勝てば問題ない！」

「ふ、いい気迫じゃないの。それじゃあ」

「「決闘！！」」

「先攻はおれがもらうぜ。ドロー！ おれはアクセス・レイダーを攻撃表示で召喚。カードを一枚伏せてターンエンドだ」

《アックス・レイダー/Axe Raider》  
通常モンスター

星4/地属性/戦士族/攻1700/守1150  
オノを持つ戦士。片手でオノを振り回す攻撃はかなり強い

「俺のターン、ドロー！」

ちい、事故とはいっほひどくはないが、決め手になるカードがないな。

アックス・レイダーは通常モンスターだ。凡骨ビートか？ まだ決め付けるのは早いだろう。

「俺はモンスターを一枚セット。さらにカードを一枚伏せてターンエンドだ」

「なんだもつと攻めてこいよ。おれのターン、ドロー！ おれはアックス・レイダーでセットモンスターに攻撃だ！ 疾風切り！！」

「セットモンスターは、ライトロード・プリースト ジェニスだ400ポイントの反射ダメージを受けてもらうぞ」

セットされたカードが反転し、その中から一人の僧侶が現れてアックス・レイダーの攻撃を杖で受け止め弾き飛ばした。

「ふふ、やるじゃないの」

《ライトロード・プリースト ジェニス/Lightsworn Mender》  
†

効果モンスター

星4/光属性/魔法使い族/攻300/守2100

「ライトロード」と名のついたカードの効果によって

自分のデッキからカードが墓地へ送られたターンのエンドフェイズ

時、  
相手ライフに500ポイントダメージを与え、自分は500ライフ  
ポイント回復する。

ぞぞぞ、なぜかあの人に微笑まれると、背筋が寒くなる。これはも  
はや本能か……。

「おれは戦士ダイ・グレファアを攻撃表示で召喚。ターンエンドだ」

《戦士<sup>せんし</sup>ダイ・グレファア / Warrior Dai Grephe  
r》 +

通常モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族 / 攻1700 / 守1600

ドラゴン族を操る才能を秘めた戦士。過去は謎に包まれている。

相手のフィールドに筋骨隆々の戦士が一体増えた。非常に暑苦しい。  
もしかして相手のデッキは……。

ええい、考えても仕方がない。俺の使うライトロードは、うまくい  
けば大抵のデッキを蹂躪することができるデッキだ。相手に惑わさ  
れず、自分のペースを保たないと。

「俺のターン、ドロー」

ライコウをここで引くか……。問題はライトロードの下級アタッカー  
を引いていないってことなんだよな。ジェニス1体だと厳しいかも  
知れん。

「俺はモンスターをセット。ターンエンドだ」

「今日の厚志はずいぶん消極的ね」

「おそらく要となるアタッカーを引いていないんだろっ」

「まだ守りを固めるのかい？ 嫌でも俺のほうを向くようにしてやるよ。おれのターンドロー、おれは永続魔法連合軍を発動。自分の場の戦士族と魔法使い族の数×200ポイント自分のフィールドの戦士族モンスターの攻撃力を上げるぜ。そして格闘戦士アルティメターを攻撃表示で召喚だ」

《かくとうせんし格闘戦士アルティメター / Battle Warrior》  
+

通常モンスター

星3 / 地属性 / 戦士族 / 攻 700 / 守 1000  
武器をいっさい使わず、素手で戦いぬく格闘戦士。

アックス・レイダー	1700	2300
戦士ダイ・グレファア	1700	2300
格闘戦士アルティメター	700	1300

地属性戦士族の通常モンスターデッキか？ ガイアパワーが入っているかもしれないな。それに通常モンスターサポートや戦士族のサポートも相応に入っていると見るべきか。

「アックス・レイダーでライトロード・プリースト ジェニスに攻撃だ！ 疾風切り！！」

再びアックス・レイダーの攻撃がジェニスに迫る。連合軍で強化されたアックス・レイダーの攻撃に今度こそジェニスが切り裂かれた。

「まだまだいくぜ、戦士ダイ・グレファアでセットモンスターに攻

撃だ！」

「セットモンスターはライトロード・ハンター ライコウだ！ リバース効果で連合軍を破壊させてもらう。そして自分のデッキから3枚墓地に送る」

《ライトロード・ハンター ライコウ/Ryko, Lights  
Worn Hunter》  
†

効果モンスター

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻 200 / 守 100

リバース：フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊することができる。

自分のデッキの上からカードを3枚墓地へ送る。

「だが、これでモンスターはいなくなった。格闘戦士アルティメーターで直接攻撃！」

「やらせない！ リバースカードオープン、閃光のイリュージョン発動！ 墓地のライトロード・ドラゴン グラゴニス等特殊召喚する。グラゴニスは墓地にある、ライトロードと名のついたモンスターの種類×300ポイント攻撃力がアップする。2体墓地にあるから2600ポイントだ」

「おつとそいつはまずいな、攻撃を中止だ。格闘戦士アルティメーターを守備表示にしてターンエンドだ」

《閃光のイリュージョン/Glorious Illusion》

†

永続罫

自分の墓地から「ライトロード」と名のついたモンスター1体を選択し、

攻撃表示で特殊召喚する。

自分のエンドフェイズ毎に、デッキの上からカードを2枚墓地に送

る。

このカードがフィールド上から離れた時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールド上から離れた時このカードを破壊する。

《ライトロード・ドラゴン グラゴニス / Gragoonith ,  
Lightsworn Dragon》  
†

効果モンスター

星6 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻2000 / 守1600

このカードの攻撃力と守備力は、自分の墓地に存在する「ライトロード」

と名のついたモンスターカードの種類×300ポイントアップする。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、

自分のエンドフェイズ毎に、デッキの上からカードを3枚墓地に送る。

ライトロード・ドラゴン    グラゴニス    2000    2600

これでこのターンは凌いだな。裁きの龍が手札にすれば一気に片をつけられるんだが、ここはグラゴニスに踏ん張ってもらうしかない。

「俺のターンドロー。魔法カードソーラー・エクステンジを発動。手札のライトロード・ビースト ウォルフを捨てカードを2枚ドロ―する。その後デッキから2枚墓地に送る」

《ソーラー・エクステンジ / Solar Recharge》  
†  
通常魔法



手札から「ライトロード」と名のついたモンスターカード1枚を捨てて発動する。

自分のデッキからカードを2枚ドローし、その後デッキの上からカードを2枚墓地に送る。

送られたカードはライトロード・バリアと、ライトロード・エンジェル ケルビムか。まあまあってとこだな。

「墓地のライトロードが増えたことにより、グラゴニスの攻撃力が上がる」

ライトロード・ドラゴン    グラゴニス    2000    3200

「すごい、攻撃力3200だなんて……」

「厚志のあのデッキとはデュエルしたことなかったな。くうゝあのデッキともデュエルしてみてえぜ！」

「なあ？ このドラゴンを見てくれ、こいつをどう思う？」

「……すごい、大きいです」

ハッ！ ついつい乗ってしまった。俺のグラゴニスなのに！！  
ペースをこれ以上乱されるわけにはいかない！

「グラゴニスで戦士ダイ・グレファアに攻撃だ！」

「罠カード発動、デイメンション・ウォール発動！ 悪いがダメー  
ジはそちらが受けてもらう」

「何！？ ぐあああ」

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

この戦闘によって自分が受ける戦闘ダメージは、  
かわりに相手が受ける

グラゴニスのブレスはダイ・グレファアを焼き尽くし、さらに超過  
ダメージを与えようとあの人に迫るが、突然現れた次元の渦に巻き  
込まれた。

そして俺の背後からグラゴニスのブレスが襲ってきた。

厚志

LP 4000 2500

く、まさかディメンション・ウォールが飛んできるとは予想外だ。  
魔法の筒のほうで汎用性が高かったりするし、あれは場がから空き  
だからこそ効果が高いカードだぞ。何で戦士族中心のデッキなんか  
に入ってるんだ？

いや、待て。

もしかしてあいつのデッキは……。

「そのデッキはまさか……」

「お、気づいたか？ そうだ、このデッキはこのおれが認める。い  
い男を集めたデッキだ……！」

や、やはり……。やけにダイ・グレファアのイラストが多いと思っ  
たんだよな。

ということはあれも一つのガチ（ホモ）デッキというわけだな。

誰がうまいこと言えと……！！

いかんセルフ突込みしている場合じゃない！

どうもペースが狂ってしょうがない。とりあえず今はやることがないな。

「俺はこれでターンエンド。エンドフェイズにグラゴニスと閃光のイリユージョンの効果で合計5枚デッキから墓地にカードを送る」

送った中に新しいライトロードはつと、あった！

「墓地に送られたライトロード・ビースト ウォルフの効果発動。デッキから墓地に送られたこのカードを特殊召喚する！」

《ライトロード・ビースト ウォルフ / W u l f , L i g h t s  
w o r n B e a s t 》 †

効果モンスター

星4 / 光属性 / 獣戦士族 / 攻2100 / 守 300

このカードは通常召喚できない。

このカードがデッキから墓地に送られた時、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

「さて、次はおれの番だな。ドロー」

何とかグラゴニスまでつなげられたが、閃光のイリユージョンも併用しているためデッキの消費が激しい。なんとか短期で決着をつけなければならないな。

「おれは魔法カード思い出のブランコを発動し、墓地にある戦士ダイ・グレファアを蘇生させる」

《思い出のブランコ / S w i n g o f M e m o r i e s 》 †  
通常魔法

自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択して発動する。  
選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ時に破壊される。

だが、いまさらダイ・グレフアーを蘇生させても仕方がない。1ターン限定の蘇生なら生け贄が妥当だが、アルティメーターとアックス・レイダーで2体は確保している。3体のモンスターを使うなんて神のカードじゃあるまいし何を出すつもりだ？

「そして、3体のモンスターを生け贄にギルフォード・ザ・ライトニングを召喚！ このカードは3体の生け贄を使い召喚したとき相手のモンスターすべてを破壊する！ ライトニング・サンダー！」

《ギルフォード・ザ・ライトニング / Gilford the Lightning》  
†

効果モンスター

星8 / 光属性 / 戦士族 / 攻2800 / 守1400

このカードは生け贄3体を捧げて召喚する事ができる。

この方法で召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

しまった！ それがあつたか！

ギルフォード・ザ・ライトニングから放たれた雷が俺の場のモンスターを破壊する。

いかなこのままでは……。

「ああつ、このままじゃ厚志君が負けちゃう！」

「ここまでなの？ 厚志……」

「やれやれ、なかなかしぶとかったがこれで終わりだ、ギルフォード・ザ・ライトニングで直接攻撃！ ライトニング・クラッシュ・ソード……！」

「まだだ、まだ終わらんよ！ 手札からバトルフェーダーを守備表示で特殊召喚！ バトルは強制終了させてもらっ」

「なんだと……！」

《バトルフェーダー / Battle Fader》 +

効果モンスター

星1 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻 0 / 守 0

相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。

このカードを手札から特殊召喚し、バトルフェイズを終了する。

この効果で特殊召喚したこのカードは、

フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

保険でピン刺しておいたこのカードが役に立つときがくるとは思わなかったな。

抜こうかどうか迷っていたが、抜いていたら確実に負けていた。

「ふ、ならおれはこれでターンエンドだ」

「俺のターンドロ、ライトロード・スピリット シャイアを守備表示で召喚。カードを一枚伏せてターンエンド。エンドフェイズ時にデッキからカードを2枚墓地に送る」

《ライトロード・スピリット シャイア / Shire, Lightsworn Spirit》 +

効果モンスター

星3 / 光属性 / 天使族 / 攻 400 / 守1400

このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在する「ライトロード」

と名のついたモンスターの種類×300ポイントアップする。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、

自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを2枚墓地へ送る。

「おれのターンだな、ドロ。ギルフォード・ザ・ライトニングでライトロード・スピリット シャイアに攻撃だ！ ライトニング・クラッシュ・ソード！！」

「永続罫発動！ ライトロード・バリア発動！ デッキから墓地にカードを2枚送ることによってライトロードを対象とする攻撃を無効とする！」

ライトロード・バリア / Lightsworn Barrier

十

永続罫

自分フィールド上に表側表示で存在する「ライトロード」

と名のついたモンスターが攻撃対象になった時、

自分のデッキの上からカードを2枚墓地へ送る事で

相手モンスター1体の攻撃を無効にする。

「く、厄介な効果だな。おれはカードを1枚伏せてターンエンドだ」

今の効果も含めて墓地に落ちたライトロードは7種類。シャイアの攻撃力は2500まで上昇した。しかしあいつを倒すにはまだ足りない。

そして何よりも厳しいのが裁きの龍がすべて墓地に行ってしまったことだ。

さらに運の悪いことに光の援軍も死者転生もすべて墓地だ。つまり

裁きの龍抜きでこのデュエルに勝利しなければならない。

ジャッジメント・ドラゴン

《裁きの龍/Judgment Dragon》 十

効果モンスター（準制限カード）

星8/光属性/ドラゴン族/攻3000/守2600

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地に「ライトロード」と名のついた

モンスターが4種類以上存在する場合のみ特殊召喚する事ができる。

1000ライフポイントを払う事で、

このカード以外のフィールド上に存在するカードを全て破壊する。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、

自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを4枚墓地へ送る。

「俺のターンンドロー」

これならギルフォード・ザ・ライトニングを倒せる！

「俺はライトロード・スピリット シャイアを生け贄にライトロード・エンジェル ケルビムを召喚！ ケルビムの効果発動、ライトロードと名のついたモンスターを生け贄とした召喚に成功したときデッキから4枚墓地に送り相手のカードを2枚まで破壊することができる。俺はギルフォード・ザ・ライトニングと伏せカードを破壊！」

《ライトロード・エンジェル ケルビム/Celestia, Lightsworn Angel》 十

効果モンスター

星5/光属性/天使族/攻2300/守200

このカードが「ライトロード」と名のついたモンスターを

生け贄にして生け贄召喚に成功した時、  
デッキの上からカードを4枚墓地に送る事で  
相手フィールド上のカードを2枚まで破壊する。

「くつ、チエーンして罫発動！ 砂塵の大竜巻。ライトロードバリ  
アを破壊させてもらう」

「いまさら関係ない！ 墓地に送ったライトロード・ビーストウ  
オルフの効果を発動。ウォルフを攻撃表示で特殊召喚する！」

ライトロード・レイピアも墓地に落ちたがケルビムの効果はコスト  
のためタイミングを逃してしまふ。ええい間が悪い。

《ライトロード・レイピア/Lightswordn Sabre》

十

装備魔法

「ライトロード」と名のついたモンスターにのみ装備可能。  
装備モンスターの攻撃力は700ポイントアップする。

このカードがデッキから墓地に送られた時、  
このカードを自分フィールド上に存在する「ライトロード」  
と名のついたモンスター1体に装備する事ができる。

「これで終わりだ！ 2体のモンスターで直接攻撃！」

「お、おおおうー！」

2体のモンスターの攻撃が決まると同時に終了のブザーがなった。  
か、勝った。ぎりぎりの勝利だった。あそこで3枚目のウォルフが  
来なければ、まだ決着がついていなかった。

「ふう、負けたよ。どうだい今度、いっしょにハッテン場にデート  
しないかい？」



「全力でお断りさせていただきますー!!」

負けたのに誘うとか、さすが歪みねえな……。

後ろの貞操も守れたし、これでほんとにめでたしめでたしだな。

「お見事です鈴本君。これでああなたの退学も取り消しましょう」

「やっぱリポートはやらなければならないんですかね？」

「まあ、罰は罰ですからね」

「まあ、仕方ないですね」

「やったな、厚志。これでレポート手伝ってもらえるぜ!」

「まあ、いいけどな」

「おめでとう厚志。途中かなり危なかったわね」

「あそこから逆転に持ち込めるとはすごいな、尊敬に値するよ」

こうして退学と貞操をかけた制裁デュエルが終わり、明日から普通の学園生活に戻ることになる。

**制裁デュエル！！ 厚志編（後書き）**

どうしても出したかったんです！！

ガチホモデツキを思いついてしまったからには使う人はこの人しかないだろうってことでいい男に登場してもらいました。

前回の後書きのガチVSガチでこの展開を予想した人はいないでしょうw

次話は明日中に投稿します。

もしかしたら2話くらい投稿できるかもしれません。

## 入れ替えデュエル 三沢VS万丈目（前書き）

連日投稿出来ています。

仕事が暇なとき、サボって漫画喫茶で書いてます。

まじめな皆さんは真似しないでください。

## 入れ替えデュエル 三沢VS万丈目

悪夢の制裁デュエルから数日、俺は学園生活を満喫していた。

デュエルアカデミアはデュエルの授業のほかに一般の教科もちゃんとある。ついでに部活動も認められている。

今は体育で野球の授業だ。正直野球の授業って一般的なのかどうかは知らないが、アカデミアはデュエルのほかは運動方面の授業に力を入れているらしい。

デュエルばかりだとインドア系になって運動不足になるからかもしれない。

そして何気にスポーツ万能な十代がピッチャー4番で大活躍している。俺にはあんな元気は出てこないなあ。

俺のポジション？ 主審やってるよ。運動苦手だけど、動体視力悪くないし野球のルールもそこそこ詳しいし。

現在3対0でレッド寮チームのリード。十代の3ランホームランで得点している。あいつ異様にチャンスに強いんだよなあ。

細かい成績では4打数3安打1本塁打3打点1盗塁。甲子園いけるんじゃないかと思うくらいの成績だ。

投げるほうでも8イニングで奪三振6、被安打4、四死球0ということこちらでもすばらしい出来だ。

キャッチャーは翔で基本を抑えたかなりいいリードをする。なぜデュエルでそれを生かせないんだ？

翔のバッティングはたいしたことないが、ストライクゾーンが極端に狭いため甘い球を見逃さずに打って4打数2安打ということこちらもかなりいい成績だ。

いや、イエローの生徒も高校の授業レベルではいい球投げるんだよ

…。ただそんな細かい制球要求されるのはさすがにきついらしい。

ツーアウトランナー一二塁、打者十代。もう一度本塁打が出れば駄目押しになるな。

「おい、待てー、その試合待ってくれー」

ん？顔を上げると三沢がやってきた。どうもデッキ構築論に夢中になってしまったらしい。

デッキ構築論とか……三沢も相当なデュエル馬鹿だったんだな。常識人だと信じていたのに！！

「ピッチャー交代！ピッチャー三沢」

イエローの監督役がピッチャーの交代を告げ三沢がマウンドに上がる。

そしてバッターボックスにいる十代……。

「十代。ピッチャー変わったから投球練習からだ。いったんバッターボックスから出てくれ」

「あ、そっか」

「いや、投球練習は必要ない。すぐに始めてくれて結構だ」

投球練習が必要ないとは自信満々だな。まあ、あれは省略することもあるし本人がいいというならいいか。

「ついに出てきたな、三沢。しかしお前の球もあそこに叩き込んでやる！」

「俺の球は打たれはしない。なぜなら君の攻略法は計算済みだからだ」

なんか三沢のバックから炎が立ち上っているように見える。おかしいなあ、遊戯王GXってスポ根アニメじゃないよなあ。

計算済みならピッチャーよりキャッチャーやってリードしたほうがよくないか？

まあいいや、とりあえず試合再開するか。

「プレイ！」

俺のひとことでゲームが再開される。

注目の三沢の第一球は。

「いくぞ、方程式バージョン1！！」

おお！！ 一瞬だけ球が分身してるように見えた！ どの野球漫画だよ！！ どの分身魔球だよ！ 出る漫画間違ってるだろ絶対！！

「ストライクバッターアウト！ チェンジ」

一球目は分身魔球。二球目は低めのボール球、三球目は、一球目と同じコース。ただし球速がかなり遅い。

一球目で十代の気をそらして、二球目でさらに焦らせると、そうすれば三球目のスローボールに対応できなくなるというわけか。十代は一球目の魔球が目には焼きついているからどうしても一瞬集中力がそがれるというわけか。

なかなか考えられた配球だな。

見事レッド寮を抑えた三沢だが打順が回ってくることはないだろう。なにせ三沢の前に5人もいるんだしな。

そう思っていた時期が私にもありました。

十代が何を血迷ったか、ツアアウトをとった段階で残りの打者をすべてフォアボールで歩かせている。ほんとに何考えてるんだあいつは？

ツアアウト満塁バッター三沢。これメーケドラマの逆転満塁ホームランフラグじゃね？

翔が思わずタイムをかけて十代のところまで行くが、十代は笑いながら応対している。

やっぱりさっき三振とられたの、根に持ってたんだな。

「やつこさん。お前に仕返ししたいとさ」

「大丈夫さ。バッティングの方程式もすでに出来ている」

バッティングの方程式って……………何さ？

「三沢ー！ お前を打ち取ってやるー！」

「それも出来ないことだな。君を打ち崩す方程式ももうすでに出来ている。俺はその数式にのっとり、お前をたたくまでのこと」

……………だから方程式って何さ？ 数式で打てるようになるなら、野球選手はみんな数学者になるぞ。

「そして負けたお前は、俺の言いなりとなれ！」

「勝負だ！」

「来い一番ー！」

盛り上がってるなあ。

「あゝ、盛り上がつてるとこ悪いが。そろそろ再開してもいいか？」

「ああ、いつでもかまわない」

「ほんじゃ、プレイ」

「行くぞ二番！ 食らえ俺がHEROだー！！」

なんか十代の目から炎になっっている気がする。

はは……巨人の星じゃあるまいしそん馬鹿な。

まあそんな十代の燃え上がりとは裏腹にホームラン打たれたんだけどね。

しかもどうやら打球がクロノス教諭の顔面に直撃したらしい。しかもピンピンしていたらしいし、この学園は普通の人間はいないのか？

「ゲームセツト！ イエロー寮の勝利！！」

でもまあ主審はこう宣言するのがお仕事なのですよ。

今日の授業が終わったが、十代は三沢の部屋に行っている。

なんでも罰ゲームらしいが、あいつらまさかこの間俺がデュエルしたあの人に影響されて、アッ……なことに目覚めていたりしないだろうな……。

差し入れにジュースでも買って行こう。目覚めていたらあいつらとの友人付き合いも見直さなけりやならないな。

「差し入れに来たんだが……。何やってるんだお前ら？」

あいつらは三沢の部屋でなぜかペンキまみれになっていた。という



かペンキを掛け合って遊んでいたという表現が正しいかもしれない。わざわざ差し入れに着た俺にも気づく様子もないし、下手に気づかれて俺までペンキまみれにされたらかなわんな。入り口においておこう。

アッーな事になってないだけよしとしよう。さーて、帰って宿題のレポートやらないとな。

「で、何で俺の部屋にいるんだ？ 三沢」

「部屋がペンキ塗り立てで寝る場所がなくてね。十代に聞いたら君が一人部屋だから、そこに泊まるといいとアドバイスされたんだ」

「ああ、なるほどね。スペースが余ってるのは事実だから、好きな場所で眠るといい」

「すまない、世話になる」

「困ったときはお互い様さ、噂ではブルーへの昇格話も出ているそうじゃないか？ 昇格したらブルーの食堂で飯でもおごってくれればいいさ」

「まだ決まったわけじゃないさ」

「お前さんの実力なら時間の問題だろうさ。今回の話が流れても卒業までに奢ってくれりゃそれでいいさ」

「ああ、約束しよう」

エアーマンといじられているがいいやつだな。というより常識的な人間はこの島では貴重な気がする。あの数式マニアが常識的かどうかは置いてだが。

「そういえば君は複数のデッキの使い手だったね。カードを見せてもらってもいいかい？」

「元あったところにきちんと戻してくれるならかまわんよ。そのの

トランクに入っているのがそうだ。種別ごとにストレージボックスに入れて分かれているから、見たいカード種類を選んで見てくれ」

ちなみに十代たちも見せたことはあるがぐちゃぐちゃに戻されて。その後の整理が大変だったため、それ以降は見せていない。

「ずいぶん多いんだな。何枚くらいあるんだ？」

「ちゃんと数えたわけではないがだいたい4万枚かな？」

「これは！ 結構なレアカードも混じってるな。見たこともないカードもある」

「レア度は高いが実用性の薄いカードも多いがな」

「このストレージは何だ？ 封印と書いてあるが」

「その中身も見ないでくれ。騒がれるのはごめんなんだな」

「わかった。好奇心がうずくが、やめておくよ」

「助かる」

「さて、遅いしそろそろ寝よう」

「ああ、おやすみ」

十代だったらしつこく見ようとするんだろうが、三沢は紳士だなあ。

「三沢！ 厚志！ 起きろ大変なんだ！！」

「……………んあ？」

「寝ぼけてる場合じゃないんだ三沢のデッキが！！」

「んんあ、俺のデッキがどうかしたのか？」

「起きたか三沢。お前のデッキが棧橋に捨てられてたんだ！」

「なんだって！ 案内してくれ十代！！」

「こっちだ」

ばたばたと走る音が聞こえる。寝ぼけて頭がぜんぜん回らん。今日は休みだし散歩でもするかな。

「ふあゝあゝあゝ」

だんだんと目がさえてきた。しかし三沢のデッキが捨てられるねえ。そもそもデッキを盗むんならともかく捨てる意味がわからん。三沢は実力者だが人格面の人当たりもいいためそんなに恨まれてはいなさそうなんだけどな。

さらにふらふらと散歩していたら、深刻そうな顔をした明日香と知らないブルー生徒がいた。

それにこの生徒はどつかで見た記憶もあるが……。

あ！ 思い出した、この人ヘルカイザーだ！！

俺は勝利をリスペクトするううう！！

とかワケわかんねえこと叫んでたやつだ！！

物腰も落ち着いているし、あんなこと叫ぶような人には見えないんだけどなあ。人は見かけによらないのかも知れんな。

「明日香じゃないか。なんか悩み事か？」

「厚志、ちよつとね……」

「ちよつとって顔じゃないな。話せば楽になるかもしれないぞ」

「実は……」

どうやら明日香は万丈目がカードを捨てるところを目撃したらしい。そのことを本人に聞いたただすためデュエル場に向かっている途中だという。

しかし万丈目が犯人だったのか……。あいつと三沢の間に接点なんかあったか？

俺もデュエル場に行くことにしよう。結末くらいは見ないと後味が

悪くて仕方ない。

デュエル場に到着すると、十代が万丈目に詰め寄っていた。万丈目は言いがかりだと、一蹴していたが…

「本当に言いがかりかしら？」

「明日香、カイザー亮」

「私見てしまったの。万丈目君あなたが、今朝海岸にカードを捨てたところを」

「「「えっ！」「」」

「気になって事情を聞きにきたけど」

「汚いぞ万丈目！」

「黙れ！ 俺は自分のカードを捨てたんだ。それともそのカードに名前でも書いてあったのか？」

「ぐっ」

「俺を泥棒呼ばわりした責任は取ってもらうぞ。いかがでしょう？ クロノス先生このデュエルで負けたほうが退学するというのは」

「無茶苦茶だ！」

確かに無茶苦茶だ。泥棒呼ばわりしたのは十代なのに。なぜか三沢が退学の危機に立たされてる。

「三沢はデッキをなくしてるんだぞ！」

「いいでしょう。デッキならあります。その条件受けましょう」

「三沢！」

デッキあるないの問題じゃないんだけどなあ。どうしてこうなった。そして三沢はなぜ上着のチャックを下ろしている。やはりあの人に影響されたのか！ 俺の貞操は寝てる間に奪われたのか！！

「心配かけて悪かったな十代。捨てられたデッキは調整用に使っ寄せ集めのデッキ！ 本当のデッキはここにある」

ミサワが上着を脱ぐとそこには六つのデッキケースがあった。どうやらこれを見せるためにチャックを下ろしたらしい。

ふう、ヒヤツとしたぜ。どうやら三沢はあっちのほうに目覚めてはいないらしい。

「見ろ！ 俺の知恵と魂を込めた六つのデッキを！ 風！ 速きこと風の如く！ 水！ 静かなること水の如く！ 火！ 侵略すること火の如く！ 地！ 動かざること地の如く！ 闇！ 悪の闇に光さす！！」

「む、六つのデッキだと！？ そんなこけおどし、この俺の恨みの炎で焼き尽くしてやるわ！！」

なんでくの如くみたいなパターンだったのに最後まで戦隊物のきめ台詞みたいになってるんだ？ 俺には恥ずかしくてそんな台詞言えねえなあ。

それに、万丈目……。三沢って恨まれるような事してないんだけどな。どっちかというと八つ当たりじゃないか？ 逆恨みも立派な恨みといえればそれまでだが……。

「フン、決まった！ お前を倒すデッキは、これだああ！！ セツトアップ！ これがこけおどしかどうかすぐにわかるぜ万丈目！！」

「こい三沢ああ！！」

「「決闘」」

先攻は万丈目。地獄戦士とリバーズカードを一枚伏せてターンエン

ドか。

頭に血が上ってるかと思えばまあ堅実な手を打つな。腐ってもブルーでトップを張っていただけのことはある。

「三沢が選んだのはどの属性のデッキだ？」

そして三沢のターン。三沢はハイドロゲドンを召喚した。全身が泥水に覆われているようなモンスターが出てきた。

「水！」

三沢が選んだのは水か。静かなるゝとか言ってたし、ハイドロゲドンってことはまさかあれ積んでるのか？ 強力だが召喚条件が難しく汎用性も低いあのカードを。

三沢は地獄戦士に攻撃。そして撃破。それぞれのモンスター効果が発動され、三沢には万丈目と同じだけの400ポイントのダメージを受けるがハイドロゲドンの効果でハイドロゲドンの2体目をデッキから特殊召喚する。

ヘルソルジャー

《地獄戦士 / Chthonian Soldier》

†

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 戦士族 / 攻1200 / 守1400

このカードが相手モンスターの攻撃によって破壊され墓地へ送られた時、

この戦闘によって自分が受けた戦闘ダメージを相手ライフにも与える。

《ハイドロゲドン / Hydrogeddon》

†

効果モンスター

星4 / 水属性 / 恐竜族 / 攻1600 / 守1000

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、自分のデッキから「ハイドロゲドン」1体を特殊召喚する事ができる。

あれ？ 万丈目が地獄デッキに戻ってるロマンカードのVWXYZはどこ行った？

「まだ俺のバトルフェイズは続いている。俺はもう一体のハイドロゲドンで万丈目に直接攻撃！」

「う、うわあああ！！」

三沢

LP4000 3600

万丈目

LP4000 2000

ずいぶんライフに差がついたな。というか低攻撃力モンスターを表攻撃表示にしやすい今の流行だとハイドロゲドンつええな。

「ぐ、俺は罠カードリビングデッドの呼び声を発動する。このカードは自分の墓地にあるモンスター1体を特殊召喚することが出来る。俺は地獄戦士を特殊召喚」

《リビングデッドの呼び声<sup>よこえ</sup> / Call of the Haunted

永続罠（制限カード）

自分の墓地からモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスター

を破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

しかし、いまさら地獄戦士じゃどうにもならないか？

「さらに魔法カード地獄の暴走召喚を発動する。このカードはモンスターが特殊召喚されたときお互い同じモンスターをデッキ、墓地、手札からすべて攻撃表示で特殊召喚する。」

地獄戦士が三体並んだか、三沢の場にはハイドロゲドンが3体だが、デッキにはもう残っていないためハイドロゲドンはバニラカード、スペックで劣る地獄戦士をうまく使えば万丈目にも勝ちの目はある。

「何体地獄戦士をそろえようと攻撃力は1200ハイドロゲドンには及ばない」

「しかし何か、策があるはずだ」

「ギルフォード・ザ・ライトニングとか、神獣王バルバロスなら三沢は一気に窮地に立たされるな」

「当たり前だ！ オベリスクブルーでカイザーの跡を継ぐのはこの俺だ！！」

「とかいってますが、跡を継ぐ宣言をされた本人としてはどうです？」

「それは……。ノーコメントだ」

「さいでつか」

「装備魔法ヘル・アライアンスを発動！ 装備モンスター度同名のカード1枚につき攻撃力800ポイントアップ！ 装備した地獄戦士の攻撃力は3600だ」

《ヘル・アライアンス／Chthonian Alliance》



†

## 装備魔法

フィールド上に表側表示で存在する装備モンスターと同名のモンスター1体につき、

装備モンスターの攻撃力は800ポイントアップする。

OCGのヘル・アライアンスは単独では効果を発揮せず、2体以上の同名カードが必要になります。アニメ版効果では団結の力のように単体でも効果を発揮します。

団結の力でいいと思うのだが、相手のカードも数えるから完全下位互換ではないのか？

しかしほんとに地獄デッキになってるな。VWXYZのロマンはほんとにどこいったんだろう？

攻撃力が上昇した地獄戦士で三沢のハイドロゲドン1体を攻撃する。これでライフ差は逆転したな。

しかも地獄戦士はダメージをあいってプレイヤーにも与える効果。これはちよいと辛いかも知れないな。

三沢

LP3600 1600

「まだだ、いでよオキシゲドン！ 攻撃力が1200の地獄戦士を攻撃！」

「ぐ、しかし地獄戦士の効果でお前にもダメージを与える」

《オキシゲドン/Oxygeddon》 †

効果モンスター

星4/風属性/恐竜族/攻1800/守 800

このカードが炎族モンスターとの戦闘によって破壊され墓地へ送ら

れた時、

お互いのライフに800ポイントダメージを与える。

万丈目

LP 2000 1400

三沢

LP 1600 1000

「さらに俺は、ハイドロゲドンでもう一体の地獄戦士に攻撃」  
「ダメージすべてお前に跳ね返るんだぞ!？」

万丈目

LP 1400 1000

三沢

LP 1000 600

「いくらやつても自分のライフポイントが削られていくだけだよ」

「いや、これでいいんだ」

「え？」

「十代の言うとおりだ」

「ええ？」

「装備魔法のついた地獄戦士の攻撃力は3600、よほど強力なモンスターを召喚しない限り倒すことは不可能。しかし見る」

「そっか、地獄戦士が減ったことで、攻撃力がダウンしたんだ」

気づけよ丸めがね…。

カイザーに全部解説されて台詞がなくなってしまった。

しかし三沢のデュエルが的確すぎて突っ込みどころが見当たらん!!

地獄戦士

3600 2000

「あえて付け加えるならここからが正念場だ」

「へ？ どういうこと？」

「三沢の残りライフが低すぎる。残りの地獄戦士を倒すのに攻撃力2000以上2500以下のモンスターで攻撃しなければならない。また逆に攻撃力3000オーバーなら効果前に万丈目のライフがなくなるが、それだって厳しいことには変わらない」

「高すぎてもだめ、低すぎてもだめなんて……」

「デッキによつてはその攻撃力帯がまったく入っていないこともありうる。ここが正念場だな」

三沢はリバースカードを一枚セットしてターンエンドか。

万丈目だっておちおちしていたら負ける、地獄戦士を生かしつつ三沢のモンスターを壊さないとならない。

「そんな小細工は通用しないぜ。俺は地獄戦士と手札すべてを生け贄に火炎魔人ヘル・バーナーを召喚する」

《炎<sup>えん</sup>魔<sup>ごくま</sup>人ヘル・バーナー / Infernal Incinerator》  
+  
効果モンスター

星6 / 炎属性 / 悪魔族 / 攻2800 / 守1800

このカードを除く自分の手札を全て墓地に捨て、

さらに自分フィールド上の攻撃力2000以上のモンスター1体を生け贄に捧げなければ通常召喚できない。

相手フィールド上モンスター1体につき

このカードの攻撃力は200ポイントアップする。  
このカード以外の自分フィールド上のモンスター1体につき、  
このカードの攻撃力は500ポイントダウンする。

このカードの初登場は火炎魔人ですが次回の登場ではなぜか炎獄魔人に名前が変わっています。OCGでは炎獄魔人になっています。なぜ名前が変わったのは不明です。

なんかそんなードあった気もするなあ。手札吹き飛ぶのって痛すぎじゃないか！  
攻撃力は高いがよくそんなモンスターを使う気になるな。

「はっはっはっはっは、どうする三沢！？ このヘル・バーナーは上級モンスターだ。しかも相手の場のモンスター一体につき攻撃力が2000アップする。お前のモンスターは三体！ 攻撃力3400だ！」

火炎魔人ヘル・バーナー  
2800 3400

「いけええ！ 恨みの炎を受けこの学園から消え去れ三沢あ！」  
「畏発動アモルファス・バリア！ このカードは3体以上のモンスターがいるとき相手の攻撃を無効にしてバトルを終了させる！ 残念だったな万丈目」

「しぶといやつめ。しかし次のターンで確実にお前は終わりだ」  
「次のターンがあるとすればな」

アモルファス・バリア（アニメ）

## 通常罠

3体以上のモンスターが自分フィールドにいるとき発動できる。  
相手モンスターの攻撃は無効にして、バトルフェイズを終了させる。

要は弱体化した攻撃の無力化つてところか。はじめてみるカードだが使い勝手は悪そうだ。

「地獄戦士がいなくなったからな。ヘル・バーナーをどうにか出来れば三沢が勝つ」

「どうにかって攻撃力3400ツスよ」

「もともとは2800だ。カイザーならパワーボンドサイバーツイン。十代ならテンペスター+スカイスクレイパー、明日香ならサイバーレイダー+フュージョンウェポン。お前だってパワーボンドスチームジャイロイドでいけるだろう。」

「俺のターン、俺は魔法カードボンディングH2Oを発動。ハイドロゲドン2体とオキシゲドン1体を生け贄にささげ、ウォーター・ドラゴンを召喚！」

《ボンディング - H2O / Bonding - H2O》  
†

## 通常魔法

自分フィールド上に存在する「ハイドロゲドン」2体と

「オキシゲドン」1体を生け贄に捧げる。

自分の手札・デッキ・墓地から

「ウォーター・ドラゴン」1体を特殊召喚する。

ここでウォーター・ドラゴンか。勝負はついたな。

しかし三沢もよくあんなカード使いこなすよな。VWXYZやゲート・ガーディアンよりはましとはいえ、あれも結構召喚条件厳しいはずなんだが。

《ウォーター・ドラゴン/Water Dragon》  
効果モンスター

星8/水属性/海竜族/攻2800/守2600

このカードは通常召喚できない。

「ボンディング-H2O」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

炎属性と炎族モンスターの攻撃力は0になる。

このカードが破壊され墓地へ送られた時、自分の墓地に存在する

「ハイドロゲドン」2体と「オキシゲドン」1体を特殊召喚する事ができる。

「そして、俺の場のモンスターが減ったことで、ヘル・バーナーの攻撃力はダウンする」

火炎魔人ヘル・バーナー

3400 3000

あれ？ ウォーター・ドラゴンの効果で炎属性の攻撃力0にするんじゃないかって？ 攻撃力が下がるタイミングなんてなかったような気がするんだが…。

「だが、俺のモンスターのほうが攻撃力は上だ」

「フン、それはどうかな？ すでにお前を倒す方程式は完成している」

「これまでのバトルも、計算のうちだというのは」

「全部計算しているわけではないが、ある程度この最終形は描いていただろう。でなければウォーター・ドラゴンなんてピンポイントで効果を発揮するカードを主力になんて出来ないさ」

「ウォーター・ドラゴンの特殊効果発動。このカードが場にいる限り、炎属性、炎族モンスターの攻撃力は0となる！ 行くぞ、アクアパニツシャアー！！」

ああ、ここで発動するんだ。TFと違って、演出でひとつずつ解決していくからこういう感じになるのかもしれないなあ。うーん、とするとTFじゃできない裏技とかありそうだな。スキルドレインとか…。

ウォーター・ドラゴンが引き起こした津波が万丈目を襲う。

って水浸しになってるんだが。あ、万丈目がリングから落ちた、ソリッドビジョンってどうなってるんだよ…。

「うっわああっああ！！」

万丈目

LP1000 - 1800

「万丈目…お前はデュエリストとして」

「うるさい、お前が偶然水属性デッキを選んだから俺は「違うな」

…え」

「偶然なんかじゃない。お前が教えてくれたんだ。デュエルが始まる前に」

ああ、恨みの炎とか何とかいってたなそういえば。でもそれだけでウォーター・ドラゴンは博打過ぎないか？

「つまり、デュエルの前からこの勝負は決まっていた。そして万丈目、海に捨てられていたカードは間違いなく俺のだ」

「なぜ、わかる？」

「それはこいつに、ついメモしちゃったからだよ、数式を」

カードをメモ帳代わりにするんじゃない！！ てかメモ帳くらい買え！！

「万丈目！ カードを大切に出来ない者はデュエリストとして失格だぞ！」

「なあ、明日香？」

「何？」

「カードにメモしたお前が言っなくなって突っ込みはしないほうが賢明だよな」

「空気読んでやめておいたほうが無難だと思うわよ」

「だよな」

「十代！ オベリスクブルーに入るのは、お前を倒してからだ」

「よし！ それなら今すぐデュエルをやろうぜ」

「お前と戦いたくて、うずうずしてたところさ」

「だが、今はだめだ」

「え？」

「ここにある六つのデッキはE・HEROデッキを研究するための試作デッキに過ぎない」

「し、試作デッキだと、俺はそんなデッキに負けたのか…」

「新しく塗った壁が、数式で埋め尽くされたところには出来るだろう。お前のE・HEROデッキを倒す7番目のデッキが！」

「俺のデッキを倒すだと、おもしれえそのときこそ勝負だ。来い2番！」

「ああ、1番君」



こうして三沢はラーイエローに居残り、イエロー寮が空かないため  
万丈目もブルーに居残りとなった。

三沢にブルーの飯を奢ってもらうのはまだまだ先の話になりそうだ。

入れ替えデュエル 三沢VS万丈目（後書き）

三沢大先生って突っ込みどころ少ないんですよw  
アモルファス・バリアが無力化でいいじゃんとかそれぐらいですね。  
さすが、主席入学は伊達じゃないですね。  
今日中にもう一話は辛いかもしれません。  
なるべく間が空かないようにがんばります。

## 青春のデュエルテニス VS 部長（前書き）

そろそろ連続投稿が止まります。

次の更新は日曜か来週あたりになると思います。

## 青春のデュエルテニス VS 部長

いやー平穩つていいなあ。

十代の周りは騒がしいみたいだが、俺までとばっちりが来ることは稀だ。

十代はサルとデュエルしたとか、サイコショッカーとデュエルしたとか騒いでいたが、とうとうあいつのデュエル相手は人外までに到ったと感心したものだ。

あいつならそのうちアミーバとデュエルしても驚かな。

十代なら最近なんでもありな気がする。

俺は、普通に授業を受けて普通に寮でデッキ構築して普通に散歩しているだけの毎日だ。

そういえば明日香も散歩がすきなのか、灯台付近でよく見かける。一言二言会話してさようならって感じだけだね。

それと改めて今の制限を調べてみたら緩いのなんのってまさか苦渋の決断が使えるとは思っていなかったな。

墓地アドバンテージはやはり認識されにくいらしいね。

混沌帝龍やヤタガラスも無制限という恐ろしさ。これは出回っている数が極端に少ないため、禁止にしてもあまり意味がないらしい。大嵐だつてサイクロンだつて積み放題。でも3枚積んでるやつって見ないんだよなあ。おそらく魔法罫破壊よりも、モンスターの攻撃力を挙げることに比重が置かれているからだろうな。

それと、I2社がシンクロ召喚とエクシーズ召喚を開発したらしい。まだまだ数は少ないが、これからどんどん増えていくそうだ。ただ世間の評判は芳しくないらしい。特殊召喚がバンバンできたり、よほど強力なシンクロが手に入らないとそう感じるのかもしれないな

あ。

ただこれようやく手持ちのシンクロデッキも使えるな。いくつか組んではいるが、いままで封印ストレージで埃をかぶっていたのが日の目を見そうだ。

使うのは来年ぐらいからのがいいかもしれないな。あまり早すぎるというらぬ注目を浴びたりもするだろうし。

そんなこんなで平和に過ごしているが、なんか友人が少ない気がする。

十代、丸めがね、三沢、明日香と俺の交友関係は狭い。コアラは十代関係で知り合って入るが、友人というには微妙なくくりだ。

というか、全部十代絡みな気がする。もしかして十代がいなかったら、俺って友人のいない学園生活をすごしていたのかもしれない……。

気にしすぎないようにしておこう……。

さして今日は久々に購買にでも行って、パックでも買ってくるかな？ TFのカードは全部持っているが、TFでなかったカードって結構あるんだよねえ。アモルファス・バリアとか、あと打ち出の小槌とかも微妙に効果が変わってることに最近気がついた。まさかジャックス・ナイトがレベル4だったなんて気づかなかったぜ……。そんなこんなで、俺がカードを買う意味もしっかりあるのだ。

「おい、厚志ちょっと大変なんだ。きてくれ」  
「？」

十代が息を切らせながら走ってきた。あんなに急いでどうしたんだろ？

それになんであいつはテニスウェア着てるんだ？

またなんか事件でもあったのか？　今まで全部十代が解決してきたんだからわざわざ俺のところに来なくてもいいだろうに。

「どうしたんだ？」

「明日香がちよつと大変なんだ。説明してる暇はないから、黙ってきてくれないか？」

「なんだって？　わかった急ごう」

明日香は数少ない友人だ。見捨てるという選択肢はありえない。十代が自分で解決せず俺の力が必要だと思ったのなら、何か深刻な事態でもあったのかもしれない。

しかし、なにがあつたんだ？　翔みたいに誘拐さわぎでもあつたのか？

俺と十代は現場に向かって走り出した。そこで見たものは……。

「君が明日香君の恋人かい！？　君に明日香君をかけた勝負を申し込む！！」

「とりあえず、説明を要求したいのだが……」

「いやー、すまねえ。こうでもしないと来てくれないと思ってさ」

「まったく状況がわからないんだが……」

「安心して、なぜか賞品にされている私にもよくわかってないから」「なんだそりゃ……」

とりあえず整理してみよう。十代の案内でたどり着いたのはテニスコートだった。そしてそこにいたさわやかスポーツマンに開口一番勝負を申し込まれた。

……整理してもまったく意味がわからん。

「とりあえず最初から経緯を話してもらわないと、分けが分からんのだが……」

「えっと、まずは昼の授業中にクロノス先生にボールが当たったのは知ってるよな？」

「そういえばそんなこともあったな。たしか明日香に当たりそうだったボールをテニス部の部長が弾いて、それが顔面ヒットしたんだよな？」

「そうそうそれなんだけどさ、なぜか俺のせいにされて、罰としてテニス部に一日体験入部されられたんだ」

「それで授業でもないのにテニスウェア着てたのか」

「ああ、そこから俺もよくわかんないんだけどさ、突然部長に明日香のフィアンセってやつをかけた勝負を挑まれたんだ」

「ぶはっ！！ なぜそうなる？」

「な？ よくわかんねえだろ？」

「明日香君には君たちのようなオシリスレッドは似合わないからだよ」

「はあ、人の交友関係に口を挟むテニス部の部長も分からんが、俺が呼び出された理由がもつとよく分からん」

「アニキが部長さんに詰め寄られたときに明日香さんと一番仲がいいのは厚志君って言っちゃったんスよ」

「なぜそこに俺が出てくる……」

「実際仲いいだろ」

「確かに仲は悪くはないが……」

なんとなくか……ばかばかしくなってきたな。タイタンとかの時みたいに危険が迫るのかと思ったが、さわやか部長の青春が暴走しただけのようだ。

明日香の表情を見るとなんともいえない苦虫を噛み潰した顔をしている。

まあいつの間にか賞品にさせられたらあんな顔にもなるよな。

勝ち負けなんざどうでもいいが、明日香もあんなやつに言い寄られるとは可哀想に……。

十代も被害者だな。そもそも事の発端として、なぜ十代が罰を受けてるんだ？ さらになぜテニス部への体験入部なのか理解に苦しむ。

「そもそも勝負って何やるんだ？」

「ここはテニスコート。テニスで決着をつけるに決まってるじゃないか」

「自分の一番得意なことで確実に勝ちを狙うその懐のせせこましさには脱帽だな」

「ならば何が良いというんだね」

「ボタンホール早縫い競争とか」

「ぼ、ぼたってなんだねそれは！！ そんな勝負は認められない！」

なんかまじめに相手をするとか疲れるな。十代め暑苦しいのが嫌で俺に押し付けやがったな。

「十代。貸し一つな」

「う、まあしょうがねえか」

十代も押し付けた自覚はきちんとあるみたいだな。

それよりも勝負の方法ねえ。妥当なのは……。

「明日香に決めてもらうってのはどうだ？」

「む、確かにそれなら公平だね！ いいだろう受けてたつよー！」

「というわけで明日香。何でも良いから決めてくれ。ちなみにテニスを選ぶと、ストレートで負けるだろうからそのつもりで」

「そうねえ、デュエルアカデミアなんだからデュエルで決着をつけるっていうのはどうかしら？」



「なんとなく予想はできたけどな。そんなところだろ」

「いいだろう。カイザーに勝るとも劣らないと呼ばれた僕の実力みせてあげるよ!!」

な!! それは学園トップクラスの実力を持つということか!?

あの初手パワーボンドサイバードラゴン三体融合とかざらのあの力イザーに……。

むう、明日香は嫌がってたみたいだから、てっきり部長の苦手な分野で勝たせてくれると思ったがそう甘くはないらしい。負けるのもしやくだから真面目にやるか。

「なあなあ明日香?」

「何?」

「あの部長に勝ってほしい? 負けてほしい?」

「正直あの部長のフィアンセなんてゾツとしないけどね。カイザーに匹敵するって言う噂のデュエルの腕前を見てみたかったというのが本音ね」

「なるほど……。ほんじゃ真面目にやるか」

「厚志あなた今まで真面目にやる気なかったの?」

やべ、ちよつと怒ってる。フォローいれとかないと後が怖い。

「あの部長が明日香の好みで、フィアンセになるのがまんざらでもないって言うなら手を抜くとまではいかなくても、そこまで強力なデッキを使う気はなかったさ。でもあの部長は御免蒙るって言うなら完璧に封殺してみせるよ」

「はあ、もういいわ。封殺するっていうならちゃんとやってよね。

暑苦しいのは趣味じゃないの」

「あいよ、お姫様」

そして俺たちはテニスコートで向かい合う。いまいちやる気がなかったが、さすがにあんな暑苦しいのにつき合わせられる明日香が不憫だ。きっちり封殺しておかんな。

「いいなあ厚志のやつ。勝負がデュエルだったらおれがやってただけだなあ」

「アニキが厚志君に押し付けたんじゃないスか」

「そうなんだけどさあ」

「明日香さんを巡る、二人の男性」

「素敵ですわ」

「あなたたちも人事だと思って……」

「明日香君にふさわしいのはこの僕のような男だ。君のような男はふさわしくない!!」

「とはいったもの。いまいちモチベーションあがんねえなあ」

「「デュエル  
決闘」」

「僕のターン、ドロー!! 先手必勝魔法カード、サービスエースだ!」

「サービスエース?」

「このカードはねえ、僕が選んだカード種類を当てるギャンブルカードさ」

サービスエース（アニメオリジナル）

通常魔法カード

手札のカードを一枚選び、相手がそのカード種類（魔法・罠・モンスター）を当てる。

外れた場合1500ポイントのダメージをあいてライフに与える。

その後選んだカードを除外する。

「当たれば何もなければはずせば君は1500ポイントのライフダメージを受けることになる」

ギャンブルカードかよ……。城之内さんが好きそうなカードなあ。うまくはまればあれだけでゲーム終わるぞ。

考えても分からんもんは分からんな。

「じゃあ、魔法カードで」

「ほんとにいいのかい？ 変えるなら今のうちだよ？」

「どんなデッキかもわかんないんだ。当たろうが外れようがどうでもいい」

「残念モンスターカードだ。このカードをゲームから除外してサードビスエースの効果で君に1500ポイントのダメージを与える！」

選んだカードは除外するのか、手札2枚で1500ポイントって言うのはどうなんだろう？

厚志

LP 4000      2500

「さらに僕は、リバーズカードを一枚セットしてターンエンドだ」

壁モンスターはなしか……。あのリバーズは攻撃に対抗する。罠カードと見るべきだな

「俺のターンドロ。俺は豊穣のアルテミスを守備表示で召喚。リバーズカードを3枚伏せてターンエンド」

アルテミスってことで分かんと思うが俺のデッキはパーミッションだ。

とりあえず手札にサイクロンが来なかったからな。今は安全策をとって次のターンから勝負をかける。

「おやおや、攻めて来ないとは臆病者だね。そんなやつに明日香君は渡せない――！」

「どうでもいいから早くしてくれよ」

「僕のターンドロ―！！ 守ってるだけじゃ勝てないよ！ 僕はもう一度サービスエースを発動させる。さあ君にこのカードが当てられるかな？」

2枚目のサービスエースって完全にこいつバーンデッキじゃないか？ ライフ4000でバーンデッキを組めばそりゃ強いってさ。

「カウンター罠マジック・ドレイン発動。その魔法カードの発動を無効にする。さらに魔法カードを手札から捨てることでこの効果は無効になる」

《マジック・ドレイン/Magic Drain》 †

カウンター罠

相手が魔法カードを発動した時に発動する事ができる。

相手は手札から魔法カード1枚を捨ててこのカードの効果を無効にする事ができる。

捨てなかった場合、相手の魔法カードの発動を無効にし破壊する。

「なっ！ うぐぐぐ」

これで圧倒的にアドバンテージで勝利できる。

「ぼ、僕は手札から強欲な壺を捨てる！ これでサービスエースは有効だね？」

「あ、ああ、それでいい。しかしマジックドレインが発動したため、豊穡のアルテミスの効果で1枚ドローする」

《豊穡<sup>じふせき</sup>のアルテミス / Bountiful Artemis》  
効果モンスター

星4 / 光属性 / 天使族 / 攻1600 / 守1700

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、  
カウンター罠が発動される度に自分のデッキからカードを1枚ドロ  
ーする。

こいつほんまもんの馬鹿か？ 先に壺使えよ何で温存してるんだよ  
！！ そもそもマジックドレイン通して壺優先だろう普通は！！

「すごいわね。パーミッションは手札の消費が激しいのに、手札枚  
数で相手より上だなんて」

「あのデッキ使った厚志と何回かやったけど、すごいときは手札1  
0枚くらいになってたりするんだよなあ」

「アニキ一回ぼろぼろにやられちゃったもんね」

「じゃあ、改めてこのカードの種類を当ててみたまえ！！」

魔法カードはまずないだろう。強欲な壺を葛藤しながら捨てたくら  
いだ。あとは比率で言うならモンスターだ。しかし前のターンモン  
スターを召喚しなかったということは、手札にモンスターがないの  
か？ ということは罠カードだろうか？ しかし普通のデッキには  
罠はそう多くは入ってないはず、10枚程度が限界だ。貴重な罠を  
サービスエースのコストにするだろうか？

「ふむ、モンスターで」

「ほ、本当にいいのかい？ こ、後悔しないかい？」

おいおい、声震えてないか？ 正直どっちでもいいんだけどなあ

「ファイナルアンサー、モンスターで」

「正解だ。このカードをゲームから除外する。そしてターンエンドだ」

今までの傾向からみるとこいつはただのバーンデッキ使いだな。フルバーンとかロックバーンとかじゃなくてよかった。

そしてまた壁モンスターなしか、ゴーズとかだったらやだな。トラゴエディアは相手の手札の枚数が大したことがないからどうでもいいがゴーズはきつい。

ま、殴るしかないんだけどね。

「俺のターンドロー、とりあえずバトル。アルテミスで直接攻撃」  
ダイレクトアタック

「はっはっは、かかったね！ 僕は罠カードレシーブエースを発動」  
ダイレクトアタック

！！ このカードは相手の直接攻撃を無効化し相手に1500ポイントのダメージを与えるのさ！」

レシーブエース（アニメオリジナル）

通常罠

相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスターの攻撃を無効化し、相手ライフに1500ポイントのダメージを与える。

「甘い、カウンター罠ギヤクタンを発動。罠カードの発動を無効化し、そのカードを相手のデッキの中に表向きで戻す、そしてその同

名カードはそのカードをドローするまで使うことができない」

ギャクタン

カウンター罠（TF4オリジナル）

相手の罠カードを無効にし、

そのカードを相手のデッキに表向きで戻してシャッフルする。

そのカードをドローするまで相手は同名カードを発動する事はできない。

「な、なんだって……」

「そして豊穰のアルテミスの効果で1枚ドローする」

「バトル続行だ。行け！ アルテミス」

「うわあああ」

部長

LP4000 2400

「俺はリバーiscardを3枚伏せてターンエンド」

こりゃ、最初に伏せた攻撃の無力化は必要ないかもしれないな。

「ぼ、僕のターンドロー、僕は君に負けるわけにはいかない……」

明日香君のためにも……」

「大体フイアンセって、本人の了承も両親の同意も得てないのに勝手に外野があれこれ言うもんじゃないだろうに……」

「う、うるさいうるさい……！僕はスマッシュエースを発動……」

デッキの上から1枚カードをめくりそれがモンスターだった場合君に1000ポイントのダメージを与える……」

スマッシュエース（アニメオリジナル）

## 通常魔法

デッキの上からカードを一枚めくる。  
そのカードがモンスターカードだった場合、相手ライフに1000のダメージを与える。

めくったカードがどうなるかは不明です。

こいつのデッキはこんなのばっかなのか？ てかバースカードならもっといいのあるだろうに……。

「ならばもう一度カウンター罠マジック・ドレイン発動」

「そ、そんな……くっ、む、無効化はしない」

「そうか、それならばカウンター罠の発動を成功させたことで、冥王竜ヴァンダルギオンを特殊召喚」

「な、なんだってー」

めいおうりゅう

《冥王竜ヴァンダルギオン/Van·Dalgyn the Dark Dragon Lord》†

効果モンスター

星8/闇属性/ドラゴン族/攻2800/守2500

相手がコントロールするカードの発動をカウンター罠で無効にした場合、

このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

この方法で特殊召喚に成功した時、

無効にしたカードの種類により以下の効果を発動する。

魔法：相手ライフに1500ポイントダメージを与える。

罠：相手フィールド上のカード1枚を選択して破壊する。

効果モンスター：自分の墓地からモンスター1体を選択して自分フィールド上に特殊召喚する。



「ヴァンダルギオンの効果により1500ポイントのダメージを受けてもらう」

「そ、そんな。うわあああ」

「そしてアルテミスで一枚ドロっと」

部長

LP2400 900

「す、すっげーな、フルボッコじゃんか」

「こ、怖いっス」

「宣言どおり封殺してるわね……」

「で、どうするね？」

「僕は伝説のビックサーバーを召喚だ!!」

「残念カウンター罠キックバックを発動。そのモンスターは手札に帰ってもらう」

「な、なにー」

《キックバック/Forced Back》 †

カウンター罠

モンスターの召喚・反転召喚を無効にし、そのモンスターを持ち主の手札に戻す。

「そして、アルテミスで1枚ドロっと」

「タ、ターンエンドだ」

「あ、そう？ 最後の手札だったしね。ほんじゃ俺のターンだな。場のカードも手札もなしなら怖いものは何もないな。ヴァンダルギオンで直接攻撃!!」

ダイレクトアタック

冥王葬送!!」

「う、うわあああ!!」

部長

LP900 - 1900

終了のブザーとともにソリッドビジョンが終了する。

さてと、うなだれている部長さんは放っておこう。この手のタイプは勝手に自己完結してそのうち復活するだろうし。

「何とか勝ったぞ」

「ありがとう厚志。けど本当に封殺するなんてね」

「アルテミスが初手に来たっていうのもあるが、デッキ相性の問題だな。サーブスエースで自分の手札をガンガン削っていくんだから自業自得だ」

「鈴本が勝利したってことは……」

「明日香様のフィアンセは鈴本さんってことになりますわね」

「きゃー」

「ちょ、ちょっとやめてよ二人とも」

「さっきのデュエル中にも言ったが、フィアンセってもんは本人の上を素通りしていい話じゃないだろうに……」

「なあ、ずっと気になってたんだけどさ」

「どうしたのアニキ？」

「フィアンセって何？」

「……」

「落ちがついたところで帰るか」

「そうね。一気に気が抜けたわね」

「なあ、教えてくれよ！ フィアンセって何だよ？」

「アニキはもつと一般常識を身につけるべきだと思っ……」

しかし今日は碌なことがなかったな。十代が予想以上に横文字に弱

いつてことがわかったただけかあ。

「誰か教えてくれよ!! .....なんかすつきりしねええー!!!」

## 青春のデュエルテニス VS 部長（後書き）

ちなみに明日香と厚志はたがいに恋愛感情はありません。

ただ厚志は友人が少ないため友人を大切にしようと思います。

しかし十代関係のトラブルに巻き込まれたくなくて、十代とある程度距離をとっているため、本人の認識以上に明日香と仲がいいと思われるています。

一応ヒロイン候補は明日香、レイ、セイコさんあたりですね。オリヒロインになることはありません。

ドロー！　ドロー！　ドロー！　（デュエル無し）（前書き）

なんだかんだ言っ　て連日投稿ですね。

今回はデュエル無しのあつさり風味。

いちいちデュエル突っ　込ませるの疲れたじゃないですよ。

ええ違いますとも。

ドロー！　ドロー！　ドロー！　（デュエル無し）

さーてと、小腹がすいたから購買でパンでも買って帰るかな。

「お、厚志じゃん。お前も購買に行くのか？」

「ああ十代か、ちょっと小腹がすいたからパンでも買おうと思ってな」

「へえ、奇遇だな。俺もドローパンに挑戦するところなんだ」

「あのギャンブルパンか……。俺は普通のアンパンで十分なんだが」

「ギャンブルパンって言うなよ。あれはドローの腕を鍛えるのに最高の特訓なんだぜ」

ドローって鍛えるものなのか？　ただの運だと思うのだが。

本人が納得してるならいいか。あんまり突っ込んでもトメさんへの営業妨害になるし。

「アニキは黄金の卵パンの20日連続レコードを持ってるんスよ」

「でも最近調子悪いんだよね。1週間もはずしてるし」

「黄金の卵パンって一日一個限定のパンだったけ？」

「そうそう、無茶苦茶うまいんだぜ」

「ん……。それって突然外れるようになったのか？」

「ん？　そうだな、ここ最近急に外れるようになったんだよね」

「じゃあ、十代のドローじゃなくて別の要因を疑ったほうがいいかもしれないな」

「別の要因？」

「例えば鶏が卵を産まなくなったとか」

「そんなうわさは聞いてないっすね」

「トメさんに聞けば教えてくれるんじゃないのか？」

「それもそうだな。よし翔トメさんのところ行って聞いてみようぜ！」

「あ、待ってよ〜アニキ〜」

すごい勢いで走っていったな、台風みたいなやつだ。  
俺はアンパンが食べたいから、ドローパンに興味ないし〜。

「今日の店番はセイコさんですか。アンパンください」

「はい。鈴木君はほかのみんなみたいにドローパンには挑戦しないんですか？」

「正直あんまり興味ないですね。自分はアンパンで十分ですし」

「鈴木君くらいですね。アンパンばかり買ってる人は」

「シンプルな味が好きなんですよ。はいお金」

「毎度ありがとうございます〜」

もぐもぐ

うむ、この素朴な味が一番だ。納豆パンとか、クサヤパンとか、ゲテモノが大量に混じってるドローパンは怖くて買えない。

食べている間手持ち無沙汰なので、その辺にあったチラシを見てみる。

なになに、デュエルキング武藤遊戯のデッキ大公開！！ 混雑が予想されるため、整理券を販売いたします。

ほうほう、遊戯さんのデッキか〜。個人的にはレシピさえあれば他人のデッキなんぞ公開しても仕方がないと思うのだが、武藤遊戯って名前はある意味伝説だからな〜。有名なメジャーリーガーのバットとかグローブとか見る心境なのかもしれないな。

アンパンも食べたし寮に帰るかなっと。

「厚志」

「十代か。今度はどうしたんだ？」

「やっぱり厚志の言ったとおり卵パンだけが盗まれてるみたいなんだ」

「よくまあ、そんなピンポイントの泥棒がいたもんだなあ」

「ああ、それで今晚購買に張り込むことにしたんだけど厚志も手伝ってくれないか？」

「張り込むのにそんなに人手いるのか？」

「念のためつてやつさ」

「ふむ、十代には毎朝世話になってるから別にかまわないぞ」

「そう言ってくれると思ったぜ。それじゃ、今晚購買で」

そういうと十代は走り去っていった。慌しいやつだな。

しかし、卵パン泥棒ねえ。ドロパンの目玉だけが盗まれていりやトメさんも商売上がったりだな。

倫理委員会の脅威の捜査力があれば犯人簡単に捕まえられる気がするのは気のせいかな？

しかしドロパン買うほど金ないのか？ 盗まずに買えよって気もするがまあいいや。

「それでレッド寮の人間はともかく、何で明日香までいるんだ？」

「別にいいじゃない。暇だからよ」

「きつと、卵パン泥棒が許せないんだぜ」

「アニキ、聞こえちゃうつスよ」

「みんなご苦労様。お夜食におにぎり作ってきたわよ」

「どうもすいません」

「うまそ」

「中の具は何なのかな？」

「梅、おかか、鮭だよ。精をつけてがんばって。今夜は私も泊まるから」



「シャケはどれかなあ？」

「その……」

「待った！引きおにぎりだ、俺もシャケが好きだぜ順番で引こつ」

「ええーみんなで分ければいいんだな」

「でもおもしろそう」

「下らなそう」

別に嫌いな具はないから何あたっててもかまわないが、わざわざこんなことしなくても……。

それに面白そうか？ 十代、翔。

「俺のターン、ドロー…… シャケ召喚」

ほんとに当ててやがる楽しそうだな十代……。

十代とはトランプゲームで勝負しないようにしよう。ポーカーとかやったらロイヤルストレートフラッシュがバンバン出る気がする。

同じ理由で麻雀も危険だな。純正九連とか出されそうだ。

そして深夜。十代達はテーブルの下、トメさんは机の下、明日香はロッカー、そして俺はレジの下に隠れている。

思い思いのところに隠れた結果だが、そもそもなんでみんな休憩室に隠れてるんだ？

そして物音がした。どうやら下手人はシャッターを素手で上げているらしい。

あれ電動シャッターだろ！！ どうやって素手であげるんだよ！！

構造的に無理だろ！！ てかシャッター壊れて警報でないのかよ！！

どうなってんだデュエルアカデミアの警備。こんなんで大丈夫なの

か？

十代たちが休憩室から出てきたな、トメさんが照明スイッチのほうに行ってるのがうつすら見える。犯人はパンをあさることに夢中になつて気づいていない。

「今だ！！」

十代の合図とともにトメさんが照明をつける。そして犯人の姿が明かりの下にさらされた！

つて野人！？

そこにいたのは筋骨隆々の野人だった。原住民がいたのかこの島！

「アーアーアー」

どこのターザンだよ！

そしてなぜ叫ぶ！ 叫ぶ意味ねえだろ！！ ここジャングルじゃねえし！！

そして野人はドロップンの入っているケースに飛び乗りシャッターをぶち破った！！

ちよつと待て！！ そんなんで壊れるなんてどんだけ脆いシャッターだよ！！

キヤスターついているからそれで移動しようという発想はわかるがシャッターが破れるのは非常識にもほどがある。

嗚呼……俺の常識が崩れていく……。

十代たちは俺と違い一切動揺することなく野人を追いかけていった。俺の脚じゃ追いつくのは不可能だな。

今の俺にできることは…。

「トメさん。とりあえず警備の人呼んでおきますね」

「お願いするよ。私も追いかけてくるからね」

マジか、どんだけパワフルなんだあの人。

とりあえず宿直の警備員を呼ぶために内線をかけてボーっと待つ。追いかけていった連中が誰も帰ってこねえなあ。

十代のことからデュエルでもしているのかもしれないなあ。あいつのデュエル脳なんかねえかな。

30分くらいかけてようやく来た警備の人に事情を説明して、許可が下りたので俺は帰ることにした。

十代たちがきたら先戻ってるとの伝言を頼んでおいたので、放置で問題ないだろう。

さて寝よ寝よ、明日も授業あるし夜更かしは健康に悪いしな。

そして翌日。事情を聞いたところ犯人は原住民ではなく元ブルー生徒で大山という名前らしい。なんでもドローを鍛えるために一年間自然の中で生活してたとか。

そしてその修行を完成させるため、卵パンを狙ったらしい。

今はブルー生徒として戻ってきたそうだ。

何でもデュエルで仲良くなった十代と一緒にドローパンを買う約束をしたらしい

やっぱりデュエルやってたんだな。十代にとってはあらゆる問題を解決する。万能ツールなのかもしれないが俺はそこまで信じられないなあ。

ドローを鍛えるってこと自体が非常にばかばかしいのは俺だけか？でもやってることは失踪、窃盗、器物破損だよな。

退学どころか賠償金も止められてもおかしくないはずの犯罪なんだが……。シャッター大破させてたからな。業者込みで修理費二十万

はいくぞあれ。結構大型のシャッターだし、業者って本土から呼ばないとだめだよな。  
そんなんでいいのかデュエルアカデミア。

「あれ、厚志がドローパンなんて珍しいな」

「トメさんに聞いたら、ゲテモノパンはかなり確率が低いらしい。調理パンが大半だって言ってたからな。それより十代こそブルー生徒と連れ立っているのは珍しいな」

「これがこないだ話した大山だよ」

「ああ、あの野人。ということは卵パン狙いか」

「おう、トメさん！ 今日まだ卵パン出てないよね？」

「今日はまだだよ」

「よし、やろうぜ大山！」

「おう、修行の成果今見せるとき！！」

燃えてるねえ。別に卵パンなんざどうでもいいんだけどな。

「そこでこそそしてるのは明日香じゃないか、何で隠れてるんだ？」

「べ、別に隠れてるわけじゃないわよ。私はただドローの練習に…」

…

「こんなもんが練習になるのかが激しく疑問なんだがまあいいや」

「外れたー！」

「こっちも外れたー！！」

「にぎやかだねえどうも」

俺もそろそろ食うか。

な～にかな？ な～にかな？

「あ、卵パンだ」

「「「ええ〜!!」」」

「まあまあうまいけど、個人的に卵とパンってあんまり好きな組み合わせじゃないからな」

「な、なんて贅沢なやつ。私があれば引けなかったのに……」

「ずりーぜー厚志ー」

「今までの盛り上がりはなんだったのか……」

「まあまあそんな日もあるってさ」

ドロー！ ドロー！ ドロー！ （デュエル無し）（後書き）

ネットカフェ使いすぎて金欠ですw

とりあえず次回は神楽坂その次はレイ登場ですね。

レイの立ち位置が固まっていなかったりします。

DVDの返却日が23日なのでそれまでにはレイまで終わらせます。

## マジシャン対決 VS 遊戯デッキ（前書き）

あらすじ、タグを一部変更しました。

## マジシャン対決 VS 遊戯デッキ

デュエルキングのデッキ公開日もだいぶ近づいてきたなあ。

いろんなところでその噂話を聞く。

さすがに神のカードは入ってないって話したがそりゃそうだな。

神のカードはもうひとつの人格とともに埋葬されたんじゃないかな？  
っけ？

いまいち記憶が薄いなあ。

そもそも神のカードって生贄確保が大変だし。事故率高くなるしであんまりいいとこないなあ。

罠カードは効かず魔法も１ターンしか受け付けられないらしいが、地砕きや地割れでドカーンとかするし正直あんまり使い勝手のいいカードとはいえない気がするなあ。

それにしても神カードがないなら。ブラマジ主体のデッキになるかな？ 表の遊戯さんならサイレントコンビだったりするんだけど、デュエルキングⅡブラックマジシャンっていうイメージが固まっているから。裏の遊戯さんのデッキが公開されるんだろうなあ。

ふむそれに肖ってブラックマジシャンデッキでも作ろうかな？

あんまり目立ちたくないという理由で作ってなかったけど、使わなければオーケーだよな。

おや、あの人ばかりは何だろう？

購買の入り口で固まってるって非常に邪魔なんだが。

「よ、三沢大先生。これは何の集まりだい？」

「何で大先生なんだ？ まあいい、これは近々デュエルキングのデッキが公開されるだろ？」



「ああ、そうだな」

「その朝一番に見られる整理券があるんだが、その最後の一枚をかけたデュエルなんだ」

「別に朝一番で見なくてもいいだろうに。どうせ夕方になれば人はけるんだから」

「何言ってるんだ。伝説のデッキだぞ、一国でも早く見たいというのが人情じゃないか」

「そんなもんかねえ」

「君は時々冷めているな」

「まあなあ」

デュエルの様子を見てみると、戦っているのは翔とイエローの生徒だった。

翔は見知らぬロイドっぽいモンスター、イエローはモンスター無しだが伏せ2枚。

イエローが大嵐を発動し、黄金の邪神像トークンを2体出した。そしてそれを生贄に古代の機械巨人を召喚。なんかしゃべり方がクロノス先生っぽいが……。

「あいつはあんな口調なのか？」

「いや、神楽坂はクロノス先生のコピーデッキだ。あいつは記憶力がよくてな、他人のデッキにどうしても似てしまうんだ。それでプレイングも本人に近づけようとあんな口調なんだ」

「親戚か何かかと思ったぞ」

あ、翔が手札から魔法の筒を使った。あれ？ それってできるのか？ 古代の機械シリーズはダメージステップ終了時まで魔法、罫を発動できないはずなんだが、モンスター効果といえど罫を発動させるのはなんか変な感じがする。

翔の使ってるロイドも知らないカードだな。手札から罫って現実で

はマキュラとか王家の神殿とか軒並み禁止くらったはずなんだが…

それはともかく、翔の魔法の筒で勝負が決まったようだな。

「それにしてもコピーデッキねえ」

「ん？ どうした厚志」

「コピーデッキを何のために作るのかが重要だと思ってさ」

「何のため？」

「独り言だから気にしないでくれ、それよりもアンパン買わないとな」

「あ、おい……。何のため、か」

さうて、日課の夜の散歩に繰り出すか。運動は苦手だが目的もなくぶらぶらするのは趣味のようなものだ。今日は海沿いでも見よう。

海沿いを歩いていると、カードを見ながらにやついてる怪しいやつがいた。

あ、怪しい……。街中でやってたら警察呼ぶかも知れんな。

「ふん、ちょうどいいところにいた。お前俺とデュエルしろ!!」

「いや、意味わかんねえし」

しかも絡まれた！ 危ない薬でもやってんじゃないか？

「俺は最強のデッキを手に入れた。お前はその実験台とさせてもらう」

「最強？」

最強といえば1キルデッキか？ 図書館エクゾにデミスドザー、  
ダークダイブボンバーにカタパルトタートルとかあったな。ライフ  
4000ならフルバーンでもいけるな。

「そうだ！ 俺は最強のデュエルキングのデッキを手に入れたんだ  
！！」

「なんだ。デュエルキングのデッキか。よかった1キル特化デッキ  
とかじゃなくて」

「よかった？ よかっただと！！」

「あゝ、気にしないでくれなんでもないよ、うん」

けどこいつも泥棒したのか……。この間のブルー生徒といいアカデ  
ミアの生徒って泥棒多すぎねえか？

こいつも盗んだデッキで調子こいてるし、温厚な俺もちよつとさす  
がにイラつとしたな。

しかし今もってる手持ちのデッキは組んだばかりのブラマジデッキ  
しかないんだけどなあ。

まあ観客もいないし、こいつ一人くらいならばれても問題ないだろ  
う。

そして互いにデュエルディスクをセットする。

「決闘！！」

「先攻は俺だ！ 俺のターンドロー！！ 俺は手札から融合を発動  
！ 手札の幻獣王ガゼルとバフォメットを融合！ 有翼幻獣キマイ  
ラを召喚！！」

《幻獣王ガゼル / Gazelle the King of My  
thical Beasts》†

通常モンスター

星4 / 地属性 / 獣族 / 攻1500 / 守1200  
走るスピードが速すぎて、姿が幻のように見える獣。

《バフォメット / Berfomet》 †

効果モンスター

星5 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1400 / 守1800

このカードが召喚（反転召喚）に成功した時、

「幻獣王ガゼル」をデッキから1枚手札に加える事ができる。

《有翼幻獣キマイラ / Chimera the Flying Mythical Beast》 †

融合・効果モンスター

星6 / 風属性 / 獣族 / 攻2100 / 守1800

「幻獣王ガゼル」+「バフォメット」

このカードが破壊された時、墓地にある「バフォメット」か

「幻獣王ガゼル」のどちらか1枚をフィールドに特殊召喚する事ができる。

（表側攻撃表示か表側守備表示のみ）

十代じゃあるまいし、いきなり融合かよ。

しかしキマイラってかなり使いにくいカードなんだけどなあ

「俺はこれでターンエンドだ」

「んじゃ俺のターンエンドロー、モンスターをセット、リバーズカードを一枚伏せてターンエンドだ」

「ふっデュエルキングのデッキに手も足も出ないか？ 俺のターン

エンドロー！！ キマイラでモンスターに攻撃だ！！ 幻獣衝撃粉碎！

！！

「セットモンスターは見習い魔術師。破壊されて墓地に送られたときレベル2以下の魔法使い族モンスターをデッキから裏守備表示で

セットすることができる。俺は執念深き老魔術師を選択する」  
「ふん、しぶといやつめ。俺はこれでターンエンドだ。」

《見習い魔術師 / Apprentice Magician》  
効果モンスター

星2 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻 400 / 守 800  
このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、  
フィールド上に表側表示で存在する魔力カウンターを  
置く事ができるカード1枚に魔力カウンターを1つ置く。  
このカードが戦闘によって破壊された場合、  
自分のデッキからレベル2以下の魔法使い族モンスター1体を  
自分フィールド上にセットする事ができる。

「俺のターンドロ、とりあえず執念深き老魔術師を反転召喚。リ  
バース効果でキマイラを破壊」

《執念深き老魔術師 / Old Vindictive Magic  
ian》  
効果モンスター

星2 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻 450 / 守 600  
リバース：相手フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する。

「なんだと！！ くつ、おれはキマイラの効果を発動させる。この  
カードが破壊された時、墓地にあるバフォメットか幻獣王ガゼルの  
どちらか1枚をフィールドに特殊召喚する事ができる。蘇れ！ バ  
フォメット！！」

「さて、次は」  
「見つけたぞ！！」

十代に三沢に翔にコアラか、ギャラリーが増えた所でこのデッキ使

いたくないんだよな。

「神楽坂！ お前がデッキを盗んだのか！？」

「ふ、ふふふ。三沢か、そうだ俺がデュエルキングのデッキを手に入れて最強になったんだ！！ フハハハ」

「あゝ三沢説得は無駄だ。こいつは自分に酔ってるぞ」

「厚志……」

まあいい、後は野となれ山となれ、だ。

「それよりも、これから俺が使っカードは他言無用だぞ」

「それはかまわないが厚志！ 勝算はあるのか？」

「まあみてな」

「さて、俺のターンの途中だったな」

「ああ、そうだ」

「バトル！ 執念深き老魔術師でバフオメットに攻撃！」

「馬鹿か、攻撃力の低いモンスターで攻撃するなど！！」

「罠カード、マジシャンズサークル！！ このカードはお互いに攻撃力2000以下の魔法使い族モンスターを攻撃表示で召喚することができる」

「フン、お前はこのデッキが誰のデッキか忘れたのか？ 俺はブラック・マジシャン・ガールを召喚する」

《マジシャンズ・サークル/Magician's Circle

》  
+

通常罠

魔法使い族モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

お互いのプレイヤーは、それぞれ自分のデッキから

攻撃力2000以下の魔法使い族モンスター1体を表側攻撃表示で

特殊召喚する。

《ブラック・マジシャン・ガール / Dark Magician Girl》  
†

効果モンスター

星6 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻2000 / 守1700

お互いの墓地に存在する「ブラック・マジシャン」

「マジシャン・オブ・ブラックカオス」1体につき、

このカードの攻撃力は300ポイントアップする。

「ブ、ブラック・マジシャン・ガールだあ！！ かわいいなあ。厚志君には負けてほしくないけど、あのカードだけは応援しちゃうかなあ」

「何言ってるんだ翔」

「兄貴こそ何言ってるのさ。ブラック・マジシャン・ガールはデュエルキングのデッキにしか入っていないレアカード！！ 今夜限りの恋かもしれないんだよ！！」

「しょ、翔。あ、あれを見るんだな」

「へ？ あ、ああ！！！！」

「ば、ばかな」

「俺もブラック・マジシャン・ガールを選択させてもらった。そしてモンスターの数が変わったことで攻撃が巻き戻る。執念深き老魔術師の攻撃を中断。ブラック・マジシャン・ガールでバフオメットを攻撃！ 一黒・魔・導・爆・裂・破！」  
ブラック・バーニング

「な、なぜ貴様がそのカードを、うわあああ！！」

神楽坂

LP4000 3600

「カード自体は古くからあるだろう？ なんせミュージカルにもな

つてたくらいだしな。ただイラスト人気が高すぎて実用まで到ったのがデュエルキングだけってだけの話だろうに、目立つからあまり使いたくなかったんだけどな、デッキがこれしかなかったから仕方がない」

「あ、厚志君。後でそのカード頂戴！！！」

「翔、やめろって……」

う、うぜえ。

「俺はカードを2枚伏せてターンエンドだ」

「くっ、俺のターンドロー！！ フ、フハハハハ！！」

「？」

「俺は魔法カード、黒魔術のカーテンを発動！！ ライフを半分支払ってデッキからブラック・マジシャンを召喚する！！」

くろまじゅつ

《黒魔術のカーテン/Dark Magic Curtain》

†

通常魔法

ライフポイントを半分払って発動する。

自分のデッキから「ブラック・マジシャン」1体を特殊召喚する。

このカードを発動するターン、自分は召喚・反転召喚・特殊召喚する事はできない。

《ブラック・マジシャン/Dark Magician》 †

通常モンスター

星7/闇属性/魔法使い族/攻2500/守2100

魔法使いとしては、攻撃力・守備力ともに最高クラス。

神楽坂

LP3600 1800



ライフを半分にしたって事は勝負に来たな。

「バトル！ ブラック・マジシャンでブラック・マジシャン・ガールを攻撃！！」

「そうあわてるな。速攻魔法ディメンジョンマジックを発動。執念深き老魔術師を生贄にこちらもブラック・マジシャンを召喚する。その後そちらのブラック・マジシャンを破壊する」

《ディメンション・マジック / Magical Dimension  
n》+

速攻魔法

自分フィールド上に魔法使い族モンスターが

表側表示で存在する場合に発動する事ができる。

自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースし、

手札から魔法使い族モンスター1体を特殊召喚する。

その後、フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する事ができる。

「な、なんだと！！」

「すげえ……」

「神楽坂はデュエルキングのデッキを使いこなしている。しかしそれ以上に厚志の方が一枚も二枚も上手だ」

「ぐぐぐ、おれは魔法カード光の護封剣を発動！！ ターンエンドだ」

《光の護封剣 / S w o r d s o f R e v e a l i n g L i g  
ひかり こほうけん

h t 》  
+

通常魔法（制限カード）

相手フィールド上に存在するモンスターを全て表側表示にする。

このカードは発動後、相手のターンで数えて3ターンの間フィールド上に残り続ける。

このカードがフィールド上に存在する限り、

相手フィールド上に存在するモンスターは攻撃宣言をする事ができない。

「俺のターンドロー、ちつ面倒なカードを使いやがって。ターンエンドだ」

「おれは最強のデッキを手に入れたはずだ。なのになぜ苦戦している……。おれのターンドロー！！ おれはカードを一枚伏せてターンエンドだ」

後2ターンか……。長いな……。

「俺のターンドロー、俺はモンスターをセット。ターンエンド」

「くっ俺のターンドロー、俺は魔法カード死者蘇生を発動！ ブラックマジシャンを復活させる！！ そしてさらに魔法カード光と闇の洗礼を発動！！ ブラック・マジシャンを生贄に混沌の黒魔術師をデッキから召喚！！」

《ひかり やみ光と闇せんれいの洗礼/Dedication through Light and Darkness》  
+

速攻魔法

自分フィールド上の「ブラック・マジシャン」を生け贄に捧げる事で発動する事ができる。

自分の手札・墓地・デッキの中から「混沌の黒魔術師」を1体選択して特殊召喚する。

《混沌こんとんの黒魔術師くろまじゅつし / Dark Magician of Chaos

5 十

効果モンスター（禁止カード）

星8 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻2800 / 守2600

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、

自分の墓地から魔法カード1枚を選択して手札に加える事ができる。  
このカードが戦闘によって破壊したモンスターは墓地へは行かず  
ゲームから除外される。

このカードがフィールド上から離れた場合、ゲームから除外される。

「な、混沌の黒魔術師だと!?!」

「そうだこれこそが最強の魔法使いだ!! 混沌の黒魔術師の効果  
発動!! 自分の墓地から魔法カードを一枚手札に加えることができる。  
俺は死者蘇生を加え発動!! ブラック・マジシャンを蘇生させる」

「ああ、攻撃力2800なんて…」

「厚志は一気に苦しくなったな」

まさか混沌の黒魔術師とはね、そういえばあれって禁止じゃなかったんだ。ブラック・マジシャンと魔法使い族ギミックばかり入れてたらあのカードの存在すっかり忘れてたな。

「混沌の黒魔術師でブラック・マジシャンを攻撃! 滅びの呪文!  
!」

「罨カード発動、和睦の使者俺のフィールドのモンスターは破壊されず、戦闘ダメージを0にする」

「なに、くっ運のいいやつめ、次のターン確実にしとめてやる!

カードを一枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロ」

ようやく来たか。ブラック・マジシャンを守ったかいがあるというものだ。

「俺は魔法カード黒・魔・導を発動。お前の場の魔法、罨をすべて破壊する！」

「なんだと！ うおお」

《黒・魔・導 / ブラック・マジック Dark Magic Attack》  
+

通常魔法

自分フィールド上に「ブラック・マジシャン」が

表側表示で存在する時のみ発動する事ができる。

相手フィールド上の魔法・罨カードを全て破壊する。

伏せカードは魔法の筒か、破壊しないと自滅していた可能性もあったな。

「そしてさらに魔法カード、千本ナイフを2枚発動！ 混沌の黒魔術師とブラック・マジシャン・ガールを破壊する！！」

「そ、そんなおれの混沌の黒魔術師が……」

《千本ナイフ / サウザンズ Thousand Knives》  
+

通常魔法

自分フィールド上に「ブラック・マジシャン」が

表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。

相手フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する。

「これでだいぶすつきりしたな。ブラック・マジシャンでブラック・

マジシャンを攻撃。黒・魔・導！！」  
ブラック・マジック

2体のブラック・マジシャンが魔法を打ち合い相打ちとなる。

「攻撃力が上昇したブラック・マジシャン・ガールで直接攻撃！！」  
ダイレクトアタック  
「まだだ！ おれは手札からクリボーを捨ててダメージを0にする！」

「むう、しぶといなカードを一枚伏せてターンエンドだ」  
「ありがとうクリボー。さすがおれが数千枚の中から選んだカードだ。お前には昔からいつも助けられてばかりだな、お前が作ってくれたチャンス無駄にはしない！！」

えーと、これ突っ込んでいいのかなあ？

「盗んだデッキで何言ってるんスカ……」  
「神楽坂は武藤遊戯になりきってるんだろうな……」  
「そういう問題なのかよ……」

なんか一気にはかばかしくなったな。何で俺こんなに真剣にデュエルしてるんだろう？

「俺のターンンドロー！！ 俺は強欲な壺を発動！！ デッキからカードを2枚ドローする」

ここでドローカードってことはもう一山ありそうだ。

「くくく、フハハハハ、このモンスターでお前に止めを刺してやる！！ 俺はおろかな埋葬を発動。デッキからワタポンを墓地に送る。そして墓地のクリボーとワタポンを除外する！！」

《おろかな埋葬／Foolish Burial》  
†

通常魔法（制限カード）

自分のデッキからモンスター1体を選択して墓地へ送る。

うえ、光と闇を除外するってことはカオス系のモンスターか……。カオス・ソルジャーかカオス・ソーサラーかまさか混沌帝龍じゃねえだろうな。

「モンスター2対を除外？ そんな特殊な召喚条件のモンスターなんて……」

「いや、いるぞ！！ 召喚すれば勝利は確実といわれた禁止寸前のカオス・エンペラー・ドラゴウエン  
混沌帝龍 - 終焉の使者 -。そしてそれと対を成す最強戦士！」

「そうだ！！ 光と闇、二つの魂を生け贄に捧げ、出でよ！！ これが伝説の最強戦士カオス・ソルジャー - 開闢の使者 - だあ！！」

《カオス・ソルジャー - 開闢の使者 - / Black Luste  
r Soldier - Envoy of the Beginning  
†

効果モンスター（禁止カード）

星8 / 光属性 / 戦士族 / 攻3000 / 守2500

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の光属性と闇属性モンスターを1体ずつゲームから除外して特殊召喚する。

自分のターンに1度だけ、次の効果から1つを選択して発動することができる。

フィールド上に存在するモンスター1体をゲームから除外する。  
この効果を発動する場合、このターンこのカードは攻撃する事ができない。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、もう1度だけ続けて攻撃を行う事ができる。

三沢…。カオス・ソーサラーさんデイスってんじゃねえよ！ カオスモンスターが軒並み禁止食らった今のOCGでは貴重なモンスターなんだぞ！！

「くくく、この最強戦士には敵うまい。カオス・ソルジャー - 開<sup>かい</sup>闢<sup>びやく</sup>の使者<sup>ししや</sup> - でブラック・マジシャン・ガールに攻撃！！ 開闢双破斬<sup>しん</sup>！！」  
「ちい」

カオス・ソルジャーがブラックマジシャン・ガールを切り裂く。面倒なモンスター出しやがって！！

厚志

LP 4000 3600

「くくく、カオス・ソルジャー - 開闢<sup>かいびやく</sup>の使者<sup>ししや</sup> - の効果発動！！ このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合もう一度だけ攻撃を行うことができる！！ 食らえ時空突刃・開闢双破斬<sup>しん</sup>！！」  
「ぐうう」

厚志

LP 3600 600

「厚志！！」  
「まずいな、厚志の場にはモンスターがいないし、神楽坂の場には攻撃力3000のカオス・ソルジャー - 開闢<sup>かいびやく</sup>の使者<sup>ししや</sup> - がいる。ライフも残り600しかないのでは、もう逆転の目は……」

「俺のターンドロー、モノマネ幻想師を攻撃表示で召喚。その効果

によりカオス・ソルジャー - 開闢かいびやくの使者しや - のステータスをコピーする」

ものマネ幻想師

攻0 3000

守0 2500

《ものマネ幻想師げんそうし/Copycat》 十

効果モンスター

星1/光属性/魔法使い族/攻 0/守 0

このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

このカードの攻撃力・守備力は、

選択したモンスターの元々の攻撃力・守備力と同じ数値になる

「な、なんだとレベル1のモンスターが攻撃力3000だと!!」

「トリッキーな効果が売りの魔法使い族だからな。こういうパワーカードには有効さ」

「うまい、これで相打ちに持ち込める!」

「さらに永続魔法一族の結束を発動! 魔法使い族で統一されているためものマネ幻想師の攻撃力がさらに800上昇する」

ものマネ幻想師は手札にずっとあったが、いざというときのため残しておいた。その判断は正解だな。ブラック・マジシャンあたりをコピーしていたらあれに太刀打ちできないところだった。

ちなみに結末は今引き。相打ちでもどうにかできたがこれでこのターン内に決着をつけることができそうだ。

「ものマネ幻想師でカオス・ソルジャー - 開闢かいびやくの使者しや - に攻撃!



そして罨発動！ 二枚目のマジシャンズ・サークルだ！！ 俺は  
ブラック・マジシャン・ガールの2枚目を召喚する！！」

「に、2枚目のブラック・マジシャン・ガールだと！！」

「す、すごい。またブラック・マジシャン・ガールが見れるなんて  
〜〜。あとで厚志君に譲ってもらおうつと」

「お前はどつする？」

「お、おれはTHE・トリッキーを召喚する……」

《THE トリッキー/The Tricky》 十

効果モンスター

星5/風属性/魔法使い族/攻2000/守1200

このカードは手札を1枚捨てて、手札から特殊召喚する事ができる。

「バトルは続行だ！！ そのままものマネ幻想師でカオス・ソルジ

ヤー - 開闢かいびやくの使者しや - に攻撃！」

「う、うわあああ！」

神楽坂

LP1800 1000

トリッキーに攻撃すればそのまま勝利だが、どうせならカオス・ソ  
ルジャー - 開闢かいびやくの使者しや - を破壊して徹底的に心をへし折る！！

「これで終わりだ！！ ブラック・マジシャン・ガールでTHEト  
リッキーに攻撃だ！！ 黒・魔・導・爆・裂・破ブラック・バーニング！！」

「そ、そんな。う、うわあああ！！」

神楽坂

LP1000 - 400

デュエルディスクが終了のブザーを告げる。  
結構苦戦したが何とか勝てた。

「俺は、間違っていたのか……？」

「なにが？　といたいところだが、あえてその質問に答えるならばお前さんは何をかんがえて他人のデッキをコピーする？」

「コピーしたくてコピーしているわけじゃない！！　どうしてもこうなってしまうんだ……」

「ちなみにデッキをコピーしたりすることには俺は肯定的だけどな」「！！」

「デッキをコピーすることで新しいカードの使い方や使い道が見えてくることもある。他人がかんがえたコンボを組み合わせることでまったく別のデッキができることもある」

「ふむ、なるほど。いろんな要素をミックスすれば。新しい可能性を広げることができるというわけだな」

「そこまで大げさなもんじゃないが……。俺だってコピーデッキは大量に作っているぞ。そのままコピーすると使いにくいからかなり改良入れるが……」

別にコピーデッキでもいいと思うんだけどなあ。練習用と割り切ればの話だが、コピーデッキを作りデッキを回してみても初めて気づく弱点もあるはずだ。

俺の場合は同じデッキばかりだと飽きる、思いつきで組んだネタデッキだって使ってやらないと可哀想だしっていうのが俺はいろいろなデッキを使う理由だ。

というか、これだけ生徒がいれば誰かかしら似たようなデッキ作ると思うのだが。カードの種類だってせいぜい数千だし、実用性をかんがえるならそこまでデッキ種類は多くないはずなんだけどもなあ。拍手の音が聞こえてくる。あれ？　どこから聞こえてくるんだ？

「いいデュエルだったぞ二人とも」  
「カ、カイザー」

なんでカイザーと明日香がこんなところにいるんだよ!？  
目立つカード使ったから口止めしたいのにどんだんばれていくな…  
…。

「最初は止めようかとも思ってたんだが、あまりにもいいデュエルだったものでな」  
「そりゃそうだ」

ということは最初のほうから見てたんだろうなあ。はあ、ブラック・マジシャン・ガールで止めだったからバッチリ見られてるんだろくな。

「神楽坂」

「……はい」

「君に対しては後々アカデミアの方から正式に処分が下されるだろう。理由はどうあれ、窃盗は犯罪だ。処分は避けられないだろうが

……」

「ま、待ってくれよカイザー!!」

「こいつ、本当はきつと強えはずなんだよ!今のデュエル見ても、俺はすっげえワクワクした!だから、退学なんてことには」

「分かっているさ。俺も校長に退学だけは無しになるように掛け合ってみよう」

「えーと話の腰を折って悪いんですが」

「? どうした鈴木」

「俺の使ったカードは内密にしてくれませんか?」

「……なるほどな。確かにブラック・マジシャンやブラック・マジ

「シャン・ガールは目立つだろう」

「そうなんですよ、トレード申し込みの嵐は勘弁です」

「しかしもう遅いようだぞ」

⌈  
^  
?  
⌋

遅いつて何が？ まさか俺のデュエルの情報をリアルタイムで流したとか？ カイザーがそんなミ－ハーなことはいらないだろうし、ほかのメンバーだってわざわざそんなことはいはずだ」

「周りを見てみる」

「周り？」

そういうわけで、周囲を確認すると人、人、人の嵐。どうやら岩場や崖の上に隠れていたらしい。

ちよー！！ お前らずつとそこに隠れてたのかよー！！ なんでこんな夜中に隠れてるんだよー！！ お前ら全員変態の集まりかよー！！

「お前らすげえデュエルだったぞー!!」

「神楽坂もデュエルキングのデッキを使いこなすなんてすごいな」

「『『『『『』』』』』』そして鈴木ーブラック・マジシャン・ガール譲つてくれー!!!」

ちよー！！ お前らブラック・マジシャン・ガールに反応しすぎだろー！！  
あぁっもう！ こうなるのが予想できたから内密にしたかったのに！！

「そうだ!! 厚志くん。僕たち友達だよねえ。えへへへ」

「怖いわ!!」

「ブラック・マジシャン・ガールほしいなあ」

「やらんぞー!」

「ひどいよー二枚持つてるなら一枚くらいいいじゃないか」

うぜえ……本当は9枚持っているし使うデッキは限られてるから1、2枚くれてやつても痛くはないが言わないほうがよさそうだな。誰か一人に上げると、俺も俺も言い出すやつが必ず出てくるはずだ。

「カイザー、俺は、俺は本当にゆるされていいんです………か?」

「それはこの歓声が証明しているだろう」

「う、うう……、あ、ありがとう。あ、ありがとう………ごさいます」

ぬわーたかるなお前ら! どさくさにまぎれてカードを触ろうとするんじゃない!!

くそー。今回完全に貧乏くじじゃねえか!! これで一件落着なんて認めねえぞー!!

そして数日後。デッキ公開も無事に終わったが、ブラック・マジシャン・ガール狙いで群がってきたやつらを撒くのはいまだに一苦労だ。

最初のほうから比べたら数は減ったが何の慰めにもならねえ。

あの丸めがねは特にしつこかったな。しょうがないから見せるだけ見せたら、カードにはお擦りやキスをしようとしやがった。

あわてて奪い取ったから被害はなかったが、そこにいた連中全員ドン引きだ。

俺の平穏な日常はまだまだ遠そうだ。

そして神楽坂はライイエローで頑張ってる。一進一退の成績だが、一戦ごとに強くなっているらしい。

当初は俺のマネをしようと思ったらしいが、一回ごとにデッキを変える俺のマネはさすがに難しいらしい。

早々にあきらめて、デッキ研究とメタ読みをはじめたらしい。

こっちでもそのうちメタの読み合いとかする日が来るかもしれないな。

## マジシャン対決 VS 遊戯デッキ（後書き）

厚志はブラマジデッキですね。

ブラマジというより魔法使い族にブラマジギミックを突っ込んだだけですが。

それと私は種族統一デッキが好きです。ですので一族の結束はこれからもちよくちよく出るかもしれません。

それとコピーデッキに関しては研究、練習用としてはありだと思います。

何をかんがえて、このカードを入れたのか？

何をかんがえて、このコンボを採用したのか？

実際まわしてみても、カード一枚一枚の役割を再確認することで、自分のプレイングにプラスになると思ってますから。

あ、だけど我が物顔でコピーデッキが大会ででかい顔するのはどうかと思いますがね。

## V S レイ

「にゃ〜、今日はみんなに紹介したい人がいるのにゃ〜」

それは夕食前の大徳寺先生の発言から始まった。

「オシリスレッドに編入してきた早乙女レイ君だにゃ〜」

早乙女レイ？ 確かTF3でルートパターンが4つもある超優遇キヤラじゃなかったっけ？

そういえば帽子かぶってるパターンもあった気がする。

でも確か女の子だったはず、なんで男装してまでレッド寮に来てるんだ？

「レッド寮の仲間が増えるのは大歓迎だぜ！ レッドだからって落ち込まないでがんばろうぜ」

相変わらず十代はテンションが高い。レイも若干引き気味だぞ。

「なに言ってるんですかにゃ〜。転入生は必ずレッド寮からスタートする決まりなのにな。早乙女君は優秀だからすぐに上の寮に上がってしまふのにゃ〜」

「なんだ〜そうだったのかよ。てっきりレッド寮だから落ち込んでるのかと思って…」

「あ、そうそう空き部屋はないので現在一人で部屋を使っている鈴木君と同室でお願いしますのにゃ〜」

ぶはっ！！ 俺かよ！！ ううむ、冷静に考えれば一人部屋は俺だけだし妥当といえば妥当か…。



レイもどこからどう見ても子供だし理性を振り切って欲情することもないだろう……。

ふむ、そういえば作った方がいいが騒がれるのが嫌でお蔵入りになったデッキがいくつかあったな。ちょうどいいから部屋でこっそりテストプレイの実験台になってもらおう。

「まあ、仕方ないですね。短い付き合いになると思いますが引き受けましょう」

「君ならそういつてくれると思ったのにや」

「と、いうわけでよろしく早乙女レイ君」

「あ、ああ……よろしく」

というわけでレイは俺と同居することになった。

「ここが俺の部屋だ。ベッドは上を使ってくれ」

「わかった……」

「トランクケースには俺のカードが入ってるからあまりいじらないでくれ。見るのはいいが必ず元に戻すこと。俺が指定するルールはこのくらいかな、君のほうで何かあるかい？」

「……いや、特にない」

男装をばらすつもりはないってことか。しかしそれにしても無愛想なやつだな。無理して男を演じてるところがみえみえだ。

しかし何でわざわざ男装してまで入ってきてるんだろう？ 編入試験自体は正規のものはずだから堂々と女子で入ってくればいいのに。

「おーい、厚志、レイ、風呂行こうぜ風呂！ 男同士の友情を深め

るのは裸の付き合いが一番だ！」

案内を済ませたところで十代が風呂に誘いに来た。十代ならデュエルが一番っていいそんな気がするのだが、すごい意外だ。

「お、俺風邪気味だからいいよ……ゴホッ、ゴホッ」

う、胡散くせー！！ もっとマシな言い訳あるんじゃないのか？  
演技もわざとらしいしこんな見え透いた嘘に引つかかるやつなんていないだろう。

「なんだしようがねえなあ。早く風邪治せよな。じゃあ厚志！ 行こうぜ！」

「レイ君。無理しないほうがいいですよ」

いたよ……しかも二人も。

おまいら、もう少し人を疑うって事覚えたほうがいいぞ。おじさんは心配だ。

「いや、レイが風邪を引いているなら、氷枕とか準備しないとけないからな。悪いが俺も遠慮しておこう」

「ええ……！！」

「そつか。それもうがないな」

「ああ、すまん」

「いいって事よ、じゃあ翔行こうぜ！」

「あ、待ってよーアニキ」

「すまん。騒がしくて」

「いや、別にいい」

さて、今俺にはいくつか選択肢がある。

- 1、レイの男装は気づかなかったことにする
- 2、レイの男装のことを指摘して、それを黙っている
- 3、レイの男装のことをばらす

ふむ、1は却下だな。ルームメイトにここまであからさまな隠し事をされるのも気分が悪いし、なによりこいつの演技だと誰にばれるかわかったもんじゃない。

ばれたとき俺にロリコン疑惑がかかるのが一番つらい、アカデミアは閉鎖空間だ。こんなところでロリコン疑惑が広まったら、卒業まで言われ続けるだろう……。

あ、悪夢だ……。

それを防ぐには自分の手でばらして話を大事にしてこいつを女子寮にぶち込むか、せめてばれないように演技指導するくらいしかない……。

さて、どうするかな？

とりあえず事情を聞いてみないとわからんな。

「なあ、ちよつといいか？」

「…な、何？」

「お前さん、女だろう？」

「な、何言ってるんだ、お、俺は男だぜ」

動揺しすぎだろう、やはり演技指導は必要だな。そして会話だけだと平行線だな。

尋問しても無駄だと悟った俺は帽子を剥ぎ取った。そうすると、レイの長い髪がふわりと音を立てながら出てきた。こうするのが一番早いな。

「あ、いきなり何するんだよ！」

「とりあえず、たたき出したりいきなりみんなにばらしたりしないから事情を説明してくれ。ロリコン疑惑なんてかけられた日には俺はいたたまれなくなつて退学届けを出しそうだ」

「……僕が何でこの学園に来たかはいえない……」

「参つたな…じゃあせめて何で男装する必要があつただけでも教えてくれないか？」

「デュエルアカデミアは編入試験も難しいって聞いてた。だけど女子よりは男子のほうが試験が易しいって噂も」

「へえ、そんな話があつたのか……ん？ とするとお前は噂だけで男装したのか？」

「う、うんそうだけど」

ありえね……。そんなあいまいな情報だけで男装してたのかよ…。

目的は聞き出せなかったが仕方ないか。あんなに決意に満ちた目をされたら全員にばらすのも躊躇われる。

あとはこいつの演技をフォローしてやってせめて俺にロリコン疑惑がかかるのは防がねば。

「仕方ない、黙つててやるよ。そのかわりばれたら俺も困るんだから、お前の大根演技を何とかするぞ」

「だ、大根つて……」

「いちいち、顔や態度に出すぎなんだよ。十代や翔はこういう方面は疎いから何とかなるが、普通はばれるもんだぞ」

「そ、そうなのかな？」

「まあ、そんなに難しいことをするわけじゃない。自己暗示をかけるだけだ」

「自己暗示？」

「要は自分が男の子だと思い込めばいい。そして自分が男だったら

どういう反応をするかといったことも常に意識するんだ」

「自分は男……」

「付け焼刃の演技指導よりかは役に立つと思う。本当は嘘ストーリーとかもきちんと考えればいいんだけどな」

「なるほど……」

やらせてみるとレイはなかなか筋がいい、すぐにコツをつかんでだいぶ動揺することはなくなってきた。これならドジをしないかぎりばれることはないだろう。しかし男装するなら髪の毛ぐらい切ればいいと思うのだが、女性にとって髪はそれほど大事ということなのだろうな。

何とかレイとの共同生活はうまくいつている。トイレや風呂は室内にないから、せいぜい着替えなどに気をつければ問題はない。着替え中に入って裸を見たりするようなラブコメ要素が俺にあるわけないだろう。

「おいレイ、ちょっとデッキの調整付き合ってもらってもいいか？」

「…ん、いいよ」

「十代ばかりだとマンネリでさあ、やっぱりいろんな人間とデユエルして見ないとな」

「外に出る？」

「うんにゃ。めんどくさいから床でいいだろう。ギャラリーが増えるのも好きじゃないしな」

「わかった」

「「決闘」」

「僕のターンンドロー、恋する乙女を攻撃表示で召喚。ターンエンド」  
恋する乙女って何だっけ？ サンドバッグの代名詞だった記憶しかない。伏せカードもなしということは特殊な効果があるはずだけど、あんまり覚えてないなあ。

恋する乙女

効果モンスター

星2 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻400 / 守300

このカードはフィールド上に表側攻撃表示で存在する限り戦闘によつては破壊されない。このカードを攻撃したモンスターに乙女カウンターを1個乗せる。

「俺のターンンドロー」

むむむ、悪くないけどよくもない手札だ。

「魔法カードおろかな埋葬を発動。黄泉ガエルを墓地に落とす。ターンエンド」

「えっ！ それだけ？」

「ああ、別に馬鹿にしてるわけじゃない。こういう戦術なんだ」

「……じゃあ僕のターン、恋する乙女で攻撃」

「ん、了解」

戦術つーか下級モンスターがいなかったただけなんだけどな。黄泉ガエルを落としたから魔法や罫はあんまり張れないし。

厚志

LP4000 3600

「僕はカードを2枚伏せる。そしてターンエンド」

「あいよ、俺のターンドロ、スタンバイフェイズに黄泉ガエルを特殊召喚」

「へ？」

「黄泉ガエルは自分スタンバイフェイズ時に墓地にある場合で、自分の魔法、罫が一枚もないときに復活するんだよ」

「へえ」

《黄泉ガエル / Treeborn Frog》  
+

効果モンスター

星1 / 水属性 / 水族 / 攻 100 / 守 100

自分のスタンバイフェイズ時にこのカードが墓地に存在し、自分フィールド上に魔法・罫カードが存在しない場合、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

この効果は自分フィールド上に「黄泉ガエル」が表側表示で存在する場合は発動できない。

「で、黄泉ガエルを生贄に、氷帝メビウスを特殊召喚。効果でレイの伏せ2枚を破壊つと」

「ええ！ そんなあ」

破壊したカードは見覚えのない罫カードだ攻撃反応型だったのかも  
しれないな。

《氷帝メビウス / Mobius the Frost Monarch》  
+

効果モンスター

星6 / 水属性 / 水族 / 攻 2400 / 守 1000

このカードがアドバンス召喚に成功した時、  
フィールド上に存在する魔法・罫カードを2枚まで選択して破壊する事ができる。

「で、恋する乙女に攻撃」

「う、でも恋する乙女は攻撃表示なら戦闘では破壊されないよ」

「あらら、そんな効果だったか」

レイ

LP4000 2000

「恋する乙女を攻撃したモンスターには乙女カウンターが乗るよ」

「乙女カウンター？ まあいいやターンエンドで」

「うう、どうしよう……僕のターンドロ」

しかし乙女カウンターねえ。ああ！！ 思い出したコントロール奪取のモンスターだ。その効果は奪った後に恋する乙女がいなくなっても継続する珍しいタイプのコントロール奪取だ。

ただ条件として戦闘ダメージをガッツリ受けるっていう厳しい条件があったはず。ぶっちゃけ微妙なカードだ。ほかにも使えない理由があったはずんだけど覚えてないなあ。

「これならいける！！ 僕は魔法カード治療の神ディアン・ケトを使用するよ。ライフポイントを1000回復。そして装備魔法キューピッド・キスを恋する乙女に装備」

レイ

LP2000 3000

ディアン・ケトとはマニアックなご隠居の猛毒薬のほうがいろんな



意味で強いんだけどな。生かすなら連弾の魔術師を使うくらいかな？

「恋する乙女でメビウスに攻撃！」

レイ

LP3000 600

なるほど、これがコントロール奪取の条件か。装備魔法と2回もダメージ食らってようやくか、ずいぶん手間のかかるやり方だな。

「メビウスのコントロールをもらっよ」

「りょう〜かい」

キューピッド・キス

装備魔法

乙女カウンターが乗っているモンスターを装備モンスターが攻撃し、装備モンスターのコントローラーが戦闘ダメージを受けた場合、ダメージステップ終了時に戦闘ダメージを与えたモンスターのコントロールを得る。

ぶっちゃけ帝のひとつ奪われてもあんまり痛くない。追撃あると死ぬるけど。

「メビウスでダイレクトアタック!!」

「ん〜、しょうがないか」

厚志

LP3600 1200

「……何でそんなに余裕なの？ エースモンスターはもらったんだ

よ」

「まあまあ、俺のターンだな。ドロースタンバイフェイズに黄泉ガエルを特殊召喚。そして黄泉ガエルを生贄に炎帝テストロスを召喚」

「ええ！！ 上級モンスターがもう一体……」

「まあこういう構築だしな。テストロスの効果でランダムに手札を一枚捨ててもらおう」

《炎帝<sup>えんてい</sup>テストロス/The stalos the Fire storm Monarch》†

効果モンスター

星6 / 炎属性 / 炎族 / 攻2400 / 守1000

このカードがアドバンス召喚に成功した時、相手の手札をランダムに1枚捨てる。

捨てたカードがモンスターカードだった場合、

そのモンスターのレベル×100ポイントダメージを相手ライフに与える。

「どれにしようかなって、どれどれディフェンス・メイデン？ 罠カードならライフダメージは受けないな」

ディフェンス・メイデン

永続罠

自分フィールド上に「恋する乙女」が表側表示で存在する時、相手モンスター1体が自分フィールド上のモンスターに攻撃宣言をした場合、

その攻撃対象を自分フィールド上の「恋する乙女」1体に移し替える事ができる。

「まあなんだ。テストロスで恋する乙女に攻撃」

レイ  
LP600 - 1400

「あ……僕の負け？」

「そうなるな」

「あうー」

「いろいろ突っ込みどころはあるが、そのデッキはレイの気持ちが詰まってるんだろ？」

「……うん」

「頑張れよ」

「……ありがとう」

本当はもつと突っ込みたかったが自重することにした。

男装なのに恋する乙女ってどうよとか、せめてサーチカード入れようぜとか、ライフ回復が貧弱すぎるとか。

それから何回か調整中のデッキの相手をしてもらった。さらにレイにも俺のデッキをいくつか使わせてやった。だって恋する乙女デッキが特殊すぎて調整にすらならないデッキとかあるんだもん。

こんな感じで俺たちの共同生活はまあまあうまくいっていた。

## V S レイ（後書き）

ごめんなさい。

投稿遅れた上にレイ編が前後編になってしまいました。  
最近仕事が忙しいので、執筆が遅れ気味です。申し訳ない。

## 恋する乙女！？

レイとの共同生活もだんだん慣れてきた。

風呂は室内にはないので、同室にいるときは着替えだけに注意すればよかったし、風呂はほかの誰も入らないような時間帯を教えて入ってもらっている。

ラブコメのようなラッキースケベな展開とは無縁だったとだけいっておく。

夜には俺の作ったさまざまなデッキのテストプレイ相手をしてもらっている。恋する乙女のデッキだけだと相手としては微妙なので、俺の作ったデッキをいくつか使わせている。

十代や翔などは自分の作ったデッキに愛着があって俺の作ったデッキは使ってくれないので、どうしても飽きが来てしまう。レイも恋する乙女が大好きだが、強く言うとしぶしぶながらも俺のデッキを使ってくれる。おかげでさまざまなデッキの完成度を高めることができた。

そして気づいたこともある。

どうもレイはカイザー亮が好きらしい。というかカイザーを追っかけでここに来たようだ。カイザーをときどき熱い目で見ているし、この間はカイザーの後をつけていたこともある。

お前はどこのストーカーだと突っ込みそうになったが、あまりにもピンクのオーラがすごかったので空気を呼んで自重した。

そんな平穏な日々は扉を激しくたたく音で破られた。

「はいはい、そんな激しくたたかなくても今出るよ」

扉を開けると十代が息を切らせながら立っていた。

「どした〜？」

「厚志！ レイ帰ってきてるか！！」

「…いや、部屋には戻ってきてないが」

「そうか、ありがとな。じゃー！！」

「お、おい……行っちゃったか。しかしあの慌てよう、何かあったんだろうな」

もしかしたら十代に男装していることがばれたのかもしれないな。レイも結構うつかりさんなところがあるし。

寝ぼけて帽子をかぶらずに外に出て行こうとしたことや、スカート姿でごろごろしていたりなどどうも男装しているという意識が低いのが問題だ。

というか、なぜスカートを持ってきたし……。

「しょうがないな、俺も探しに行くか」

十代なら頼めば黙っててくれそうだしな。

とりあえずレイを見つけないことにはにっちもさっちもいかないわけ……。

レイの行動パターンはいまいち読めないんだよなあ。行動の主体がなにせカイザーの追っかけだからなあ。

カイザーとは顔見知り程度の付き合いしかない俺にはカイザーの行動もわからない。つまりレイの行動もわからない。

購買とかではぜんぜん見ないからなあ。ブルー寮に行ってもブルー性にと邪魔されそうな気がするし、張り込みしてたらあからさまに怪しいし。

適当にぶらぶらしてたら会えるかもしれないな。

ほんとに会えるとは思わなかったよ……。

俺の前にはカイザーと明日香とコアラと翔がいる。どうやら崖の下  
の何かを見ているようだ。

俺も覗き込んでみると十代とレイがデュエルをしていた。

「え？ 何でデュエル？」

「あら、厚志も来たの」

「来たのいいが状況がまったく見えないんだが……」

男装がばれたのかと思って来てみれば、なぜかデュエルをしている。  
馬鹿なの？ 死ぬの？ デュエル脳なの？

「デュエルをすれば相手のことがより理解できるからだ」  
「……………」

そーなのかー

カイザーまでデュエル脳に侵されているとはおもわなんだ。  
常識人だと思っていたのに！！

この学園の常識だと俺が異端なのかなあ？ 俺は自分で普通だと思  
っていたんだがなあ。

俺は心の中の哀愁を押さえつけて。デュエルに意識を集中する。  
レイの場にはフェーザーマンと恋する乙女。十代の場にはスパークマ  
ンがいる。

ふむ、どうやら恋する乙女有能力でフェザーマンが取られたらしい。まああの辺の低攻撃力モンスターだとたいしたダメージもなしに取れるよな。……うまみもないけど。

「ボクのターン、ボクは恋する乙女に装備魔法ハッピー・マリッジを装備。恋する乙女の攻撃力をフェザーマンの攻撃力分だけアップする！！そしてスパークマンを攻撃！！」

ハッピー・マリッジ

装備魔法（制限カード）

相手のモンスターが自分フィールド上に表側表示で存在する場合に発動する事ができる。

装備モンスターの攻撃力は、そのモンスターの攻撃力分アップする。

ふむ、今度はスパークマンが奪われたか。しかも強化した恋する乙女の攻撃力は1400。スパークマンは1600。ライフダメージたったの200か。これは十代には厳しい展開だな。

そして幻聴が聞こえるが無視だ無視！！スパークマンさまとか私はヒーロー失格だあ！！とか小芝居じみた幻聴は無視するにかぎる！！

十代も何か喚いているな。こんなのヒーローらしくね〜！！とか叫んでる。

どうやらあいつには幻聴だけではなく幻覚も見ているらしい。変なきのこでも食ったのか？

周りにいる明日香たちも不思議そうな顔で見ている。

「どうしちゃったのかしら、十代……」

明日香たちには幻聴すら聞こえないらしい。



中途半端に状況がわかるっていうのも微妙な感じだな。

そしてデュエルは進んでいく。十代が女の子には女の子だ！！とか叫んでバーストレディを出しているが…いや、あのね。バーストレディでも恋する乙女の効果は有効だからね……。このカードゲームは性別ないからね……。

そして放たれる魔法カードバースト・リターン。ずいぶん限定的な効果のカードを使うなあ。E・HEROのサポートカードって専用カードが多すぎて使いづらいんだよなあ。バーストレディのサポートカードの特徴はたしかリセット系か…。

《バースト・リターン/Burst Return》  
通常魔法 †

「E・HERO バーストレディ」が自分フィールド上に表側表示で存在する時のみ発動する事ができる。

フィールド上の「E・HERO バーストレディ」以外の

「E・HERO」と名のついたモンスターを全て持ち主の手札に戻す。

十代は何を考えてこのカードを入れてるんだ？ コントロール奪取対策？ それともモンスターを回収してバースト・インパクトか？

むしろ自分で強制転移とか？

どちらにしろ、あまり日の目を見ないようなカードではありそうだな。

とか考えてる間に十代が勝つたらしい。まあライフもそれなりに減ってたはずだしな。やはり恋する乙女は難しい。

そして始まる告白タイムとフィールド魔法ピンク空間！！  
すげえ気まずい。何が悲しゅーて他人の告白見なけりゃなんののだ

……。

というかレイって小学生だったのか……。確かに身長は小さいし、色気もまったく感じられないが……。

小学生でこの行動力は未恐ろしいものがあるな。将来ストーカーとかにならない方がいいが……。

「気持ちは嬉しいが、今の俺にはデュエルが全てだ。お前の想いに応えることはできない」

「……亮サマ……」

レイの告白を断り髪留めを渡し立ち去るカイザー。余計気まづくなつた……。

ええい、カイザーめ空気が重くなつたじゃないか!!

空気クラッシャーの十代も俺のほうを見て何とかしると目で訴える。

ちよ! おま! 押し付けやがつた!!

「あーそのーなんだ……とりあえず寮に戻って夕飯にしないか」  
「……うん」

夕飯を食べ部屋に戻る俺とレイ。

くそー!! カイザーめこんな空気にしやがつて!! 八つ当たりしてやるからな!!

「……ねえ、厚志」

「……なんだ?」

「明日、本土に戻るね」

「そうか……」

「いろいろありがとうね。それと……迷惑かけてごめん」

「あー、どういたしまして?」

「プツ、何で疑問系なのさ？」  
「こういうのは、苦手だ」

少し空気が明るくなった気もするが、全体的に重いのは変わらない。  
俺も何回か朝起こしてもらったし餞別でも考えておくかな。

そして翌日、俺たちはレイの見送りに港に来ていた。

見送りに来たのは俺、明日香、カイザー、十代の4人だ。

「それじゃあもう行くね。今度はちゃんと入学してくる」

「恋する乙女って強いな」

「そのころには俺は卒業しているがな」

そういえばそうだ。カイザーが学園にいられるのは今年度までだ、  
ということは今度は十代の追っかけとかになるのか？

「ああそうだ、餞別にこのデッキやるよ。レイが一番気に入ってた  
やつだ」

「えっ、いいの？」

「ああ、大事に使ってくればそれでいい」

「ありがとう」

「あらあら、厚志にそんな趣味があつたなんてね」

「そういうわけじゃないんだけどな」

そしてレイが船に乗りこっちに向かって手を振っている。

「じゃあね、また来るよ、十代サマ――!!」

「いいっ、オレかよ!」

「持てる男はつらいな。がんばれよ」

「ちゃんと船が見えなくなるまで見送ってあげなさいよ」

「では、俺たちはこれで失礼する」

「ちよ、ちよっと待ってくれよ」

「じゃあな」

「どうしてこうなったんだよ」

こうしてレイはデュエルアカデミアから去って行った。

その後しばらくの間、カイザーにロリータキラーなる異名がはやることになる。

本人は否定していたが、こういうものは否定すればするほど燃え上がるものなのだ。カイザーに特定の恋人がいないことも噂の信憑性を挙げる一因となった。

「ちい、犯人はあの時いた面子なのはわかっている。いったい誰が……」

くくくくくくく。八つ当たり成功だ。

## 恋する乙女！？（後書き）

恋する乙女の強化案も考えましたが、それができないほど使いにくくて弱いです。

むしろハッピー・マリッジ＋洗脳ブレインコントロールなどの一時的なコントロール奪取デッキ組んだほうが強そうです。

TFならハッピー・マリッジ＋ゴヨウガーディアンという凶悪コンボが使えるのがねえ。

恋する乙女を使うならホーリー・ジャベリンや体力増強剤スーパーZなどは必須でしょうね。

いつそ恋する乙女＋スピリット・バリア＋ディフェンス・メイデンで相手の攻撃を無効化するとか……。

切り込みロックで十分とか、魔法使い族ならマジシャンズ・ヴァルキュリアでいいと言わないでくださいね……。

番外編 厚志の部屋 (デュエルなし) (前書き)

DVDが借りられていたので番外編。

## 番外編 厚志の部屋（デュエルなし）

さて、レイもいなくなったことだし。また一人部屋に逆戻りなわけだが、さ、寂しくなんてないんだからね！！

……きもいな、やめよう。

真面目な話そろそろ新しいデッキのアイデアも尽きてきた。暗黒界とか魔轟神とか作ってないのはそれなりにあるけど、個人的にああいうのは使いこなせないんだよなあ。強いのはわかるんだけどねえ。というわけで、今のうちに所持がばれたらやばそうなカードでデッキ作ってみようかな。具体的には青眼とか神のカードとかで。もちろん実際使うことはないんだろうけどね。

俺が基本的にすきなのは種族か属性の統一デッキだ。一族の結束とかが好きだ。

ドラゴン族や天使族なんかはパターンも豊富だから組んでて飽きないしね。

青眼の白龍は好きなカードなんだけど、サポートのカイバーマンを使うと種族混じるからなあ。かといってまったく使わないのも青眼を使う意義が薄れてくるしなあ。

ドラゴンを呼ぶ笛とか使うと他の重いドラゴンとかトレード・インとか入れたくなるしなあ。そしたら事故率が異様に高くなる。

むむむ……難しいところだな。

やはりメインアタッカーは青眼のみでいこう。ファンデッキになってもいいや。ドローカードをガチで積んでおけば何とかなるだろう。伏せ破壊はスタンピング・クラッシュをメインに採用してつと、ロマンって大事だよな。

悪ノリしてカオス・ソルジャーも積んじまうか。儀式は無しで融合素材としてのみ採用してつと。

できた！

かなりネタ臭がするが、誰にも見せる予定はないからこれでいいだろう。社長とデュエルしてみたい気もあるけど破られたら困るしな。そもそも世界に4枚しかない青眼を持っている理由なんて話せるわけがない。

ブラマジは絶版なだけで枚数限定というわけじゃないから誤魔化せただけで青眼はさすがに無理がある。

「厚志、ちよつといいか？」

どきい！ 何だ十代か、やましいことは何もしないけど青眼を見られたら絶対面倒になる。

「あ、ああ、何だ十代か何かあったのか？」

「なんか、焦ってないか？」

「いきなり声をかけられたからちよつとびっくりしただけだ」

「そっか、まあいいや」

「で、どうしたんだ？」

「実は、かくかくしかじかで」

「まるまるうまうまと」

どうやら十代はノース校との交流デュエルのメンバー候補に選ばれたらしい。

ただし、候補に三沢も選ばれており、勝った方が代表権を獲得できるとのこと。



それで、三沢は十代に対抗するための7番目のデッキを用意するらしいのでそれに対抗するためにHEROの苦手なことや弱点を教えてほしいらしい。

「弱点っていつでもなあ。HEROって結構万能だから苦手分野ってあんまりないぞ」

「……そっか、厚志ならなんかわかると思ったんだけどなあ」

「……まったくないわけじゃないけどな」

「教えてくれ！！頼む！」

「とりあえずあれだな。強力なHEROは融合召喚が基本だろ？」

「おう、そうだな」

「根本的に魔法を封じられると弱い」

「魔法を封じるってことは、この前厚志がやってたマジックドレインとかか？」

「むしろ、明日香と戦ったときに出了たホルスの黒炎竜かな？」

「ああ…あれか。あれとはやりたくねえなあ」

「摩天楼すら発動できないからな。最高攻撃力がエッジマンの2600だろ？ それを超える攻撃力のモンスターが魔法封じもってたら詰むな」

「でも、そんなカードって他にもあるのか？」

「探せばあるかもしれないけど、パツと思いつくのはないなあ」

「そっか、そういうのが出た場合はどうすればいいんだ？」

「罾かモンスター効果で何とかするしかないかなあ、でも十代が使ってるHEROは通常モンスターが多いからなああんまり期待できないかも」

「じゃあ、ミラーフォースみたいな罾で何とかするしかないのか」

「そうだなあ」

「他には何かあるか？」

「他ねえ、特殊召喚封じに弱…い？」

「何でそんなに自信なさげなんだよ」

「王宮の弾圧思いついたんだけどさ」

「あれだっけ？ ライフ800を払って任意の特殊召喚無効にするカードだっけ？」

「ライフ4000しかないのに800ずつ払っていったらすぐライフなくなりそうだなあって」

「ああ、なるほど。確かに結構きついかもな」

「だよなあ。そもそも十代って下級HEROと専用魔法カードとのコンボも結構あるし、ホルスの黒炎竜みたいに魔法全部とか封じられない限り結構戦えたりするよな」

「うーん、そうだなオレはやっぱり全部のHEROを活躍させたいからな」

「そついう性格だよな」

しかし、そついう理由であれだけの専用カード入りのデッキを活躍させることができるのが謎だ。

俺なら絶対事故るぞあんなデッキ。

「他には何かあるのか？」

「こんなところかなあ」

「そつか、参考になつたぜ、ありがとな」

「まあ、聞きたいことがあつたらいつでも来なさいな」

「おう、じゃ、おやすみ」

「おやすみ」

しかし十代が代表候補ねえ。去年はカイザーだったから今年もてつきりカイザーだと思つていたんだが。

コンコン……

「厚志ちよつといい？」

この声は明日香か、今日は千客万来だな。

「あいてるよ」

「お邪魔するわね」

「今日はどうしたんだ？ 明日香が俺の部屋に来るなんて珍しいな」

「ちよつと相談があつてね」

「ふむ、とりあえず話してみろ」

「私がサイバー・ブレイダーだけじゃなくてサイバー・エンジェルを使うことは知ってるかしら？」

「…それは、初耳だった気がする。サイバー・エンジェルって確か儀式モンスターだよな」

「ええ、そうよ。それでね、サイバー・ブレイダーとサイバー・エンジェルの両立に限界を感じてきたのよ」

「まあ、融合モンスターと儀式モンスターの両立は難しいからなあ」

「何かいい案はないのかしら？」

「案って言ってもなあ、デッキを分けるのが手っ取り早いんだが、両立ってことはどっちも入れるってことだよな」

「そうね、どっちも使うのが理想ね」

「なら、比率を変えるしかないかなあ」

「比率？」

「融合メインか儀式メインかってことだな」

「なるほどね」

「どっちも魔法カードがトリガーだけど、召喚方法がぜんぜん違うしシナジーあるカードも少ないしなあ」

「少ないってことはまったくないわけじゃないのね？」

「強いていうならってことだよ。王立魔法図書館みたいに魔法カードに反応してカウンターを置くカードなら一応シナジーないわけじゃないけど、わざわざそんなもの入れるのも微妙だろ？」

「確かに微妙ねえ」

「そもそもどうしても両立したい理由って何なんだ？」

「どうしてもってわけじゃないけど、スペースが余ったからっていうのが理由ね。元々はサイバー・ブレイダーを使っていたのだけど、その空いたスペースにサイバー・エンジェルを入れたのが始まりね」

「ふむふむ」

「それでサイバー・ブレイダーだけじゃ対処できないときがあつて、その時サイバー・エンジェルに助けられてそのまま使ってるっていうのが大きいわね。今じゃどっちも愛着があつてできればはずしたくないのよ」

「なるほどなあ、でも両立するならサイバー・エンジェルのパーツを最小限にするとかしないと厳しいぞ」

「そうなのよねえ」

「でもそれだとサイバー・エンジェルの強みが消されるんだけどなあ」

「サイバー・エンジェルの強み？」

「一枚の儀式カードでいろんなサイバー・エンジェルを呼び出せることさ。墓地からの回収手段があればかなり心強いと思うぞ」

「なるほどね」

「やっぱり分けたほうがいいと思うぞ、サイバー・ブレイダーのサポートは地盤沈下みたいなカードを入れたり、洗脳ブレイコンントロールや強制脱出装置みたいなカードで相手モンスターの数をコントロールしてやる」

「ふむふむ」

「サイバー・エンジェルは儀式のサポートをフルに入れてやればそれだけで強い」

「儀式のサポートってどんなのがあるかしら？ 恥ずかしい話だけど儀式系のデッキは詳しくないのよ」

「とりあえずマンジュ・ゴッドやセンジュ・ゴッドにソニック・バード」

「それは知ってるわ」

「あと強力なのは儀式魔人かな？ 高等儀式術は合わない気もするし」

「儀式魔人？」

「墓地に落ちても儀式の餌にできるシリーズだな。呼び出した儀式モンスターに効果を付与することもできるし結構強いと思うぞ」

「そんなのがあったなんてね」

「参考になったか？」

「ええ、相談に乗ってくれてありがとう」

「どういたしまして」

「それじゃ、そろそろ帰るわ。おやすみなさい」

「ああ、おやすみ」

明日香も悩んでたんだなあ。

儀式魔人が見つからなかったら俺のを少し分けてやるか。

9枚つつあるから2〜3枚くらいなら別にいいかそんなに儀式デッキ作るわけじゃないし。

コンコン……

「今度は誰だよ。開いてるよ」

「厚志く〜ん」

何だ今度は翔か。こいつも何か悩みがあるのかな？

「何の用だ？」

「実は……」

「実は？」

「ブラマジガールほしいっす」

「帰れ」

番外編 厚志の部屋（デュエルなし）（後書き）

厚志はノース校との交流デュエルには関わりません。

と、いうのも本人のデュエルの戦績は上の中くらいだからです。十代や三沢は無敗という設定です。

なので厚志の評価はレッド寮にしては強い。あたりです。セブンスターズ編どうしよう……？

次回あたりから厚志にも精霊をつけようかと思うんですが、霊使いやブラマジガールは使い古された感があるので、違うのにします。かなり賛否両論な気がして非常に怖いのですけどね……。

## 代表決定戦 十代VS三沢（前書き）

遅れてしまって申し訳ありません。  
休みがなかなか取れませんでした。  
明日中にもう一話更新する予定です。

そして今回の突っ込みの切れ味は非常に鈍いです。  
三沢のデュエルはなぜこうも突っ込みにくいのでしょうか？  
てか三沢マニアックなカード使いすぎ。調べるのが大変でした。

PS・精霊は無しにすることにしました。  
感想で指摘されたとおりさまざまデツキを厚志が使うと言っこと  
で一点。

出てくるにしてもあまりにも脈絡なく唐突すぎるので不以前になっ  
てしまうということとで一点。

それ以上に私の腕前ではキャラを多くしすぎると、動かすのが大変  
になり、空気になってしまいうような気がするので取りやめにしまし  
た。

## 代表決定戦 十代VS三沢

十代と三沢の代表決戦デュエル当日、朝飯を食べていると翔がぴりぴりしていた。

十代に普通はもつと緊張して眠れなくなるとか食欲が落ちるとか言っているが、誰がどう見ても十代はそんなタマじゃない。どっちかというなら興奮で眠れなくなるとかそんな感じた。

「なあ十代、お前遠足とか運動会とかのイベント前に興奮して寝つけなかったりするか？」

「おう、よくわかったな。昨日もワクワクしてなかなか寝付けなかったんだぜ」

「ほら翔。十代はこういうタイプだ」

「なんか不公平ッス」

「十代らしいといえばらしいんだな」

食事を終えて、デュエルフィールドの観客席で待つ。

翔とコアラは前のほうの席についているようだ。明日香とカイザーは一番外側の通路の手すりに寄りかかっている。カイザーが座ってデュエルを見ていることがない気がするんだが……痔なのか？

……あえて指摘するのも気まずいな。

華麗にスルーしよう。そうしよう。

こんな考えを持ってしまっただけはカイザーの近くというのもアレだな。どうせ翔たちはハラハラしながら見ることになるんだし、いちいち叫ばれるのも鬱陶しいな……

ほかに友達がいらない俺は一人で見ることにしよう。

「ここ、いいかしら？」



「ん？」

ぼけっとして座っていると、薄紫色の髪をツインテールにした女子生徒に声をかけられた。ぶっちゃけ超美人だ。明日香以上『女王』の称号が似合いそうな人だった。

「あ、ああ、かまいませんよ」

「くすくす、そんなに硬くなる必要はないわ。同年だし、ね」

「！！　って俺のことを知ってるのか？」

「この間の制裁デュエルを見たのよ。ぼうやはぼうやが思ってる以上この学園では有名人よ」

同年なのにボウヤなのか……。

「ほら、そろそろ始まるみたいよ。解説は頼むわね」

「！！　なんでさ？」

「明日香に聞いたのよ、ボウヤの解説は新鮮で面白いってね」

明日香エ……。

あんまり目立ちたくないんだけどなあ。

まあ解説程度ならかまわないといえばかまわないんだけどな。

俺のポジションが相談役というか解説役というか、物知り博士みたいになっているのは何でだろう？

「「決闘！！」」

む、始まったみたいだな。

先攻は三沢。守備600のカーボネドンを出しただけでターンエンドか。

カーボネドンなんていたっけ？ 全部覚えてるわけじゃないからなあ。

十代はバーストレディでカーボネドンを撃破したが、何も効果は発動してない。

十代はカードを一枚伏せてターンエンド。

「破壊されても効果が発動しないってことは、墓地で効果発動するタイプかな」

「でも通常モンスターの可能性はあるんじゃないかしら？」

「三沢はコンボを重視してデッキを組む。通常モンスターを入れている可能性は低いだろう」

「なるほどね」

三沢はオキシゲドンを召喚してバーストレディに攻撃するがヒーローバリアに防がれてしまう。

三沢も一枚伏せてターンエンド。

「で、あなたから見て戦況はどんな感じかしら？」

「まだ序盤だからなんともいえないが、ヒーローバリアを消費してしまったのは少し痛いかもしれない」

「でもモンスターを守ることは重要じゃないのかしら？」

「重要といえば重要だけどな。ぎりぎりのときになつてヒーローバリアがありません。というのは間抜けなだけだ。これが吉と出るか凶と出るかはこれからしだいだろう」

「ふーん」

十代はスパークマンを新たに召喚。スパークガンをつけてオキシゲドンを守備表示にしてバーストレディでオキシゲドンを破壊する。しかし効果によりお互い800ポイントのライフダメージを受けて

しまう。さらに十代はスパークマンで追撃を掛け三沢のライフを大幅に削ることに成功した。

十代

LP 4000 3200

三沢

LP 4000 1600

《オキシゲドン / Oxygeddon》 † OCG

効果モンスター

星4 / 風属性 / 恐竜族 / 攻1800 / 守 800

このカードが炎族モンスターとの戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

お互いのライフに800ポイントダメージを与える。

《オキシゲドン / Oxygeddon》 † アニメ

効果モンスター

星4 / 風属性 / 恐竜族 / 攻1800 / 守 800

このカードが炎族モンスターが炎属性モンスターとの戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

お互いのライフに800ポイントダメージを与える。

「オキシゲドンってあんな効果だったんだなあ」

「あら、あなたでも知らないことがあるのね」

「普段発動しないような限定的な効果なんていちいち覚えちゃいな  
いさ」

「イエローのボウヤはかなりつらい状況ね」

「ウォータードラゴンを出すためのパーツがやられたからな。これがあるからアレは使いにくいんだよ」

三沢が追い詰められてきたな。てか三沢の使うエースモンスターがウォータードラゴン以外に思い浮かばん。そのウォータードラゴンの召喚もかなり難しい。専用融合カードっていうのが使いにくさに拍車をかけてるよなどう考えても。

そして三沢のターン。ハイドロゲドンを召喚し、バーストレディを撃破。もう一枚のハイドロゲドンの召喚に成功する。そして装備魔法リビング・フォッシルでオキシゲドンを蘇生。H2O・ボンディングでウォータードラゴンを召喚する。

十代

LP3200 2800

「……は？」

「見事なデュエルタクティクスね」

《リビング・フォッシル》

装備魔法

自分の墓地に存在するモンスターを1体選択して発動する。

選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚し、このカードを装備する。

装備モンスターの攻撃力は1000ポイントダウンし、効果モンスターの効果は無効化される。

このカードが破壊された場合、装備モンスターを破壊する。

リビング・フォッシルなんてカードあったか？ 攻撃力1000ダウンで効果も無効ということは融合素材を復活させることに意義のあるカードだよな。早すぎた埋葬でいいじゃん。という突っ込みは無粋なのか？

三沢のデッキ以上に十代のデッキのほうがいい仕事しそうなんだが……。

「しかしまさか、わずか一ターンでアレが出てくるとは思わなかった。どういう引きしてるんだよ。出す手順がめんどくさいカードボンボン出すんじゃないよ。」

「そう？ あれ位普通でしょ」

「マジで？」

「ええ」

「……………」

いいなあ。

俺もあんだけ引き強けりゃ。ゲートガーディアンとかVWXYZとか使ってみるんだけどなあ。

「どうでもいい話なんだが、酸素は2つセットになってるからH<sub>2</sub>+O<sub>2</sub>≡H<sub>2</sub>Oじゃなくて、2H<sub>2</sub>+O<sub>2</sub>≡2H<sub>2</sub>Oらしいよ」

「ほんとにどうでもいい話ね」

「ハイドロゲドン4体とかルールの無理だもんな」

おっといつの間にか十代のターンだ。

十代は融合を発動させようとしてテンペスターと出そうとするが。

「この時を待っていた！ 罠カード発動！ 封魔の呪印！」

「なんてマニアックなカードを使うんだ。確か効果は……それで十代対策か」

「どういうこと？」

「封魔の呪印は無効にしたカードと同名カードを封じることができると。十代はこのデュエル中『融合』を使用することができなく

なった。E・HEROは融合しなければ効果がガクツと落ちる」

「融合のカードを封じてくるとはね」

「フュージョン・ゲートなら融合は可能だが、ウォータードラゴンに勝てる融合HEROもさほど多くない。十代は一気に窮地に立たされてるな」

「もしかしてこのコンボ、カイザーにも有効じゃないかしら？」

「有効だけど、並べられたサイバー・ドラゴンにリミッター解除を使われてばこぼにされそうだな」

「……………確かに」

「その辺が機械族の強みなんだろうな」

さて、どう出る？ 十代。

十代はスパークマンを守備表示にしてターンエンド。

このターンはどうもできないか。

三沢はマスマジシャンを召喚、メガネを掛けた変な爺さんが出てきた。攻撃力は1500らしい。

あんなカードあったかなあ。

マス・マジシャン アニメ

効果モンスター

攻1500

このカードを召喚したときデッキからカード一枚を墓地に送る。

このカードが戦闘で破壊されたとき、デッキからカード一枚を引く。

ウォータードラゴンとマス・マジシャンで十代のスパークマンとフエザーマンを撃破する。

うつむ、これで十代の場合も空になって手札も2枚。さすがに厳しいものがあるな。

そして十代のターン。

「オレはE・HEROバブルマンを召喚」

「壺男か…」

「壺男？」

「効果発動すると強欲な壺みたいだろう？」

「ああ……なるほどね」

手札あっても壺発動って強いよなあ。特殊召喚だから召喚権使わないし。

「装備魔法バブル・ショットを発動！ 攻撃力を800アップする。そしてマス・マジシャンを攻撃！」

三沢

LP 1600 1500

「十代の本当の力が見えてきたな」

「本当の力？」

「見てればわかるよ」

十代はカードを2枚伏せて、悪夢の屋気楼を発動した。

「融合だけがE・HEROの力じゃない！ 魔法、罫、効果から繰り出される多彩なコンボがE・HEROの真骨頂だ！」

「これがボウヤの言っていた本当の力？」

「ある意味正解だが、ちよっと違う。十代の言っていた多彩なコンボにはある前提があるんだ」

「前提？」

「俺のターン、ドロー」

「このとき悪夢の蜃気楼の効果発動。手札4枚になるまでカードを引く。そして速攻魔法非常食を発動。魔法、罨を一枚墓地に送ることでライフを1000ポイント回復する。対象は悪夢の蜃気楼」

十代

LP2800 3800

「すごいわね、前のターンから含めると6枚もドローしてるわ」

「これが十代の本当の力だ。あいつはドローできるんだ。普通じゃありえないくらいにな」

「確かにこの土壇場でこれだけドローできる人もそうはいないわね」

「そしてこれがさっき言った前提につながるんだ」

「大体読めてきたわ」

「E・HEROの多彩なコンボとやはほとんどが専用カードだ」

「さらに融合デッキは手札の消費が激しい。それを補助できるほどのドロー力がないと使いこなせないってことね」

「イエス、俺が十代のデッキを使っても勝率は1割も行かないだろう」

《悪夢<sup>あくむ</sup>の蜃気楼<sup>しんきろう</sup>／Mirage of Nightmare》†

永續魔法（禁止カード）

相手のスタンバイフェイズ時に1度、

自分の手札が4枚になるまでデッキからカードをドローする。

この効果でドローした場合、次の自分のスタンバイフェイズ時に1度、

ドローした枚数分だけ自分の手札をランダムに捨てる

《非常食<sup>ひじょうしょく</sup>／Emergency Provisions》†



## 速攻魔法

このカード以外の自分フィールド上に存在する

魔法・罾カードを任意の枚数墓地へ送って発動する。

墓地へ送ったカード1枚につき、自分は1000ライフポイント回復する。

三沢が壺を使って手札補充。そして墓地のカーボネドンの効果を発動させた。どうやら自身の上に10枚以上のカードがあるときカーボネドンを除外してダイヤモンドドラゴンを特殊召喚するらしい

そんなの微妙すぎー。

なぜ入れた三沢……。

発動条件も微妙なら出てくるダイヤモンドドラゴンがそれ以上に微妙だ。

ある意味インパクトのあるカードだが……。

確か「こんなカード俺は36枚持つてるよ」だったな。

社長エ……。

「ふふ、ボウヤの言ったとおり墓地で効果を発動するカードだったわね」

「…あそこまでしょぼいとは思わなかったがな」

「あら、私は面白いと思うわよ。強いかどうかは置いて、ね」

《カーボネドン》

効果モンスター

レベル1 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻撃力1000 / 守備力600

自分の墓地にカードが10枚以上存在する場合、墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する。

デッキまたは手札から「ダイヤモンド・ドラゴン」1体を自分フィールド上に特殊召喚する。

《ダイヤモンド・ドラゴン / Hyozanryu》†

通常モンスター

星7 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻2100 / 守2800

全身がダイヤモンドでできたドラゴン。まばゆい光で敵の目をくらませる。

三沢はダイヤモンドドラゴンでバブルマンを攻撃。バブルショットの効果でダメージは受けずバブルマンは生き残ったものの、バブルショットが破壊される。

追撃のウォータードラゴンの攻撃で十代のライフが大幅に削れた。

十代

LP3800 1800

しかし十代はヒーロー・シグナルを使用してクレイマンを召喚。何とか場にモンスターを残した。

融合ができれば、バブルマンとの融合のマッドボールマンで時間稼げそうなんだけどな。

今気づいたんだが翔とコアラがめちゃくちゃ不安そうな目で十代を見ている。

「大丈夫だって、オレはまだ負けたと思っちゃいねえ」

熱い台詞だなあ。俺には真似できんよ。

「たかがカードゲームで、何をそんなに熱くなってやがる」

あ、ちょっと同感。どこからともなく聞こえた声にちょっと親近感を感じてしまう。なんつーかなあ。

所詮カードゲームって意識があるんだよなあ。

でも、デュエルアカデミアにそんな考えの人間がいるのはちょっと珍しいな。そう思ってる人はそもそもここに来ないだろうし。

俺？ 俺は例外だよ。なかば無理矢理だったからなあ。

十代が戦士の生還を使いバブルマンを手札に戻し召喚。

バブルシャッフルを使いウォータードラゴンとバブルマンを守備表示に、さらにバブルマンを生贄にエッジマンを召喚した。

しかししちめんどくさい効果だな。バブルマンを守備表示にする意味あんのかよ。

《バブル・シャッフル / Bubble Shuffle》  
†

速攻魔法

「E・HERO バブルマン」がフィールド上に

表側表示で存在する時のみ発動する事ができる。

自分フィールド上に表側攻撃表示で存在する「E・HERO バブルマン」1体と

相手フィールド上に表側攻撃表示で存在するモンスター1体を守備表示にする。

守備表示にした「E・HERO バブルマン」1体を生け贄に捧げ、「E・HERO」と名のつくモンスター1体を手札から特殊召喚する。

「攻撃力2600のモンスターを融合なしで！」

「融合なしのE・HEROの中では一番攻撃力が高いカードだ。現状これが十代の最強カードになるな」

さらに十代は摩天楼まてんろう - スカイスクレイパー - を発動させ、ウォータードラゴンを撃破するが罠カードラストマグネットでエッジマンの攻撃力が1800までダウンしてしまう。  
そしてウォータードラゴンが破壊されたことにより、融合素材モンスター3体が復活する。  
さらに十代はクレイマンでオキシゲドンを攻撃し撃破する。

### 《ラスト・マグネット》

通常罠

自分フィールド上のモンスターが戦闘で破壊された時に発動する事ができる。

発動後、このカードは装備カードとなり相手フィールド上のモンスターに装備する。

装備モンスターの攻撃力は800ポイントダウンする。

三沢

LP 1500 500

「あら、また形勢逆転かしら」

「エッジマンにラストマグネットがついているから一概にそうとも言えないな。1800ならオキシゲドン一枚と同等だし、オキシゲドンが出せればウォータードラゴン再びって可能性もなくはない」

そして注目の三沢のターン。

「俺は魔法カードリトマスの死儀式を発動。リトマス死の剣士を召喚する！！」

リトマスの死儀式

儀式魔法

「リトマスの死の剣士」の降臨に必要。  
フィールドか手札から、レベルが8以上になるようカードを生け贄に捧げなければならない。

リトマスの死の剣士

儀式モンスター

星8 / 闇属性 / 戦士族 / 攻0 / 守0

「リトマスの死儀式」により降臨。

このカードは戦闘によつては破壊されず、畏の効果を受けない。

畏カードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカードの攻撃力・守備力は3000になる。

「リトマス死の剣士は戦闘では破壊されず、畏の効果を受けない。まさに死の剣士」

「マテ、その前置きは死の剣士と何も関係ないだろう!」

即死効果とか墓地からの復活効果のほうで死のゝってつくカードにありそうなんだが…。

三沢は俺の疑問を無視するようにリトマス死の剣士でエッジマンを、ダイヤモンドドラゴンでクレイマンを撃破する。

これで終了かと思いきや。

十代

LP 1800 1300

あれ? 何でライフが残ってるんだ? 俺の計算では十代のライフはもうゼロのはずなんだが……。

………もしかしてスカイスケレイパー? あれって自分の攻撃時

だけじゃないの？ 被攻撃時に効果発動って強すぎじゃね？

「なあ、スカイスクレイパーって相手からの攻撃時にも攻撃力アップは残ったままなのか？」

「ええ、そうよ。それがどうしたの」

「そうか」

まーじーでー！？

なんというスカイスクレイパー無双。これは十代がデッキに積みまくるわけだわ。

そして三沢は巨竜のはばたきを発動し、スカイスクレイパーを破壊した。

最後に一枚伏せてターンエンドか。

「最後のカードは永続罠かな？」

「リトマス死の剣士を有効活用するためね」

「激流葬みたいなカードでもいいんだけどな、三沢のことだから死の剣士を生かすためにそれなりの枚数の永続罠を入れているだろうし」

「レッドのボウヤは絶体絶命ってわけね」

「あいつは性格上除去魔法を入れてないだろうからな。サンダージヤアントが使えるなら話は早いんだがな。でも、十代は勝つぞ多分だけだな」

「へえ、何かあるのかしら？」

「あいつに勝つには追い詰めちゃだめなんだ。ぎりぎりになると必ず逆転のカードを引いてくる。あいつに勝つなら一気にライフを削るかドローさせないかのどちらかしかない」

「くすつ、面白いボウヤということだけはわかったわ」

「それは否定しないよ」

十代はワイルドマンを召喚。サイクロンブーメランを装備してリトマス死の剣士に攻撃するが、三沢は対抗するようにスピリットバリアを発動。

リトマス死の剣士の攻撃力を3000にして迎え撃つ。  
結果ワイルドマンは返り討ちにあう。

十代

LP1300 300

「これで決着かしら？」

「それはどうだろうな？」

「どうということかしら？」

「確かサイクロンブーメランには魔法・畏破壊効果があつたはずだけど、細かいことまでは覚えてない」

「使えそうで使えないわねえ」

「E・HEROの専用カードなんて使わないからなあ」

どうやらサイクロンブーメランは相手の魔法・畏をすべて破壊して、一枚につき500のダメージを与えるらしい。

三沢のスピリットバリアを破壊して三沢のライフをちょうど0にする。

三沢

LP500 0

「なるほど、戦闘でライフを削らずにバーン効果で決着か。微妙にもやややしなくもないが、ぎりぎりの勝負だったな」

「これだけ接戦になるデュエルも珍しいわね」

「だな、これで代表は十代に決まりか」

「そうなるわね。それと解説助かったわ一応礼を言っておくわね」  
「どういたしまして、って今回はマニアックなカードが多すぎて解説しきれなんだ、すまんかったな」  
「なかなか新鮮な話も聞けたし、気にすることないわ」  
「そっか、じゃまたな」  
「ええ、また今度」

そう言つて、彼女は去つていった。  
つて名前聞いてねえな。まあ縁があれば会えるだろ。



## ノース校交流戦 十代VS万丈目（前書き）

日付変わってしまつて申し訳ないです。

これでも急いだんですけどアニメで前後編があるデュエルはやはり時間がかかりますね。

## ノース校交流戦 十代VS万丈目

ノース校との交流戦も間近に控えた今、十代の周りには友人たちが群がっている。

「なあなあ、ウォータードラゴンを入れたらどうだ。炎属性には絶大な効果を発揮するぞ」

「エトワール・サイバーのほうがいいわよ。ダイレクトアタックの威力が違うわ」

「デス・コアラもいいんだなあ」

「僕のパワー・ボンドも……」

「だー！ー！　うるさい！ー！」

おいおい、そんなに自分のカードを使ってほしいのかおまいら。

ウォータードラゴンのパーツ全部突っ込めっていうのも無理な話だし、エトワール・サイバーは単品で使うと結構微妙だし、パワー・ボンドで何を融合させる気だ？

デス・コアラなら単体でもそこそこ活躍できるかもだが、一気にE・HEROらしくなくなるよなあ。

仕方ない、助け舟を出してやるか。

「あゝ、そこまでそこまで。おまえら十代のデッキと合わないカードばかり薦めてもしょうがないだろう。特に丸めがね！　お前はパワー・ボンドで何を融合させる気なんだよ」

「え、えゝと、それはゝ」

「しかし俺たちは学園代表になった十代のためを思ってたな」

「気持ちにはわからんでもないが、カードを渡してもデッキに入れるかどうかは十代しだいだろ。それよりもっといい方法がある」

「いい方法？」

「十代。お前このHEROもってるか？」

「ん？ すげー！！ こんなHERO初めて見たぜ！ なあ厚志このカード俺にくれよ！！」

「交流戦で勝つたらやるよ。だからがんばってくれ」

「おう、任せろ！！ 早く交流戦始まらないかな」

「これがいい方法なの？」

「どの道俺たちには手出しできん。下手にカードを渡すよりもモチベーションあげるだけで十分だろ？」

「う、うまいんだな。十代の性格を把握してるんだな」

「でもそれなら今兄貴にそのカード渡したほうがいいんじゃないスか？」

「ん〜でも十代の性格だったら……」

「その必要はないぜ翔」

「え？」

「そのHEROは交流戦に勝って厚志からもらうんだ。そう決めた！」

「その方がよりやる気が出ると思ってな」

「ううむ、確かに十代ならその方が効果的だな」

「じゃ、俺は購買にでも行ってくる」

「おう、俺は屋上でデッキの調整してくるぜ」

ひらひら〜と。

しかし、そんなに自分のカード使ってほしいもんかね。

あれだけ種類持つてゐるからなあ。あんまり自分の相棒！！ って感じのデッキやカードってないんだよな。

どれかひとつに絞るっていつてもなあ。しっくりこねえんだよなあ。

購買できらしていたシャープの芯を購入して寮に向かって歩いてい

ると。

「でか!!」

でかいモンスターが浮いていた……。

あれはもけもけか？ でかいからキングもけもけかもしれないな。ほー、カードの絵柄じゃ巨大さまで伝わってこないからな。

あ、きえた。

しかし、もけもけデッキとは珍しいな。攻撃力がすべての風潮の今の流行から考えると結構レアかもしれないな。ま、俺には関係ないな。

やってきました交流戦当日。

俺は混む前にがっちり自分の席を確保していた。

周りにはテレビ局のクルーがあわただしく走り回っている。

テレビ放送なんてするんだなあ。今まで見たことなかったから今年からなのかもしれないな。

「厚志。先に来ていたのね」

「明日香たちか。どうせ混むだろうから先に座って待ってたんだ。人ごみも苦手だしな」

「その判断は正解だな。もうかなりの席が埋まってしまっている。俺たちもここに座ってもかまわないか？」

「どうぞ。知らない人より知り合いのほうが気が楽ですから」  
「助かる」

そういつて俺の周りに座っていく翔、コアラ、明日香、そしてカイザー……

カイザーが座ったと……そうか痔は完治したのか……。

驚きの目でカイザーを見てしまい少し訝しげな目で見られてしまった。

危ない危ない。もう少しでロリコン疑惑に次いで制裁デュエルのイ男にやられカイザーのお尻は重症！！というチェーンメールを出すところだった……。

……イケメンはモゲロ。

おつつい本音が。

対戦相手はなぜかいる万丈目……。

あいつ、ここから出た後ノース校に編入していたのか。しかもその短い間で代表になるとはな。

うつむ、地獄デッキでどうやってトップを取ったのか非常に気になる。

「紹介はいらん。俺の名前は俺が告げる。俺の名は！！」

「――！」

「十！！！」

「百！！！！！」

「千！！！！！！！」

「万丈目さんだ――！！！」

「うおおーサンダー！！！！！」

「『『万丈目サンダー！』！』」」

……なにこれ？

サンダーってどこから来たんだよ……。もしかしてあれか、『万丈目さんだ！』ってずっといつてたから『万丈目サンダー』なのか？  
……そう考えると一気にばかしくなったな。

「すごい人気っス」

「しかし、短い時間でノース校の生徒たちの心をこれほど掴んだということはあなどれんな」

それは同感。男子三日あわざれば克目して見よの諺をこれほどまで見まざまざと見るとは思わなかったな。

「行くぞ十代！」

「来い万丈目！」

「万丈目さんだ！！」

「『決闘！』！』」

はじまったか。

先攻は万丈目。仮面竜を召喚しターンエンド。

十代はバーストレディで仮面竜を撃破するが万丈目は仮面竜の効果でアームド・ドラゴンレベル3をリクルートする。

「レベルって厚志君の使ってた」

「ホルスの黒炎竜と同じシリーズ系統のカードだな。ロック効果はないが、敵モンスターの破壊に特化している。前に万丈目が使って

たVWXYZがあつたる？ 細かいところは違つがイメージとしてはあんな感じた」

「しかしあれはかなりのレアなカードのはずだ。いったいどこで……」

十代はカードを伏せてターンエンド。

万丈目は自分のスタンバイフェイズにアームド・ドラゴンをLV5にレベルアップさせた。

《アームド・ドラゴン》 レベル LV3 / Armed Dragon LV

3》  
+

効果モンスター

星3 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻1200 / 守 900

自分のスタンバイフェイズ時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、

手札またはデッキから「アームド・ドラゴン」LV5 1体を特殊召喚する。

十代はヒーロー・ヘイローでバーストレディの戦闘破壊を防ごうとするが、万丈目はアームド・ドラゴンLV5の効果でドラゴンフレイを墓地に送りバーストレディを破壊する。

《ヒーロー・ヘイロー / Hero Ring》  
+

通常罫

発動後このカードは装備カードとなり、

攻撃力1500以下の戦士族モンスター1体に装備する。

相手の攻撃力1900以上のモンスターは、

装備モンスターを攻撃する事ができない。

《アームド・ドラゴン》 レベル LV5 / Armed Dragon LV

## 5 ㊦ 十

効果モンスター

星5 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2400 / 守1700

手札からモンスター1体を墓地へ送る事で、

そのモンスターの攻撃力以下の攻撃力を持つ、

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して破壊する。

また、このカードが戦闘によってモンスターを破壊したターンのエンドフェイズ時、

フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、手札またはデッキから「アームド・ドラゴン レベル1」1体等特殊召喚する。

しかしヒーロー・ヒーローとはな。実戦で使うやつ始めてみたな。HEROを戦闘から防ぎたいのならヒーロー・バリアの枚数を増やしたりするほうがいいと思うんだけどな。どうせ融合するんだし何ターンも守る必要性が感じられん。

それにしてもドラゴンフライまで入ってたってことは、アームド・ドラゴンを生かす形でデッキを組んできたな。

忘れがちだけどアームドドラゴンって風属性なんだよな。どう見ても地属性にしか見えん。

十代はアームド・ドラゴンレベル5のダイレクトアタックで大幅にライフが削れ吹っ飛んでいった。

十代

LP4000 1600

万丈目はカードを一枚伏せてターンエンド。

十代は壺男を召喚しカードを2枚引きテンペスターを融合召喚する。



普通あんなに都合よくカード引かねえぞ。毎度のこととはいえあいつ積み込みしてんじゃねえだろうな……。

エレメンタルヒーロー

《E・HERO テンペスター/Elemental Hero Tempest》† OCG

融合・効果モンスター

星8/風属性/戦士族/攻2800/守2800

「E・HERO フェザーマン」+「E・HERO スパークマン」+「E・HERO バブルマン」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカード以外の自分フィールド上のカード1枚を墓地に送り、自分フィールド上のモンスター1体を選択する。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

選択したモンスターは戦闘によつては破壊されない。(ダメージ計算は適用する)

エレメンタルヒーロー

《E・HERO テンペスター/Elemental Hero Tempest》† アニメ

融合・効果モンスター

星8/風属性/戦士族/攻2800/守2800

「E・HERO フェザーマン」+「E・HERO スパークマン」+「E・HERO バブルマン」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

自分フィールド上のカード1枚を墓地に送る。

このカードは、このターン戦闘によつては破壊されない。(ダメージ計算は適用する)

この効果は相手ターンにも使用する事ができる。

「カオステンペスター!」

「ぐうう」

万丈目

LP4000 3600

万丈目のアームド・ドラゴンを破壊したか、レベル10まで育てばライトニング・ボルテックスみたいな効果だからな。

レベルの低いうちに流れを止めたいところではあるな。

と思ったらリビングデッドの呼び声でアームド・ドラゴンが蘇生されてしまった。

切り替えしがうまくなってる。万丈目も確実に強くなっているな。

十代は一枚伏せてターンエンド。

「サンダーー!!」「」

「サンダーー!!」「」

「万丈目サンダーー!!」「」

うるせえ。あの暑苦しいのどうにかならんものか……。

「ああ、また墓地からアームド・ドラゴンが」

「けど、大丈夫なんだな。テンペスターの攻撃力は2800。それ以上の攻撃力を持つモンスターを墓地に送らないとアームド・ドラゴンの効果は発揮しないんだな。攻撃力2800以上なんてそうそういないんだな」

「そつかあ。がんばれ兄貴ー!」

アームド・ドラゴンLV10っていう攻撃力3000のモンスターは確実にデッキにいるんだけどな……。

ここは空気を読んで黙っておこう。  
さて次は万丈目のターンだ。どうする？

「俺はアームド・ドラゴンLV5の効果を発動する。手札から捨てるのは闇より出でし絶望！！ このカードの攻撃力は2800！  
よってテンペスターは破壊！！ いけえ！ デストロイパイル」  
「くっ、速攻魔法融合解除を発動！」

《闇より出でし絶望 / Despair from the Dark  
k 十

効果モンスター

星8 / 闇属性 / アンデット族 / 攻2800 / 守3000

このカードが相手のカードの効果によって手札またはデッキから墓地に送られた時、  
このカードをフィールド上に特殊召喚する。

テンペスターが消え融合素材となった3体のモンスターと入れ替わる。

「危なかったんだなあ」

「間一髪だよ」

「いや、あんまりよろしくない」

「どういうことっスか？」

「レベルアップの条件はモンスターごとに決まっている。その中でも一番多い条件があいてモンスターの破壊だ」

「じゃ、じゃあ」

フィールドでは調度アームド・ドラゴンがスパークマンを破壊したところだった。

「これで俺のアームド・ドラゴンは更なる進化を遂げる。出でよアームド・ドラゴンLV7!!」

「これが、アームド・ドラゴン究極の姿……」

「みたか、これが伝説のレベルアップモンスターアームド・ドラゴン究極の姿だ」

「いいなー、すげーなー、かつちよいいなー」

「馬鹿か！ お前の身が危ないんだぞ！」

《アームド・ドラゴン LV7 / Armed Dragon LV7》

効果モンスター

星7 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2800 / 守1000

このカードは通常召喚できない。

「アームド・ドラゴン LV5」の効果でのみ特殊召喚できる。

手札のモンスターカード1枚を墓地に送る事で、

そのモンスターの攻撃力以下の相手フィールド上表側表示モンスターを全て破壊する。

「いまいち緊張感に欠けるな」

「十代だもんね」

「そりゃごもつとも」

問題はLV7か……。確かLV7から全体除去になったはずだ。これはしばらく十代のピンチは続くかもしれないな。

なぜか守備が異様に低くなるから月読命の格好の標的になったんだよな。レベルアップしないほうが強いとまで言われてたりしたはず。十代ならスパークガンか……。もう墓地にいつちまったな。

十代はフレンドッグを守備表示にしカードを一枚伏せてターンエンド。

あからさまに守りを固めてきたな。

「それもちよいとよろしくないな」

「どういうことだ？」

おっと今度はカイザーか。

「アームド・ドラゴンの効果は表側表示のモンスターだけ、裏守備表示は効果の対象外だからです」

「そうか、相手の攻撃力を参照しなければならない以上裏守備表示のモンスターまで効果が及ばないのか」

まあLV10は参照しなくても表側だけなんですがね……。

俺の予想通り十代のモンスターをアームド・ドラゴンLV7の効果で一掃する万丈目。

表守備が主流の現環境だと強いよなあ。何でみんな裏守備使わないんだろう？

十代はフレンドッグの効果を使って融合とバーストレディを回収する。

あれ？ あの手の効果って戦闘破壊じゃないとだめなのがほとんどだった気がするんだが。

俺の気のせいなのか？

《フレンドッグ/Wroughtweiler》   †   OCG  
効果モンスター

星3/地属性/機械族/攻 800/守1200

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

自分の墓地から「E・HERO」と名のついたカード1枚と

「融合」魔法カード1枚を手札に加える。

《フレンドッグ/Wroughtweiler》 † アニメ  
効果モンスター

星3/地属性/機械族/攻 800/守1200

このカードが破壊され墓地へ送られた時、

自分の墓地から「E・HERO」と名のついたカード1枚と

「融合」魔法カード1枚を手札に加える。

「これでお前の壁モンスターはいなくなった。アームド・ドラゴン  
LV7でダイレクトアタックだ!!」

「畏れ動ヒーロー・スピリッツ! E・HEROが破壊されたター  
ン相手モンスター一体の戦闘ダメージを0にする!!」

《ヒーロースピリッツ/Hero Spirit》 †

通常罫

自分フィールド上の「E・HERO」と名のついたモンスターが  
戦闘によって破壊された場合、

そのターンのバトルフェイズ中に発動する事ができる。

相手モンスター1体からの戦闘ダメージを0にする。

よく凌いだと言いたい所だけど……和睦でいいじゃねえかよ!!

それ完全に下位互換だろうが!! E・HEROが破壊されたとき  
って限定されすぎだろ!!

十代はハネクリボーを出してターンエンド。

なんか万丈目が変な動きをしている。あいつ疲れてんのかな?

万丈目はハネクリボーを戦闘破壊してターンエンド。

そして十代は強欲な壺を発動する。

ほんとにあいつぎりぎりになると壺か壺男ばかり引くな。

「行くぞ! これが逆転のカードだぜ!! 魔法スペシャルハリケ

ーン発動！ 手札一枚を捨てて、特殊召喚されたモンスターすべてを破壊する！」

《スペシャルハリケーン / Special Hurricane》

十

通常魔法

自分の手札を1枚捨てる。

フィールド上に存在する、特殊召喚されたモンスターを全て破壊する。

十代はスペシャルハリケーンでアームド・ドラゴンを破壊するが…  
…どう考えてもE・HEROに入れるカードじゃねえ。  
むしろ対E・HEROとしてのカードにしか見えん。

十代はワイルドマンを召喚し万丈目にダイレクトアタックを仕掛ける。

万丈目

LP 3600    2100

フレイムウィングマン一回分か、万丈目もケツに火がついてきたな。  
アームド・ドラゴンもやられたしどうやって立て直す気だ？

「立て！ 立つんだサンダー！！」

「「サンダー！！！！」」

「いい加減この暑苦しいの何とかならんのか」

「なんか怖いっス」

万丈目は四次元の墓を使用してアームド・ドラゴンLV3とLV7

をデッキに戻した。

そしてLV3を守備表示で召喚してターンエンド。

《四次元<sup>よじげん</sup>の墓<sup>はか</sup>/The Graveyard in the Fourth Dimension》†

通常魔法

自分の墓地に存在する「LV」を持つモンスター2体を、自分のデッキに加えてシャッフルする。

「万丈目の行動がパターン化されてきたな。焦ったか？」

「三沢それはどうか？ デッキ自体がアームド・ドラゴンに特化されてる可能性はあるぞ」

「もしくはなにかこだわりがあるのかもしれないな。十代のHEROのように……」

十代はワイルドマンでアームド・ドラゴンLV3を撃破。万丈目は罠カード復活の墓穴を使用してアームド・ドラゴンLV5を十代はヒーロー・キッズをそれぞれ呼び戻す。

ヒーロー・キッズの効果によりデッキから同名カードがやってきて、結果十代の場合には3体のヒーローキッズが現れる。

《復活<sup>ふっかつ</sup>の墓穴<sup>はかあな</sup>/The Grave of Enkindling

》†

通常罠

自分フィールド上に存在するモンスターが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時に発動する事ができる。

自分と相手はそれぞれの墓地からモンスター1体を選択し、守備表示でフィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターは、フィールド上に表側表示で存在する限り表示形式を変更できない。



表示形式が変更できない復活の墓穴と使ったということはLV5の効果でどうにかするか、それともレベルを上げるかだな。

万丈目はレベルアップを発動してアームド・ドラゴンをLV7に進化させる。

「いかん、万丈目は十代のモンスターをまた全滅させる気だ」

「まあ、レベル関係のデツキならはいつてるよなあ普通」

「あなたもずいぶんとおんきね。十代が負けるかもしれないのよ！」

「いや、負けたからって命とられるわけじゃないだろうよ。それに十代の顔を見るとLV7が出てくるのを予想済みみたいだぞ」

「……」

そうなのだ。十代はアームド・ドラゴンLV7が出てもそこまで驚いてはいなかった。おそらくなんと出てくる予感があったのだろう。これもデュエリストの嗅覚ってやつかもしれないな。

万丈目はアームド・ドラゴンにアームド・チェンジャーを装備してワイルドマンを攻撃。アームド・チェンジャーの効果により墓地から仮面竜を手札に加え、そのまま墓地に送り十代のモンスターを殲滅する。

なんか仮面竜がかわいそうに見えてくるな。墓地と手札を行ったり来たりとは。

《アームド・チェンジャー / Armed Changer》†

OCG

装備魔法

自分の手札から装備魔法カード1枚を墓地に送って発動する。  
装備モンスターが戦闘によってモンスターを破壊した場合、

装備カードのコントローラーは自分の墓地から

装備モンスターの攻撃力以下のモンスター1体を手札に加える事ができる。

「ああ、また兄貴のモンスターが全滅」

「俺は手札から戦士の生還を発動。フェザーマンを手札に加えバーストレディと融合。来い！ フレイムウイングマン！！」

「そんなカードでどうするつもりだ！」

「俺のコンボは完成している。罠カード発動ミラクル・キッズ！！」  
「なに！？」

「このカードは自分の墓地にあるヒーロー・キッズ一枚につき相手モンスターの攻撃力を400ポイント下げる！ よってアームド・ドラゴンLV7の攻撃力は1600」

《ミラクル・キッズ/Miracle Kids》 †

通常罠

エンドフェイズ時まで相手モンスター1体の攻撃力は、自分の墓地に存在する「ヒーロー・キッズ」の枚数×400ポイントダウンする。

「フレイムウイングマンの攻撃力は2100。効果ダメージも合わせる」と

「ぴったり2100になるわ……」

「いつけええー、フレイムシュートー！！」

やれやれ、毎回紙一重なのが恐ろしいな。

さておめでとうとともにご褒美のカードをあげに行くか。

ん？ orz 状態の万丈目に誰か近づいていくぞ。誰だありや？

「万丈目一族に泥を塗りおって」

「だから貴様は落ちこぼれというのだ」

ははあ、要は一族の顔売るために弟をプロデュースしようとして見事にこけたということね。

「やめろ！！ 万丈目もオレも一生懸命戦ったんだ」

「他人がわれら兄弟のことに口出しするな」

「我々は途中経過などに興味はない結果だけを問題にしているのだ」

「だが過程を経ずして結果は出ぬ。結果だけを論ずるアホのする事よ」

「「なんだと貴様！！」」

しまった。つい口が滑って胡散臭い某仙人の台詞を口走ってしまった。

「結果こそすべて！ 勝利こそすべてなのだ！！」

「だかサンダーは勝った。あんたたちの余計なプレッシャーを跳ね除けたんだ」

なんか十代がいい事いつてるけど、なんかピンとこないんだよねあ。こういう時すごい疎外感を感じる……。

俺はまだこの世界になじみきってないってことなのか？

「「「お前たちは帰れー！！」」」

「「「サンダーー！！」」」

「『サンダー!!』」

ずいぶん慕われてるなあ万丈目。さてこういう熱い場面は俺には合わない。俺はもっと飄々と生きていきたいのさ」ということでフェードアウト。

そして万丈目はノース校に戻らずに本校の方に再編入となった。しかし出席日数が足りずにレッド寮に入ることになったということか。

「それでお前がこの部屋にいるわけか」  
「そうのことだ」

はれて万丈目と同室になった俺なわけだが、万丈目って俺のこと覚えていたのだろうか？  
忘れてくれたほうがありがたいんだけどなあ。

「あゝ、その……なんだ。よろしく頼む」  
「わかつている!」

これならレイのほうが幾分気楽だったかもしれないなあ。  
はあ。

## ノース校交流戦 十代VS万丈目（後書き）

今回の万丈目のデッキはアニメには珍しくまともなほうです。  
仮面竜やドラゴンフライなどアームド・ドラゴンを生かす構築をしていますね。

どっちかというと十代のほうが突っ込み箇所は多かったです。

実は今回の十代はルール違反を一回犯しています。探してみるのも一興でしょう。

明日の夜には次回更新できそうです。さすが盆休みw  
8月中にセブンスターズを3人程度は終わらせたいなあ……。

## セブンスターズの脅威（デュエルなし）

万丈目と同室になって1週間が経過した。

万丈目は最初こそピリピリしていたものの今では割とうまくやっている。

こいつ結構ギャグキャラとしての素質あるんだよなあ。朝食のめざしを十代にとられて喧嘩になりそうだったが、たまたま来た明日香の登場によって態度がころつと変わったり、調整デュエルにつき合わせたらデッキの枚数が39枚しかなくて残る一枚を必死に探したらその一枚はなぜかおジャマイエローだったりとか。

愛すべきアホの子って感じがしてとても微笑ましかったりする。

まあ俺がいつもの様にに寛いでいたらこれまたいつもの様に十代がやってきたんだ。

「厚志。お前にもらったHEROのおかげで命拾いしたぜ。ありがとうとな」

「なんのこっちゃ？」

「あゝ、なんつーか。詳しく説明するのは難しいんだけどな、お前にもらったカードのおかげでデュエルに勝つことができたんだ」

「ネクロダークマンか？」

「そうそう。手札がエッジマン一枚でも逆転できるなんてすごいカードだぜ」

そう、俺が十代のご褒美としてあげたのはE・HEROネクロダークマンだ。生贄なしで上級HEROを召喚する効果は強力だがそもそも上級HEROがそんなにいなかったりするため、ほぼエッジマン専用のサポートカードになる。ネオスは通常モンスターサポート使ったほうが強いだろうしなあ。

融合は可能だが融合してもあまりのパンチの低さで結構微妙だった  
りする。

「役に立ったならよかったよ」

「おう！ これでエッジマンの活躍の場が増えるぜ」

「なにい、厚志！ 貴様十代にだけそんなカードを渡していたのか  
！」

「基本的にカードは渡さない主義なんだけどな。十代の場合はサン  
ダーに勝ったご褒美ってことで事前に話していたんだ」

あー万丈目がうるさい。また十代に対抗意識燃やしてんな。

ちなみにサンダーと呼んでいるのはそう呼ばないというさだからだ。  
同年なんだから別にいいじゃん……。

もしかしたらあの兄貴連中と同じ名前で呼ばれるのが気に食わなか  
ったのかもしれないな。

そんなやり取りがあった翌日。俺、十代、万丈目、明日香、カイザ  
ー、三沢、クロノス教諭は校長室に呼ばれていた。面子の選定基準  
がいまいちわからん。座学成績優秀なら十代はありえないし、実技  
なら俺は中の下だ。そもそも生徒から外れているクロノス先生もい  
る。

どういう集まりなんだこれ？

「皆さんよく来てくれました。この場にいる皆さんにお願いがある  
のです」

「お願い……ですか」

「そうです、古よりこの島に伝わる3枚のカード」

「あれ？ この学園ってそんな昔から有ったのか？」

「煩い、黙って聞け！」

「そもそもこの学園はそのカードが封印された場所の上に、建っているです」

「……ええ……!」

「学園の地下深くに、その三幻魔のカードは封印されています。島の伝説に依ると、そのカードが地上に放たれる時世界は魔の世界に包まれ混沌が全てを覆い、人々に潜む闇が解放される。やがて世界は破滅し無に帰す。それほどの力を持つカードだと伝えられています」

げ! やっぱり幻魔ってやばいカードだったのか。実は九枚ずつ持ってますなんて言ったらこのあつまりはどうなるんだろうな? ちよつと試してみたい気も、ドキドキ。

「なんだかよくわかんないけど、凄そうなカードだな」

「黙って聞いているノーね」

「そのカードの封印を解こうと、挑戦してきた者が現れたのです」

「いつたい……誰が?」

「七星門……セブンスターズと呼ばれる決闘者です。デュエリスト 全くの謎に包まれた7人ですが、もう既に1人がこの島に……」

「三幻魔のカードは、この学園の地下の遺跡に封印され七星門と呼ばれる7つの巨大な石柱がそのカードを守っています。その7つの石柱は7つの鍵によって破られる」

「じゃあ、セブンスターズ達はこの鍵を奪いに……」

「そこで、貴方達にこの7つの鍵を守ってもらいたい」

「守る……と、言っても一体どうやって?」

「勿論、決闘デュエルです」

でた! デュエル脳!! そしてデュエル万能説!!!

「七星門の鍵を奪うには、決闘デュエルによって勝たねばならない。これも



古よりこの島に伝わる約束事……だからこそ、学園内でも屈指の決闘者デュエリストでもある貴方方に集まってもらったのです。ゴホン、まあ……1名ほど数合わせに呼んだのですが……」

俺のことか？ デュエルの成績はトップクラスではないからな。いろんなデッキ使ってるおかげで対策を採られないのはいいんだけどな。

どうせなら楽しもうと、ロマンコンボいっぱい詰めてるからないまいち勝率が上がらん。

「この7つの鍵を持つ決闘者デュエリストに、彼らは決闘を挑んできます貴方方に、セブンスターズと戦う覚悟を持っていただけののなら……どうか、この鍵を受け取ってほしい」  
「おもしれえ、やってやるぜ！」

さすがに十代はやる気満々だな。さすが主人公属性。

「ふふふのひー、校長、脅かしはいけませんノーね要すルーに、学園の看板ノーを、道場破リーが、奪いに来ると考えればいいノーね」  
「まあ、今はそう考えてもらっても結構ですが……」  
「そうですか、考えてくれるだけでもありがたいよく考えて決めてください」

「道場破りか……俺だったら一番強い奴から行くだろうなあ……俺ってか？」

「それは違いますノーね！」

「実力で言えば私か、カイザーこと、シニョール丸藤亮なノーね」  
「遊城十代、私が密カーに調査した所に依ると貴方はカイザー亮ーに、こてんパーンに負けているノーね。そうデーしょ？」

「校長先生。質問いいですか？」

「どうぞ、鈴木君」

「まず、鍵の破壊や金庫にしまつとか海底に沈めるといった物理的に手出し不可能な手段をとらない理由を教えてくださいたいのですが」

「もつともな疑問ですね。それはその方法でも封印が解けてしまうからです。鍵が破損する、そしてデュエルを受けられない状態にある。これも封印をとく行為になってしまいます」

ふむ、つまりデッキ忘れたからまた後日つてわけには行かないのか。目の前にセブンスターズがいればデュエルせざるを得ないというわけか。七面倒なことだ。

「では次に私をメンバーの中に入れたわけを教えてくださいたいのですが。私はここにいるメンバーほどデュエルの勝率は高くありません」

「ふむ、それももつともな事でしょう。鈴本君、君の実技の成績は確かにこのメンバーから一步譲るといっても仕方ありません。ですがそれは君のデッキが制限されていて君本来のデュエルスタイルで戦えていないからだと判断しています」

「確カーにシニョール鈴本ーは、ロックカード等ーの使用を禁止されていまスーノね」

「ではそれを？」

「うむ、今このときをもつて、君のデッキをすべて解禁扱いにしたいと思います」

なるほどね。別にロックデッキが本領つてわけでもないんだが解禁してくれるにこしたことはないな。

しかしセブンスターズか……。負けられないデュエルつてことならちよつとインチキくさいがエグイデッキもくみ上げる必要が出てくるのかもしれないな。

「わかりました。引き受けましょう」

まず禁止カードの隙間を見つけておかないと、とりあえず苦渋の選択と第六感はどこにしまったっけかな？

万丈目には悪いがデッキの調整相手をしてもらうか。今回はどうやらマジのようだからな。しっかりやっておかないと。

「君たちはいつでもデュエルができるように準備しておいてください。そしてどうか三幻魔のカードを守ってください」

俺たちは校長室から退室した。

今日は徹夜になるかもしれないな。しばらく使ってなかったデッキタイプもあるから、プレイングの錆落しもしなければならぬだろう。

「まだやらねばならぬのか？」

「すまない万丈目。でもこれは必要なことだからな」

「それはわかるが、何も今夜中にやらなくてもいいだろうに」

「不完全なデッキや勝率の低いネタデッキで世界の命運をかけるわけにもいかないだろう？ 校長先生はもう島の中にもぐりこんでいるといっていた。今この瞬間にもデュエルを挑まれても不自然じゃない」

「チッ、この埋め合わせはしてもらうからな」

「わかってるさ」

ん？ 今何か違和感が。

「おい、今何か感じなかったか？」

「お前もつてことは気のせいじゃなさそうだな」

「そのようだ。これは、火山の方角か」

「行ってみよう。誰かデュエルしているのかもしれない」

俺たちが火山に向かってしていると、カイザーと三沢も同じ方向に走っているのが見えた。

あいつらも同じってことか。

「三沢！ カイザー！」

「万丈目に厚志おまえたちもか」

「急ごう、胸騒ぎがする」

しばらく走っていると人影が見えてきた。

あれは……翔とコアラか。ほかにも何人かいるようだな。

「セブンスターズが来たのか！」

「兄貴がデュエルをして勝ったんだけど……」

「生きてるのか！？」

「生きてるけど傷がひどいんだな」

「奥にいるのは明日香か」

「わからない……兄さんが……魂が！？」

どうも状況がよくわからんな。

明日香は黒ずくめの人物を抱きかかえている。この人物もだいぶ傷がひどいようであったりしたまま動かない。

「とりあえず医務室へ運ぼう」

十代たちを医務室に送り届け一日が経過した。十代は一度は目が覚

めたもののまだ重体。明日香の兄の天上院吹雪さんは命に別状はないが危篤状態が続いているそうだ。

吹雪さんが行方不明になり、どういっいきさつでダークネスとなつたかはいまだわからないままだ。

そしてアカデミアでは湖の上の吸血鬼の噂で持ちきりだ。俺たちは新たなセブンスターズではないかと考えている。

「次の相手は吸血鬼か。だんだんファンタジーに近づいてきたな」「なにをいう、それを言うなら三幻魔自体が十分なファンタジーだろう?」

「それもそうだな」

「それより調整は終わったのか?」

「ああ、念のためいくつかタイプは作ったしプレイングの錆もだいぶ削ぎ落とせただろう。感謝するサンダー」

「ふん。この俺を散々実験台にするとはな」

そして俺は万丈目の協力を経ていくつかのデッキを完成までにこぎつけた。OCGで強すぎて禁止や調整が入りそうなカードもふんだんに使っているので、今回の俺は一味違うぜ状態だな。

具体的には混沌帝龍やフルバーンに変異力オスなどエグイデッキもいくつかも作った。

そしてその夜。俺たちは吸血鬼が出たというコアラの証言を頼りに湖までやってきた。

そしてなんやかんやがあつてクロノス先生が新たなセブンスターズ吸血鬼力ミューラとデュエルした。

そしてすごいかつこいいことを言って敗北し魂を人形に封印された。

そしてその人形なんだが……こういつては何だが異様にキモイ！  
キモカワイイとかのレベルじゃねえ！

ありえないくらいキモイんだ。

せっかくなかつこいい事言つたのに、あの人形ですべてが台無しだといつても過言ではない。

カミューラがこの人形を持って帰らなかった気持ちもわからないでもない。

ぶつちやけ呪いの人形にしか見えないからな……。

こう表現するとすごく不憫だな。

でもクロノス先生のデュエルに対するスタンスがとても素敵だと感じた。

やはりあの人も教育者ということなんだろうな。

『デュエルは子供たちに夢と希望を与えるもの。闇のデュエルなど決して認めるわけにはいかない』 『光で闇を打ち破ってほしい』……か。

どうして俺はこういう自分の信念を貫いて、さらにそれを受け継がせるような人間に弱いんだろうな。

初めてかもしれないな。

デュエルでこんなに熱くなったのは。

## セブンスターズの脅威（デュエルなし）（後書き）

いろいろとごめんなさい。セブンスターズ編大幅カットでお送りしております。

シリアスパートではどうもツツコミが鈍ってしまつて調子が出ませんでした。

対セブンスターズのみツツコミが激減するかと思います。

学園祭などのコスプレデュエルなどではいつもの調子に復活させたいと思つてるのでよろしく願います。

## 厚志の初めての闇のデュエル VS カミューラ（前書き）

我ながら恐ろしいペースで更新しております。

キーボードの打ちすぎで正直肩が痛いです。

明日はさすがに更新できませんが近いうちに更新したいと思います。



## 厚志の初めての闇のデュエル VS カミューラ

カイザーがカミューラに敗北した。

カイザーがカミューラを後一步まで追い詰めたが、カミューラの幻魔の扉の発動コストに翔の魂を使い、人質として利用した。

明らかにデュエル外の事情でカイザーは敗北した。

デュエルはデュエル。それ以外はそれ以外。

デュエルにその他の事情を持ち込むやつは俺は大嫌いだ。

カミューラは『正々堂々なんて言葉は虫唾が走る』といていた。これで俺もあれらのデッキを使用するのにためらいはなくなった。十代がやる気を出しているところ悪いが次は俺がやらせてもらう。幻魔の扉など関係ない。どれだけ効果が強力でも所詮サンダーボルトの変形版だ。あの程度のカード発動さえさせなければいいだけの話だ。

「と、いうわけで十代。悪いがカミューラの相手は譲ってもらおうぞ」

「け、けど厚志」

「お前に幻魔の扉がどうこうできたり、みんなの魂を取り戻すプランがあるのか？」

「カミューラの力を封じるには、闇のアイテムが必要なんだ！だから俺に任せてほしい」

「闇のアイテムか……いや、それではだめなんだ」

「なんでだよ！」

「俺はクロノス先生の最後の言葉に従いたい。だから闇には闇じゃなくて光で対抗したいんだ」

「けどそれじゃあ」

「大丈夫だ。幻魔の扉はとうにでもなる。たまには俺を信じてくれ」

「う、わかったよ」

「よし！ 交渉成立だ。後騒ぎそうなのは万丈目か……。あいつも単純だから口車で何とでもなるだろう」

「で、次の相手は坊やなわけね」

「そういうことだ」

「では、魂と命を懸けたデュエルをはじめましょう」

「その前にひとつ提案がある」

「提案？」

「俺は常に自分の魂を掛ける。お前は俺たちの仲間の魂を一回ずつ掛けてほしい」

「どうということ」

「初戦で俺が勝てばクロノス先生の、二回目で勝てばカイザーの魂を開放してほしい。お前が魂を掛けるのは三回目だ」

「ふーん、徹底的にアンチデッキでも作っているのかしら？」

「さらに！ 俺はその三回すべて別のデッキを使うと宣言しよう。

どれか一回でもお前が勝てば俺は魂を失う。どうだ？ 悪い条件じゃないと思うんだがな」

「そんな無茶っスよ！！ ただでさえ相手は強いのに」

「ふふふ、よっぽど自信があるのね、いいわ！ あなたのその思い上がり。真っ向から叩き潰してあげるわ」

「厚志！ 勝算はあるの？」

「相手が約束を守ればな」

「でははじめましょう。闇のデュエルを」

「ああ、俺は自分の魂を掛ける」

「GOOD！ 私は醜いクロノスの魂を掛けるわ」

「「決闘！！」」

「私のターン。私は不死のワーウルフを攻撃表示で召喚。カードを一枚伏せてターンエンド」

《不死（ふし）のワーウルフ》

効果モンスター

レベル4 / 闇属性 / アンデット族 / 攻撃力1200 / 守備力600  
このカードが戦闘で破壊された時、デッキから「不死のワーウルフ」1体を

自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚に成功した時、そのカードの攻撃力は500ポイントアップする。

クロノス教諭が戦ったときと同じか。

まあこのデッキなら何とでもなるか。幸い今日の俺は絶好調で引きも悪くないようだ。

「俺のターンだ。俺は永続魔法神の居城ーヴァルハラを発動。効果を使用して光神テテウスを特殊召喚」

《神の居城 - ヴアルハラ / Valhalla, Hall of the Fallen》

永続魔法

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、手札から天使族モンスター1体を特殊召喚できる。  
この効果は1ターンに1度しか使用できない。

《光神<sup>ひみつ</sup>テテウス / Tethys, Goddess of Light》

効果モンスター

星5 / 光属性 / 天使族 / 攻2400 / 守1800

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、  
自分がカードをドロートした時、そのカードが天使族モンスターだった場合、

そのカードを相手に見せる事で自分はカードをもう1枚ドロートする  
事ができる。

「上級モンスターを生贄なしですって!？」

「さらにマンジュ・ゴッドを攻撃表示で召喚。効果により儀式魔法  
であるを宣告者の預言<sup>デクレアラ・プロフェシー</sup>を手札に加える」

《マンジュ・ゴッド / Manju of the Ten Tho  
us and Hands》

効果モンスター

星4 / 光属性 / 天使族 / 攻1400 / 守1000

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、

自分のデッキから儀式モンスターまたは

儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

「すげえ、いつもの厚志じゃねえ」

「確かに。今日の厚志は気迫が違うな」

「バトル! マンジュ・ゴッドで不死のワーウルフを攻撃」

「ぐう、しかし不死のワーウルフはよみがえる!」

「ならば、テテウスで叩けばいいだけの話だ。テテウスで不死のワ  
ーウルフを攻撃」

「くっ、まだまだあ!」

カミューラ

LP4000 3800 3100

「カードを一枚伏せてターンエンドだ」

「私のターン。私は不死のワーウルフを生贄にヴァンパイア・ロードを召喚」

む、来るか。クロノス教諭を倒した最強のヴァンパイアが。

進化しないほうが使い勝手がいいとまでいわれた微妙カードが！

「そしてヴァンパイア・ロードを除外して、来い！ わが最強の僕ヴァンパイアジェネシスよ！」

「あれはクロノス先生を倒した！」

「まずいわ、せっかく出した上級モンスターがやられる」

《ヴァンパイアジェネシス/Vampire Genesis》  
効果モンスター

†

星8/闇属性/アンデット族/攻3000/守2100

このカードは通常召喚できない。

自分フィールド上に存在する「ヴァンパイア・ロード」1体をゲームから除外した場合のみ特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、手札からアンデット族モンスター1体を墓地に捨てる事で、

捨てたアンデット族モンスターよりレベルの低い

アンデット族モンスター1体を自分の墓地から選択して特殊召喚する。

「ふふふ、せっかく出した上級モンスターなんだけど、ここで退場させてもらうわ。ヴァンパイアジェネシスで光神テュスを攻撃！

ヘルビシヤス・ブラッド！！」

「リバースカードオープン和睦の使者発動。戦闘ではモンスターは破壊されずダメージも0にする」

「チツ、たかが寿命が一ターン延びただけよ。ターンエンドよ」

「し、心臓に悪いっス」

「ひゃひゃしたぜ……」

なにを心外な。十代のほうがよっぽど心臓に悪いデュエルを送っているだろうに。

「さて、俺のターンだな。ドロー！ 引いたカードは勝利の導き手フレイヤだ。光神テュスの効果でさらにドローさせてもらっぞ」

「なっ、ドロー補助ですって」

「ドローセンジュ・ゴッド、ドローオネスト、ドローまたフレイヤか、ドローおっとこれで打ち止めか」

「すごいわ、5枚も引くなんて……」

「兄貴顔負けのドローっス」

デクレアラ・プロフェシー

「俺は儀式魔法宣告者の預言を発動させる。場のレベル4マંジユ・ゴッドと、手札のレベル1儀式魔人ディザースとレベル1勝利の導き手フレイヤを墓地に送り神光の宣告者を守備表示で召喚」

パーフェクト・デクレアラ

《神光の宣告者 / Herald of Perfection》

†

儀式・効果モンスター

星6 / 光属性 / 天使族 / 攻1800 / 守2800

「宣告者の預言」により降臨。

手札から天使族モンスター1体を墓地へ送って発動する。

相手が発動した効果モンスターの効果・魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する

「守備力2800！」

「でも、それじゃあヴァンパイアジェネシスには及ばないわ」

「俺は勝利の導き手フレイヤを守備表示で召喚。天使族モンスターの攻守を上昇させる」

《勝利の導き手<sup>しよつり</sup>フレイヤ<sup>みちび</sup> / Freya , Spirit of victory

効果モンスター

星1 / 光属性 / 天使族 / 攻 100 / 守 100

自分フィールド上に「勝利の導き手フレイヤ」以外の

天使族モンスターが表側表示で存在する場合、

このカードを攻撃対象に選択する事はできない。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、

自分フィールド上に表側表示で存在する天使族モンスターの

攻撃力・守備力は400ポイントアップする。

光神テテュス

攻 2400 2800

守 1800 2200

神光の宣告者<sup>パーフェクト・デクレアラ</sup>

攻 1800 2200

守 2800 3200

「ちい鬱陶しいカードが出てきたわねえ」

「俺はこれでターンエンドだ」

「ああー！」

「どうした？ 翔」

「厚志君テテュスを守備表示にするの忘れてるっス！ このままだと攻撃力の低いテテュスがやられてダメージを受けちゃうっス」

「くっ、プレイミスか？」

「私のターン、私はヴァンパイアジェネシスで光神テテュスを攻撃！ 忌々しいフレイヤは対象にならないからねえ」

「手札からオネストのモンスター効果を発動。オネストを墓地に送り相手の攻撃力分テテュスの攻撃力を上昇させる」

「なんだと！」

テテュス

攻 2800 5800

「攻撃力5800ですって!!」

「返り討ちにしろテテュス！」

「あ、ああああー!!」

カミューラ

LP 3100 100

「やったんだな。返り討ちにしたんだな」

「すっげー、相手の力を利用するカードがあつたなんて」

「だがまだ私は終わっていない。魔法カード幻魔の扉を発ど「手札

パーフェクト・デクレアラ

からセンジュ・ゴッドを捨てて神光の宣告者の効果を発動。魔法、

罨、効果モンスターの効果を無効にして破壊」ば、ばかな……」

「なるほどな、幻魔の扉が厄介ならば発動させなければいいという考え方か」

「うまいわ！ これなら私たちの魂を人質にとられることはないわ」



「くっ、ターンエンド……」

「俺のターンドロートテュス、ドロー、チッこれで終わりだ」

これでとりあえず一回目の勝利だな。

「テテュスでダイレクトアタック！」

「あああああー！！！」

カミューラ

LP100 - 2700

「約束だ。まずクロノス教諭の魂を開放してもらおう」

「くっ、あまりいきがらないことね坊や。次は違うデッキで戦うの  
でしょう？」

「そうだな」

「チッまったくかわいげのない」

「ここはいったいどこなノーネ」

「クロノス教諭！ 離れてください！」

「あら、シニョール万丈目なノーネ、いったい何があったノーネ？」

人形に封じ込められたクロノス先生の魂が開放されたようだ。

万丈目にクロノス教諭が抱きついていて。ポツケに人形を入れてい  
たからな、それで元に戻るとああなるのか……。

とりあえず助かってよかった。というより約束を守ってくれてよか  
ったといったところか。これを反故にされたら打つ手がなくなるか  
らな本来ならもっと勝率の高いデッキを使うところだが、クロノス  
教諭の魂を開放するときだけは、『光』に関係するこのデッキを使  
いたかった。

次からは容赦はしない。速攻で終わらせて見せる。

「では二回目のデュエルをはじめるわ」  
「いいだろう。俺は自分の魂を掛ける。お前はカイザーの魂を掛ける」

「「決闘!!」」

「次は俺が先攻だ。俺は永続魔法悪夢の拷問部屋を発動。そして魔法カード昼夜の大火事を発動する」

「バーンカード!? くつああああー!!」

《昼夜の大火事 / O o k a z i》  
+

通常魔法

相手ライフに800ポイントダメージを与える。

「悪夢の拷問部屋の追加ダメージでさらに300ポイントのダメージを与える」

「ぐつ、ああああああー!!!!」

《悪夢の拷問部屋 / D a r k R o o m o f N i g h t m a r e》  
+

永続魔法

相手ライフに戦闘ダメージ以外のダメージを与える度に、相手ライフに300ポイントダメージを与える。

「悪夢の拷問部屋」の効果では、このカードの効果は適用されない。

カミューラ

L P 4 0 0 0    3 2 0 0    2 9 0 0

「そして俺はカードを4枚伏せてターンエンド」

「なんだって！ モンスターを引かなかったのか」  
「あわわ、やばいっスよ」

「アツハハハ、バーンカードでダメージを与えたのはいいけど後が続かないようね。さっきの屈辱を晴らしてあげるわ。私のターンドロ」

「それは無理な相談だ。リバーiscardオープン！！ ご隠居の猛毒薬、チェーン八汰烏の骸、チェーン仕込みマシンガン、チェーン連鎖爆撃」

「なん…ですって」

「チェーンの逆順から処理しよう。まず連鎖爆撃からだな。チェーン4で発動しているから1600ダメージ、次の仕込みマシンガンはお前の手札が6枚で場が0だから1200ダメージ、八汰烏の骸で一枚ドロして、ご隠居の猛毒薬で800ダメージ」

### 《連鎖爆撃 / Chain Strike》

速攻魔法（準制限カード）

このカードの発動時に積まっているチェーン数

×400ポイントダメージを相手ライフに与える。

同一チェーン上に複数回同名カードの効果が発動されている場合、このカードは発動できない。

### 《仕込みマシンガン / Secret Barrel》 †

通常罠

相手フィールド上のカードと相手の手札を合計した数

×200ポイントダメージを相手ライフに与える。

### 《八汰烏の骸 / Legacy of Yata-Garasu》

通常罠

†

次の効果から1つを選択して発動する。

自分のデッキからカードを1枚ドローする。

相手フィールド上にスピリットモンスターが表側表示で存在する場合に発動する事ができる。

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

《ご隠居の猛毒薬 / Poison of the Old Man

》  
+

速攻魔法

以下の効果から1つを選択して発動する。

自分は1200ライフポイント回復する。

相手ライフに800ポイントダメージを与える。

「すさまじいほどのバーンカードだ……」

「LPが一瞬でなくなるなんて……」

「これで終わりではない。悪夢の拷問部屋が計3回発動して900ダメージとなる」

「馬鹿な！ 馬鹿な！」

「計4500ダメージだ。釣りはいらん受け取れカミューラ!!」

「ぎゃあっあああ!!」

カミューラ

LP2900 - 1600

「はあ、はあ、この私が人間ごときにいい!!」

「約束だカイザーの魂を開放しろ。俺はまたデッキを変える」

「こんなデッキを使うなんて蝙蝠たちの報告を受けていないわ……」

「なるほど、クロノス教諭への勝ち方があまりにも鮮やかだったから少し妙だとは思っていたんだがそういうことか」

「くっ」

蝙蝠で事前に偵察をしていたということか。しかしダークネス襲来前後に組み上げたバーンデッキには気づかなかったというわけか。

「お兄さん！」

「亮！」

カイザーの魂も無事戻ったようだ。さすがにチェーンバーンは鬼畜過ぎる。使うのはこれっきりだろうな。

俺はもうこいつに遠慮なんぞしないと決めたからな。次に使うデッキが一番の鬼畜だ。

「最後だ。お互いの魂をBETだ」

「「決闘！！」」

「もう許さない！ 私の先攻！ 私はピラミッド・タートルを守備表示で召喚！ カードを一枚伏せてターンエンド」

《ピラミッド・タートル／Pyramid Turtle》  
+

効果モンスター

星4 / 地属性 / アンデット族 / 攻1200 / 守1400

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

自分のデッキから守備力2000以下のアンデット族モンスター1体を

自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

アンデット専用のリクルーターか、悪くない手だが相手がこのデッキだったことを不幸に思うがいい！

「俺のターンドロ……」

「ふっ、どうしたのかしら？ 手札事故でも起こしたのかしら？」

今日の俺は神懸かっているな。唯一伏せカードが問題だがこの程度のリスクを乗り越えずして勝利などない。

「俺はまず魔法カード二重召喚を発動する。これで俺は2度の通常召喚を許される。そしてモンスターをセット。さらに手札から魔法カード苦渋の選択を発動。デッキからキラートマト3枚とシャインエンジェル2枚を指定する。さあ俺の手札に入れるカードを選ぶといい」

「なにを考えてるのかしら？ 私はキラートマトを選択するわ」

「わかった。キラートマトを手札に加えて、残りのカードをすべて墓地に送ろう」

「なに考えてるんだ厚志のやつ、せっかくのリクルーターをほとんど墓地に落とすちまうなんて」

「しかし、あいつのことだ。何か深い考えがあるのだろう」

「そうね。悔しいけど今は厚志を信じて待つしかないわ」

《くじゅう苦渋せんたくの選択/Painful Choice》  
通常魔法（禁止カード）  
+

自分のデッキからカードを5枚選択して相手に見せる。

相手はそこから1枚を選択する。

相手が選択したカード1枚を自分の手札に加え、

残りのカードを墓地へ捨てる。

「俺は墓地の光属性のシャインエンジェルと闇属性のキラートマトをゲームから除外してこのモンスターを特殊召喚する！」

「あの召喚方法どこかで見たとような……」

「光と闇……そうか！　そういうことか……！」

「カオス・エンペラー・ドラゴウツェン出でよ混沌帝龍　- 終焉の使者 - ……！」

「混沌帝龍ですって……！」

「そして効果発動！　1000ライフポイント支払いお互いの手札と場のカードをすべて墓地に送りそのカードの枚数×300ポイントのダメージを相手に与える……！」

「ぐっ、ああああー！！　なーんてね。リバーiscardオープン、ピケルの魔法陣発動！！　このターン私へのカード効果によるダメージは0となるわ……！」

《まほじゅんピケルの魔法陣 / P i k e r u ' s C i r c l e o f E n c h a n t m e n t 》　†

通常罫

このターンのエンドフェイズまで、

このカードのコントローラーへのカードの効果によるダメージは0になる。

「ほう」

「残念だったわねえ、またバーンがらみのカードを使ってくるかもしれないと思って、さっきデッキに入れておいたのよ」

「『厚志……！』」

まさかピケルの魔法陣とは予想外だったが、天罰だったりしなくてよかったな。

天罰だったらすすがに厳しいものがあつたからな。

「セットしていたモンスターはクリッターだ。クリッターの効果で

八汰鳥をデッキからサーチして手札に加え召喚」

「ハッ、そんな雑魚でどうするっていうの。私がモンスターを一枚引けばそれで終わり。幻魔の扉を引いてもそれで終わりじゃない」

「八汰鳥でダイレクトアタック」

「ふん、掠り傷よ」

カミューラ

LP 4000 3700

「ターンエンドだ。そして八汰鳥はスピリットモンスターだからエンドフェイズに手札に戻る」

「私のターンど」八汰鳥の効果発動。ダイレクトアタックに成功した次のターンの相手のドローフェイズをスキップする」な…なんですって」

「お前はドローできずにターンを終了するしかない」

「そ、そんな。タ、ターンエンド」

「俺のターン、ドロー八汰鳥を召喚。攻撃。ターンエンド」

「すごい、完全にロックしているわ」

「こ、これが本気になった厚志の実力か」

「相手に何もさせずに勝つ。兵法としては間違っではないが……」

「お兄さんのリスペクトデュエルとは正反対だ……」

「ふん、あいつも相当頭にきていたってことだな。2回目のバーンデッキとこのデッキは俺との調整すら拒んでいたからな。使うことがなければいいとは言っていたが、これほどの威力を発揮するとは思わなかった」

八汰ロックが決まった今、カミューラの勝機は0だ。唯一墓地での効果は発動できるが、こいつのヴァンパイアデッキはフィールドでの戦闘破壊された場合の蘇生条件が多いため、このロックに対抗で



きない。

後はじわじわなぶるだけの簡単なお仕事です。

「わ、私は負けるわけにはいかない。ヴァンパイア一族を復興させなければいけないのよ!!」

「復興って具体的にどうやって?」

「私が人形に魂を込めるのは遊びじゃない。人形に込められた魂を使いヴァンパイア一族をよみがえらせて我々を認めなかった人間たちを復讐するのよ」

「ふむ、要は生存競争になるわけか。隠れて暮らすという選択肢はなかったのか?」

「誇り高いヴァンパイア一族がそのようなことできるわけがない!!」

「しかし生存競争はあらかじめ片がついているだろう?」

「確かに今は私一人。しかしいつか必ず復興させて見せる!!」

どうやって子孫残す気だろうか?

まあいいや、その辺は好きにすればいい。

「ならあえて言おう。知ったことか!」

「なんだと!」

「俺はそんなことには興味が無いし、俺の目の届かないところでやるには一向に構わない。が、あえて忠告するならば、もう少しやり方を考えないと……また負けるぞ一族が滅ばされたときのようにな」

「私は、わたしはああ」

「この島や俺の関係者の目の届かないところでやるんだな、これで最後だ八汰烏でダイレクトアタック」

「う、うわああああ!!」

これedyouやく2人目のセブンスターズを撃破か。

カミューラは呆然とうなだれている。俺にいたぶられたのがよほどショックだったらしいな。

「すごいっス厚志君！ 三連戦で勝利するなんて！！」

「カイザーもクロノス教諭も助かって一件落着なんだな」

「相手に何もさせずに勝つ。本気の君に対策するのは骨が折れそうだよ」

「その必要はないよ三沢。あのデッキはよっぽどのことがない限り使う気はない。外道過ぎるからな」

「後手ドロー直後にLPがなくなっちゃうんだもんね」

「とりあえず帰ろうぜ。さすがに疲れちゃったよ」

「待ちなさい！」

「カミューラ、まだなにかあるのか？」

「私は必ずお前を叩き潰してみせる！」

「俺個人を狙う分にはかまわないさ。カイザーのときのように周りに手を出さないのなら、な」

「絶対に叩き潰してやるわ。せいぜい首を洗って待っていなさい！！」

やれやれ最後に余計な面倒ごとが増えてしまったな。

しかしああでも言わないとまた人質とられたりしたら面倒だしな。

あの意気込みなら俺個人にターゲットを絞ってくるだろうし。周りに手を出すというならそれ相応の対処をするだけだ。

セブンスターズは後5人か、まだまだ先は長そうだ……。

あれ？ カミューラって自分の魂掛けてたんじゃないのか？

あいつ自身は魂を人形に封じられないのかな？

ま、どうでもいいかあ。

さすがに三連戦は疲れたからな。ゆっくり休みたい。

## 厚志の初めての闇のデュエル VS カミューラ（後書き）

カミューラ三連戦いかがだったでしょうか？

今回の話には独自設定がいろいろ混じっています。

まず、闇のゲームといいつつも肉体にダメージを受けた様子のないカミューラ。

もしかすると負けたときのペナルティも受けないのでは、という独自設定です。

クロノス教諭のダメージはカミューラ個人の能力のみでやっている  
と仮定しています。そのためカミューラは敗北しても人形に魂を封印  
されていませんでした。

そして、幻魔の扉の独自設定。効果の無効化に成功すれば魂はとられないという設定ですね。

さらに禁止カードの独自設定です。このSSでは混沌帝龍は禁止カードではなく制限扱いです。

もう二度と再登場の予定はないので、今回限りですがね。これは、呼び出したモンスターと生贄の魂が直結していたためモンスターを呼びださなければ魂を取られないのではという推察が混じっています。

今回はカミューラさんフルボッコの回。厚志が外道デッキを使いまくりんぐ。

真つ当なデュエルだったのは最初の一回のみという……。

そして前話を投稿した時気づいたのですが、このSSにクロノス教諭が登場したのは2章からです。特に深い意味はなかったのですが

毎回カットされていたんですねw

ということでクロノス教諭の言葉に感銘を受けてある意味光を象徴するデッキで戦う厚志でした。別に他のデッキでもよかったのですが、幻魔の扉を一番かんたんに叩き潰せるのがこのデッキだったので……。

## 温泉トラブル!? (デュエル無し)

「なあ厚志。デュエルって楽しいもののはずだよな」

ある日突然十代がこんな質問を俺に投げてきた。

「まあ、カード『ゲーム』だしな。ゲームは楽しんでやってなんぼだろ」

「だよな……けどさあのカミューラを見て思ったんだ。なんであいつはあんなに苦しそうにデュエルをやっていたのかわかって」

「十代……」

「……悪い変なこと聞いちゃったな。忘れてくれ。じゃあな」

悩んでるなあ。あいつはデュエルがとことん好きだから、自分の好きなものをああいう風に苦しみながらやってる姿を見るのが辛いんだろうな。

と言っても俺にはあいつの悩みは共感できないものだ。

デュエルのことを単なる趣味のひとつとしてしか見てない俺はあそこまでの思い入れはない。

正直『ふーんそれで』って感じだしな。

闇のデュエルねえ。原作遊戯王では古代エジプトの儀式をルーツにしていたはずだ。

俺は平凡平穩に、のらりくらり生きていければ満足なんだがままならないもんだな。

そういえば前回がらにもなく熱くなっちゃったからな。

今思い出しても恥ずかしいがもしかしたらこの世界に引きずられていつてるのかもしれないな。

熱血路線は趣味じゃねえってのにな。

それはそれとして。

「万丈目。部屋が狭いんだが」

「万丈目さんだ！ 仕方ないだろう。俺の家具が部屋に入りきらないんだ！」

「なんでそんなに家具があるんだよ」

「レッド寮の粗末な家具など俺には合わん！！」

そう万丈目のやつが馬鹿でかい高級家具を大量に持ち込んだせいで俺の部屋が足の踏み場もないほど狭くなっている。

俺はもともと私物が少なかったため、殺風景どころか空き部屋みたいとまで評されていたのが万丈目と同室になったのが運のつきらしい。

「はあ。まあいいや。部屋が狭い分温泉でもいつてくる。せめて風呂くらいは広いところに入りたい」

「む、あの大浴場か。よし俺も行くぞ」

と、こんな感じで俺と万丈目は普段使わないデュエルアカデミア最大の浴場に來たわけなのだ。

そしてこれがとにかくデカイ！！

温泉とか浴場とかよりもプールかと思うくらいでかい！ むしろ下手なプールよりもでかい！

まあこれほどの広さの浴場なんだが、なぜかあまり人気がない。

レッド寮の生徒はここまでかなりの距離があるため利用せず、イエロー寮の生徒は寮内の浴場で済ませ、ブルー寮は自室の浴室で済ませてしまうためらしい。

誰が考えたんだこの浴場……アホすぎるだろう。  
たまに来るぐらいなら十分なんだけどな。毎日往復はさすがに面倒  
だな。

「くあゝゝゝいい湯だなあ」

「ジジくさいぞ厚志。お前本当に俺と同年か？」

「まあまあいいじゃないか、のんびりできるっていうことはいいと  
だと思っぞ」

「それとジジくさいことには何の関連もないぞ」

「こまけえ事はいいんだよ」

はあゝ極楽極楽。

やっぱり温泉はいいなあ。

ここの温泉は真正正銘の天然温泉らしい。火山島だからこうい  
うところもあるんだろうな。

ん？　なんか騒がしいな。風呂で騒ぐとはマナー違反だな。

「やかましいぞ！　お前ら！」

「おおつ、サンダーじゃねえか、お前も来てたんだな」

誰かと思ったら十代達か、あいつらはどこに行っても騒がしいんだ  
な。

風呂ぐらいゆつくりつかればいいと思うんだけどなあ。

巻き込まれたくないから無視だ無視。

「悔しかったらここまで来るっス」

「貴様！　俺のタオルを返せ！」

「つかまるもんかつス」

……。

「やかましいわ！！ 風呂に入るときくらい静かにしやがれ！！  
風呂で泳ぐな！！ 浮き輪を持つてくるな！！ そしてタオルを湯  
船につけるんじゃないやねえ！！！」

「「うわっ！！」」

「あ、厚志も来てたんだな」

「あ、厚志お前丸出しじゃないか。恥ずかしくないのか」

「風呂に入るのに丸出し以外の選択肢などないわ！！」

「そ、そんなに熱くならないでも」

「人がせつかくゆつくり入っているのにお前らときたら……」

まったく、ついついぶち切れちまったぜ。あいつらはここを温水プ  
ールと勘違いしてるんじゃないやねえだろうな。

「わ、わかった悪かったよ。静かに入るから落ち着いてくれって」  
「ならいいや。くあゝゝ」

「思ったよりあっさりだ……」

「なんか異様にジジくさいっス」

「厚志の怒りのポイントがよくわからないんだな」

「安心しろ。同室の俺にもよくわからん」

失礼な連中だ。マナー違反を注意しただけじゃないか。

「あれ？ 兄貴どこいくっスか？」

「ん？ ああちよつとな」

十代たちが離れていくようだ。これでゆつくり風呂に入れる。  
十代もいくぶんか気が紛れたようだ。悩んでる様子は見られなかつ  
た。すっきりした顔じゃなかったから吹っ切ったわけではないだろ



う。

さて、俺もそろそろ上がるか。万丈目の姿が見えないが、どうせあいつは馴れ合うことを良しとしないやつだ。勝手に帰っても文句は言わないだろう。

そう思つて脱衣所に向かつて足を踏み出したその時。

「ちょ、なんでこんなに深つがぼがghbgbf!？」

俺の意識は暗転した。

「う……ああ」

あゝ俺はどうなったんだ？

確か温泉に入つててやたらと深いところがあつて引きずり込まれるようにその中に落ちていったはずだ。

「あ、目が覚めたみたいです。お師匠様、この人気がついたみたいですよ」

目を開けるとそこは雪gじゃなくて真つ暗な闇がただ広がるだけだった。

なんていうか明かりがなくて暗いんじゃないかとただ闇がそこにある感じ。フィールド魔法『闇』をつかったらこんな感じになるのかもしない。

そして闇の中には人影が二つ見える。

あれは……。

「ブラック・マジシャンとブラック・マジシャン・ガール？」

「気がついたようだな。突然ここに落ちてきたからびっくりしたぞ」  
「落ちてきた……。ここはいつたいどこなんですか？」

さすがにここがデュエルアカデミアの地下で目の前にいるのがただのコスプレ好きだとはさすがの俺も思っていない。

「ここは『闇』だ」

「すいません。よくわかりません」

「だろうな。外から来た人間にはわからないだろう」

「手っ取り早く言っちゃえば、私たちはデュエルの精霊でここはフイールド魔法の『闇』ってみたいな感じですよ」

「細かいところはかなり違うが、大雑把な感覚で言えば間違いない」  
「あゝなんとなくわかりました。それでどうやったら元に戻れますかね」

さすがにこんなところに一生いるのはごめんだ。俺は魔法使い族でも悪魔族でもない。

「私が案内しますからすぐにでも戻れますよ」

「戻る前に話を聞きたいのだがかまわないか？」

「話……ですか？」

「そうだ。君にはその……何というか、違和感。そう違和感がある」  
「違和感？」

「ああ、うまく説明できなくてすまないのだが君の魂はどこかおかしい」

いきなり魂がおかしいといわれても非常に困るのだが……。もしかして、俺が転生したと何か関係があるのだろうか？しかしこのことを話してしまってもいいのだろうか？

このことは俺のトップシークレットだ。両親にも話していないし、将来嫁さんをもらっても子供ができてこのことを話す気は一切ない。

しかし、ここにいるのはデュエルモンスターズ界最高の魔術師だ。もしかしたら何か原因のようなものがわかるかもしれない。原因がわかったからといってどうだということはないのだが……。

「実は……かくかくしかじかということだ」

「なるほど、それはずいぶん珍しい体験をしたようだな」

「珍しいということは皆無ではないのですか？」

「古代エジプトのミイラの法というのは、元々復活するための儀式のようなものだ。そう信じられているからには実例があるのだと思う。実際に目にするのは初めてだがな」

へえー。ミイラってそういうものだったんだ。てっきりただの上等な死体保存法だと思ってた。

「しかしこれで長年の疑問が解けた」

「長年？」

「私たちは、あなたのことを前から知っていたんだよ」

「私たちの主人は武藤遊戯のもうひとつの人格だからな。当然君のことも知っている」

「ああ、なるほど。遊戯さんがらみですか」

それなら確かに俺のことを知っていても不思議ではないな。あの人との付き合いはかなり長いからな。

「そして君の持っているカード群のことだが、私には見当もつかない。おそらく君が転生した理由と何か関係があるのだとは思うのだがそれが何かまではわからない」

「そうですか……」

「ごめんね。結局何もわからないままなんて」

「いえ、話を聞いてもらって少しはスッキリしましたし、無駄ではなかったです」

これは本心だ。やはり人に絶対言えない秘密というのは抱えてるだけでつかれるものだ。

少し心が軽くなった気がする。

「そういつてもらつと助かる。さてそろそろ外の世界に送ろう」

「私が案内するね。ついてきて」

「お願いします」

ブラック・マジシャン・ガールの先導で出口？　と思われる方向へ歩いていく。

「私が案内できるのはここまでだよ。こっちの方向に歩いていくと出られるからまっすぐ進んでね」

「何から何までありがとございました」

「あはは、そんなに堅苦しくしなくてもいいよ。それじゃ元気だね」  
「ええ、さようなら」

ブラック・マジシャン・ガールの指差した方向に歩いていく。すると意識があやふやになっていく感覚がある。これは出口に近づいている証拠なのだろうか？　そして段々自分の体の感覚すらなくなっていく……。

「ハッ！　……夢？」

あたりを見渡すと元通りの温泉が広がっていた。俺は夢を見ていたのだろうか？

いや、夢とは思えなかった。夢にしてはあまりにもリアルな存在だった。

それにしてもカードの精霊と話をする機会が来るとは思わなかったな。

人生何がおきるかわからないもんだな。

そういえば十代たちはもう上がったのだろうか？

あいつらも精霊たちに会ってたりしてな。

「ままままま、万丈目。その黄色い不思議生物はいったい何なんだ！！？！？」

「お、お前こいつが見えるのか？」

「あ、ああ、薄ぼんやりしているが確かに見える。い、いったい何なんだそいつは！？」

「どうもこの雑魚が言うにはデュエルモンスターの精霊らしい。まったく、邪魔くさくてかなわん」

「精霊……」

拝啓、お父様お母様。

わたくし、なぜか精霊が見えるようになってしまったようです……。

温泉トラブル!? (デュエル無し) (後書き)

今回は厚志が精霊を見れるようになるようになるイベントでした。

次回はおジャマ3兄弟です。

近日中に投稿しますので楽しみに。

おジャマ三兄弟！？ VS 万丈目一族（前書き）

連続投稿です。

デュエルは割りとアツサリめ。

ついでにゼアルをまとめ鑑賞しました。

うん、私の好みは姉ちゃんです。

そして父ちゃんぱねえと思ってたなら、母ちゃんもぱねえ。  
落ちゆく父ちゃんをがっちりロープで保持するとか……。

## おジャマ三兄弟！？ VS 万丈目一族

どうしてこうなった……。

どういふ因果か精霊が見えるようになってしまった鈴木厚志です。  
いや精霊が見えること自体は別になんてことはないんだが、とにかくおジャマイエローがうぜえ……。  
万丈目に少しばかり同情してしまった。

正確に言うとうぜえというよりキモイ。キモイ外見は置いといて動きがそれ以上にキモイ……。  
どうすりゃいいんだこのキモさ……。  
そのうち慣れるのかなあ。

……慣れたくないな。

「おい万丈目。厚志。校長先生が呼んでるぜ。何でもお前たちにしか頼めない学園の一大事だつてよ」

「俺たちにしか頼めない」

「学園の一大事だど？」

「とりあえず行ってみるか」

「……学園の買収問題……!?」

「ええ、とある企業が買収しようとしているのですが、ここのオーナーが代わった方だね。デュエルで勝負をつけようとされているの



ですよ」

オーナーというあの人が確かに言いそうだ……。『自分たちの未来。己がロードは自分で切り開け』とかいいそうだからなあ。

「俺がやるぜ」

「いえ、対戦相手は相手から指名されています」

「まさかそれは！？」

「俺と厚志の二人ということか」

「ええ」

「校長先生。お電話ですのにゃー」

「つないでください」

万丈目と俺ってどういう基準で選ばれたんだ？  
共通点は同室くらいなんだが。

「兄さん達！！」

「じゃあ、買収相手って万丈目グループっすか！！」

校長先生に来た電話の相手は万丈目兄弟だった。  
そんなに俺の発言した某仙人の発言がむかついたのか？

「そうだ。われらの目的は政界」

「財界」

「『そしてカードゲーム界に万丈目帝国を作り上げることだ！！』」

マテおまいら。どう考えてもおかしいだろうがよ！！

なんで政界と財界にカードゲーム界が並んでるんだよ！！

確かにもとの世界では考えられないほどのシェアを築いてはいるが、

どう考えても同列に並ぶような業界じゃねえだろうがよ！！  
芸能界のほうはまだましだろ！！

「対戦相手はわれわれに逆らった準、そしてわれわれに対して舐めた発言をした貴様だ！！ 貴様らのどちらかでも負けたのならばこの学園は万丈目グループがいただく！！」

「でも、学園の実力者の万丈目や厚志じゃ相手にならないぜ」

「もちろんハンデはつけさせてもらう。準のデッキは攻撃力500未満のモンスターで作ってもらう」

「そして貴様はライフポイントのハンデだ。私が16000お前が100だ」

「それじゃ勝負にならないっスよ」

「黙れ！ これはオーナーも認めたことだ。撤回はできん」

ああ、言いそう。

『当然だ。初心者相手にはそれくらいちよつといい』  
とか……。

社長エ……。

「せいぜい首を洗って待っているのだな」

「はーっはっはっは」

電話が切れた。

さて万丈目はモンスターの制限。俺はライフポイントのハンデか……。まあそれくらいならどうにでもなるがバーンカードを使われると厄介だな。

どうせあいつらが相手なら遠慮することもない。  
速攻で片をつけよう。

「話はこれで終わりですね。では俺はこれで失礼させてもらいます」  
「待てよ万丈目」

「貴様たちの助けは受けん！」

そういつて万丈目は校長室から出ていった。あいつ大丈夫かな？  
あいつって攻撃力500未満のカードなんてほとんど持つていなか  
ったはずだけど……。

「そういえば校長先生」

「何かね？」

「攻撃力？つて500未満になるんですかね」

「……一応なるんじゃないかね」

「そうですか」

別にだからどうだということはないんだがちょっと気になった。  
じゃあダ・イーザとか使えるんだ。や、使ったところで元がへっば  
いからへっばこなんだけどね。

「鈴木君。君に勝算はあるのかね」

「こちらが先手もしくは後手でもバースカードが使われなかった場  
合の予想でよろしいですか？」

「うむ、それでかまわない」

「8割がた勝ちます」

「なっ！ いったいどうやって……」

「失敗したら恥ずかしいので当日までの秘密ということ」  
「ううむ、わかりました。あえて聞かないでおきましょう」

早く帰ってあのデッキを組まないと。ぶっちゃけ今回みたいなこ  
とがない限り使えないネタデッキなんだけどな。

校長室から出ると明日香と三沢がやってきた。

「話はすべて聞かせてもらったぞ。正直大丈夫なのか？」

「ずいぶん情報が早いな。俺だつてさっき聞いたばかりなのに」

「もう学園中の噂になつてゐるわよ。で正直どうなの」

「俺のターンが回ってくれば8割で勝てるさ」

「いったいどうやって……」

「今回しか使えない裏技があるんだ。邪道もいいところだ」

「でも万丈目君もカードがないつて言っていたし」

「ああ、やっぱり持つてなかったのか、俺のカードを貸すしかないかな」

「その必要はなさそうだ。さっき大徳寺先生からの聞いた話によると、弱小カードが捨てられた井戸がこの学園のどこにあるらしい」  
「はあゝそんなところがねえ」

見つからなかったり枚数が足りなかったりしたら貸してやろう。

そして当日。

最初は万丈目の出番からだ。

俺は観客席に座つて眺めている。下で待つてて万丈目が負けたりすると出番がなくて恥ずかしいしな。

今の万丈目の集中力をみるかぎりあいつが負けるところは想像出来ないがね。

「久しぶりね。ここいいかしら？」

「おや、あんたはこの前あった」

「そういえば名乗つてなかったわね。私は藤原雪乃オベリスクブル  
ーの1年生よ」

「知つてると思うが俺は鈴本厚志。オシリスレッドの1年生だ」

名前を聞いて思い出した。藤原雪乃ってTFにでてきた推理ゲートやらデミスドーザーやら使うデュエリストだったはず……。

台詞がいちいち無駄にエロイことで有名なゆきのんじゃないか!!

「なんか不埒なことを考えていない？」

「気のせい気のせい」

なんでこんなに勘が鋭いんだよ！ 女ってこええな。

「俺は攻撃力500未満という約束だったが、俺のモンスターはすべて攻撃力0だ!! これが俺の決めたハンデだ」

「へえー、攻撃力0なんて思い切ったことをするわね」

「どうせ攻撃力で争っても無駄なだけだ。0だろうが500未満だろうが大して変わりはないかも知れんな」

「ま、それもそうね」

「「決闘」」

デュエルは終始万丈目兄のペースで進んでいく、サンダーは暗黒の扉を使って相手の攻撃モンスターを制限し壁モンスターでしのいでいく。

《暗黒の扉／The Dark Door》  
†

永続魔法

お互いのプレイヤーは、バトルフェイズにモンスター1体でしか攻撃する事ができない。

「どうでもいいんだけどさ」

「なに？」

「パラレルレアのカードって目に悪そうだよな」

そうなのだ。兄の使うカードがすべてパラレルレアなため常時きらきら光って目に痛い。

パラレルだろうがノーマルだろうが効果が同じならどうでもいいと思うんだけどなあ。

「このデュエルで最初の感想がその言葉なのはあなただけだと思うわよ」

「そうかい？ 至極まっとうな感想だと思うんだけどな」

「まじめな話万丈目のボウヤは苦しいわね。何かきっかけがあればいいんだけど……」

「きつかけつつあってなあ。モンスター単品じゃどうにもならないから、コンボの魔法カードが揃うまではあんな感じだろう」

「それはわかってるんだけどね」

兄が暗黒の扉を砂塵の大竜巻で破壊する。あれがサイクロンなら勝負はついていただけだな。

サンダーは苦渋の選択を使用してカードを5枚選ぶのだが……。

《砂塵さじんの大竜巻おおたつまき / Dust Tornado》 †

通常罫

相手フィールド上に存在する魔法・罫カード1枚を選択して破壊する。

その後、自分の手札から魔法または罫カード1枚をセットすることができる。

「なあ、万丈目のモンスターって井戸に捨てられていた弱小カード

らしいんだ」

「確かに攻撃力の低い弱小カードといっても間違いではないわね」

「でもさ、なんで弱小カードの中にサクリファイスとか、ものマネ幻想師とか王立魔法図書館とかキャッスル・ゲートがあるんだよ！」

「私が捨てたわけじゃないもの、私に言われても困るわね」

「それはもつともなんだが」

どう考えても捨てるカードじゃねえ……。

デュエルアカデミアの昔の生徒って頭のネジが外れているかモンスターの特異効果欄を一切見てないんじゃないのか？

兄は唯一の魔法カードサンダークラッシュを選択。どう考えても作為的なこのチョイスは選べないだろ……。

「厚志。あなたなら何を選ぶ？」

「サンダークラッシュは作為のにおいがする。俺なら王立魔法図書館かな」

「普通はそうよねえ」

藤原も同じ考えらしい。よかった俺が変なわけじゃなさそうだ。

万丈目はその後魔の試着部屋を使用してデッキの上のカード4枚を表にするのだが。

《魔<sup>ま</sup>の試着<sup>しやく</sup>部屋<sup>へや</sup>／Enchanting Fitting Room

m 十  
通常魔法

800ライフポイントを払う。自分のデッキの上からカードを4枚めくり、

その中のレベル3以下の通常モンスターを自分フィールド上に特殊

召喚する。

それ以外のカードはデッキに戻してシャッフルする

「俺は強欲な壺をデッキに戻し、おジャマ三兄弟を召喚する！」

どんな確立だよ！！ 4枚めくってきれいにおジャマが揃う確立なんてほとんどねえぞ！！

ほんとにお前ら積み込みしてるんじゃないのか！！

「なあ万丈目っておジャマ三兄弟1枚ずつしか持ってないはずなんだ……」

「……じょうだんよねそれ」

「マジだ」

「どんな確立よ……それ」

なんか段々藤原に親近感が湧いてきた。

こんなことで親近感を抱くのもどうかと思うのだが、こいつらのチートドロの理不尽さを分かち合える人間がいるというのはいいものだ。

万丈目はおジャマ・デルタ・ハリケーン！！で相手の場を一掃する。よくまああれほど条件が厳しい魔法を成功させるもんだ。

《おジャマ・デルタハリケーン！！/ O j a m a D e l t a H u r r i c a n e ！！》

+

通常魔法

自分フィールド上に「おジャマ・グリーン」「おジャマ・イエロー」「おジャマ・ブラック」が表側表示で存在する場合に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する。



その後サンダークラッシュでおジャマを吹き飛ばし兄にダメージを与え、最後にカオス・ネクロマンサーをだして攻撃で止めを刺した。それにしても万丈目よ。『攻撃力0の役目は終わりだ』ってなんか悪役みたいな台詞だぞ。

《サンダー・クラッシュ/Thunder Crash》  
通常魔法  
+

自分のフィールド上に存在する全てのモンスターを破壊する。  
相手ライフに破壊したモンスター×300のダメージを与える。

「見事なデュエルタクティクスね。ブルーにいたところよりよくなってるわ」

「かなり綱渡りの部分も多かったけどな。おジャマがあそこで揃わなければ完全に敗北していた」

「あそこで揃うのも実力つてことよ。次はボウヤの番よ」  
「と、いつでもなあ。この空気が出るのかよ」

周りはサンダーコール一色だ。

やばいなあ盛り上がるようなデッキリじゃないんだけどなあ。

「さっさと行ってきなさい。応援しててあげるわ」

「へいへい」

俺が下に降りたところにはサンダーコールも止んでいた。

やだなあ絶対あれ以上の盛り上がり期待されてるんだよなあ。

「俺は勝った。次はお前の番だ」  
「あいよ」

「そ、そうとも。まだ万丈目グループは負けたわけではない!!」  
「貴様らがいい気になるのはこの万丈目庄司に勝ってからだ」

「「決闘!!」」

「ふん、せめてもの情けとして先攻はくれてやる。せいぜい足掻くのだな」

「そりゃどうも。俺のターン」

うーん、さすがに前回みたいなチートドロは期待できないか。

「手札から魔法カード手札抹殺を発動。お互いの手札をすべて墓地に捨てて、手札の枚数だけ引く」

「なに!? まあいいだけだがこうとも結果は変わらないのだからな」

《てふだまつさつ手札抹殺 / Card Destruction》  
+

通常魔法（制限カード）

お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドロする。

「うーん、カードを一枚伏せて魔法カード天使の施しを発動。三枚引いて二枚捨てる」

《てんし ほごし天使の施し / Graceful Charity》  
+

通常魔法（禁止カード）

自分のデッキからカードを3枚ドロし、その後手札を2枚選択して捨てる。

「さらに魔法カード強欲な壺を発動し二枚ドロする」

「さつきから引いてばかりだな。勝つ気があるのか貴様あ！」  
「こつこつデッキなので、その辺はご勘弁願いたいですね」

ここまで引いてもキーカードが来ないとはな。どうやら俺の運はろくなもんじゃなさそうだ。

「魔法カード無の煉獄を発動。一枚引いてターン終了時に手札をすべて捨てます」

《無の煉獄／Into the Void》  
通常魔法

自分の手札が3枚以上の場合に発動する事ができる。  
自分のデッキからカードを1枚ドロし、  
このターンのエンドフェイズ時に自分の手札を全て捨てる。

「厚志のやつ何考えてるんだ？」

「俺にはわかったぞ」

「本当か万丈目！？」

「さんだ！ まあいい、あいつのコンボは見せてもらったことがある。まあ黙ってみていろあいつは負けん。それどころか手品のようにあっさり勝つだろうよ」

「手品のように、だと？」

「速攻魔法リロードを発動。手札をすべてデッキに戻しその枚数分ドロします」

《リロード／Reload》  
速攻魔法

自分の手札を全てデッキに加えてシャッフルする。  
その後、デッキに加えた枚数分のカードをドロする。

ようやくか……。

ちよつと負けるかもしれないって思っちまったじゃないか。  
な、長かった。俺の墓地にある魔法カードは10枚以上はある。  
よくまあ三枚積んでるこのカードだけがピンポイントで引かないもんだな。

「俺は魔法カード大逆転クイズを発動。俺のデッキトップのカード種類を当てればライフポイントを交換する」

「大逆転クイズだと？」

《大逆転クイズ／Reversal Quiz》  
通常魔法

自分の手札とフィールド上のカードを全て墓地に送る。  
自分のデッキの一番上にあるカードの種類（魔法・罫・モンスター）を当てる。

当てた場合、相手と自分のライフポイントを入れ替える。

「そうか！ その手があつたか」

「ようやく気づいたか三沢」

「でもはずしたらどうするんすか？」

「あのデッキ構成からしてありえないわ」

「おそらく、鈴本のデッキは魔法カードのみで構成されているはずだ、はずすことはありえない」

「けど、手札もフィールドのカードもなくなったらどうやってかつんだよ！」

「俺は魔法カードを選択。めくったカードは手札断殺。魔法カードなので大逆転クイズの効果により、ライフポイントが逆転する」

厚志

LP100 16000

万丈目庄司

LP16000 100

「だがお前のフィールドも手札もない。確かにライフポイントは逆転したが勝負はこれからだ!!」

「いえ、勝負は終わっています」

「なんだと!!」

「フィールドにセットしてあった。黒いペンダントの効果発動。このカードがフィールドから墓地に送られたとき相手プレイヤーに500ポイントのダメージを与える」

「そ、そんな」

《黒いペンダント（ブラック・ペンダント） / Black Pendant》  
+

装備魔法

装備モンスターの攻撃力は500ポイントアップする。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、相手ライフに500ポイントダメージを与える。

万丈目庄司

LP100 - 400

「て、手品見たいッス」

「鮮やかね……」

「だから言っただろう。あいつは負けんと」

「ま、負けたというのか。この我々が万丈目グループが」

呆然としているな。

あれだけのハンデをもらって、ハンデどころか逆利用されてワンキルされたらああもなるか。

しかし、あれだけ引いても大逆転クイズがぜんぜん引かないときは焦ったなあ。

天よりの宝札とか命削りの宝札とかあれば話は早いんだけど、OC効果のやつしかないんだよな。さすがにあれは使いにくい。

「おめでとうボウヤ。まさかあんな方法で勝つとは思っていなかったわ」

「藤原か……」

「雪乃でいいわ。ボウヤには資格があるもの」

「ボウヤ扱いは変わらないんだな」

「当然。それが嫌ならばもつと男を磨くことね」

「善処しよう」

万丈目グループはアカデミアの買収から手を引いた。

それをオーナーに報告した際にオーナーが

『当然の結果だ。そんなわかりきったことをいちいち報告するな』  
と言ったと言わないとか。

言ってたっばいな。だってあの人だもん……。

そして俺はあるところに来ている。  
次のセブンスターズに備えるため、ここにきたほうがよいと判断した。

その場所とは……。

「すみません。誰かいますか？」

「誰だ？　ここはアカデミア倫理委員会の事務所だ。一般生徒には縁などないはずだが」

そうアカデミア倫理委員会の事務所である。

廃寮事件のときの捜査力をかんがえればセブンスターズについていい情報が入るかもしれないと考えたのだが……。

「なるほど、セブンスターズとやらがな」

「ええ、すでに二人ほど潜入されています。足をたどれば黒幕や正体がわかるかもしれないと思ったのですが……」

「すまないが、あまり力になってやることができないかもしれない」と、いうと？

「予算と人員が大幅に削減されたのだ。時期はちょうど2ヶ月前くらいだな」

「と、いうとノース校との交流戦があつた辺りですか」

「そうだ。お前の言う七星門の鍵が配られる少し前だな」

「怪しいですね」

「ああ、しかもこの削減を決定したのは鮫島校長ではない」

「と、いうと」

「理事長だ」

「どんな人なんです」

「かなりの年齢ということくらいしかわからん」

「ますます怪しいですね」

「ああ、セブンスターズに関してもこちらにはほとんど情報がまわってなくてな。お前の話は正直助かった」

「怪しいところしか見つからないのですが……」

「おそらく鮫島校長は無関係か、黙認だろう」

「となると」

「理事長が一番くさいな」

「調査のほう、お願いできますか」

「何とかやってみよう。しかしセブンスターズを上陸前に食い止めることは難しい」

「それは仕方ありませんね」

「何かあったら連絡する」

「ありがとうございます」

倫理委員会に調査をお願いして俺は事務所を後にした。

しかし理事長とはね。あれだけ胡散臭い人物なんだから誇りと叩けば色んなものが出そうな気はするがな。

そのとき余計なものまで出なければいいのだが……。



おジャマ三兄弟！？ VS 万丈目一族（後書き）

私の書きたかった遊戯王小説の条件が二つありました。

ひとつは超普通な主人公。

もうひとつが超有能な倫理委員会です。

他のSSではないがしろにされている倫理委員会ですが、このSSでは探偵真つ青の調査能力を持っているという設定です。

三沢っちの憂鬱 VS タニヤ（前書き）

今回デュエルシーンが短いです。  
そして原作とおりです。

### 三沢っちの憂鬱 VS タニヤ

「なあ万丈目」

「サンダーと呼べ!!」

「じゃあ改めて、なあサンダー」

「言うな!!」

「でもさあ」

「ええい! 言うなといっている!!」

なんて横暴なやつだ。でもここは言わせてもらっしかあるまい」

「部屋が狭いんだが」

「言うなといっているだろうが!!」

そうなのだ。あの万丈目兄弟襲来以後俺の部屋が異常に狭くなってしまった。

原因は……

「「サンダーの兄貴」」

「「外に出してくれてありがとうね」」

「「いや」快適快適」」

「「娑婆はいいねえ」」

こいつらが原因だ……。

万丈目が拾ってきた弱小モンスターたちはすべて精霊つきだったらしく、拾ってくれた万丈目に異様になっっている。

そのため、万丈目の部屋つまり俺の部屋にこいつらが常に入り浸っている状態になってしまった……。

しかもこいつらは部屋を狭くするだけじゃなくてとにかくうるさい。

こいつらのせいで最近寝不足気味になってしまった。

「近いうちに何とかする。だからそれまで我慢しててくれ」  
「……わかった」

だからといってもう一回捨ててこいというのも心が咎めるし……。里子みたいに譲ろうとしても、もともと捨てられていた弱小カードがほとんどだ。

また捨てられたりするの寝覚めが悪い。  
ハア、しばらく我慢するしかないのか……。  
ぐっすり眠れる日はいつになることやら。

はあ、あいつらがうるさいせいでいつもより早く目覚めてしまった。本当に早く何とかしてくれ万丈目……。

ドガッーン!!

ぬわ!!

なんだあ今の轟音は？

また倫理委員会が扉を爆破したのかと思ったがそれにしてはあの私たちの声が聞こえない……。

かわりに三沢の声が聞こえる。あいつ他所の寮で、しかも朝っぱらから何やってんだ？

こっそり覗いてみると十代達が眠そうな目をしながら三沢に連行されていた。

どうやら早朝デュエル特訓なるものをしていくらしい。

ふむ、ちよつと興味あるな見に行ってみるか。

しかしそこで見たものは……。

「アン、ドウ、ドロー！」  
「「「アン、ドウ、ドロー」「「  
「アン、ドウ、ドロー！」  
「「「アン、ドウ、ドロー」「「

（。。。）

（っ）ゴシゴシ

（；。。）

（っ）ゴシゴシ

（；。|。|。）

あの四人はリズムに合わせてデュエルディスクからカードを一枚ずつ抜いている……。

すごい………シュールだ。

あ、怪しい。

まるで新手の新興宗教みたいだ……。

見なかったことにしよう。そうしよう。

「あれ、厚志君じゃないスか。珍しいスねこんな朝早くに」  
「今日はたまたまだ。じゃ、俺は部屋に戻るから」  
「厚志も一緒にやっていくか」

勘弁してくれ！！

「やめておくよ。デッキもデュエルディスクも取りに行くの面倒だしな」

「そうか、残念だな」

三沢だけは常識人だと思っていたのに……。

でも部屋中に数式を書いて、それをペンキで塗りなおすことをビツクバンとか呼んでいたしな。

そういえば厨二病の要素が結構あるな……。

万丈目とデュエルするときに悪なる闇に光差すとか言ってたし……。少し距離とったほうがいいのかもしれん。

「ねえねえ厚志君。厚志君のアイドルカードってなにかある？」

「アイドルカードねえ。俺はないな」

「ええ……。本当に何もないの!？」

「アイドルカードがあるなら、それを主軸にしたデッキ造ることのほうが多いかな」

「それだけのためにデッキ作るっていうのは、ある意味筋金入りなんだな」

「アイドルカードなんてそんな不純なもの入れるとは何事だー!」

なぜそこで三沢が怒る……。

いいじゃん人がデッキになに入れたって。

そして俺はあの連中を見捨てて!？ 部屋に帰ってきたわけだがどうも体調が芳しくない。

今日は教室に行く前に保健室に寄っておこう。

原因は十中八九寝不足だと思っただけだね。

「最近すっかり寝てないでしょ」

「やっぱり」

「あんまり夜更かししちゃだめよ。今日はしょうがないからここで寝ておきなさい」

「すみません」

ああ、やっとぐっすり寝れる。

ベッドもふかふか、これぞ天国なり〜。

.....ぐう。

「ふう、よく寝た。久々の快眠だったな」

ってもう夜じゃないですか、相当寝不足だったんだろうな。

しょうがないから今日はもう帰るか、鮎川先生が大徳寺先生に連絡してくれただろうから無断欠席にはなってないだろう。

帰ってみると誰もいないミステリー。

万丈目も十代たちもない。

うつむ、あいつらは俺と違って夜で歩くタイプじゃないんだけどなあ。

ま、いいや。ねえねえ。

俺の睡眠欲は底なしなのだ〜。

.....ぐう。

朝起きてみると、寮の食堂になぜか三沢がいた。  
しかもなんか様子がおかしい。  
何を聞いてもうわの空って感じたな。

「あれ？ 厚志無事だったんだな。昨日いなかったから心配してたんだぜ」

「なんのこっちゃ？」

どうも新たなセブンスターズの襲来らしい。

相手はタニヤというアマゾネス使いでそのデュエルを通じて三沢がそいつにぞっこんになってしまったそうだ。

三沢のあれは恋の病ってやつか。

三沢は婿にされかけたが、結局は開放されて今に至ると……。

しかしデュエルの内容を聞くとコントにしか見えてこない。

なんだよ「みさわっちにどう気にいられるのか気になるんだもん」

とか「恋する乙女は強いのよ」とか「あなたの心のリバーカード、オ・ブンしてえ」とか……。

ほんとにデュエルしてたのか？

そんなこんなで夜。

三沢がタニヤの闘気がするとかなんとか、ニュータイプみたいなのを感じ取り対セブンスターズ関係者は例のコロッセオに集合した。そして十代がデュエルすることになったのだが……。

アマゾネスの死闘場を使うやつなんていたんだ……。

三沢はあれがタニヤっちのどんな相手にもまっすぐ向かって行く戦い方だとかいってるが……。



俺から言わせれば微妙の一言しか出てこない。

## アマゾネスの死闘場

### フィールド魔法（TF1オリジナル）

このカードの発動時お互いは600ライフポイント回復する。  
攻撃宣言をしたプレイヤーはモンスターで戦闘を行う度に、  
ダメージステップ終了時に100ライフポイントを払う事で相手ライフに100ポイントダメージを与える。

## アマゾネスの死闘場 アニメ

### フィールド魔法

このカードの発動時お互いは600ライフポイント回復する。  
攻撃宣言をしたプレイヤーはモンスターで戦闘を行う度に、  
ダメージステップ終了時に100ライフポイントを払う事で相手ライフに100ポイントダメージを与える。  
ダメージを与えられたプレイヤーは100ライフポイントを払う事で相手ライフに100ポイントダメージを与えることができる。

正直言つてアマゾネス系のモンスターとのシナジーも一切ない微妙カード。

確かアマゾネスにはもう一個フィールド魔法があるからそっち使えよって話だよな。

そして100ポイント刻みで減っていくライフ。

細けえ〜！

そんな細かい刻み方やったことねえよ！！

普通低くても数百単位で減っていくもんだろっが！！

結局十代は勝利。残りライフ100という際どいものであった。

てか残りライフ200の状態で相手の場に攻撃力1500と戦闘ダメージ反射能力を持つアマゾネスの剣士がいる時点で「ああ、ワイルドマンフラグか……」と思わずつぶやいてしまった。

《アマゾネスの剣士 / Amazoness Swords Wom  
an》 +

効果モンスター

星4 / 地属性 / 戦士族 / 攻1500 / 守1600

このカードが戦闘を行う事によって受ける

コントロールの戦闘ダメージは相手が受ける。

ほんとにワイルドマンだったしな!!

そんなわけでセブンススターズの3人目を撃破。

残りは後4人となる。

ついでに鍵も4つだけだな。

### 三沢っちの憂鬱 VS タニヤ（後書き）

今週のゼアル。

鉄夫君マジ主人公。

ていうか闇遊馬のプレイングへぼす。

3回目のオーバーレイユニット使う必要なかったし、ねじまきカウンターがひとつでも少なくなればねじまきの爆弾で倒しきれなくなるわけだから、ねじまきの爆弾をあわてて壊す必要はない。

## 昇格試験（前書き）

お待たせしました。

出張も終わり、これから続きを書いていこうと思います。

## 昇格試験

「昇格？　ですか」

「そうなるノーネ。シニョール鈴本がレッドになったのは、純粋な実力や学力が足りなかったわけじゃないノーネ」

放課後、クロノス教諭に呼び出されたかと思えば自分のライイエロ  
ーへの昇格話だった。

「シニョールはロックデッキしか使ったことがないと思われたから  
なノーネ。ですノーデ、ビートデッキ、パーミツションデッキ、特  
殊勝利デッキまで使いこなす、シニョール鈴本にはオシリスレッド  
から昇格してもらいまスーノ」

「しかし自分の月一試験の成績は十代ほど飛びぬけているわけじゃ  
ありませんよ」

「それデーモ、下手なライイエローの生徒よりは成績が高いノーネ。  
もちローン昇格試験という形でデュエルはやってもらいまスーノネ」

「はあ、自分がかまいませんが、なぜ今の時期なのでしょう？　セ  
ブンスターズのこともありますか」

「セブンスターズのことばかり考えては通常の学園の運営に差しさ  
わりがありますーノ。こんなときだからこそ、学園の運営は健全に  
しなければなりませんーノネ」

「なるほど。理解しました」

「では、明日の放課後に第3デュエル場にきてもらいまスーノ」  
「わかりました」

「……と、いうわけだから。数日中にはこの寮を出るかもしれん」

「ほう、お前もとうとう昇格か。ま、時間の問題だとは思っていたがな」

「ただなあ……」

「ん？ どうした、何か心配事でもあるのか？」

「引越しマンドクセ」

「……………それは出席日数が足りなくてレッドにいる俺へのあてつけか？」

「そういうわけじゃないが……」

確かに引越しは面倒だ。それに朝起こしてくれそうなやついたっけかな。

イエローの知り合いは三沢くらいか、こうしてみると交友関係狭いな俺。

「で、昇格デュエルにはどんなデッキで挑むんだ？」

「いろいろ案はあるんだけどなあ。どれもいまいちぱつとしない」

「ふん、お前は実力にムラがありすぎる。俺や十代に勝てるときもあれば、何でその辺のよわっちい奴に負けたりするんだ。理解に苦しむぞ」

いや……お前らみたいに毎回デッキが回るとは限らんのよ。安定性の低いデッキ使うと特に顕著になるしな。

というか何であんなにデュエルして一回も手札事故を起こさないのか俺には不思議でならない。

五回に一回事故ってる俺の運のなさもあるのだろうけど。

ちなみにブン回るのも五回に一回で残りは回つてるとはいえないけどそれなりに戦えるかな？みたいな感じだ。

それなりに戦える程度でもそれなりに勝てたりするから不思議だ。あんまりモンスター除去積んでる人いないしな。でも戦闘破壊耐久性

を出すと次のターンにたいてい貫通モンスターが出てくる不思議。

俺が安定して回せるのは属性HEROデッキとかジャンクデッキかな。やっぱ主人公絡みのデッキは結構回しやすい。

でもシンクロを使うのは2年生になってからのほうがいいしな。

そんなこんなで一晩中使うデッキに悩んでいたのだった。

そしてデュエル当日。

「がんばれー。厚志ー」

「気張るんだな」

万丈目以外には話してないはずなのにどこから漏れたんだろう。

来ているのはレッド寮3人組+明日香とカイザーだ。

あれ？ 俺ってカイザーが応援に来るほど面識あったっけかな？

万丈目は勝敗がわかってるデュエルなど面白くないと言ってたのかなかった。

「対戦相手は特別にワターシが相手しまスーノネ。遠慮なくかかってくるノーネ」

「あ、はい」

クロノス教諭が相手なのか、だめだと思っけどミラフォと幽閉抜き  
てえな……。

一部カードがいきなり使えない宣言されるのって悲しいよね……。

「では、始めますーノ」

「「決闘!!」」

「先行は譲るのね。かかってくるノーネ」

「ではお言葉に甘えまして、俺のターン」

ううむ、手札事故はないけど、相手のターンで古代機械の巨人とか  
出されたら厳しいんだよなあ。アレ攻略する方法ってあんまり積ん  
でないし……。

「どうしたノーネ。手札事故でスーカ？」

「いえ、大丈夫です。まずはフィールド魔法カード死皇帝の陵墓を  
発動させます」

俺が発動させると同時に周りが中国の遺跡の兵馬俑のような場所が  
映された。

《死皇帝の陵墓 / Mausoleum of the Emperor  
or》

フィールド魔法

お互いのプレイヤーは、アドバンス召喚に必要な

モンスターの数×1000ライフポイントを払う事で、

リリースなしでそのモンスターを通常召喚する事ができる。



「死皇帝の陵墓ということは。今回の鈴本のデッキは上級モンスターデッキだな」

「どういうことなんだ？ カイザー」

「あのフィールド魔法は、自分のライフを生贄召喚の生贄の代わりにすることができる。いきなり最上級のモンスターも召喚できるというわけだ」

「へえーすごいな」

「だけど相手はクロノス先生よ。あの古代機械の巨人だって生贄なしで召喚させられてしまう諸刃の剣だわ」

外野の皆さん解説ありがとう。だからあんまり使いたくなかったんだよなあ。相手がクロノス教諭じゃなければデッキ変えたいくらいだ。

「死皇帝の陵墓のライフコストを2000支払い。手札から氷の女王を召喚。カードを一枚伏せてターンエンド」

厚志

LP4000 2000

《氷の女王 / Ice Queen》  
+

効果モンスター

星8 / 水属性 / 魔法使い族 / 攻2900 / 守2100

このカードは墓地からの特殊召喚はできない。

自分フィールド上に表側表示で存在する

このカードが破壊され墓地へ送られた時、

自分の墓地に魔法使い族モンスターが3体以上存在する場合、

自分の墓地に存在する魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

古代の機械巨人に勝てないのは承知のうえだが、これしかないんだから仕方ない。

ああ、デッキ変えてえ。

「それデーハ、私のターンなノーネ。ドローニヨ」

さて、出てくるか古代の機械巨人。

「ワターシモライフコストを2000支払い。古代の機械巨人を召喚するノーネ」

《古代の機械巨人 / アンティーク・ギアゴーレム Ancient Gear Golem》  
効果モンスター

星8 / 地属性 / 機械族 / 攻3000 / 守3000

このカードは特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが攻撃する場合、

相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

クロノス

LP4000 2000

やっぱり出てきたか……。本当ならサイクロンとかで割りたかったんだけどな。

そこまで都合よくあるわけがない。

「古代の機械巨人で氷の女王にコウゲー」ちよつと待った罠カード発動。威嚇する咆哮、攻撃宣言はさせない」仕方ないノーネ。ワタシはカードを2枚伏せてターンエンドなノーネ」

《威嚇する咆哮／Threatening Roar》  
通常罠

このターン相手は攻撃宣言をする事ができない。

今思ってたんだが、ライフ8000じゃなくて4000だからこのデッキ結構微妙じゃね？  
デッキ選択の段階からやつちまった感があるような気が……。

「俺のターンドロー。神獣王バルバロスを攻撃表示で妥協召喚。カードを1枚伏せてターンエンド」

《神獣王バルバロス／Beast King Barbaros》

十

効果モンスター

星8／地属性／獣戦士族／攻3000／守1200

このカードはリリースなしで通常召喚する事ができる。

この方法で通常召喚したこのカードの元々の攻撃力は1900になる。

また、このカードはモンスター3体をリリースして召喚する事ができる。

この方法で召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する。

攻撃宣言時魔法罫が発動できなくて貫通持ちの攻守3000って相對してみると厄介この上ないな。

「攻めなけレーバ、勝てませーンノーネ。ワターシのターンドロニーヨ。ワターシは魔法カード大嵐を発動するノーネ」

まずい、自分の伏せカードも巻き込んでの大嵐ということは。ちなみに俺の伏せはミラフォだ。どうせ使えないし気休め程度に伏せておいた。

「ワターシの伏せカードは、2枚とも黄金の邪神像でスーノ、邪神像トークンを2つ出しまスーノネ」

「あの戦術は兄貴と戦ったときの！」

「2体の邪神像トークンを生贄にして、2体目の古代の機械巨人を召カーン！」

「2体も出てくると圧巻だな……」

「古代の機械巨人2体でシニョール鈴本の2体のモンスターをコウゲーキ！！ ダブルアルティメットパーウンド！！」

「ぐああッ」

厚志

LP2000 800

「厚志……。気張るんだな〜！！」

「陵墓も破壊されライフも残り少ない。フィールドもがら空きだ、

「逆転の可能性は薄いな」

「ワターシはこれでターンエンドでスーノ」

今の手札でも2体の古代の機械巨人を排除することはできるが、後が続かない。返しのターンにモンスターを出されてジ・エンドだ。これはどげんかせんといかん。

「……俺のターンドロ」

来た！ これならいける！

「俺はまず神禽王アレクトールを特殊召喚。このカードは相手フィールド上に同族性モンスターが2体以上いるときに特殊召喚できる」

《しんきんおう神禽王アレクトール / A l e c t o r , S o v e r e i g n  
o f B i r d s 》 †

効果モンスター

星6 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻2400 / 守2000

相手フィールド上に同じ属性のモンスターが表側表示で2体以上存在する場合、

このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、フィールド上に表側表示で存在するカード1枚を選択する。

選択されたカードの効果はそのターン中無効になる。

「神禽王アレクトール」はフィールド上に1体しか表側表示で存在できない。

「シカーシ、そのカードだけではどうにもなりませーノネ」

「ええ、もちろん続きはあります。魔法カード死者蘇生を発動。墓

地のバルバロスを特殊召喚します。一度墓地に行っているので妥協召喚による攻撃力の減少効果はなくなり攻撃力3000で蘇ります」  
「なるホード確かにそんなノーネ。それでも2体の古代の機械巨人は倒せないノーネ」

「次が本命です。ザ・カリキュレーターを通常召喚」

俺が召喚したモンスターは頭部がモニターのようになった機械でできた人型のモンスターだ。

モニターには×300と写っている。

「攻撃力？でスーカ？」

「ええ、このカードの攻撃力は自分フィールド上のモンスターのレベル合計×300ポイントになります」

《ザ・カリキュレーター/The Calculator》 +  
効果モンスター

星2/光属性/雷族/攻      ?/守      0

このカードの攻撃力は、自分フィールド上に表側表示で存在する全てのモンスターのレベルを合計した数×300になる。

「なんでスートー!!」

「バルバロスが8、アレクトールが6、このカードが2で合計レベルが16！ よってこのカードの攻撃力は4800!!」

カリキュレーターのモニターが4800の数値を写す。

「すげえ！ 古代の機械巨人を超えたぜ!!」

「これならいけるっス！」

「バトル!! カリキュレーターで古代の機械巨人を攻撃!!」

「マンマミーアー!!」

クロノス

LP2000 200

「バルバロスでもう一体の古代の機械巨人を攻撃。スパイラルシェイバー!!」

「ノーウ」

「ラスト! アレクトールでダイレクトアタック!」

「カルボナーラーラーア!!」

クロノス

LP200 - 2200

か、勝った……。

古代の機械巨人は心臓に悪いぜ……。

2体並んだときはさすがにだめだと思ったもんな。

「やったぜ厚志!!」

「見事なデュエルタクティクスだ」

「レベルの低いモンスターでも頑張って戦えるってことがわかって感動したんだな」

「お見事なノーネ。これでシニョール鈴本はライイエローへ昇格ですー」

「はい。ありがとうございました」

「次はオベリスクブルーにあがれるように頑張るーノーネ」

クロノス教諭の手札が結構残ってるのが何かしっくり来ない。もしかしたら手加減されてたのかもしれないな。

これで俺もイエロー昇格か……。

引越しマンドクセ



## 昇格試験（後書き）

出張先でTF6を購入。

チャレンジめんどくさいです……。

あと30ほどチャレンジ残っていますが、手間がかかるのばかり残ってるので辛いです。

突っ込みの限界 (デュエル無し?) (前書き)

リメイクのグロラン? やってて投稿遅れてしまってますまんこってます  
たい。

## 突っ込みの限界（デュエル無し？）

ライイエローへの引越しも終わり一段落ついた時、その人は俺の部屋にやってきた。

「えっと、どなたです？」

「これは申し遅れました。私は警察のものなのですが」

「本土からセブンスターズの鍵の件で警部さんがいらっしゃったのですのにゃー」

「保管状況をもっと完璧にもらうための指導に来たらしいわよ」

大徳寺先生に明日香が件の警部さんの後ろから声をかけてくる。  
いたんだ……警部さんのガタイがよすぎて気づかなかつたよ。

「ほかのメンバーはすでに終わっています。あとはあなただけです。普段はどこに保管していますか？」

「俺はデッキケースの中に入れていきます」

「それはよくない。彼らにも先ほど言いましたが、確かに大事な物を身に付けているのは一見安全に思える。しかし、それは同時に大事な物の場所を教えている事にもなるのです」

「しかし、デュエルする時に持ち歩いていないとまずいんでしょう？」

「……そうなのですか？」

「そう聞いていますか？」

「しかし寝ているときや入浴中に盗まれないためにも保管方法を強化するのは無駄ではないはずですよ」

この警部さんどうしても保管方法とやらを強化したいらしい……。  
なんか胡散臭いな……。

そもそもなんでそんなウジャト眠みたいな眼帯つけてるんだよ。ペガサス会長をちよっと思いついた。

「で、強化するとしたらあなたはどこに保管しますか？」

「ふむ、ベッドの中にも縫い付けておこうかな」

「べ、ベッドの中ですか……」

「ええ、ベッドを切り裂いたりしなければ取り出せませんから。もちろん外出するときは身に着けます。これなら入浴中や就寝中の保管方法としては適切かと」

「なるほど、それはいい手かもしれないな」

「オレもやってみようかな」

警部さんの後ろから十代とサンダーの声が聞こえる。

ああ…… お前たちもいたんだ。

「い、いや。全員が同じ隠し方をするのはよくありません。下手をすると全員の鍵が一気に盗まれてしまいます」

みんなが去った後俺は一人部屋で考えていた。

あの警部、すさまじく胡散臭いが……ここが遊戯王世界であることを考えると、あんな警部がいてもおかしくはない気がする。

これが遊戯王世界の不思議ってやつか……。

自分にできることはとりあえず。

「で、あの警部の身元は確かなんですか？」

「君はいちいちここに来るのだな。泣く子も黙る倫理委員会の事務所にここまで気軽に足を運ぶのは君くらいだ」

「はあ、まあ、ほかに頼れそうな人がいないので」

「ふう、まあいい。で、あの警部の身元だったな」

「ええ、ぱつと見すぐく胡散臭いので」

「パツと見の問題なのか？ とりあえずあれは鮫島校長が呼んだ外部の人間だ。とはいえもちろん調査はしている。警察手帳その他所持品に怪しいものはなかったが……」

「なにかありました？」

「あの警部の経歴がかなり怪しいな」

「経歴ですか？」

「ああ、どうも偽造の後がある。データベースには存在はしているのだが、友人知人関係は彼のことを知ってるものはいなかった」

「胡散臭いですねえ」

「胡散臭いがデータ的には彼は警部だ。あまり強引な手法は取れないな」

「そこがネックですねえ」

「こちらでも追加調査はしておく。君はあまり気を許さないようにすることだ」

「せいぜい気をつけることにします」

さすが倫理委員会すでに尻尾をつかんでいたとは。てかあの人たちは何者なんだ？

この短い時間で、警察のデータベースに照合をかけるだけじゃなく、友人知人関係まで当たるとは……。

あの警部…… あそこまで怪しいと逆に罠だとも思ってしまうな。

あれは罠で本命がどこからか狙っている可能性もあるかもしれない。

…… さすがに考えすぎか。

ま、いいや。部屋かえって寝よ寝よ。

ぐうぐうゝすやすやゝむにやむにやゝ。

プ~~~~ン

プ~~~~ン

プ~~~~ン

「蚊がうぜえええー！！！！」

まったく。蚊がうつとうしくてぜんぜん眠れん！！  
こうなったな夜通し蚊を退治せねばなるまい。  
蚊取り線香はないが、対G用の殺虫剤で勝負だ！！

「蚊がいなくなるまで、俺は、殺虫剤を噴射することをやめない！」

「うおおおりゃああー！！！！」

「はあはあ、ぜいぜい」

やっといなくなったか、もう午前3時だ。予想以上に時間がかかってしまった。

このまま寝たら絶対起きれないし徹夜したほうがいいな。  
暇つぶしにネタデッキでも作ろう。

モリンフェンビートとか作ってみようかな？  
俺Y O E E E E Eができる至高のデッキだぜ！

「おい、厚志！ 緊急事態だ起きろ！ って起きてたのか」

「十代……ノックくらいしようぜ」

「そんなこと言ってる場合じゃないんだ、鍵が盗まれたんだ！ お前の鍵はどうなってる？」

「鍵って部屋の鍵は制服のポケットに入ってるぞ、基本的に部屋に鍵掛けないから使ってないが」

「そうじゃないんだ！ 七星門の鍵のほうだよ！」

「結局ベッドに縫い付けるの面倒だったからそこに置いてあるぞ……ほれ」

「ほっ、厚志の鍵は無事だったんだな。ほかのみんなは全滅だったんだ。とにかく万丈目の部屋に集まってくれ」

「わかったわかった。着替えてから行くから先に行つてくれ」

引つ越したばかりなのにレッド寮まで行くのかよ。かつたるいな。こんな事件がおきるならもう少しゆっくり引つ越しすれば良かったな。

「万丈目サンダーの名にかけて！」

「……これはどういう状況？」

「ようやく来たか厚志。今からこの万丈目サンダー様の推理ショーが始まるところだ。黙って聞いている」

「よくわからんがわかった」

とにかく万丈目がなんかするらしい。それと警部の近くにいるこいつらは誰なんだ？

あんまり見ない顔だが……。どっかで見たことがあるような気がする。

でかい大男に、ホウキ頭のレッド生徒に、目つきの悪い警備員、そして白衣を着た赤いロングヘアの女性の四人。

ううむ、なんというか『微妙』に使えるという印象があるのはなぜだろう？

でも大男が一番しょぼい気がする。

「俺は皆が集まる前に全ての犯行現場を廻ってきた」

「そうか、犯行現場には幾つもの証拠が残っている」

「そう言えば、床に付け爪のような物が落ちてたわ」

「え……あ……」

警部の横にいる女性が動揺する。

こんなわかりやすい反応でいいのだろうか？

「天上院君、真剣に犯人を探す気があるのか？部屋はこまめに掃除しろ」

「ま、毎日してるわよ」

「そんな物は俺が捨てておいた」

「ご、ごめんなさい……」

論点がちげえええ！！

証拠を探すために各部屋回ったんじゃないのかよ！！

てか人の部屋のものを勝手に捨てるな！

「そう言えば、オレ達の部屋の壁にも穴が……」

「そうそう」

「借りた部屋にキズをつけるな。敷金戻ってこないぞ」

「敷金って……」



そういう問題なのか？

というか敷金なんて払った覚えがないんだが……。

そしてお前実家金持ちなのに妙に庶民くさいところあるよな。

「穴なら俺が埋めておいた」

「わ、悪いな万丈目」

「『さん』だ」

「……！」

ホウキ頭のレッド生徒が手動式ドリルを後ろ手に隠した。

お前は何で持ち歩いてるんだよ！！

自分の部屋に隠しておけばいい話だろ！！

「でも、犯人は誰なのニヤ？」

この様子だとすさまじく頓珍漢なことをいいそうな気がする。

「犯人は……お前！お前！お前！そしてお前だ！」

「……！！」

万丈目が指を刺したのは警部とその周りにいた4人だ。

なんかあつてるっぽい。だって動揺が半端じゃないもん。

おおーすげー！

これは素直にすげー！

あそこまで証拠っぽいものをスルーしておきながら。

ちゃんと犯人当ててるのってたいしたもんだよな。

どうやって見つけたんだろう？

「な、何を証拠にそんな事を……」

「そうよ！犯人扱いするなら、証拠が有るんでしょね？」

「……有るとも」

「何！？」

「しかし、証拠らしき物は全て君が……」

「ふふふ、証拠は……これだ！」

『『『イエーイ！』『』『』』

……と、取り出したのは彼の精霊、おジャマ3兄弟のカード。

「それぞれの鍵を隠した時、俺は密かにこいつらを鍵と一緒に置いてきた。そして、俺の部屋には大勢の目撃者が居る！」

……と、続いて取り出したのは、万丈目兄とのデュエルの際、古井戸でゲットした攻撃力0の精霊達のカード。

もはや推理でもなんでもねえええ！！

さつき推理ショーっていったよな！？ 絶対いったよな！！

「こいつらは、お前達の犯行の一部始終を目撃していた！」

『間違いない！』

『こいつらだ！』

『おいら達は見たわん』

『おうおう、おめえらにはこの十手が……！』

『桜吹雪が……！』

『紋所が見えねえのか！』

「『全然見えない』『』」

「『『ありや！？』『』」

あ、三人そろってずっとこけた。

しかしこのおジャマたちノリノリである。

カードの精霊を目撃者と言い切ってしまうふてしただけは賞賛

に値するかもな。

「そしてマグレ警部。あなたがこの事件の黒幕だ！」  
「な、何を根拠に」

「明日香さん、目撃者ってどこにいるんでしょうね？」  
「さあ？」

……そうだよな。それが普通の反応だよな。  
しょうがない、助け舟を出してやるか。

「あゝちよつといいか？」  
「なんだ？ 貴様の出る幕はもうないぞ」

いや、カードの精霊が見える人たちじゃないと証拠にならないだろ。

「実は昼間倫理委員会に頼んで、七星門の鍵を保管している部屋に  
隠しカメラを仕掛けてもらってたんだが……」

「い、いつの間に……」  
「さつきちよつと事務所によってその映像を借りてきたんだ。これ  
を見れば万丈目の主張が正しいのか妄言なのかはつきりする」

倫理委員会ってすげえな、頼んだ俺が言うのもなんだけど頼んだそ  
の日のうちにカメラ仕掛けてくれるとは思わなかった。

「ファインプレーだがよくやった。さあこれでもう言い逃れはでき  
ないぞ」

「ふっ、さすがは名探偵を名乗るだけのことはある」

「…………どこがだ！……！」

「めちゃくちゃな推理だが、結果はすべて大当たりだ」

だから推理でもなんでもねえだろうがよ!!

「われらの正体は」

「……黒蠍盗掘団!!」

連中は戦隊物の様に全員集合してポーズを決めた。

……ああどつかで見たことがあると思っただけか…。

ザルグやミーネやチックは使い道がそれなりにあるもんな。

そしてあの大男が一番しょぼい気がしたんだな。

あいつだけなぜか上級モンスターで生贄が必要だしな。

「私は数年前七星門の鍵を奪う依頼を受け、そのときから部下をひそかに送り込んでいたのだ」

「……それが、黒蠍盗掘団!!」

「時間をかけた割に仕事が雑だぜ……」

「……それが、黒蠍盗掘団!!」

「なんかおもしろえぞこいつら」

「ほんと」

「……それが、黒蠍盗掘団!!」

「でも、鍵を盗んだだけじゃ七星門は開かない。意外と間が抜けているのね」

「……それが、黒蠍盗掘団!!」

「そもそも、やってることは盗掘じゃなくて泥棒だろ。窃盗団にし

たほうがいいんじゃないか？」

「「「「それが、黒蠍盗掘団！」「」「」」」

「……………突っ込んだほうがいいのかなあ？

突っ込んだでも同じ台詞で返される気がするんだが……。

「で、どうすりゃ開くんだ？」

「盗んだ相手に聞くんじゃないよ……」

「「「「それが、黒蠍『もうええわ！！』『」「」「」」」

し、しまった。つい条件反射で。

「教えてやろう、俺とデュエルをして勝てば開かれる」

「なあ、俺は？」

「私もいるわよ」

「厚志君もだよな」

「デュエル？　そうか！　依頼のときにもらったこれを使うのか

く！」

「持ってたんじゃないか！　ちゃんと依頼人の話ぐらい聞けよ！！」

「「「「それが、黒蠍『しつこいつつてんだろぅが！！』『」「」」」

「」」

「厚志のやつ、やけに怒ってるんだな」

「厚志君突っ込みキャラっすからねえ。突っ込みどころが多すぎて  
疲れてきたんじゃないすか？」

ああ、そうだよ。この学園はボケばかりで突っ込みキャラが明らかに不足してるんだよ。

明日香はわりと常識人だが、あいつは突っ込まないでスルーするか

らな。俺しか突っ込む人間がないんだよ。

「ならばデュエルだあー!!」

なんか気づいたら万丈目と黒蠍のデュエルが始まっていた。  
肝心のデュエルの内容だが……。

なあ、これ突っ込まなきゃならないのか？

サイクルリバースモンスターの番兵ゴーレムを表側守備表示とか、  
せつかくだからわれわれ自身がフィールドに出ようとか。

おジャマ兄弟の三体融合とか。

正直突っ込みきれねえ……。

……結果？

万丈目が勝ったよ。

結構辛勝だったけど、おジャマとアームド・ドラゴンという何のシ  
ナジーもないカードたちでよくデッキ組む気になるなあとは思っ  
たよ。

突っ込みの限界 (デュエル無し?) (後書き)

TFチャレンジ後5つくらいです。

自縛神が後二つにシグナー竜関係だけですな。

学園祭 厚志VSBMG（前書き）

ようやく投稿できました。

私が遊戯王小説でやりたかったことのひとつを叶えてみました。



## 学園祭 厚志VSBMG

「はあ、もう学園祭の季節か。時間がたつのは早いもんだな」

「厚志君なんか爺臭くないスか？」

「自覚はあるから突っ込むな」

なんてったって、2度目の人生だ。

多少人より老け込むのが早くてもしかたあるめえよ。

「はあ、どこ行っちゃったんだろ大徳寺先生……」

「そついえば最近十代の元気がないのは何でだ？」

「厚志……あなた知らなかったの？ 実は大徳寺先生が……」

「ほむほむ」

明日香が復活したタイタンとデュエルをして、吹雪さんの記憶が戻ってきて、吹雪さんの記憶によると、吹雪さんが闇にとらわれた件について大徳寺先生がかかわってるらしいと。

それで、それを問い詰めようとしたら、大徳寺先生の姿がきれいさっぱりなくなってた……。

「……初耳だねえ」

「みんなに話したと思ってたのだけど……」

忘れられていたんだろうな。

モブとして埋もれつつあることに、厄介ごとが舞い込む確率が減ってうれしいような、数少ない友人に忘れられていたという事実に悲しいような……。

「そもそもセブンスターズってあと何人だ？ まず最初に吹雪さん

だろ。次に俺が倒したカミューラに……」

「アニキが倒したタニヤ。万丈目君が倒した黒蠍盗掘団スね」

「この間十代が倒したアビドス三世と私が倒したタイタン。残りはあと一人よ」

「……アビドス三世って誰だ？」

「そういえばあの時鈴本はいなかったな」

「そうだったかしら？」

カイザーにも忘れられてるな。

だんだん影が薄くなつていくなあ俺。

空気キャラになつてしまいそんな予感がプンプンするぞ。

三沢と違っているのに気づかれない空気キャラと、いないのに気づかれない空気キャラの違いはあるが……。

「厚志君のデュエルはなぜか印象に残らないんスよね？」

「毎回違うデッキを使っているから、鈴本を象徴するエースカードがないからかもしれないな」

うつむ……確かに。

毎回同じデッキだと飽きるから、いろんなデッキを使うようにして  
る弊害がこんな形で現れるとは……。

デッキ作りが趣味みたいな感じになつてたりもするしな。

最近は作るデッキがなくなつてきて、イロモノデッキも作成するよ  
うになつたし……。

「エースカードねえ、気が乗らないなあ」

「何が気乗りしないのかしら？」

「うーん、俺の場合ってコンセプトを決めてからデッキを作るわけ  
なんだよな」

「三沢君みたいに各属性ごととかそんな感じかしら？」

「もつと具体的かな。どうやって勝つか？ の勝ち筋を先に決めておいて、そのテーマに沿ったカードを使うんだ」

「なんか具体的じゃなくて抽象的になってるっス」

「たとえばだな、翔の持つてるドリルロイドあるだろ？」

「守備モンスターを破壊するモンスターっスね」

「あれを最大限生かすためにエネミーコントロールを使うたり月の書を使ったりするわけだ。それで相手モンスターを排除しつつ倒す見たいな感じかな。これだとドリルロイドは生かせるけど別にほかのロイド系を生かせるとは限らないんだよ。だからドリルロイドを投入してもロイドデッキにならないんだ」

「……なんかよくわかんないけどわかった事にするっス」

なんというか、説明が難しい……。

もつとわかりやすく説明できないもんかねえ。

「あ、そういえば明日香さんをお願いしたいことがあったんスよ」

「私に？ なにかしら」

「実は学園祭のレッド寮の催しがコスプレデュエルなんですけど、やっぱり女性徒がいないと華が無いんスよ。それで明日香さんにもコスプレをお願いしたいんです」

「わ、私がコスプレ！」

「レッド寮を助けると思っで、よろしくお願いします」

「えと、その、私ブルーだし、あの……」

「いいじゃないか明日香」

「兄さん！」

「僕も明日香のコスプレ姿を見てみたいな」

「もつ、兄さんまで……」

結局吹雪さんの押しに耐え切れずコスプレを了承してしまう明日香。廃寮のころから薄々感じてはいたけど、明日香ってかなりのブラコ

ンだなあ。そして吹雪さんはシスコンだ。  
似たもの兄妹といってもいいかもしれないな。  
それにしても明日香のコスプレか……。

「……………写真とってファンクラブに流せば商売になるかな？」  
「あ~~~~~~~~し~~~~し~~~~！」

げっ！ 聞こえてやがったボソツと言ったつもりだったのに。どんだけ地獄耳なんだ……。

「厚志もコスプレしなさい！！」  
「ちょ！ 何でそういう話になるんだ！？」  
「厚志もコスプレすれば見られる人の気持ちが変わるじゃないの！」  
「だって俺イエローの屋台を手伝うことになって……」  
「それは俺が話をつけておこう」

ちょ！ 三沢いきなり出てきて何言ってるんだ！？

「実は屋台のほうもそこまで仕事が残ってなくてね。俺と厚志はレ  
ッド寮の応援に行ってもかまわないと樺山先生から言われているん  
だ」

「ちっ、樺山先生までネマワシ終わってるのかよ」  
「そういうことだ。諦める」  
「……………むっ」

いまさら逃げられないのはわかってるんだが、明日香の勝ち誇った  
顔がなんかむかつく。  
こうなったら、ダイ・グレファアのコスでもして追い掛け回してや  
ろうか。

……だめだな。やったその日のうちに変態と呼ばれるようになるだ

けだ。

しかしコスプレとは面倒な……できるならあんまり手間のかからない衣装がいいな。

柔道着を着て、伝説の柔術家とか？

ううむ、やはりこれも却下だ。あの髭を再現させるのは一苦労だし、あれは中年がやるから似合う衣装だしな。

ワイトはローブはともかく骸骨フェイスは手間がかかりそうだ。

レッド寮で代々使ってきた衣装は、派手なものが多く動きにくそう  
だ。

正直鎧とか甲冑とか着てどうやってデュエルディスクはめろって  
うんだよ。

そして学園祭当日。

「厚志。それはいったいなんのコスプレなのかしら？」

「バトルマニアの手前の男子学生だ」

そうなのだ。俺の服装は学ランに伊達めがね。髪形は面倒だから  
じつてない。

「参考書も一応持っているぞ」

「まさかここでモンスターカードじゃないとは……意表をつかれたわね……」

「これが一番動きやすそうで、しかも派手じゃなかったからな」

「くっ……なんかすごい負けた気分だね。私はこんなに派手な格好しているのに」

ちなみに明日香はハーピィレディのコスプレだ。  
やはりハーピィレディは巨乳の人間が似合うな。

パシャ

「似合っているじゃないか明日香」

「に、兄さん……」

吹雪さんとカイザーが登場した。  
しかも吹雪さんはカメラ持参で。

「写真なんかとってどうするつもり!？」

「明日香のファンクラブの子に配ろうと思ってね」

さすが吹雪さん。

タダで配るとは太っ腹だ。

しかしこうなると、俺が写真をとっても売り物にはならなさそうだな。

「ちょっとやめてよ!」

「はは、いいじゃないか。僕も明日香のかわいい姿をみんなに見せたいんだよ」

兄弟喧嘩が始まったので放置しよう。

ああいうのは首突っ込むとろくなことがない。

「鈴本は何のコスプレなんだ？ 学ランを着たモンスターに覚えはなかったのだが」

「バトルマニアの男子学生ですよ」

「………試みは面白いが、誰にも気づいてもらえないだろう」

「十代よりましだと思いませんか？」

そういつて十代を指差した。

カイザーも指を追うように視線を向ける。

「あれはいつたい何なんだ？」

「適当に衣装を組み合わせたらあんなったらしいですよ」

「どおりで、見覚えのあるパーツがちらほらあるわけだ」

十代の服装はかなり頓珍漢だ。

魔法使いの帽子にマント。鎧に盾も装備している。

周りからは謎のモンスター扱いされているな。

「それにしても万丈目が一番気合入ってるとは思いませんでしたがね」

「あのXYZドラゴンキャノンだな」

「ええ、近くで見たらかなり完成度高いですよ」

「いつの間に準備していたんだらうな？」

「さあ？」

しかしいろんなコスプレ姿が見られるなあ。

そっういや三沢はどこ行っただらう？ あいつも俺と同じでこっちに来る予定のはずなんだが。

「ブ、ブラックマジシャンガールだあ!!」

翔の叫んでる声が聞こえるな。

ん？ あれは確かにブラックマジシャンガールだ。  
しかも激似だ。

はて？ あんな生徒見た覚えがないな。

「あれ誰だか知ってます？」

「いや、俺も見覚えはないな」

悩んでいる間に、十代とブラックマジシャンガールのデュエルが始まった。

しかしすごい人気だなブラックマジシャンガールは……。

「実況はボク丸藤翔でお送りいたします。そして解説はXYZさん  
にお願いします。そして先攻はボクの独断で、ブラックマジシャン  
ガールからです!!」

「カイザー、自分の弟のあのテンションの上がり方を見て何か一言

……」

「……………ノーコメントだ」

あ、やっぱりちょっとついていけない部分あるんだ。  
デュエルは白熱している。

主にブラックマジシャンガールの意味で……。  
十代なんて完全アウエーじゃねえか。



「可愛いは正義ナノーネ!!」

クロノス教諭まで混じってやがる。

しかし、少しプレイしただけでこの盛り上がりまるでアイドルだな。

デュエル自体はそう長いものではなく十代の勝利に終わる。

フレイムウィングマンは火力高いなあ。

「ねえねえ、次はあなたとデュエルしてみたいなー」

「へ？」

気がついたら件のブラックマジシャンガールが目の前にいた。

「鈴本ー俺と代わりやがれー!!」

「うらやましいぞコンチクショー!!!!」

「おおとー!! ブラックマジシャンガールの次のお相手は謎の学ラン少年だー!!」

……………どうしてこうなった。

「赤コーナー。先ほどに引き続き、われらがアイドルブラックマジシャンガールの入場だぁー!!!!」

「ずっといるがな」

「青コーナー。今度のお相手は謎の学ラン少年の入場だ」

「バトルマニアの手前の奴だと何度言ったら以下略」

なんだろうこれ？

もう明らかにテンション違うよね。

俺さっきの十代みたいに完全アウェーでやらなきゃならないの？

馬鹿なの？ 死ぬの？

テンション下がるわ〜。

「先攻はやっぱりブラックマジシャンガールからです！ それではデュエルスタート！」

「では私のターン。私はモンスターをセット。カードを一枚伏せてターンエンドです」

「解説の万丈目さん。この立ち上がりをどう見ます」  
「そうだな。さっきはファイヤーソーサラーを伏せていたが今回も同じとは限らない。どちらにせよセットされたモンスターが鍵を握るだろう」

「それじゃあ俺のターン。俺はアチャチャアーチャーを守備表示で召喚。このカードの効果により相手に500ポイントのダメージを与える」

「えっ！？ きゃあ！」

「これは容赦のない外道攻撃が決まったー！！」

「ひっこめー！！」

「卑怯だぞー！！」

いあ、あの、そういうカードなんで……なんでもないです。

ブラックマジシャンガール

LP4000 3500

「えへへ、やっぱり君も結構やるじゃない、でも負けないからね」

《アチャチャアーチャー/Achacha Archer》†

効果モンスター

星3/炎属性/戦士族/攻1200/守 600

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、  
相手ライフに500ポイントダメージを与える。

「カードを一枚伏せてターンエンド」

「なら私のターン私は永続魔法魔法族の結界を発動！ そして見習い魔術師を反転召喚し、効果で魔法族の結界に魔力カウンターを乗せるね」

《魔法族の結界/Arcane Barrier》†

永続魔法

フィールド上に存在する魔法使い族モンスターが破壊される度に、  
このカードに魔力カウンターを1つ置く（最大4つまで）。

自分フィールド上に表側表示で存在する魔法使い族モンスター1体と  
このカードを墓地へ送る事で、このカードに乗っている

魔力カウンターの数だけ自分のデッキからカードをドローする。

《見習い魔術師/Apprentice Magician》†  
効果モンスター

星2/闇属性/魔法使い族/攻 400/守 800

このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、  
フィールド上に表側表示で存在する魔力カウンターを  
置く事ができるカード1枚に魔力カウンターを1つ置く。

このカードが戦闘によって破壊された場合、自分のデッキからレベル2以下の魔法使い族モンスター1体を自分フィールド上にセットする事ができる。

「そして魔導騎士ディフェンダーを召喚。効果でディフェンダーに魔力カウンターを乗せるよ！」

《まどうきし魔導騎士 ディフェンダー / Defender, The Magical Knight》†

効果モンスター

星4 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻1600 / 守2000

このカードが召喚に成功した時、

このカードに魔力カウンターを1つ置く（最大1つまで）。

フィールド上に表側表示で存在する魔法使い族モンスターが破壊される場合、

代わりに自分フィールド上に存在する魔力カウンターを、破壊される魔法使い族モンスター1体につき1つ取り除く事ができる。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「バトル！ ディフェンダーでアチャチャアーチャーに攻撃！！」

あっさりやられる炎の弓兵。まあ、そういうカードだし……。

「私はこれでターンエンド」

ブラックマジシャンガール

伏せ1枚 魔法族の結界（カウンター1つ）

魔導騎士ディフェンダー（攻撃表示） 見習い魔術師（攻撃表示）

「ほんじゃ俺のターン」

なんと言う微妙な手札。伏せカードは全部ブラフだけどこの世界の連中は気にしやしねえ。

まあ最低限ネタは発揮できそうだからネタやってさっさと負けるか。

「俺は手札の切り込み隊長とズババナイトを墓地に送り儀式魔法を発動させる！！」

俺が発動させた儀式魔法の効果によって床に描かれた魔法陣から出てきたのは白い服を着て、両手に刃物を持ち悪魔のような形相をしたやつだった。

そしてそいつは突然両手の刃物を振り回した、目の前にある物体を切る！ 切る！ 切る！

そうしてその場に残ったのは巨大なハンバーガーに凶悪そうな歯を生やしたものだった。

がつきよんがつきよん歯を打ち鳴らす巨大なハンバーガー。

実にシニールだ……。だがそれがいい！！

「……へ??」

「ハングリーバーガーを攻撃表示で召喚する」

「……えつと、なにそれ？」

「ハングリーバーガーだ」

「いや、だから」

「ハングリーバーガーだっ！！」

俺のデッキはハングリーバーガー特化デッキ！

一度やってみたかったんだよね。相手の驚く表情がたまらないぜ。

「さらに伏せていた装備魔法リチュアル・ウェポンを装備して攻撃力を1500上昇させる」

《リチュアル・ウェポン/Ritual Weapon》 †

#### 装備魔法

レベル6以下の儀式モンスターのみ装備可能。

装備モンスターの攻撃力と守備力は1500ポイントアップする。

ハングリーバーガー

攻撃力2000 3500

「そして、手札から永続魔法一族の結束を発動！ その効果で攻撃力をさらに800上昇させる」

《一族いちぞくの結束けつそく/Solidarity》 †

#### 永続魔法

自分の墓地に存在するモンスターの元々の種族が1種類の場合、自分フィールド上に表側表示で存在する

その種族のモンスターの攻撃力は800ポイントアップする

ハングリーバーガー

攻撃力3500 4300

「……え？ ええ！？ ちょっと待って、一族の結束って墓地の種族が統一されている場合、自分の場のその種族の攻撃力を800上昇させるカードだよね？」

「ああ、その解釈であつてるぞ」

「でもでもっ！ 君の墓地は戦士族のモ「ハングリーバーガーは戦士族だ」……え？」

「大事なことなのでもう一度言おう。ハングリーバーガーは戦士族

だ

《ハングリーバー/ Hungry Burger》†

儀式モンスター

星6 / 闇属性 / 戦士族 / 攻2000 / 守1850

「ハンバーガーのレシピ」により降臨。

フィールドが手札から、レベル6以上になるよう

カードを生け贄に捧げなければならない。

まあ、普通は気づかないよな……。どう見たって悪魔族、百歩譲って植物族だもんな。

[illegible]

この、この表情が見たかった！  
これだけのためにこのデッキを作ったといつても過言ではない。

あれ？　これ見習い魔術師に攻撃通つたら勝つんじゃない？

「バトル！  
ハングリーバーガーで見習い魔術師を攻撃。  
無限食欲

「さ、させないよ。速攻魔法ディメンション・マジック発動！ 見習い魔術師を生贄に、この私ブラック・マジシャン・ガールを召喚しつゝまゝす」

ですよー！。

《ディメンション・マジック/Magical Dimension》

$$\begin{array}{c} \text{n} \\ \text{=} \\ \text{+} \end{array}$$

## 速攻魔法

自分フィールド上に魔法使い族モンスターが

表側表示で存在する場合に発動する事ができる。

自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースし、手札から魔法使い族モンスター1体を特殊召喚する。

その後、フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する事ができる。

《ブラック・マジシャン・ガール / Dark Magician Girl》  
†

効果モンスター

星6 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻2000 / 守1700

お互いの墓地に存在する「ブラック・マジシャン」

「マジシャン・オブ・ブラックカオス」1体につき、

このカードの攻撃力は300ポイントアップする。

「そして破壊するのはもちろんハングリーバーガー！」

「「「キターーーーーー!!!!!!」」」

「攻撃力4300という悪魔のようなハンバーガーにもめげずブラック・マジシャン・ガールここに再び登場だー!!」

あ、オワタ。

「じゃ、投了で」

「ええ~~~~!! ひどい! 最後までやろうよ」

「男らしくねーぞー!」

「それでもデュエリストかー!」

「おれたちやもつとブラマジガールが見たいんだよー」

絶対最後の言葉が本音だろ。



「結果は見えてるんだけどな」

「そんなことないよ。デュエルは最後までわからないんだよ!」

「じゃあ逆に聞くが、手札なし、フィールドなし、墓地効果なしで  
まともに戦う方法を教えてくれよ」

「え、え」と。わ、私のターン」

あ、ごまかしやがった。

「私はブラック・マジシャン・ガールに魔術の呪文書を装備して2  
体でダイレクトアタック! せーの」

「「「「黒・魔・導・爆・裂・破!」」」」」  
ブラック・バーニング

《魔術まじゆつの呪文書じゅもんしょ / Magic Formula  
a 》 +

#### 装備魔法

「ブラック・マジシャン」「ブラック・マジシャン・ガール」のみ  
装備可能。

装備モンスターの攻撃力は700ポイントアップする。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、

自分は1000ライフポイント回復する。

#### 厚志

LP4000 - 300

こうして俺とブラマジガールのデュエルはわずか5ターンで終了し  
たのだった。

そして学園祭も終了に近づいてきて今は最後のキャンプファイヤー

である。

俺が何をしているのかというと……。

「ああ、いたいた。お前さんはやっぱり『闇』で会ったあのブラック・マジシャン・ガールでいいのか？」

「うん、そうだよ」

「今日はただ、遊びに来ただけなのか？ それとも……」

「それもあるけど、途中経過を報告しようと思ってるね」

「ということは何か進展があったのか？」

「進展なのか後退なのかわからないけどね、とりあえずあなたのカードはあなたの世界におそらく関係ないってことぐらいかな？」

「関係ない？ でも、本来あるはずのないカードたちまであるんだぞ」

「そこが謎なんだよね。この世界にあるはずがなくて、あなたの世界にも関係がないカードたち……」

「こいつらはいったい何なんだろうな……」

シンクロやエクシーズまで揃っててこの世界に元からあったというには無理があるだろうな。

また謎が増えちゃったな。

## 学園祭 厚志VSBMG（後書き）

遊戯王小説数あれど、ハングリーバーガーを使った小説はそうは見えないでしょう。

本当は占い魔女でいこうかとも思っていたのですが、魔法使い族のテキストは複雑でミスが多くなりそうなので断念しました。

シンプルに、そしてインパクトのあるデュエルを演出できたと思います。

そしてなにげに厚志の初黒星。本人にも勝つ気もやる気もないので当然の結果でしょう。

奇襲！？ VS セブンスター？（前書き）

今回は早めに投稿できました。

今回使うデッキを先読みできた人は神です。

だんだん厚志のキャラがぶれてきたような気が……。

## 奇襲！？ VS セブンスターズ？

フンフンフフン

今日の俺は実に機嫌がいい。

なぜなら、俺が精魂こめて作り上げた究極のネタデッキで十代に勝利することができたからだ。

このデッキは入学したあたりから組んでいてずっと調整していたんだが、200以上の黒星を経てようやく初勝利をあげることができた。

ぶっちゃけ十代の事故待ちみたいなもんだけどね。

なにせ弱すぎて融合された瞬間にほぼ負けが決まるといっても過言じゃないからな。

いや〜長かったなあ……。

日課である夜の散歩の足取りも軽いつてもものよ。

「鈴木 厚志だな」

どうやら夢気分はここまでのようだ。

目の前に現れたのはどこからどう見ても不審人物でしかない仮面、マント、白髪の男だ。

これが最後のセブンスターズってやつか。

「構えろ、デュエルだ」

「拒否権は……認められないんだったな……」

仕方ない、腹をくくるしかないか。

「わかった。いいだろう」

男はずいぶん用意がいいようで俺にデュエルディスクを投げてよこした。

持っていないことも想定しているんだな。

「「決闘!!」」

たまには先攻とりたいなっつと。

「俺のターン! ドロオ……………」

「どうした? ターンを進めるがいい」

やっべえ…………超やべえ。

ネタデッキのまんまじゃねーかよ!!

え? 俺このデッキ使うの? だって勝率1%切ってるデッキだぜこれ。

「あ、あのー。デッキ間違えたから交換して「そんなことは私の知ったことではない。続ける」…………「デスヨネー」

うつわー。投了してえ。

手札的には十分回ってるんだけどデッキパワーが圧倒的に足りない。仕方ないか…………。

「手札からゼミアの神を守備表示で召喚する。カードを1枚伏せてターンエンド」

《ゼミアの神<sup>かみ</sup> / Lord of Zemīa》  
†

### 通常モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1300 / 守1000  
相手をだまして、破滅の道へと誘うことを得意とする邪神。

厚志LP4000 手札4枚

モンスター ゼミアの神

魔法・罫 伏せ1枚

「私のターンだ。私は永続魔法錬金釜カオス・デイスティルを発動させる！ このカードの効果により私の墓地に送られるカードはすべて除外される！」

錬金釜 カオス・デイスティル (TF)

永続魔法

自分の墓地へ送られるカードは墓地へは行かずゲームから除外される。

ゲ、除外デッキかよ。次元の裂け目とか使われないだけましかな？

「私は異次元の生還者を攻撃表示で召喚し、ゼミアの神に攻撃を仕掛ける」

《異次元<sup>いじげん</sup>の生還者<sup>せいかんしゃ</sup> / D・D・Survivor》  
+

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 戦士族 / 攻1800 / 守200

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードがゲームから除外された場合、

このカードはエンドフェイズ時にフィールド上に特殊召喚される。

厚志

LP4000 3500

「カードを一枚伏せてターンエンドだ」

セブンスターズ？ LP4000 手札3枚

モンスター 異次元の生還者

魔法・罠 錬金釜カオス・ディステイル 伏せ1枚

「俺のターン。俺は永続魔法強者の苦痛を発動させる。そしてグレムリンを守備表示で召喚だ」

《強者の苦痛<sup>きくつう</sup> / Burden of the Mighty》  
永続魔法 †

相手フィールド上に表側表示で存在する全てのモンスターの攻撃力は、

レベル×100ポイントダウンする。

《グレムリン / Feral Imp》 †

通常モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1300 / 守1400

いたずら好きの小さな悪魔。

暗闇から襲ってくる。気をつける！

俺のデッキYOEEEEEEEEEE！！

苦痛使っても異次元の生還者倒せないとかどれだけ〜！

これではらくしのげればいいんだが……。

「ターンエンド……」



厚志LP3500 手札3枚

モンスター グレムリン

魔法・罾 強者の苦痛 伏せ1枚

「どうした、その程度か？ 私は魔法カード手札抹殺を発動！ 互いのプレイヤーはすべての手札を墓地に送り同じ枚数だけドローする」

てふだまっさつ

《手札抹殺 / Card Destruction》

†

通常魔法（制限カード）

お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする

むう、嫌な予感がする。除外デッキってことは……。

「そして、除外されたネクロフェイスの効果発動！ 互いのプレイヤーはデッキの上5枚を除外する」

《ネクロフェイス / Necroface》

†

効果モンスター（制限カード）

星4 / 闇属性 / アンデット族 / 攻1200 / 守1800

このカードが召喚に成功した時、

ゲームから除外されているカード全てをデッキに戻してシャッフルする。

このカードの攻撃力は、この効果でデッキに戻したカードの枚数×100ポイントアップする。

このカードがゲームから除外された時、

お互いはデッキの上からカードを5枚ゲームから除外する。

「デスヨネー」

「私はさらに異次元の生還者を生贄に捧げ黄金のホムンクルスを召喚する！」

《黄金<sup>おうごん</sup>のホムンクルス / Golden Homunculus》 †

効果モンスター

星6 / 光属性 / 戦士族 / 攻1500 / 守1500

このカードの攻撃力・守備力は、

ゲームから除外されている自分のカードの数×300ポイントアップする。

あ、やばい。死ぬかもしれん。  
でもネクロフェイスのおかわりがなかっただけマシなのか？

「黄金のホムンクルスは除外された自分のカードの枚数に応じて攻撃力を上昇させる！！ 除外された私のカードは合計10枚だ。よってこのカードの攻撃力は3900！！」

「グレムリンに攻撃だ！」

なすすべもなく破壊されるグレムリン。一応このデッキの切り込み役なんだけどなあ。

「そしてエンドフェイズに異次元の生還者は舞い戻る」

セブンスターズ？ LP4000 手札2枚 除外9枚

モンスター 黄金のホムンクルス

魔法・罫 鍊金釜カオス・デイスティル 伏せ1枚

「俺のターン。ドロ……ッ！！」

……土壇場でこいつを引くとは思っていなかったな。冷静になれ、このカードなら黄金のホムンクルスを排除できる。それは間違いない。

ただ問題は相手の伏せカード。異次元の生還者という露払いもいるためあれを放置すれば負けは見えている。しかし万が一失敗すれば……。

だぁー！ー！！ うだうだ考えても仕方ない！！  
どの道このデッキで対峙した瞬間に負けは決まったようなもんだ。  
負けてもともとやってやるうじゃん。

「俺は魔法カードクロス・ソウルを発動する。そして黄金のホムンクルスを生贄にする！！」

「ムッ……」

《クロス・ソウル / Soul Exchange》 十

#### 通常魔法

相手フィールド上のモンスター1体を選択して発動する。

このターン自分のモンスターをリリースする場合、

自分のモンスター1体の代わりに選択した相手モンスターをリリースしなければならない。

このカードを発動するターン、自分はバトルフェイズを行う事ができない

黄金のホムンクルスが光となり俺のフィールドに収束する。そして光が晴れた場には1体の悪魔がいた。

青い体、頭部から生えている2本の角、背中には2枚の翼、そして長い腕にはカギ爪も備えてある。

「モリンフェンを召喚だ！！！」

「なん……だと……」

《モリンフェン / Morinphen》 †

通常モンスター

星5 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1550 / 守1300

長い腕とかぎづめが特徴の奇妙な姿をした悪魔。

この時点でわかる人はわかるだろうが、このデッキはモリンフェンを最大限に活躍させるためのデッキだ。

モリンフェンは生贄が必要とは思えない低ステータスを誇る。ぶっちゃけ、デーモンソルジャーでおk。とか言われてもまったく反論できない。

そこで俺は考えた。モリンフェンをフェニッシャーにしたいなら、モリンフェンより強いカードを入れなければいいんだよジョニーというわけだ。

よってこのデッキに入ってる最強カードはモリンフェンである。

さらに効果によってモリンフェン以外のカードが目立つのもなんなのですべて通常モンスターで構成してある。

ネタデッキというよりファンデッキに近いかもしれない。

ちなみにこの世界でもモリンフェンなんて誰も使ってないというか最弱カードの名前をほしのままにしている。

さらに追加で言うと、このデッキに負けた十代はしばらく放心状態だった。

「まさかそんなカードが来るとは……」

「クロス・ソウルの効果でバトルフェイズは行えない。ターンエンドだ」

厚志LP3500 手札2枚

モンスター モリンフェン

魔法・罠 強者の苦痛 伏せ1枚

「私のターン。私は速攻魔法サイクロンを発動！ 強者の苦痛を破壊する」

「……了解した」

《サイクロン/Mystical Space Typhoon》

+

速攻魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

「さらに異次元の偵察機を攻撃表示で召喚する」

《異次元<sup>いじげん</sup>の偵察機<sup>ていさつき</sup>/D・D・Scout Plane》

+

効果モンスター

星2/闇属性/機械族/攻 800/守1200

このカードがゲームから除外された場合、

そのターンのエンドフェイズ時にこのカードを

自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する。

やべえ異次元の生還者がすでに俺の最強カードを超えている。これなんて無理ゲー？

「異次元の生還者でモリンフェンを攻撃！」

うゝん。無理。

厚志

LP3500 3250

「異次元の偵察機で直接攻撃！」

「リバースカードオーブン。闇次元の解放、除外ゾーンからモリンフエンを特殊召喚する」

「いつの間にッ……そうか、ネクロフェイスの時か。ならば攻撃は中断させてもらおう。私はこれでターンエンドだ」

《闇次元の解放／Escape from the Dark Dimension》  
†

永続罫

ゲームから除外されている自分の闇属性モンスター1体を選択して特殊召喚する。

このカードがフィールド上から離れた時、

そのモンスターを破壊してゲームから除外する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

セブンスターズ？ LP4000 手札1枚 除外11枚

モンスター 異次元の生還者 異次元の偵察機

魔法・罫 鍊金釜カオス・ディステイル 伏せ1枚

このデッキの素の最大攻撃力は1550である。モンスター効果など存在しない。そして除去はクロス・ソウルしか入っていない。勝てる気がしねー。

「俺のターン。ドロー」

何でこういうときだけ絶妙にいいカード引けるかなあ。普段からの引きほしいんだけどな。

「俺は永続魔法一族の結束を発動。墓地に悪魔族しかいないため、モリンフェンの攻撃力は800上昇する」

《一族の結束 / Solidarity》  
†

### 永続魔法

自分の墓地に存在するモンスターの元々の種族が1種類の場合、自分フィールド上に表側表示で存在する  
その種族のモンスターの攻撃力は800ポイントアップする。

モリンフェン

攻撃力1550 2350

「異次元の偵察機を攻撃」

「グッ……まさかモリンフェン相手にダメージを受けるとは」

セブンスターズ？

LP4000 2450

「俺はこれでターンエンド」

厚志LP3500 手札2枚

モンスター モリンフェン

魔法・罫 一族の結束 闇次元の解放  
モリンフェン

「エンドフェイズに異次元の偵察機がフィールドに戻る」

モリンフェンでわるーござんしたねえ。だからデッキ変えたといって  
いったんだよ。

偵察機に戻るが仕方がない。ライフダメージが与えられただけでも  
御の字といったところか

「私のターンだ。私は罠カード異次元からの帰還を発動！！ 除外ゾーンから呼び出すのは黄金のホムンクルス3体だ！！」

《異次元からの帰還きかん / Return from the Different Dimension》 +

通常罠（制限カード）

ライフポイントを半分払って発動する。

ゲームから除外されている自分のモンスターを可能な限り自分フィールド上に特殊召喚する。

エンドフェイズ時、この効果で特殊召喚した全てのモンスターはゲームから除外される。

セブンスターズ？

LP 2450 1225

ちょ、ホムンクルス落ちすぎ！！ 無理に決まってる！！  
残りの手札が2枚とも戦線復活の代償しかねーんだよ！！

《戦線復活の代償せんせんふっかつ / Symbols of Duty》 +  
装備魔法

自分フィールド上の通常モンスター1体を墓地へ送って発動する。  
自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して自分フィールド上に

特殊召喚し、このカードを装備する。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、装備モンスターを破壊する。

「除外されたカードは8枚だ」



黄金のホムンクルス×3

攻撃力1500 3900

「全モンスターで攻撃だ。消えろ!!」

「ちょ、おま。それオーバークルすぎんだろ!!」

厚志

LP3500 - 8050

真っ白な光に包まれながら俺は意識を失った。

そんな時頭によぎったのは、2度とモリンフェンファンデッキはつくらねえ……だった。

目が覚めたとき宇宙空間のような場所にいた。

さまざまな大小の星に360度包まれていて非常に神秘的で幻想的な景色だ。

しかしどんな景色もいずれは飽きる。体感時間で1〜2時間程度しかたっていないがだんだん飽きてきた。

そこで俺がとった暇つぶしの行動は寝ることだった。

これからのことを心配しても仕方ないし、まだ十代と明日香と万丈目が残ってるから何とかなるだろう。

「厚志! 起きなさい! 寝てる場合じゃないでしょ!!」

「あ……あと、5年……」

「いい加減にしなさい!!!!」

ゴツン！！

突然俺の頭部にきた衝撃で一氣に目が覚めてしまった。

「ぐおお……」

「ようやく起きたのね」

痛てえ……まだジンジンしびれてる。いったい何をぶつけられここまで痛くなるんだよ……。

「んあ？ 明日香じゃないか？ ここにいるってことはお前もあいっつに負けたのか」

「ええ、悔しいけど完敗ね」

「厚志はどのデッキで負けたの？」

ここでそこ突っ込んでくるのか！？ どうしよう、モリンフェンファンデッキとはいいいにくい、嘘がばれると後で怖いし正直に話すか。

「モリンフェンだ」

「は？」

「だからモリンフェンデッキだよ」

「モリンフェンってあのモリンフェン？」

「俺の知る限りモリンフェンはひとつしか知らないな」  
「……」

呆然とした表情で見てくる明日香、このリアクションの間がやだなあ……。

だからあまり言いたくなかったんだよなあ。

「あなた馬鹿じゃないの！！！！」

飛鳥は怒り心頭といった感じで声を張り上げた。

ぐわっ……耳が！ 耳がキーンとする。

「ぐ……俺だつてやりたくないさ、仕方ないだろデツキの手持ちがそれしかなかったんだから！！」

「普段から使うメインデツキを固定するとか三沢君みたいに複数のデツキを持ち歩くようにすれば解決じゃないの！！」

ごもつとも、反論できねえ……。

「参りました」

とか馬鹿やってるうちに再び気が遠くなってきた。

十代か万丈目あたりが倒してくれたのかもしれないな。

しかし意識を失う感覚っていうのはどうにも慣れないな。

## 奇襲！？ VS セブンスターズ？（後書き）

実はこのデッキTFでテストプレイしたときに勝っちゃったんですよw

一族の結束強いですね。

レンタルDVDを見て、アニメ遊戯王にも巻き戻しの概念があることが初めて知りました。原作だとそのまま攻撃してあぼん表現が多かったのでびっくりしました。

モリンフェンを知らない人への解説

モリンフェンとは遊戯王最弱モンスターの座をシェイプスナッチと争っているモンスターです。

初期の遊戯王OCGのカードは攻守の合計が2800までがレベル4のモンスターだったのですが、このカードの攻守の合計が2850でぎりぎりレベル5として扱われてしまいました。

さらにぎりぎりリクルートできない1550という攻撃力が足を引っ張ることによって低ステータスの割りに出しにくいモンスターでもあります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8968s/>

---

遊戯王 割と平凡な男の非凡な学園生活

2012年1月13日20時12分発行